

令和 6 年度
教職課程
自己点検・評価報告書

玉川大学

令和 7 年 7 月

玉川大学 教職課程認定学部・学科（免許校種・免許教科）一覧

- ・文学部 国語教育学科（中・高 国語）、英語教育学科（中・高 英語）
- ・農学部 生産農学科（中・高 理科、高 農業）
- ・工学部 情報通信工学科（中・高 数学、高 工業）、ソフトウェアサイエンス学科（中・高 数学、高 情報）、マネジメントサイエンス学科（中・高 数学）、デザインサイエンス学科（中・高 数学、中 技術、高 工業）
- ・教育学部 教育学科（幼、小、中 社会、中・高 保健体育、高 地理歴史・公民）、教育学科通信教育課程（幼、小、中 社会、高 地理歴史・公民）、乳幼児発達学科（幼）
※乳幼児発達学科は保育士資格も取得可能
- ・芸術学部 音楽学科（中・高 音楽）、アート・デザイン学科（中・高 美術、高 工芸）
- ・大学院
文学研究科 人間学専攻（中 社会、高 公民）、英語教育専攻（中・高 英語）
農学研究科 資源生物学専攻（中・高 理科、高 農業）
工学研究科 機械工学専攻（高 工業）、電子情報工学専攻（中・高 数学、高 工業）
教育学研究科 教育学専攻（幼、小）、教職専攻【教職大学院】（小、中 社会・技術、中・高 国語・英語・理科・数学・音楽・美術・保健体育・保健・家庭、高 農業・工業・情報・地理歴史・公民・工芸）
- ・芸術専攻科 芸術専攻（中・高 音楽・美術）

※学部は一種免許、大学院・芸術専攻科は専修免許

※ダブル免許プログラム：文学部・農学部・工学部・芸術学部では、中・高一種免許状に加え、小二種免許状取得が可能。教育学部教育学科では、小一種免許状に加え、中二種免許状（国語・英語・理科・数学・音楽・美術・技術）、高一種免許状（情報）の取得が可能。

大学としての全体評価

玉川大学は、全人教育の理念のもと、これまで学生たちの教育・研究に取り組んできました。とりわけ教員養成においては、全人格を完成させた教師を世に送り出すべく、文学部・文学研究科、農学部・農学研究科、工学部・工学研究科、教育学部・教育学研究科、芸術学部にて、幼稚園、小学校、中学校、高等学校の教員免許状取得のための教職課程を提供しています。

本学における教員養成では、上述した教育理念に加えて、「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」という教師訓と、「進みつつある教師のみ人を教うる権利あり」という教師として生涯学び続けるためのモットーを中核に据えています。教職を志望する学生たちに限らず、教員養成課程を担う我々大学教員も同様に、教師訓と教師としてのモットーを胸に、日々の教育活動に取り組んでいます。

全学で毎年度点検調査をとおして一年間の取り組みを振り返り、抽出された課題について教員養成を含めた各学部、各部署で改善に努めきました。教育職員免許法施行規則改正による教職課程の自己点検・評価が義務化され、本学は一般社団法人 全国私立大学教職課程協会が作成した「『教職課程自己点検評価報告書』作成の手引き」にそって教職課程の自己点検・評価を実施しています。

教職課程自己点検・評価については、教職課程運営に関する全学的組織である「教師教育リサーチセンター」を中心に、教職課程委員会委員、関係教職員の協力のもと報告書を作成し、学内外に公開しています。社会変化を踏まえた教員養成のあり方、今後必要な取り組み、時代の変化にともなう学び方などを考慮しながら、教員養成全体の課題を見据えて本報告書を作成しました。

創立者・小原國芳は、自著『師道』において、「教育の結論は、教師であります。」と記しています。そして、「学校の最大最高の宝は実に、優秀なる教師です。」とも述べています。未来を担う若き世代の教育のために、誠心誠意教職に向きあう教師となることを本学の学生たちには期待しています。やがて本学を巢

立ち、園児、児童、生徒たちのために全身全霊で打ち込む教師として教壇に立つ
日を夢見る学生たちを、これからも大切に教え育み、導きつづける手を休めるこ
とがないよう、今後も邁進する所存です。

玉川大学

学長 小原 一仁

目次

I	教職課程の現況及び特色	1
II	基準領域ごとの教職課程自己点検・評価	6
	基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み	6
	基準領域 2 学生の確保・育成・キャリア支援	13
	基準領域 3 適切な教職課程カリキュラム	19
III	総合評価（全体を通じた自己評価）	26
IV	「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス	27

I 教職課程の現況及び特色

1 教職課程の現況

(1) 大学名： 玉川大学

(2) 学部名： 文学部、農学部、工学部、教育学部、芸術学部
文学研究科、農学研究科、工学研究科、教育学研究科
芸術専攻科

(3) 所在地： 東京都町田市玉川学園 6-1-1

(4) 教職課程の履修者数及び教員数

① 教職課程の履修者数

・通学課程 令和 6 年度 (令和 6 年 5 月 1 日現在)

学部	学科名	教科	免許種	教職課程履修者数				合計
				1年	2年	3年	4年	
文	国語教育	国語	中学 1 種	61	56	56	39	212
			高校 1 種	61	56	56	39	212
	英語教育	英語	中学 1 種	39	42	63	49	193
			高校 1 種	39	42	63	49	193
農	生産農	理科	中学 1 種	24	32	19	31	106
			高校 1 種	24	32	19	31	106
		農業	高校 1 種	24	32	19	31	106
工	情報通信工	数学	中学 1 種	5	4	3	3	15
			高校 1 種	5	4	3	3	15
		工業	高校 1 種	0	0	0	0	0
	ソフトウェア サイエンス	数学	中学 1 種	14	17	15	3	49
			高校 1 種	14	17	15	3	49
	情報	情報	高校 1 種	14	17	15	3	49
			中学 1 種	40	29	23	17	109
	マネジメント サイエンス	数学	高校 1 種	40	29	23	17	109
			中学 1 種	4	3	—	—	7
	デザイン サイエンス	数学	高校 1 種	4	3	—	—	7
			技術	中学 1 種	0	0	—	0
		工業	高校 1 種	0	0	—	—	0
教育	教育		幼稚園 1 種	6	0	5	9	20
			小学校 1 種	166	142	145	147	600
		社会	中学 1 種	64	48	42	21	175
			高校 1 種(公民)	64	48	42	21	175
		保健 体育	高校 1 種(地歴)	64	48	42	21	175
			中学 1 種	46	44	40	48	178
			高校 1 種	46	44	40	48	178
	乳幼児発達		幼稚園 1 種	83	81	81	77	322
	芸術	音楽	中学 1 種	16	20	21	26	83
			高校 1 種	16	20	21	26	83
		美術	中学 1 種	8	9	7	6	30
			高校 1 種	8	9	7	6	30
		工芸	高校 1 種	8	9	7	6	30

・通信教育課程

令和6年度（令和6年5月1日現在）

学部	学科名	教科	免許種	教職課程履修者数				合計
				1年	2年	3年	4年	
教育	教育		幼稚園1種	1	5	40	124	170
			小学校1種	20	22	246	458	746
		社会	中学1種	4	10	12	32	58
			高校1種(公民)	4	2	8	13	27
			高校1種(地歴)	1	3	5	12	21

・大学院

令和6年度（令和6年5月1日現在）

研究科	専攻名	教科	免許種	教職課程履修者数		合計
				1年	2年	
文学	人間学	社会	中学専修			
			高校専修(公民)			
	英語教育	英語	中学専修	2	3	5
			高校専修	2	3	5
農学	資源生物学	理科	中学専修	2	1	3
			高校専修	2	1	3
		農業	高校専修			
工学	機械工学	工業	高校専修			
	電子情報工学	数学	中学専修	1	1	2
			高校専修	1	1	2
		工業	高校専修			
教育学	教育学		幼稚園専修	6	4	10
			小学校専修	1		
	国語		小学校専修	6	7	13
			中学専修	2	1	3
			高校専修	2	1	3
	社会		中学専修	1	3	4
			高校専修(公民)	1	3	4
			高校専修(地歴)	1	1	2
	数学		中学専修		3	3
			高校専修		3	3
	理科		中学専修		2	2
			高校専修		2	2
	音楽		中学専修	1		1
			高校専修	1		1
	美術		中学専修			
			高校専修			
	保健		中学専修	1		1
			高校専修	1		1
	体育		中学専修			
			高校専修			
	保健		中学専修			
			高校専修			
	技術		中学専修			
			高校専修			
	家庭		中学専修			
			高校専修			

工芸	高校専修			
情報	高校専修		1	1
農業	高校専修			
工業	高校専修			
英語	中学専修		1	1
	高校専修		1	1

・専攻科 令和6年度（令和6年5月1日現在）

専攻	専攻名	教科	免許種	教職課程履修者数	合計
				1年	
芸術	芸術専攻科	音楽	中学専修	0	0
			高校専修	0	0
	芸術専攻科	美術	中学専修	0	0
			高校専修	0	0

② 教員数

	教授	准教授	講師	助教	その他
教員数	116	24	27	0	11
備考：					

（5）卒業者の現況

通学

教科	免許種	就職先状況									
		認定こども園		幼稚園		小学校		中学校		高等学校	
		正規	他	正規	他	正規	他	正規	他	正規	他
国語	中高1種						8	2	3	3	
数学	中高1種						7	6	1	1	
英語	中高1種						11	3	4	4	
理科	中高1種						9	1	2		
社会	中1種						4	1			
音楽	中高1種						4	5	1		
美術	中高1種								1	1	
保健体育	中高1種						7	8			
地理歴史	高1種								2	1	
情報	高1種									1	
	小1種小2種				135	25					
	幼稚園		18	2							

2 特色

本学は「全人教育」を教育理念として掲げ、「真・善・美・聖・健・富」の6つの価値の調和を追求し、単に知識や技術を修得するのではなく、絶えず新しい知識を主体的に求める姿勢、もてる知識を正しく使う倫理観を育み、健やかな社会人となるべく教育活動を展開し、バランスの良い人間形成を行っている。また、本学で得られる学びは多岐にわたっており、それぞれの専門性を深めることができるだけではなく、専門とは異なる分野についても学部を横断した学際的な学びが実現できる柔軟なシステムが採られ、本学の特徴の一つになっている。この恵まれた学習環境のもと、一人の「人」としてしっかりと自立し、かつ自律で生きる社会人を育成していくことに努めている。

教員養成は、5学部11学科（通信教育課程を含む）、大学院4研究科、1専攻科において行われており、これまでに6,000名以上（通信教育課程を除く）の教員を輩出してきた。卒業生は全国の教育現場や各自治体の教育行政の現場で、学長・園長、指導主事等の役職を担い、教育界のリーダーとして幅広く活躍している。本学の「全人教育」による豊かな人間性を備えた教員は、これまで高い評価を得ているが、2012年に「質の高い教員養成」を目指して、「教師教育リサーチセンター」を開設し、学生を対象とした教員養成にとどまらず、教員を対象とした研究・研修支援にも力を注いできた（資料①～⑤）。

教員養成における特徴として、次の4点があげられる。一つは、教員養成における単位の実質化への取り組みとして、本学で定める半期履修上限16単位（CAP制度）の中で全学の教職課程カリキュラムを実施していること（資料⑥）。次に、卒業に必要な124単位の中で教育職員免許状を取得できるカリキュラムが設計されていること。さらには、4年間を通して、各段階の目標を定め、教職課程受講者への指導・支援を計画し、教員養成が行われていること。最後に、4年間を通して、各段階の目標を定め、教職課程受講者への指導・支援を計画し、教員養成が行われていること。更には、教員養成の質向上に向けた全学体制による教職

課程の組織運営（教師教育リサーチセンターによる全学学生支援と研究活動の推進）がなされていることである（資料⑦～⑧）。

また、創立 100 周年（2029 年）へ向け、各学部各部署において中長期計画が策定されており、教員養成についても教師教育リサーチセンターを中心に中長期計画を策定した。

特に、令和 6 年度より実践的指導力を向上させ、より質の高い教員養成の実現のため、1 年生から 4 年生まで常に教育現場で実践的指導力を学び、理論と実践の往還を繰り返すことで、即戦力となる教員の養成を目指し、学校体験活動を単位化して教育実習の単位とするカリキュラム改定（令和 6 年度入学生より適用）に着手したことは、特徴的な活動である（資料⑨）。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料①：学校法人玉川学園組織機構図（令和 6 年 4 月 1 日版）
- ・資料②：玉川大学教師教育リサーチセンター規程
- ・資料③：学校法人玉川学園組織規程
- ・資料④：令和 6 年度 在籍者数（5 月 1 日現在）
- ・資料⑤：令和 6 年度 教職課程受講者数（通学課程）
- ・資料⑥：2024 履修ガイド
- ・資料⑦：2024 教職課程受講ガイド
- ・資料⑧：2024 年度教師教育リサーチセンター（リーフレット）
- ・資料⑨：学校での多様な体験活動による理論と実践の往還（リーフレット）

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

基準領域 1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み

基準項目 1－1 教職課程教育の目的・目標を共有

〔現状〕

本学の教員養成の目標は、創立者・小原國芳の精神を継承した教師像を追求することである。その精神は「玉川教師訓」として現在も継承され、「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を実践できる教師の育成が、全学の教員養成の目標として掲げられている（資料⑦～⑧）。

この教員養成の目標は、全学の教員養成の支援組織である教師教育リサーチセンターの入口にも掲示されており、学生、教職員が常に目にしている。また、『教育実習日誌』の表紙裏（資料 1－1－1）をはじめ、教職員の参加する教職関連の会議体や、学生の出席するガイダンス、講座等の資料にも多く掲載され、教職員・学生に周知されている。

さらに、各学部学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーにも教員養成に関する目的・目標が明確に示されている（資料⑥）。

〔優れた取組〕

・本学が目指す教師像による目標の明確化

本学の教員養成の目的・目標である「教師像」を「玉川教師訓」として示し、「玉川教師訓」を実践できる教員を養成している。さらに具体的な力量を次のように示している。

1. 確かな学力と健やかな体を育てる「学習指導力」
 2. 豊かな心を育て自己実現を図る「幼児・児童・生徒指導力」
 3. ともに高めあうクラスをつくる「学級経営力」
 4. 新たな学校づくりを推進する「協働力」
- ・ 目標の周知へ向けての対応

「玉川教師訓」は平成 21 年度より「教職課程受講ガイド」の冊子版および Web 版への記載により、および在籍する教職員全員に周知している（資料⑦）。

また、インスタグラムにおいても広報している。インスタグラムは令和 6 年 10 月末現在、フォロワー数は約 800 名（資料 1-1-2）。

さらには、令和 3 年度より「教職課程受講支援プログラムの手引き」を Web 版で作成し、教員養成に関わる普遍的な目的・目標から年度ごとの講座内容まで提示している（資料 1-1-4）。

〔改善の方向性・課題〕

目的・目標について、様々な会議や、学生への提供資料の中に掲載しているが、学生はもちろん教員も入れ替わるため、周知の状況・理解度の確認が困難である。教職課程関連ガイダンスの時間的制約もあり、目指す「教師像」について詳細な内容まで踏み込むことができない状況にある。

今後も引き続きさらなる広報・周知に努めたい。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1-1-1：教育実習日誌（表紙裏）
- ・資料 1-1-2：教師教育リサーチセンターインスタグラム
- ・資料 1-1-3：教員養成支援の成果と課題
- ・資料 1-1-4：「教職課程受講支援プログラムの手引き」

基準項目1－2 教職課程に関する組織的工夫

〔現状〕

本学では、平成18年（2006年）4月、教職に関する総合センターとして「教職センター」を設置したが、質の高い教員養成と教師教育学の研究活動推進実現するために改組し、平成24年（2012年）4月に「教師教育リサーチセンター」（資料⑧）を新設した。

教師教育リサーチセンターは教職課程履修学生をサポートする教職課程支援室と教師教育にかかわる研究活動を支援する教員研修室を設けている。教師教育リサーチセンターでは、これまでの教職課程支援事務（教職課程認定申請、変更届の提出を含む）並びに学修支援、キャリア支援のみならず、教師教育（教員養成・採用・研修）に関する研究・調査を行う研究機関的要素、さらには教育委員会、小・中・高等学校、幼稚園、保育所との連携を推進する機能を持つ全学の教員養成を包括するセンターとして位置づけられ、教職課程に関する情報公開も行っている。

全学組織のため、高等教育附置機関として位置づけられており、教員、事務職員をもって構成することとなっている（資料③：学校法人組織規程第6条参考）。したがって、事務的支援に留まらず、本学の教員養成に必要な教員を採用し、学生指導・支援、研究活動を行うことが可能となっている。

〔優れた取組〕

- ・教師教育リサーチセンターが各学部学科と連携を図り、各学部学科の特性を生かしながら、大学の目標・目的、3ポリシーとの精査も行い、学部間を横断した全学体制での学生支援を実現している（資料1－2－1）。また、教師教育リサーチセンターに教職に関する窓口を一本化することで、教員養成に関する事項を掌握し、課題の抽出とその改善を迅速に行うことが可能となる。教職課程教育に関しては教師教育リサーチセンター、教職課程以外の学士課程教育に関しては教学部と明確に業務を区分することによって、学生情報、学校現場からの連絡事項、教員からの情

報も集約され、教職課程を有する全学部学科に統一的に対応できることは大きな特徴といえる。この特徴は、カリキュラム検討の際にも活かされている。

・教職課程認定において申請した教職関連科目については、科目担当者の活字業績審査を教師教育リサーチセンターで実施し、講師の質の担保を図っている（資料1－2－2）。

・教職サポートルームの機能（組織と環境）（資料⑧）

教師教育リサーチセンターでは、教員を目指す学生のキャリア形成支援、教職指導の一翼を担うため、東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県において小学校・中学校・高等学校の校長、幼稚園長・保育所長、教育行政経験者を教職サポートルーム客員教員として採用し、学生の相談・支援にあたっている。教職サポートルーム客員教員は教師教育リサーチセンターや各学科の教職担当教員と連携・調整しながら、学生相談、教育実習に関する指導、教員採用試験候補者選考試験対策の企画・講師等を担当している。また、教科書・指導書、教職に関する最新の参考資料等を取りそろえ、自由に閲覧しながら、自学自修ができる自主学修スペースや、模擬授業や共同討議などができる教室も備え、さらには電子黒板、デジタル教科書などのICT関連の教材、教具も備え、教職サポートルーム客員教員の指導を受けながら、実践的指導力を身につけられる環境を整えている。

さらに、令和5年度より地方自治体の教員採用試験受験を希望する学生、地元で教育実習を実施する学生の指導を担う教職講座・実習指導担当客員教員を新設した。初年度は教員採用試験受験者数の多い茨城県・静岡県の校長、教育行政経験者を採用した。令和6年度には栃木県・群馬県・長野県・新潟県・福島県の出身教員も採用し、関東地方においては教育実習の訪問指導を100%実施した。次年度は北海道・青森県・宮城県・富山県・福岡県とさらに地域を拡大し、以降3年以内には通学課程においては訪問指導を100%していく予定である。

・教職課程委員会における教員養成に関する審議と情報の共有（資料1－2－3）

教師教育リサーチセンター長が委員長となり、事務局は教師教育リサーチセンタ

一が担っている。教職課程を置く学科では、必ず教職担当教員が任命され教職課程委員会委員となっている。委員会は月1回実施し、教職に関する諸々の事項について検討・審議し全学での決定事項としている。さらに教職課程に関する情報の共有が図られている。また、審議内容や報告事項によっては、それぞれの学科の会議、学部の教授会等、また全学の教務委員会にも情報を提供し、教職課程に関する情報の共有を図っている。教師教育リサーチセンターの担う業務の大半は、教職課程委員会にて審議・報告がなされており、研究活動等の状況についても情報共有がなされている。

大学全体では各学部学科において年度ごとの自己点検・評価を行い、教育研究活動等点検調査委員会に提出している。教員養成に関する事項も例外ではなく、教職課程委員会での審議内容を中心とした自己点検・評価を行い、年度の振り返りとともに、課題の抽出も行っている。この内容は、教育研究活動等点検調査委員会において教員養成部会より全学に報告されている。

また、教職大学院においては、専門職学位課程としての特性を踏まえ、「教職大学院自己点検・評価委員会」を設置し、カリキュラム等に関する点検・評価を行っている。評価結果は「自己評価書」としてまとめ、第三者評価会・教育程連携協議にて意見を徴し、カリキュラムや指導体制の改善に生かしている。

・教職課程 FD・SD 研修会の実施（資料1-2-6）

全学で行う FD・SD 研修会の分科会として、教職課程運営に必要な情報、最新の教育事情や情報に関する内容について、有識者による講演を教師教育リサーチセンターが主催し、年に1回実施している。その内容は、全学的な FD 委員会の報告書としてまとめられ、教職員に配付している。（資料1-2-4）出席者は、教職担当教員、教職に関する事項を取り扱う部署の職員のみならず、学部長、教務主任を対象としている。また、教師教育リサーチセンターでは、年に1回公開研修会の「教師教育フォーラム」も実施しており、これも教職課程 FD・SD 研修の一環として位置づけている。

- ・教職 IR 実施へ向けてのデータ整備（資料 1－2－7）

今後の教職課程をデータに基づき意思決定していくための情報整理を目的として、令和 6 年度に「教職 IR データブック 2018-2023」（A4・146 頁）をまとめた。同書は、①教職課程受講者、②教員就職、③教員採用試験、④教員免許取得、⑤ダブル免許プログラム、⑥教育実習、⑦参観実習、⑧介護等体験、⑨教職講座、⑩教員研修の 10 項目から成る。令和 6 年度は、理事長・理事および教師教育リサーチセンター所属の教職員に配付した。

〔改善の方向性・課題〕

近年、文部科学省からの答申をはじめとする通知が多く、提供すべき情報が増えている。その内容も多岐にわたり、情報を集約している教師教育リサーチセンターでも、すべてを理解し把握しきれているのか疑問でもあることは昨年と同様である。教職課程委員会や教職課程 FD・SD 研修会等を通じて情報共有しているものの、すべての教職員に深く理解してもらうためには、通常の研修とは別に勉強会を開催するなども考えたいが、より効果的に行うことができる対策の検討が引き続き必要である。

また、教師教育フォーラムは主にオンラインで実施している。このことは、遠方の方々に受講の機会を提供することとなり、多くの参加があった。一方でワークショップ形式での研修の実施方法については、今後、対面受講とオンライン受講を効果的・効率的に活用し、より有効な研修の仕組みの構築も引き続き考えていきたい。

「教職 IR データブック」は、今後年度版として発行を計画している。「2018-2023」は、教職課程委員会資料や「年報」への掲載事項の再編集部分が大半を占めていたこともあり、各学部への配付には至らなかったが、今後は学部運営にも有用な内容へと改善を図っていきたい。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料 1－2－1：玉川大学における教員養成への取り組み
- ・資料 1－2－2：教職関連科目担当教員の業績確認について
- ・資料 1－2－3：玉川大学教授会等運営規程（教職課程委員会部分抜粋）
- ・資料 1－2－4：令和 6 年度ファカルティ・ディベロップメント活動報告書（抜粋）
- ・資料 1－2－5：2024 年度教師教育フォーラムチラシ
- ・資料 1－2－6：2024 年度大学教育力研修分科会教職課程ワークショップ
- ・資料 1－2－7：「教職 IR データブック 2018-2023」

基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援

基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成

〔現状〕

本学では、各学部において定めたディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーを「大学案内」に明示している（入試広報部作成：資料2-1-1）。

また、オープンキャンパスや入試説明会において、教員志望の入学希望者とその保護者等に対して、教師教育リサーチセンターが本学の教員養成の取り組みや実績等について説明する機会を設けている。配布資料の中にも、「先生になろう！スタートブック」（入試広報部作成：資料2-1-2）があり、教職に興味、関心のある入学希望者に本学の教職課程への取り組みを紹介し、教員志望者の確保につとめている。また、教職を目指す学生に対して、教職課程に特化した入試制度もある。

教職課程受講希望者については、1年生の春学期にガイダンスを実施し、登録をしたうえで教職課程履修が開始される（資料2-1-3）。例年550～600名が希望し、最終的に教員免許状を取得する学生は、500～550名程となる。教職課程受講については、最初のガイダンスへの出席以外は特別な条件は設けておらず、人数の制限もしていないが、受講を継続するための条件を学部学科ごとに定め、その内容を『教職課程受講ガイド』（資料⑦）に記載している。受講継続条件には、担保されるべき累積GPA基準が示されており、各学部学科の特性により多少の違いはあるが、修得済みである科目や、取得しておく資格や検定が明確に示されている。それらの条件について、各学部学科の会議により一人一人の学生について特定の期末や年度末に確認が行われ、教職課程の受講継続について厳密に可否判定が行われる。

〔優れた取組〕

- ・教職課程受講希望者の入試制度（資料2-1-4～2-1-5）

東京・千葉・埼玉・神奈川（1都3県）の高等学校または中等教育学校を卒業見

込みで、教員を目指す受験生を対象にした『首都圏教員養成総合型入学審査』と先の 1 都 3 県以外の高等学校または中等教育学校を卒業見込みで、教員を目指す受験生を対象にした『地域創生教員養成入学試験』の教員志望者に特化した 2 つの選抜制度がある。また、教育学部教育学科はもとより、文学部の国語教育学科、英語教育学科といった学科名称は、教員志望の受験生にとってもわかりやすい学部学科組織になっている。農学部、工学部には、それぞれ、理科教員養成プログラム、数学教員養成プログラムを設置し、教員志望者はこの区分で受験をすることになっている。ただし、このプログラムで入学しなかった場合でも、申し出により教職課程を受講することも可能である。

教員志望者は、中学卒業時等、比較的早い時期から教員を志望する意思が強い傾向があるため、2023 年度より高校 1・2 年生を対象とした「はじめてガイダンス」を実施した（資料 2-1-6）。

また、令和 6 年度には教員志望者に特化した「先生になるため」ガイダンスを新たに開催し、さらなる広報強化を果たした（資料 2-1-7）。

・4 年間を通した教職課程指導・支援体制（資料 1-2-1）

教職課程を受講する大半の学生は、高等学校での進路決定時に「教師になりたい」と強い意志を持って大学を選択している。そのため、教職に就きたいという大学入学時のモチベーションを持続させるためには、1 年生からの教職課程支援が必要不可欠であり、そこから大学 4 年間を通した教職課程受講支援プログラム（資料 1-1-3～4）が重要であるととらえ、一貫した学生指導・支援を行っている。各学年の目標は、1 年生：教職の意義と基礎理論を学ぶ、2 年生：指導法の基礎を学ぶ、3 年生：教科・教職の専門性と実践力を養う、4 年生：実践と応用、総まとめ、としており、それぞれの学年の目標に応じたプログラムとなっている。

〔改善の方向性・課題〕

教職課程履修学生の 25～30% の教員免許の取得のみを希望する学生に対する指導については、常に課題としてとらえている。また、現在のところ教職課程における

る受講人数の制限について、特に検討してはいないが、本学における適正な人数について検討してみたい。

入試制度と教員採用試験名簿登載率の関係についても、今後詳細に分析していくたい。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料2－1－1：アドミッション・ポリシー2025
- ・資料2－1－2：先生になろう！スタートブック 2025
- ・資料2－1－3：令和6年度教職課程受講ガイダンス資料
- ・資料2－1－4：玉川大学2025年度 大学案内（抜粋）
- ・資料2－1－5：玉川大学2025年度 入試ガイド（抜粋）
- ・資料2－1－6：高校1・2年生対象「はじめてガイダンス」
- ・資料2－1－7：「先生になるため」ガイダンス

基準項目2－2 教職へのキャリア支援

〔現状〕

本学のキャリア支援は、一般企業・公務員についてはキャリアセンターが担い、教員・保育士就職については教師教育リサーチセンターが担っている（資料2－2－1）。学生の中には当初は教員就職を目指していたが、途中から進路変更をする場合もあるが、その場合には、教師教育リサーチセンターとキャリアセンターが連携・情報共有を図りながら、学生指導に当たっている。

教員就職支援については、前述の教職課程受講支援プログラムに基づき大学のカリキュラムとの関連も踏まえながら、各種ガイダンス、学外実習（ボランティア、インターンシップ等）、教員採用試験対策（論作文・面接を中心に）等を行っている。希望する学生には校長・教育行政職を経験した客員教員による個別相談も対応している。

[優れた取組]

・教職課程受講支援プログラム（資料⑧、資料1-1-4、資料1-2-1）

本プログラムは教職課程を受講している学生の、資質と能力の向上のための要素と、教員就職支援のための講座等の要素を持っている。キャリア支援における教員採用試験対策では、ガイダンス、教員採用模擬試験、面接・論作文対策等が行われている。指導にあたっては、教職サポートルーム客員教員が中心となって行い、学科の教員とも連携している。また、学生指導に際しては、学生の取得見込みの免許種や就職を希望する自治体により、教職サポートルーム客員教員の専門教科や元勤務していた地域（東京都、神奈川県、千葉県、埼玉県、横浜市、川崎市、相模原市）をふまえて、最も適切な指導ができるよう、担当学生の割り振りを行っている。

・教師教育リサーチセンター編「論作文&面接対策」（資料2-2-2）

採用試験対策において重要な、論作文指導や面接指導（含む模擬授業、実技指導、集団討議等）については、長きにわたり教職サポートルーム客員教員が工夫しながら対応してきた。その集大成として、『論作文&面接対策』（時事通信出版局）を出版した。当テキストは最新の教育事情のデータに差し替え、教員採用試験の出題傾向を調査して毎年内容を精査して改訂を行い、学生指導の際のテキストとして使用している。教職課程受講者2年生全員に配付し、3年時には、最新のものを再配布している（初版は2018年度版。現在は2026年度版〈ISBN978-4-7887-1978-1〉まで刊行済み）。

・教員採用試験合格者への特別講座の実施

神奈川県・横浜市・川崎市においては教員採用試験の早期化に伴い、3年次のうちに合格内定を出すようになった。該当者は4年次の1年間を有効に過ごすために一部自治体で実施される研修に加え、本学内においても校長・教育行政職を経験した客員教員により特別講座を開催した（資料1-1-3）。

4年次受験で合格した学生対象には、従来より現場で活躍する卒業生による特別講話を年末年始にかけて実施している。

- ・大学院への進学

進路の一つとして、大学院への進学も考えられる。本学には、教育学研究科、教職大学院、文・農・工学研究科があり、各研究科で専修免許の取得も可能となって いる。教育学研究科には、「教師教育学コース」もあり、教員養成を行う課程を担当できる大学教員の養成も行っている。

[改善の方向性・課題]

学生指導にあたって、意欲や適性を欠く学生への指導は大きな課題といえる。特に、指導の内容が進路変更を伴う場合、その指導の方法や事後支援については最重要課題といえる。令和6年度入学生より適用となった「教育実習の在り方の見直し」による学校での多様な体験活動による理論と実践の往還による実践指導力の育成・向上（資料⑨）は、この課題解決に向けた一つの可能性が示されるものと期待している。

教職課程受講支援プログラムにおけるキャリア支援については、学部生を中心 に組み立てられているため、通信教育課程の学生および大学院生への教員採用試験対 策は、時期、回数等が限定されたものとなっており、全学体制での教職へのキャリ ア支援上の課題としてとらえている。このことについては、教職課程受講支援プロ グラム見直しの際の課題としており、通学課程、通信教育課程、大学院を含めたプ ログラムの検討を行うこととしている。

また、大学院への進学者は多くないが、高い専門性を備えた教員の養成を考える と、大学院進学を含めたキャリア支援を検討する必要がある。

さらに、卒業生との連携も「教師・保育者の集い」を1回実施したが（資料2－ 2－3）、参加者も十数名と参加者も決して多くはなく、引き続きの課題としてと らえている。教員採用試験に不合格であった卒業生の就職支援や、教員として働く 卒業生の組織を構築することも必要ととらえている。

<根拠となる資料・データ等>

- ・資料2－2－1：令和6年度就職状況のまとめ（抜粋）

- ・資料2-2-2：教師教育リサーチセンター編「論作文&面接対策」（表紙）
- ・資料2-2-3：第7回教師・保育者の集い

基準領域3 適切な教職課程カリキュラム

基準項目 3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施 〔現状〕

本学では全学的に2013（平成25）年度入学生より、半期に履修できる単位数を16単位に制限している。教職課程の全科目もその例外ではない。こうしたことから教職の科目もすべてその学部・学科の卒業単位に含まれている。半期に履修できる上限単位を設定することで、予習や復習に充てる時間を確保し、教員養成における単位の実質化に取り組んでいる（資料⑥）。

授業内容については、教職課程コアカリキュラムに対応した教職課程カリキュラムを提供し、教員免許取得に必要な科目はすべて、教師教育リサーチセンターがシラバスのチェックを行い、課程認定との整合性を精査し、問題の有無などを確認している。

また、教員免許取得に必要な科目において、やむを得ず担当教員が変更になる場合も、該当教員の研究業績に関して、教師教育リサーチセンターが確認し、相応の業績がないと認められる場合には、担当教員を変更するようにしている。

さらに、学校現場で異なる校種の免許を複数取得していることが求められていることから、本学では、主たる免許状に加えて小学校教諭二種免許状、中学校教諭二種免許状を卒業時に取得できるプログラムを実施している（資料⑧）。

〔優れた取組〕

・カリキュラムの特徴（資料1-2-1）

本学のカリキュラムは、教養豊かな幅広い知識を持ち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力を持った人を育成するために、ユニバーシティ・スタンダード科目と学科科目群で構成されている。ユニバーシティ・スタンダード科目は、学士課程教育において基礎、基盤をつくるとともに、より高次の専門教育に移行するための重要な役割を果たしている。教員免許状取得に必要な科目は、この中の教職関連科目群として開設されている。学科科目群は、導入科目群、発展科目群、専攻科目群に区分され、学修進度に合わせて順に履修できるように開設されている。学生にと

っては所属する学科の専門の学修を行い、さらには、教師としての資質能力を身に着けていくために、教職に関する専門の学修を両立して進めている。

・教員養成の質保証に向けた学科の設置と教員養成プログラムの開設（資料②）

教育学部はもとより、それ以外の学部の中に、教員養成を主とした学科を設置した。

のことにより、教職科目と教科科目が相互補完されて学修することができる。

文学部国語教育学科

文学部英語教育学科

教員養成プログラムにより、教員に必要な基礎科目の学修や、専門教科に応じた科目の学修に取り組み、教員になるための基盤を創り上げる。

農学部生産農学科 理科教員養成プログラム

工学部情報通信工学科、ソフトウェアサイエンス学科、マネジメントサイエンス学科、デザインサイエンス学科

数学教員養成プログラム

・理論と実践の往還を重視したカリキュラムへの転換

理論と実践の往還を重視した取り組みについて検討をすすめ、「教育実習」等の在り方を見直し、学校体験活動の積極的な活用を令和6年度入学生から実施した。また、「介護等体験」は特別支援学級を設置する学校での実施とする取り組みを令和6年度より開始した（資料⑨）。この取り組みについては、教師教育リサーチセンター教員の共同研究により検証する予定

・ICTを活用した授業力の強化

ICTを活用した授業力については、令和4年度入学生より「ICT活用の理論と実践」として従来の2単位科目「教育の方法と技術」から独立した1単位科目を新設した。また授業以外にもICT関係の講座を開設し、単位修得後にもICT活用の意識を継続できる仕掛けとして位置づけた

・ダブル免許プログラム（資料⑦～⑧）

教育学部以外の学部・学科でも、それぞれの専門性を生かした各教科の中学校・

高等学校教諭一種免許状が取得できるが、通常学期ではない長期休業期間に設けられた特別学期（サマーセッション、ウィンターセッション）に科目を開講し、卒業と同時に小学校教諭二種免許状を取得することができるプログラムがある。

また、教育学科においては、小学校教諭一種免許状に加え、教育学科では別の学科で課程認定を受けている教科の中学校教諭二種免許状を取得できるプログラムを有している。

このプログラムにより、複数免許状を取得することが可能となり、高度な専門性を有する小学校教員や、隣接し接続する小学校教育を理解する中学校教員の養成も行っている。

・大学院での教職課程の充実

教育学研究科以外の研究科においても、専修免許状が取得できるが、教科における専門性の修得だけではなく、教職の専門性を高める科目として「教育内容・方法学研究」、「教育制度学研究」、「教育実践学研究」の3科目を導入し、専修免許状の質の保証を図っている。これらの科目は、各研究科での修士の学位の授与条件として、必修科目と位置づけている。

また、教育学研究科においては、「教師教育学研究コース」を設置し、大学・大学院教職課程専任教員、教職大学院専任教員、教師教育学研究者の養成にも取り組んでいる。

令和6年度には、大学院の奨学金返還免除となる施策に基づき、大学院生が30時間以上学校現場実習を実施する1単位科目「教職特別実習」を新設し、令和7年度からの対応を可能とした（資料③、資料3-1-3）。

〔改善の方向性・課題〕

理論と実践の往還を重視したカリキュラムへの転換においては、1年次から4年次まで毎年断続的に学校現場で実習する取り組みとして開始したが、理論の学びをどの科目で実施するかを具体化する点が課題として残っている。例えば、1年次の「学校体験活動A」を「教職概論」、2年次の「介護等体験」を「特別支援教育」、

3年次の「学校体験活動B」を「教育課程編成論」や各教科の指導法のどの回で実践と結びつけるかを明確にしていく検討を進める。

また、ICTの活用についても、1~2年次に学んだ内容を各教科の指導法へ接続していくことが重要だが、現時点では科目担当教員まかせとなっている。シラバスやコアカリキュラムで明確に規定し、対応を求めていくことが課題となっている。さらには、教職課程科目のカリキュラム・ツリーやカリキュラム・ポリシーを策定し、各学科の履修モデルに位置づけていくことも大きな課題である。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料3-1-1：全国私立大学教職課程協会第43回研究大会報告資料
- ・資料3-1-2：「ICT活用の理論と実践」コアカリキュラム
- ・資料3-1-3：「教職特別実習」の新設

基準項目 3－2 実践的指導力育成と地域との連携

〔現状〕

実践的指導力を養成するための取り組みの第一歩として、教職課程受講の1年生全員に参観実習を実施している。今まで児童・生徒の視点で学校活動を経験し、教師の仕事を見て、教師になろうと考えてきたが、この参観実習では、教える立場、教師の視点で学校の1日を体験し、学生の教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促し、進路選択の機会を与えることを目的として実施している。さらに、秋学期に実施する「学校体験活動A」、2年次の特別支援学級を設置する学校にて実施する「介護等体験」、3年次の教育実習事前指導および「学校体験活動B」、4年次の教育実習に生かしていくことも期待している。

また、本学においては教育実践の質的充実を図り、地域との連携も踏まえて、各地域の教育委員会・校長会と密接な連携のもと、教育実習協議会を実施し、意見交換や情報交換を行っている。本学の学生の状況や、教育現場が求める教師像を軸とした教育実習生への大学と実習校双方の指導の在り方等について協議を行い、情報を共有し、教員養成における学生指導の充実に努めている。

〔優れた取組〕

・参観実習の実施（資料3－2－1）

近隣の教育委員会や校長会にお願いし、その管轄下の公立小学校・中学校で受け入れ校を決めていたうえで、1校あたり5名程度の学生が登校時から下校までの終日参観を行う。なお、それに際し、複数回の事前指導とガイダンスを行い、また受け入れ校との連絡、確認なども全て学生が行う。時期は10月中旬（教育学部は6月中旬）で、当日は教員1名が引率する。令和6年度の参観実習受け入れ校は、幼稚園・保育園 18園、小学校 31校、中学校 63校（春：30校、秋：33校）小中一貫校1校にのぼる。参観実習の実際の流れの概略は、

事前指導 ⇒ プロフィール文書作成 ⇒ 参観実習受け入れ校との事前打ち合わせ ⇒ 参観実習当日 ⇒ 報告書の作成 となっている。

・教育委員会への表敬訪問

近隣の教育委員会へは年度初めに毎年表敬訪問を実施している。例年は、神奈川県、横浜市、川崎市、千葉県、千葉市、埼玉県、さいたま市を対象としているが、令和5年度から6年度にかけては新たな取り組みによる学生受け入れを依頼することもあり、東京都は近隣の町田市、稲城市、狛江市、神奈川県は多くの市町村の教育長に面会を申し入れ、概要説明のうえ依頼を進めた。

・教育実習協議会の実施（資料3-2-2）

横浜市、川崎市、相模原市、町田市において、教育実習を受け入れていただいた学校に、教育実習に関するアンケートを実施している。内容としては、教育実習生に対する大学の指導について、教育実習に臨む学生の態度・姿勢について、大学への要望について確認している。アンケート内容を市ごとにまとめ、その資料を基に、校長会の代表者との協議会を実施している。アンケートの内容のみならず、教育実習生の最近の特徴や、養成大学に臨むこと等について意見交換を行い、必要に応じて翌年の事前指導に反映させるなどの対応を行っている。

また、幼稚園や保育所との実習協議会については、実習園、実習保育所を中心に、免許・資格の認定を持つ教育学部を中心を開催している。

なお、介護等体験の協議会も受け入れ施設や学校と同様に開催していたが、令和5年度まではコロナ禍により、現場での介護等体験を代替措置で対応したため、協議会も行わなかった。令和6年度より介護等体験は特別支援学級を設置する学校における実施に変更したため、教育実習に関する協議会で取り扱う話題とし、この会の役割を終えた。

・教師教育フォーラム・教職課程 FD・SD 研修会におけるシンポジストの依頼

令和6年度は「教師教育フォーラム」において「教員不足解消のための教員確保と大学の教員養成改革」をテーマに掲げ、東京都・神奈川県・横浜市の教育委員会より要職に就く方をシンポジストとしてお招きした。

また、前年度までは教師教育リサーチセンター独自に開催していた教職課程 FD・SD 研修会は、令和6年度より大学全体の「大学教育力研修」の分科会に位置づけ

を変えたが、「新たな取り組み『学校体験活動A』『介護等体験』の初年度振り返り」のテーマで教職課程に特化した内容でワークショップを行った。こちらは町田市・横浜市・川崎市・相模原市の校長をお招きし、学校現場において新たな取り組みがどのように受け止められているかを確認した。

〔改善の方向性・課題〕

教育実習において、遠方の実習校への訪問指導を割愛する場合がある。学校体験活動については、授業の空き時間が課題となっていたが、令和6年度からは各学科の授業時間割を調整し、空き時間を確保して、1年次から学校体験活動を新たに単位化することによって、教育実習の在り方を見直し、各学年において必ず学校体験活動を実施することができるよう体制を整えた（資料⑨）。

教育実習指導を充実させるために、令和5年度より遠方地域においても校長を経験した客員教員の採用を開始したが、学生1名のみの地域の対応については課題となっている。また、通信教育課程学生の教育実習もいずれ100%の訪問指導対応を目指しているが、通学課程のために採用した教員のみでは対応困難な地域も出てくるため、教員採用計画の見直しが必要となっている。

地域連携においては、必要に応じて各自治体との包括協定を締結する交渉も進めている。

＜根拠となる資料・データ等＞

- ・資料3-2-1：私立大学の特色ある教職課程事例集V（抜粋）
- ・資料3-2-2：私立大学の特色ある教職課程事例集III（抜粋）

III. 総合評価（全体を通じた自己評価）

令和 6 年度は年度当初に計画した事業については、おおむね予定通りに実行できた。学生への指導・支援については、教師教育リサーチセンターを中心に各学部・学科の教員と連携を取りながら、また、教育委員会、学校現場との連携も図りながら、より質の高い教員養成と、より多くの教員就職ができるよう対応した。教員採用試験結果において、過去最高の名簿登載率となったことに鑑みて、学生への指導・支援が適切に行われたものと判断できる。

しかしながら、基準領域それぞれに課題はあり、今後も一つ一つの課題に対して、具体的な検討をしながら、より質の高い教員養成に向けて取り組んでいきたい。また、文部科学省答申、通知等について、本学の教員養成の現状を踏まえながらその内容を精査し、引き続き改革・改善ができるものから対応していきたいと考えている。

教師教育リサーチセンターの実施する事業については、令和 6 年度事業報告書（教師教育リサーチセンター）として学長の承認を得ている。教職課程運営については、教職課程委員会での審議事項を中心としてまとめ、2024 年度自己点検・評価結果・改善計画 報告書および 2024 年度分科会部会開催状況として教育研究活動等点検調査委員会に提出し、学長の承認を得ている。

本報告書については、上記の内容をもとに教師教育リサーチセンターが点検を行い、報告書として取りまとめたものである。

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

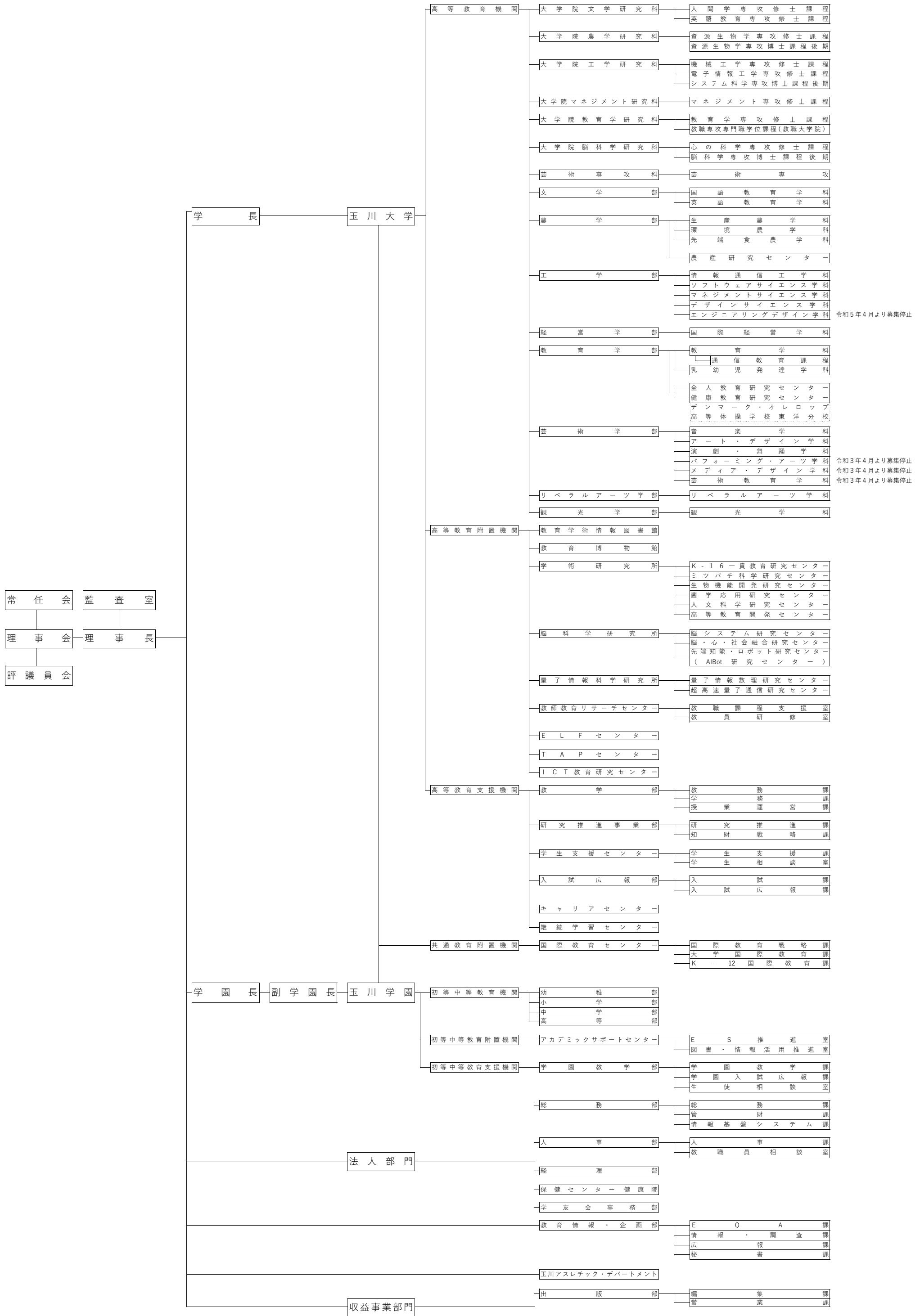
教師教育リサーチセンターの実施する事業については、「令和 6 年度事業報告書」（教師教育リサーチセンター）として理事長・学長の承認を得ている。教職課程運営については、教職課程委員会での審議事項を中心としてまとめ、2024 年度自己点検・評価結果・改善計画 報告書および 2024 年度分科会部会開催状況として教育研究活動等点検調査委員会に提出し、理事長・学長の承認を得ている。

また、大学部長会・大学院研究科長会にて作成プロセスの周知を図り、本報告書の内容確認を可能とするスケジュールを提示、全学で共有する仕組みを構築した。

本報告書については、上記の内容をもとに、全国私立大学教職課程協会『「教職課程自己点検・評価報告書」作成の手引き 令和 6 年度版』（改訂版）に基づき、教師教育リサーチセンターが点検を行い、報告書として取りまとめたものである。

資料

学校法人玉川学園組織機構図（令和6年4月1日施行）



資料

○玉川大学教師教育リサーチセンター規程

平成18年4月1日制定

改正

平成21年4月1日

平成24年4月1日

平成27年4月1日

令和5年4月1日

玉川大学教師教育リサーチセンター規程

(趣旨)

第1条 玉川大学学則第61条に基づき、玉川大学教師教育リサーチセンター（以下「本センター」という。）の運営について、本規程を定める。

(目的)

第2条 本センターは、教職に関する専門的研究（以下「本研究」という。）を行い、国内外の諸研究・教育機関等と連携を密にし、玉川大学における教員養成等の充実を図ることを目的とする。さらに研究活動の成果を生かして、玉川大学に共通する教育職員免許状・資格の取得支援、教職に係る就職支援を推進することを目的とする。

(事業)

第3条 本センターは、本研究・支援の目的を達成するために、教員研修室及び教職課程支援室を置き、次の事業を行う。

- (1) 教職の専門的・総合的研究に関する事項
- (2) 教職のFD・SD研修に関する事項
- (3) 教職課程（教育実習、保育実習、介護等体験、学校体験活動等）に関する事項
- (4) 教育職員免許状取得に関する事項
- (5) 保育士、学校図書館司書教諭、図書館司書、社会教育主事・社会教育士、学芸員の資格取得に伴う学生対応に関する事項
- (6) 教員免許の許認可（大学院を含む。）に関する事項
- (7) 教員・保育士希望者の就職支援及びキャリアデザイン支援に関する事項
- (8) 教職課程委員会に関する事項
- (9) 現職教員及び教育委員会等との連携研修等に関する事項
- (10) その他本センターに関する事項

(重要事項)

第4条 本センターの基本方針、事業計画の改正等に係る重要事項は、大学部長会の議を経て、学長の承認をうけなければならない。

(組織)

第5条 本センターは、次の教職員をもって構成する。

センター長、教授、准教授、講師、助教、研究員、事務職員

2 教職員は専任、兼担及び兼任（非常勤）とする。

3 本センターは、必要に応じて、国内外の諸研究・教育機関等からの推薦のあった者、本センターが招聘する者等を客員教員として受け入れることができる。

(センター長)

第6条 センター長は、本センターの教育研究活動及び諸事業を統括する。

2 本センターは、必要に応じて副センター長を置くことができる。副センター長は、センター長を補佐し、センター長の命を受けた業務を代行する。

3 センター長の任期は2か年とし、再任を妨げない。

(研究費)

第7条 本センターの研究費は、本センター予算及び受託研究費等によるものとする。

(教職課程受講料)

第8条 本センターでは、教育職員免許状・資格の取得支援、教職に係る就職支援を推進するための経費として、学生より教職課程受講料を徴収する。

2 教職課程受講料の詳細については、別に定める教職課程履修規則による。

(委員会)

第9条 本センターに、玉川大学教授会等運営規程第5条に基づき教職課程委員会を置く。

2 教職課程委員会に関する事項は、別に定める玉川大学教授会等運営規程による。

資料

○学校法人玉川学園組織規程

平成10年4月1日制定

改正

平成11年4月1日
平成12年4月1日
平成13年4月1日
平成14年4月1日
平成15年4月1日
平成16年4月1日
平成17年4月1日
平成18年4月1日
平成19年4月1日
平成20年4月1日
平成21年4月1日
平成21年11月1日
平成22年4月1日
平成23年4月1日
平成24年4月1日
平成25年4月1日
平成26年4月1日
平成27年4月1日
平成28年4月1日
平成29年4月1日
平成30年4月1日
平成31年4月1日
令和2年4月1日
令和3年4月1日
令和4年4月1日
令和5年4月1日

学校法人玉川学園組織規程

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、学校法人玉川学園（以下「本法人」という。）寄附行為第4条に定める設置する学校の教育、研究の充実及び組織の円滑かつ能率的な運営を図ることを目的とする。

2 本規程は、諸規程の特別の定めがある場合を除き全ての本法人の教員及び職員に適用する。

(構成)

第2条 本法人の組織は、次の各号に定める。

(1) 教育・研究に関する組織を、高等教育機関及び高等教育附置機関、初等中等教育機関及び初等中等教育附置機関、共通教育附置機関で構成する。

(2) 事務に関する組織は、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門で構成する。

(3) 収益事業に関する組織として収益事業部門を置く。

2 前項の組織の他に理事長の直轄機関として、監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントを置く。

(教員及び職員)

第3条 本法人に専任の教員及び職員を置く。

2 前項のほか、必要に応じて顧問、客員教員、嘱託教員及び職員、臨時職員及び非常勤教員及び職員を置くことができる。

(教員及び職員の任免)

第4条 教員及び職員の任免は、諸規程に別段の定めのある場合のほかは、常任会の議を経て理事長

がこれを行う。

(定義)

第5条 この規程において次の各号に掲げる者は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 高等教育機関及び高等教育附置機関の教員は、教授、准教授、講師、助教、助手及び研究員をいう。
- (2) 初等中等教育機関及び初等中等教育附置機関の教員は、教諭、養護教諭、講師及び研究員をいう。
- (3) 共通教育附置機関の教員は、前第1号及び2号による
- (4) 職員は、事務職員（司書、学芸員を含む。）、技術指導員、技術職員、指導員、実習助手をいう。
- (5) シニアスタッフは、教員及び職員のうち、特定分野について見識を有する専門職者をいう。

2 この規程において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 分掌 組織単位に与えられた個別業務の範囲をいう。
- (2) 職制 系統的に編成された業務の単位として各人が配置された地位をいう。
- (3) 職務 特定職制の行う業務の具体的な内容を個別的に明らかにしたものをいう。
- (4) 任免 任命及び免職することをいう。
- (5) 任命 職を命じることをいう。
- (6) 補職 特定の職に就けることをいう。
- (7) 免職 職を解くことをいう。
- (8) 任用 期間を定め特定の職に就けることをいう。
- (9) 統督 組織をまとめ指揮監督することをいう。
- (10) 統括 自己の所管する事項を総合的にまとめることをいう。
- (11) 管掌 自己の管轄する事項を責任・権限で管理することをいう。

第2章 高等教育機関・高等教育附置機関

(組織)

第6条 高等教育機関及び高等教育附置機関は、次の各号に定めるものとし、教員、技術指導員、技術職員、指導員及び事務職員をもって構成する。

(1) 高等教育機関

玉川大学（大学院・専攻科を含む。）

(2) 高等教育附置機関

玉川大学教育学術情報図書館

玉川大学小原國芳記念教育博物館

玉川大学学術研究所

玉川大学脳科学研究所

玉川大学量子情報科学研究所

玉川大学教師教育リサーチセンター

玉川大学国際教育センター

玉川大学E L Fセンター

玉川大学T A Pセンター

I C T教育研究センター

(副学長)

第7条 大学に副学長を置くことができる。

(学部長及び副学部長)

第8条 大学の各部に学部長を置く。

2 学部長は、学長の命を受けて各学部の教育及び研究に関する事項を統括し、所属する教員を管掌する。

3 副学部長は、理事長が必要と認めたとき、置くことができる。

4 副学部長は、学長の命を受けて学部長を補佐する。

5 副学部長は、学部長の命を受けた事項を担当する。

(研究科長)

第9条 大学院の各研究科に研究科長を置く。

2 研究科長は、学長の命を受けて研究科の教育及び研究に関する事項を統括し、所属する教員を管掌する。

(主任、副主任、センター長、副センター長)

第10条 大学の学部及び大学院研究科の専攻に主任を、学部のセンターにセンター長を置く。

2 学部の主任は、学部長及び副学部長を補佐し、学部及び学科の運営を担当する。研究科の専攻の主任は、研究科長を補佐し、専攻の運営を担当する。学部のセンター長は、学部長及び副学部長を補佐し、センターの運営を担当する。

3 主任及びセンター長の空席がある場合には、主任代理及びセンター長代理を置く。

4 主任代理は、主任職を代行し、センター長代理はセンター長職を代行する。

5 副主任、副センター長を必要に応じて置くことができる。

6 副主任は学部長の命を受けて主任を、副センター長は学部長の命を受けてセンター長を補佐する。

7 副主任は主任の、副センター長はセンター長の命を受けた事項を担当する。

(高等教育附置機関の長)

第11条 高等教育附置機関に館長、所長、センター長を置く。

2 各部署の長は、学長の命を受けて所管する事項を統括し、所属する教員及び職員を管掌する。

3 館長、所長、センター長の空席がある場合には、館長代理、所長代理、センター長代理を置く。

4 館長代理、所長代理、センター長代理は、館長職、所長職、センター長職を代行する。

5 副館長、副所長、副センター長を必要に応じて置くことができる。

6 副館長、副所長、副センター長は学長の命を受けて各部署の長を補佐する。

7 副館長、副所長、副センター長は、所属する部署の長の命を受けた事項を担当する。

(高等教育附置機関の主任、副主任)

第12条 高等教育附置機関に主任を置くことができる。

2 主任は、部署の長を補佐し、部署の運営を担当する。

3 主任の空席がある場合には、主任代理を置く。

4 主任代理は、主任職を代行する。

5 副主任を必要に応じて置くことができる。

6 副主任は、部署の長の命を受けて主任を補佐する。

7 副主任は、主任の命を受けた事項を担当する。

(教員の補職)

第13条 高等教育機関及び高等教育附置機関の教員の補職は、学長が行う。

第3章 初等中等教育機関・初等中等教育附置機関

(組織)

第14条 初等中等教育機関及び初等中等教育附置機関は、次の各号に定めるものとし、教員、実習助手及び事務職員をもって構成する。

(1) 初等中等教育機関

玉川学園高等部

玉川学園中等部

玉川学園小学部

玉川学園幼稚部

(2) 初等中等教育附置機関

アカデミックサポートセンター

(副学園長)

第15条 高等部、中学部、小学部の副校長及び幼稚部の副園長として副学園長を置く。

(学園教学部長)

第16条 高等部、中学部、小学部の副校長職及び幼稚部の副園長職として、学園教学部長を置く。

2 学園教学部長は、学園長の命を受けて、初等中等教育機関に関する事項について統括する。

3 学園教学部長は、常任会において理事長が任命する。

(部長・担当部長)

第17条 初等中等教育機関（以下「各学校」という。）に教頭職として部長・担当部長を置く。

- 2 部長・担当部長は、学園長及び副校長及び副学園長の命を受けて所属する各学校の教学に関する事項を統括し、所属する教員を管掌する。
- 3 初等中等教育機関に教育部長を置き、各学校間の調整並びに園児、児童及び生徒の教育に関する事項を統括する。

(主任、副主任)

第18条 各学校に主任を置く。

- 2 主任は、部長・担当部長を補佐し、教学等に関する事項を担当する。
- 3 主任の空席がある場合には、主任代理を置く。
- 4 主任代理は、主任職を代行する。
- 5 副主任を必要に応じて置くことができる。
- 6 副主任は、部長・担当部長の命を受けて主任を補佐する。
- 7 副主任は、主任の命を受けた事項を担当する。

(初等中等教育附置機関の長)

第19条 初等中等教育附置機関にセンター長を置く。

- 2 センター長は、学園長の命を受けて所管する事項を統括し、所属する教員を管掌する。
- 3 センター長の空席がある場合には、センター長代理を置く。
- 4 センター長代理は、センター長職を代行する。
- 5 副センター長を必要に応じて置くことができる。
- 6 副センター長は、学園長の命を受けてセンター長を補佐する。
- 7 副センター長は、センター長の命を受けた事項を担当する。

(教員の補職)

第20条 初等中等教育機関及び初等中等教育附置機関の教員の補職は、学園長が行う。

第4章 共通教育附置機関

(組織)

第21条 共通教育附置機関に国際教育センターを置き、教員及び事務職員を持って構成する。

第5章 高等教育支援機関

(高等教育支援機関)

第22条 高等教育支援機関は、次の各号に定めるものとし、職員をもって構成する。

- (1) 教学部
- (2) 研究推進事業部
- (3) 学生支援センター
- (4) 入試広報部
- (5) キャリアセンター
- (6) 繼続学習センター

- 2 必要に応じて教員を置くことができる。

第6章 初等中等教育支援機関

(初等中等教育支援機関)

第23条 初等中等教育支援機関に、学園教学部を置き、教員及び職員をもって構成する。

第7章 法人部門

(法人部門)

第24条 法人部門は、次の各号に定めるものとし、職員をもって構成する。

- (1) 総務部
- (2) 人事部
- (3) 経理部
- (4) 保健センター 健康院
- (5) 学友会事務部

第8章 収益事業部門

(収益事業部門)

第25条 収益事業部門は、次の各号に定めるものとし、職員をもって構成する。

- (1) 出版部

(2) 購買部

第9章 監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメント (監査室)

第26条 監査室は、本法人の監査に関して統括すると共に、コンプライアンスの意識向上に関する事項を担当し、職員をもって構成する。

(教育情報・企画部)

第27条 教育情報・企画部は、本法人のより健全な経営基盤の整備、本法人のIR（International Research）統合、及び教育の質保証に関する事項を担当し、職員をもって構成する。

2 教育情報・企画部に、必要に応じ教員を置くことができる。

3 前項の教員は、本法人全体の視野に立ち、教育・支援・法人・収益の各機関及び部門の業務に関する調査・研究等を行うと共に、理事長、担当理事の諮問事項及び特命事項を担当する。

(玉川アスレチック・デパートメント)

第28条 玉川アスレチック・デパートメントは、本法人のスポーツブランドの確立、学生・生徒・児童・園児及び教職員のスポーツ振興に関する事項を担当し、教員及び職員をもって構成する。

第10章 職制及び任命、職務

(部署の長)

第29条 共通教育附置機関、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門、収益事業部門及び監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントに、部長、センター長、院長、室長を置く。

2 各部署の長は、理事長の命を受けて所管する業務を統括し、所属する職員を管掌する。

(シニアスタッフ)

第30条 共通教育附置機関、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門、収益事業部門及び監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントに必要に応じてシニアスタッフを置くことができる。

2 シニアスタッフの職務は、次の各号による。

- (1) 指定された担当業務の調査・研究を行い、その経過及び結果について理事長、常勤の理事に報告及び意見具申をする。
- (2) 理事長、常勤の理事の諮問事項について報告及び意見具申をする。
- (3) 各部署の長からの相談及び要請に基づいて助言及び支援を行うと共に、必要に応じて会議等へ出席し、協議に参画する。
- (4) 理事長、常勤の理事からの特命事項を担当する。
- (5) その他各部署における業務を担当する。

(次長)

第31条 共通教育附置機関、高等教育附置機関、初等中等教育附置機関、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門、収益事業部門及び監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントに、必要に応じて次長を置くことができる。

2 次長は、所属する部署の長を補佐し、その命を受けた業務を担当する。

(課長、相談室長、担当課長〈業務担当〉)

第32条 共通教育附置機関、高等教育附置機関、初等中等教育附置機関、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門、収益事業部門及び監査室、教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントに、課、相談室等を置くことができる。

2 課に課長、相談室に相談室長を置く。

3 課長は、所属する部署の長を補佐し、その命を受けた所管業務を担当する。

4 相談室長は、部署の長が兼務する。

5 必要に応じて、業務担当課長を置くことができる。

6 業務担当課長は、課長の命を受けて課の所管業務の一部を担当する。

(課長補佐)

第33条 課に、必要に応じて課長補佐を置くことができる。

2 課長補佐は、課長を補佐し、その命を受けた業務を担当する。

(係長、主任)

- 第34条 課に係を置くことができる。
- 2 係に、必要に応じて係長を置くことができる。
 - 3 係長は、課長の命を受けた業務を担当する。
 - 4 係に、必要に応じ主任を置くことができる。
 - 5 主任は、係長の命を受けた業務を担当する。

(職員の補職)

- 第35条 共通教育附置機関、高等教育支援機関、初等中等教育支援機関、法人部門、収益事業部門、監査室及び教育情報・企画部、玉川アスレチック・デパートメントの職員の補職は、各部署の長が行う。

第11章 組織の変更

(組織の変更)

- 第36条 高等教育機関、初等中等教育機関及び収益事業部門の組織の新設、改廃は、学校法人玉川学園寄附行為第44条の手続によらなければならない。

- 2 共通教育附置機関、高等教育附置機関、初等中等教育附置機関の組織の新設・改廃は、学校法人玉川学園稟議規程第8条の手続によらなければならない。
- 3 前項以外の組織の新設、改廃は、常任会の議を経て、理事長が決定する。

第12章 その他

(プロジェクトの設置)

- 第37条 本法人は、新規事業や重要な検討課題が生じ、既存の組織では対応できない場合に、一定の期間専従的に人員を集中してこれを検討する組織として、プロジェクトを置くことができる。

- 2 プロジェクトの設置については、学校法人玉川学園プロジェクト設置・運営規程の定めるところによる。

(細則)

- 第38条 この規程の実施・施行については、学校法人玉川学園組織事務分掌細則の定めるところによる。

- 2 部署の体系は、学校法人玉川学園組織機構図の定めるところによる。

(事務主管)

- 第39条 この規程に係る事務主管は、総務部とする。

(規程の改廃)

- 第40条 この規程の改廃は、常任会の議を経なければならない。

資料

玉川学園 在籍者数 総括表

令和6年5月1日現在

性別 部署等別	男	女	計
大学院	69	49	118
芸術専攻科 芸術専攻	0	1	1
大学	3,135	3,129	6,264
大学 (教育学部教育学科通信教育課程)	655	974	1,629
幼稚部	54	54	108
小学部	374	430	804
中学部	267	322	589
高等部	305	318	623
合 計	4,859	5,277	10,136

科目等履修生	11	22	33
科目等履修生 (通信教育課程)	195	250	445
聴講生	3	1	4
研究生	0	0	0
単位互換履修生	0	0	0
総合計			10,618

大学院・芸術専攻科 在籍者数

令和6年5月1日現在

修士課程・専門職学位課程		学年	1年	2年	3年	4年	合計	令和5年度 修了者数	
文学研究科	人間学専攻	男女	0	0	-	-	0	0	
		男女	0	0	-	-	0	0	
		計	0	0	-	-	0	0	
工学研究科	英語教育専攻	男女	1	3	-	-	4	3	
		男女	2	0	-	-	2	0	
		計	3	3	-	-	6	3	
研農研究科学	資源生物学専攻	男女	9	11	-	-	20	12	
		男女	6	3	-	-	9	4	
		計	15	14	-	-	29	16	
工学研究科	機械工学専攻	男女	0	2	-	-	2	1	
		男女	0	0	-	-	0	1	
		計	0	2	-	-	2	2	
マネジメント研究科	電子情報工学専攻	男女	3	7	-	-	10	9	
		男女	1	3	-	-	4	1	
		計	4	10	-	-	14	10	
研教育研究科学	マネジメント専攻	男女	4	2	-	-	6	3	
		男女	3	1	-	-	4	2	
		計	7	3	-	-	10	5	
研教育研究科学	教育学専攻	男女	4	2	-	-	6	11	
		男女	6	10	-	-	16	11	
		計	10	12	-	-	22	22	
研教育研究科学	教職専攻	男女	3	9	-	-	12	11	
		男女	7	2	-	-	9	8	
		計	10	11	-	-	21	19	
研脑研究科学	心の科学専攻	男女	0	2	-	-	2	1	
		男女	1	1	-	-	2	0	
		計	1	3	-	-	4	1	
修士課程・専門職学位課程 合計		男女	24	38	-	-	62	51	
		男女	26	20	-	-	46	27	
		計	50	58	-	-	108	78	

博士課程後期		学年	1年	2年	3年	4年	合計	令和5年度 修了者数	
研農研究科学	資源生物学専攻	男女	0	0	3	-	3	0	
		男女	1	1	0	-	2	0	
		計	1	1	3	-	5	0	
研工研究科学	システム科学専攻	男女	0	0	0	-	0	0	
		男女	0	0	0	-	0	0	
		計	0	0	0	-	0	0	
研脑研究科学	脳科学専攻	男女	1	2	1	-	4	0	
		男女	1	0	0	-	1	0	
		計	2	2	1	-	5	0	
博士課程後期 合計		男女	1	2	4	-	7	0	
		男女	2	1	0	-	3	0	
		計	3	3	4	-	10	0	
芸術専攻科 芸術専攻		男女	0	-	-	-	0	1	
		男女	1	-	-	-	1	0	
		計	1	-	-	-	1	1	

注：修士課程長期履修学生3年・4年コースの学生は2年次に含む。

大学 在籍者数 1-1

令和6年5月1日現在

部別		学年	1年	2年	3年	4年	合計	令和5年度 卒業者数
文学部	国語教育学科	男	36 (0)	31	39	22	128	33
		女	31 (0)	34	42	31	138	30
		計	67 (0)	65	81	53	266	63
	英語教育学科	男	21 (0)	31	41	27	120	52
		女	32 (1)	28	41	45	146	37
		計	53 (1)	59	82	72	266	89
	文学部計	男	57 (0)	62	80	49	248	85
		女	63 (1)	62	83	76	284	67
		計	120 (1)	124	163	125	532	152
農学部	生産農学科	男	91 (1)	111	71	85	358	80
		女	32 (1)	34	28	43	137	48
		計	123 (2)	145	99	128	495	128
	環境農学科	男	31 (3)	30	25	18	104	26
		女	9 (0)	20	13	11	53	11
		計	40 (3)	50	38	29	157	37
	先端食農学科	男	36 (0)	53	44	38	171	32
		女	30 (4)	32	28	31	121	41
		計	66 (4)	85	72	69	292	73
	農学部計	男	158 (4)	194	140	141	633	138
		女	71 (5)	86	69	85	311	100
		計	229 (9)	280	209	226	944	238
工学部	情報通信工学科	男	56 (0)	63	68	58	245	54
		女	1 (0)	4	12	2	19	4
		計	57 (0)	67	80	60	264	58
	ソフトウェアサイエンス学科	男	68 (1)	63	64	59	254	48
		女	19 (1)	10	10	12	51	10
		計	87 (2)	73	74	71	305	58
	マネジメントサイエンス学科	男	38 (1)	44	48	40	170	50
		女	21 (0)	16	22	11	70	24
		計	59 (1)	60	70	51	240	74
	デザインサイエンス学科	男	24 (2)	23	0	0	47	0
		女	5 (1)	10	0	0	15	0
		計	29 (3)	33	0	0	62	0
	エンジニアリングデザイン学科	男	0 (0)	0	34	24	58	36
		女	0 (0)	0	11	5	16	4
		計	0 (0)	0	45	29	74	40
	工学部計	男	186 (4)	193	214	181	774	188
		女	46 (2)	40	55	30	171	42
		計	232 (6)	233	269	211	945	230

注 : () 内数値は本学園高等部からの入学者数を示す。

大学 在籍者数 1-2

令和6年5月1日現在

部別		学年	1年	2年	3年	4年	合計	令和5年度 卒業者数	
経営学部	国際経営学科	男	99 (4)	85	93	80	357	77	
		女	49 (1)	47	46	36	178	37	
		計	148 (5)	132	139	116	535	114	
教育学部	教育学科	男	140 (6)	101	90	110	441	110	
		女	142 (4)	133	149	137	561	140	
		計	282 (10)	234	239	247	1,002	250	
	乳幼児発達学科	男	6 (0)	2	0	1	9	2	
		女	77 (8)	79	82	81	319	78	
		計	83 (8)	81	82	82	328	80	
	教育学部計 (通信教育課程を除く)	男	146 (6)	103	90	111	450	112	
		女	219 (12)	212	231	218	880	218	
		計	365 (18)	315	321	329	1,330	330	
芸術学部	パフォーミング・アーツ学科	男	- (-)	-	-	2	2	11	
		女	- (-)	-	-	4	4	84	
		計	- (-)	-	-	6	6	95	
	メディア・デザイン学科	男	- (-)	-	-	3	3	33	
		女	- (-)	-	-	8	8	65	
		計	- (-)	-	-	11	11	98	
	芸術教育学科	男	- (-)	-	-	2	2	12	
		女	- (-)	-	-	2	2	39	
		計	- (-)	-	-	4	4	51	
	音楽学科	男	10 (1)	4	15	9	38	-	
		女	21 (0)	29	26	28	104	-	
		計	31 (1)	33	41	37	142	-	
	アート・デザイン学科	男	33 (4)	39	35	39	146	-	
		女	64 (4)	70	81	69	284	-	
		計	97 (8)	109	116	108	430	-	
	演劇・舞踊学科	男	16 (0)	16	19	11	62	-	
		女	64 (0)	78	91	84	317	-	
		計	80 (0)	94	110	95	379	-	
	芸術学部計	男	59 (5)	59	69	66	253	56	
		女	149 (4)	177	198	195	719	188	
		計	208 (9)	236	267	261	972	244	
アーバンラーニング学部	リベラルアーツ学部計	男	83 (4)	79	89	70	321	77	
		女	79 (0)	85	100	106	370	79	
		計	162 (4)	164	189	176	691	156	
観光学部	観光学部計	男	28 (0)	27	22	22	99	16	
		女	28 (6)	54	43	91	216	78	
		計	56 (6)	81	65	113	315	94	
合 計		男	816 (27)	802	797	720	3,135	749	
		女	704 (31)	763	825	837	3,129	809	
		計	1,520 (58)	1,565	1,622	1,557	6,264	1,558	

注 : () 内数值は本学園高等部からの入学者数を示す。

大学 在籍者数 1-3

令和6年5月1日現在

部別	在籍種別	正科生	科目等履修生	合計	令和5年度
					卒業者数
教育学部	教育学科通信教育課程計	男 女 計	655 974 1,629	195 250 445	850 1,224 2,074
					22 36 58

幼稚部 在籍者数

令和6年5月1日現在

年令 性別	3歳児	4歳児	5歳児				合計	令和5年度 卒園者数
男子	15	14	25				54	20
女子	16	20	18				54	29
計	31	34	43				108	49

小学部 在籍者数

令和6年5月1日現在

学年 性別	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計	令和5年度 卒業者数
男子	65 (20)	66	62	62	63	56	374	61
女子	72 (29)	72	70	74	72	70	430	68
計	137 (49)	138	132	136	135	126	804	129

中学部 在籍者数

令和6年5月1日現在

学年 性別	7年	8年	9年				合計	令和5年度 卒業者数
男子	108 (53)	74	85				267	92
女子	111 (65)	109	102				322	98
計	219 (118)	183	187				589	190

高等部 在籍者数

令和6年5月1日現在

学年 性別	10年	11年	12年	専攻科			合計	令和5年度 卒業者数
男子	118 (82)	92	95	0			305	92
女子	115 (86)	90	113	0			318	112
計	233 (168)	182	208	0			623	204

注：（ ）内数値は本学園の各学校からの進学者数を示す。

注：初等中等教育機関は、寄附行為第4条に規定する学校表記とする。

注：初等中等教育機関の学年は、中学部は7～9年、高等部は10～12年と表記する。

科目等履修生 在籍者数

令和6年5月1日現在

部別			科目等履修生	
文学部	国語教育学科	男女	1 0	
	英語教育学科	男女	1 3	
農学部	生産農学科	男女	0 1	
	ソフトウェアサイエンス学科 マネジメントサイエンス学科	男女	1 0	
工学部		男女	0 1	
		男女	3 1	
教育学部	教育学科	男女	5 16	
	教育学専攻	男女	11 22	
合 計		男女	33	

教育学部	教育学科（通信教育課程）	男女	195 250
合 計		計	445

聴講生 在籍者数

令和6年5月1日現在

			聴講生
合 計			3 1 4

研究生 在籍者数

令和6年5月1日現在

			研究生
合 計			0 0 0

単位互換履修生 在籍者数

令和6年5月1日現在

			単位互換履修生
合 計			0 0 0

教職員在籍者数

(所属別)

令和6年5月1日現在

	教職員					教員					職員				
	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
玉川大学															
文学研究科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
農学研究科	男	2	0	0	2	0	2	0	0	2	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	計	3	0	0	3	0	3	0	0	3	0	0	0	0	0
工学研究科	男	5	0	0	5	0	5	0	0	5	0	0	0	0	0
	女	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	計	6	0	0	6	0	6	0	0	6	0	0	0	0	0
マネジメント研究科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
教育学研究科	男	4	1	0	3	0	4	1	0	3	0	0	0	0	0
	女	4	3	0	1	0	4	3	0	1	0	0	0	0	0
	計	8	4	0	4	0	8	4	0	4	0	0	0	0	0
教職専攻専門職学位課程 (教職大学院)	男	6	6	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0	0	0
	女	6	4	0	2	0	6	4	0	2	0	0	0	0	0
	計	12	10	0	2	0	12	10	0	2	0	0	0	0	0
脳科学研究科	男	10	0	0	10	0	10	0	0	10	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	10	0	0	10	0	10	0	0	10	0	0	0	0	0
大学院	男	27	7	0	20	0	27	7	0	20	0	0	0	0	0
	女	12	7	0	5	0	12	7	0	5	0	0	0	0	0
	計	39	14	0	25	0	39	14	0	25	0	0	0	0	0
国語教育学科	男	10	6	0	4	0	10	6	0	4	0	0	0	0	0
	女	6	4	0	2	0	6	4	0	2	0	0	0	0	0
	計	16	10	0	6	0	16	10	0	6	0	0	0	0	0
英語教育学科	男	9	7	0	2	0	9	7	0	2	0	0	0	0	0
	女	11	5	0	6	0	11	5	0	6	0	0	0	0	0
	計	20	12	0	8	0	20	12	0	8	0	0	0	0	0
文学部	男	19	13	0	6	0	19	13	0	6	0	0	0	0	0
	女	17	9	0	8	0	17	9	0	8	0	0	0	0	0
	計	36	22	0	14	0	36	22	0	14	0	0	0	0	0
生産農学科	男	43	21	0	22	0	38	18	0	20	0	5	3	0	2
	女	13	8	1	4	0	12	8	0	4	0	1	0	1	0
	計	56	29	1	26	0	50	26	0	24	0	6	3	1	2
環境農学科	男	18	10	0	8	0	15	7	0	8	0	3	3	0	0
	女	4	4	0	0	0	4	4	0	0	0	0	0	0	0
	計	22	14	0	8	0	19	11	0	8	0	3	3	0	0
先端食農学科	男	12	7	0	5	0	12	7	0	5	0	0	0	0	0
	女	8	8	0	0	0	5	5	0	0	0	3	3	0	0
	計	20	15	0	5	0	17	12	0	5	0	3	3	0	0
農学部	男	73	38	0	35	0	65	32	0	33	0	8	6	0	2
	女	25	20	1	4	0	21	17	0	4	0	4	3	1	0
	計	98	58	1	39	0	86	49	0	37	0	12	9	1	2
情報通信工学科	男	22	10	0	12	0	20	10	0	10	0	2	0	0	2
	女	1	0	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0
	計	23	10	0	13	0	21	10	0	11	0	2	0	0	2
ソフトウェアサイエンス学科	男	16	10	0	6	0	16	10	0	6	0	0	0	0	0
	女	12	1	0	11	0	3	1	0	2	0	9	0	0	9
	計	28	11	0	17	0	19	11	0	8	0	9	0	0	9
マネジメントサイエンス学科	男	16	8	0	8	0	16	8	0	8	0	0	0	0	0
	女	3	1	0	2	0	3	1	0	2	0	0	0	0	0
	計	19	9	0	10	0	19	9	0	10	0	0	0	0	0
デザインサイエンス学科	男	12	9	0	3	0	12	9	0	3	0	0	0	0	0
	女	2	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0
	計	14	11	0	3	0	14	11	0	3	0	0	0	0	0
エンジニアリングデザイン学科	男	17	2	2	13	0	13	2	0	11	0	4	0	2	2
	女	3	0	0	3	0	1	0	0	1	0	2	0	0	2
	計	20	2	2	16	0	14	2	0	12	0	6	0	2	4
工学部	男	83	39	2	42	0	77	39	0	38	0	6	0	2	4
	女	21	4	0	17	0	10	4	0	6	0	11	0	0	11
	計	104	43	2	59	0	87	43	0	44	0	17	0	2	15

教職員在籍者数

(所属別)

令和6年5月1日現在

	教職員					教員					職員				
	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
国際経営学科	男	27	10	0	17	0	27	10	0	17	0	0	0	0	0
	女	12	4	0	8	0	12	4	0	8	0	0	0	0	0
	計	39	14	0	25	0	39	14	0	25	0	0	0	0	0
経営学部	男	27	10	0	17	0	27	10	0	17	0	0	0	0	0
	女	12	4	0	8	0	12	4	0	8	0	0	0	0	0
	計	39	14	0	25	0	39	14	0	25	0	0	0	0	0
教育学科	男	95	22	0	73	0	94	22	0	72	0	1	0	0	1
	女	60	13	0	47	0	57	13	0	44	0	3	0	0	3
	計	155	35	0	120	0	151	35	0	116	0	4	0	0	4
教育学科 通信教育課程	男	25	5	0	20	0	25	5	0	20	0	0	0	0	0
	女	39	2	0	37	0	39	2	0	37	0	0	0	0	0
	計	64	7	0	57	0	64	7	0	57	0	0	0	0	0
教育学科	男	120	27	0	93	0	119	27	0	92	0	1	0	0	1
	女	99	15	0	84	0	96	15	0	81	0	3	0	0	3
	計	219	42	0	177	0	215	42	0	173	0	4	0	0	4
乳幼児発達学科	男	14	3	0	11	0	14	3	0	11	0	0	0	0	0
	女	24	7	0	17	0	24	7	0	17	0	0	0	0	0
	計	38	10	0	28	0	38	10	0	28	0	0	0	0	0
教育学部	男	134	30	0	104	0	133	30	0	103	0	1	0	0	1
	女	123	22	0	101	0	120	22	0	98	0	3	0	0	3
	計	257	52	0	205	0	253	52	0	201	0	4	0	0	4
アート・デザイン学科	男	25	6	1	18	0	24	6	0	18	0	1	0	1	0
	女	44	12	0	32	0	41	10	0	31	0	3	2	0	1
	計	69	18	1	50	0	65	16	0	49	0	4	2	1	0
演劇・舞踊学科	男	33	9	0	24	0	29	8	0	21	0	4	1	0	3
	女	23	4	0	19	0	23	4	0	19	0	0	0	0	0
	計	56	13	0	43	0	52	12	0	40	0	4	1	0	3
パフォーミング・アーツ学科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
メディア・デザイン学科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
音楽学科	男	35	10	0	25	0	35	10	0	25	0	0	0	0	0
	女	30	2	0	28	0	22	2	0	20	0	8	0	0	8
	計	65	12	0	53	0	57	12	0	45	0	8	0	0	8
芸術教育学科	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
芸術学部	男	93	25	1	67	0	88	24	0	64	0	5	1	1	3
	女	97	18	0	79	0	86	16	0	70	0	11	2	0	9
	計	190	43	1	146	0	174	40	0	134	0	16	3	1	12
リベラルアーツ学科	男	34	14	0	20	0	34	14	0	20	0	0	0	0	0
	女	25	9	0	16	0	23	9	0	14	0	2	0	0	2
	計	59	23	0	36	0	57	23	0	34	0	2	0	0	2
リベラルアーツ学部	男	34	14	0	20	0	34	14	0	20	0	0	0	0	0
	女	25	9	0	16	0	23	9	0	14	0	2	0	0	2
	計	59	23	0	36	0	57	23	0	34	0	2	0	0	2
観光学科	男	15	12	0	3	0	15	12	0	3	0	0	0	0	0
	女	4	2	0	2	0	4	2	0	2	0	0	0	0	0
	計	19	14	0	5	0	19	14	0	5	0	0	0	0	0
観光学部	男	15	12	0	3	0	15	12	0	3	0	0	0	0	0
	女	4	2	0	2	0	4	2	0	2	0	0	0	0	0
	計	19	14	0	5	0	19	14	0	5	0	0	0	0	0
教育学術情報図書館	男	5	3	2	0	0	0	0	0	0	0	5	3	2	0
	女	9	5	1	0	3	0	0	0	0	0	9	5	1	0
	計	14	8	3	0	3	0	0	0	0	0	14	8	3	0
教育博物館	男	8	6	0	2	0	6	4	0	2	0	2	2	0	0
	女	6	3	0	2	1	3	1	0	2	0	3	2	0	1
	計	14	9	0	4	1	9	5	0	4	0	5	4	0	1
学術研究所	男	27	12	0	15	0	27	12	0	15	0	0	0	0	0
	女	8	3	1	4	0	7	3	1	3	0	1	0	0	1
	計	35	15	1	19	0	34	15	1	18	0	1	0	0	1
脳科学研究所	男	87	13	13	61	0	82	13	9	60	0	5	0	4	1
	女	16	1	1	13	1	14	1	1	12	0	2	0	0	1
	計	103	14	14	74	1	96	14	10	72	0	7	0	4	2
量子情報科学研究所	男	11	5	0	6	0	11	5	0	6	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	11	5	0	6	0	11	5	0	6	0	0	0	0	0

教職員在籍者数

(所属別)

令和6年5月1日現在

	教職員					教員					職員				
	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
教職課程支援室	男	60	7	1	52	0	52	0	0	52	0	8	7	1	0
	女	29	7	0	17	5	18	1	0	17	0	11	6	0	0
	計	89	14	1	69	5	70	1	0	69	0	19	13	1	0
教員研修室	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	2	0	0
	計	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	2	0	0
教師教育リサーチセンター	男	60	7	1	52	0	52	0	0	52	0	8	7	1	0
	女	32	9	0	17	6	18	1	0	17	0	14	8	0	0
	計	92	16	1	69	6	70	1	0	69	0	22	15	1	0
E L Fセンター	男	28	6	0	22	0	28	6	0	22	0	0	0	0	0
	女	26	11	0	15	0	22	7	0	15	0	4	4	0	0
	計	54	17	0	37	0	50	13	0	37	0	4	4	0	0
T A Pセンター	男	5	3	1	1	0	2	2	0	0	0	3	1	1	0
	女	4	3	0	0	1	0	0	0	0	0	4	3	0	0
	計	9	6	1	1	1	2	2	0	0	0	7	4	1	1
I C T教育研究センター	男	4	2	1	1	0	2	1	0	1	0	2	1	1	0
	女	5	3	0	0	2	0	0	0	0	0	5	3	0	0
	計	9	5	1	1	2	2	1	0	1	0	7	4	1	0
教務課	男	4	4	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4	0	0
	女	8	7	0	0	1	0	0	0	0	0	8	7	0	0
	計	12	11	0	0	1	0	0	0	0	0	12	11	0	0
学務課	男	8	3	1	0	4	0	0	0	0	0	8	3	1	0
	女	43	6	1	0	36	0	0	0	0	0	43	6	1	0
	計	51	9	2	0	40	0	0	0	0	0	51	9	2	0
授業運営課	男	13	10	2	1	0	0	0	0	0	0	13	10	2	1
	女	27	16	0	2	9	0	0	0	0	0	27	16	0	2
	計	40	26	2	3	9	0	0	0	0	0	40	26	2	3
教学部	男	25	17	3	1	4	0	0	0	0	0	25	17	3	1
	女	78	29	1	2	46	0	0	0	0	0	78	29	1	2
	計	103	46	4	3	50	0	0	0	0	0	103	46	4	3
研究推進課	男	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	0	0
	女	20	4	7	0	9	0	0	0	0	0	20	4	7	0
	計	23	7	7	0	9	0	0	0	0	0	23	7	7	0
知財戦略課	男	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	3	2	0	1	0	0	0	0	0	0	3	2	0	1
研究推進事業部	男	6	5	0	1	0	0	0	0	0	0	6	5	0	1
	女	20	4	7	0	9	0	0	0	0	0	20	4	7	0
	計	26	9	7	1	9	0	0	0	0	0	26	9	7	1

教職員在籍者数

(所属別)

令和6年5月1日現在

	教職員					教員					職員				
	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
学生支援課	男	6	4	1	1	0	0	0	0	0	6	4	1	1	0
	女	5	3	0	0	2	0	0	0	0	5	3	0	0	2
	計	11	7	1	1	2	0	0	0	0	11	7	1	1	2
学修支援課	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
学生支援センター	男	6	4	1	1	0	0	0	0	0	6	4	1	1	0
	女	5	3	0	0	2	0	0	0	0	5	3	0	0	2
	計	11	7	1	1	2	0	0	0	0	11	7	1	1	2
入試課	男	8	7	1	0	0	0	0	0	0	8	7	1	0	0
	女	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	計	9	8	1	0	0	0	0	0	0	9	8	1	0	0
入試広報課	男	7	4	3	0	0	0	0	0	0	7	4	3	0	0
	女	7	3	2	0	2	0	0	0	0	7	3	2	0	2
	計	14	7	5	0	2	0	0	0	0	14	7	5	0	2
入試広報部	男	15	11	4	0	0	0	0	0	0	15	11	4	0	0
	女	8	4	2	0	2	0	0	0	0	8	4	2	0	2
	計	23	15	6	0	2	0	0	0	0	23	15	6	0	2
キャリアセンター	男	5	5	0	0	0	0	0	0	0	5	5	0	0	0
	女	5	3	2	0	0	0	0	0	0	5	3	2	0	0
	計	10	8	2	0	0	0	0	0	0	10	8	2	0	0
継続学習センター	男	3	2	1	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0
	女	3	2	0	0	1	0	0	0	0	3	2	0	0	1
	計	6	4	1	0	1	0	0	0	0	6	4	1	0	1
国際教育戦略課	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
	計	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0
大学国際教育課	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	5	3	0	0	2	0	0	0	0	5	3	0	0	2
	計	5	3	0	0	2	0	0	0	0	5	3	0	0	2
K-12国際教育課	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	女	2	1	1	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0
	計	3	2	1	0	0	0	0	0	0	3	2	1	0	0
国際教育センター	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0
	女	9	6	1	0	2	0	0	0	0	9	6	1	0	2
	計	10	7	1	0	2	0	0	0	0	10	7	1	0	2
玉川大学	男	801	290	30	477	4	695	224	9	462	0	106	66	21	15
	女	570	184	17	293	76	369	103	2	264	0	201	81	15	29
	計	1371	474	47	770	80	1064	327	11	726	0	307	147	36	80

教職員在籍者数

(所属別)

令和6年5月1日現在

	教職員						教員						職員					
	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託
玉川学園																		
幼稚部	男	2	2	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	19	4	6	9	0	17	4	4	9	0	2	0	2	0	0	0	0
	計	21	6	6	9	0	19	6	4	9	0	2	0	2	0	0	0	0
小学部	男	37	21	15	1	0	30	21	8	1	0	7	0	7	0	0	0	0
	女	36	14	18	4	0	28	14	10	4	0	8	0	8	0	0	0	0
	計	73	35	33	5	0	58	35	18	5	0	15	0	15	0	0	0	0
中学部	男	46	30	14	2	0	40	30	8	2	0	6	0	6	0	0	0	0
	女	20	9	5	6	0	18	9	3	6	0	2	0	2	0	0	0	0
	計	66	39	19	8	0	58	39	11	8	0	8	0	8	0	0	0	0
高等部	男	40	28	8	4	0	36	28	4	4	0	4	0	4	0	0	0	0
	女	32	16	8	8	0	29	16	7	6	0	3	0	1	2	0	0	0
	計	72	44	16	12	0	65	44	11	10	0	7	0	5	2	0	0	0
E S 推進室	男	3	1	1	1	0	1	0	0	1	0	2	1	1	0	0	0	0
	女	6	2	2	1	1	1	0	0	1	0	5	2	2	0	1	0	1
	計	9	3	3	2	1	2	0	0	2	0	7	3	3	0	1	0	1
図書・情報活用推進室	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0
	女	7	2	0	1	4	1	0	0	1	0	6	2	0	0	4	0	4
	計	8	3	0	1	4	1	0	0	1	0	7	3	0	0	4	0	4
アカデミックサポートセンター	男	4	2	1	1	0	1	0	0	1	0	3	2	1	0	0	0	0
	女	13	4	2	2	5	2	0	0	2	0	11	4	2	0	5	0	5
	計	17	6	3	3	5	3	0	0	3	0	14	6	3	0	5	0	5
学園教學課	男	5	3	1	1	0	0	0	0	0	0	5	3	1	1	0	0	0
	女	30	13	4	4	9	0	0	0	0	0	30	13	4	4	9	0	9
	計	35	16	5	5	9	0	0	0	0	0	35	16	5	5	9	0	9
学園入試広報課	男	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
	女	5	3	1	0	1	0	0	0	0	0	5	3	1	0	0	1	1
	計	7	5	1	0	1	0	0	0	0	0	7	5	1	0	0	1	1
学園教學部	男	7	5	1	1	0	0	0	0	0	0	7	5	1	1	0	0	0
	女	35	16	5	4	10	0	0	0	0	0	35	16	5	4	10	0	10
	計	42	21	6	5	10	0	0	0	0	0	42	21	6	5	10	0	10
玉川学園	男	136	88	39	9	0	109	81	20	8	0	27	7	19	1	0	0	0
	女	155	63	44	33	15	94	43	24	27	0	61	20	20	6	15	0	15
	計	291	151	83	42	15	203	124	44	35	0	88	27	39	7	15	0	15
法人部門																		
総務課	男	11	8	1	2	0	0	0	0	0	0	11	8	1	2	0	0	0
	女	5	3	0	1	1	0	0	0	0	0	5	3	0	1	1	0	1
	計	16	11	1	3	1	0	0	0	0	0	16	11	1	3	1	0	1
管財課	男	5	4	1	0	0	0	0	0	0	0	5	4	1	0	0	0	0
	女	5	2	1	1	1	0	0	0	0	0	5	2	1	1	1	1	1
	計	10	6	2	1	1	0	0	0	0	0	10	6	2	1	1	1	1
情報基盤システム課	男	7	7	0	0	0	0	0	0	0	0	7	7	0	0	0	0	0
	女	3	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3	2	0	0	1	0	1
	計	10	9	0	0	1	0	0	0	0	0	10	9	0	0	1	0	1
総務部	男	23	19	2	2	0	0	0	0	0	0	23	19	2	2	0	0	0
	女	13	7	1	2	3	0	0	0	0	0	13	7	1	2	3	0	3
	計	36	26	3	4	3	0	0	0	0	0	36	26	3	4	3	0	3
人事課	男	7	4	2	1	0	0	0	0	0	0	7	4	2	1	0	0	0
	女	14	11	3	0	0	0	0	0	0	0	14	11	3	0	0	0	0
	計	21	15	5	1	0	0	0	0	0	0	21	15	5	1	0	0	0
人事部	男	7	4	2	1	0	0	0	0	0	0	7	4	2	1	0	0	0
	女	14	11	3	0	0	0	0	0	0	0	14	11	3	0	0	0	0
	計	21	15	5	1	0	0	0	0	0	0	21	15	5	1	0	0	0
経理部	男	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	0	0	0	0	0
	女	5	3	0	0	2	0	0	0	0	0	5	3	0	0	0	2	0
	計	11	9	0	0	2	0	0	0	0	0	11	9	0	0	0	2	0
保健センター 健康院	男	6	1	0	5	0	0	0	0	0	0	6	1	0	5	0	0	0
	女	9	3	2	4	0	0	0	0	0	0	9	3	2	4	0	0	0
	計	15	4	2	9	0	0	0	0	0	0	15	4	2	9	0	0	0
学友会事務部	男	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	0
	女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0
	計	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	4	3	1	0	0	0	0
法人部門	男	44	31	5	8	0	0	0	0	0	0	44	31	5	8	0	0	0
	女	43	26	6	6	5	0	0	0	0	0	43	26	6	6	5	0	0
	計	87	57	11	14	5	0	0	0	0	0	87	57	11	14	5	0	0

教職員在籍者数

(所属別)

令和6年5月1日現在

		教職員					教員					職員							
		合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート			
監査室	監査室	男	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0			
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		計	1	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0			
教育情報・企画部		男	3	2	0	1	0	0	0	0	0	3	2	0	1	0			
	E Q A 課	女	5	4	1	0	0	0	0	0	0	5	4	1	0	0			
		計	8	6	1	1	0	0	0	0	0	8	6	1	1	0			
	情報・調査課	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0			
		計	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0			
	資金運用課	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	広報課	男	6	4	0	2	0	0	0	0	0	6	4	0	2	0			
		女	5	3	2	0	0	0	0	0	0	5	3	2	0	0			
		計	11	7	2	2	0	0	0	0	0	11	7	2	2	0			
	秘書課	男	5	3	0	2	0	0	0	0	0	5	3	0	2	0			
		女	4	2	0	2	0	0	0	0	0	4	2	0	2	0			
		計	9	5	0	4	0	0	0	0	0	9	5	0	4	0			
	教育情報・企画部	男	14	9	0	5	0	0	0	0	0	14	9	0	5	0			
		女	16	11	3	2	0	0	0	0	0	16	11	3	2	0			
		計	30	20	3	7	0	0	0	0	0	30	20	3	7	0			
玉川アスレチック・デパートメント	玉川アスレチック・デパートメント	男	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0			
		女	3	1	1	0	1	0	0	0	0	3	1	1	0	1			
		計	4	2	1	0	1	0	0	0	0	4	2	1	0	1			
収益事業部門		男	3	1	2	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0			
	編集課	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		計	3	1	2	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	0			
	営業課	男	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0			
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		計	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0			
	出版部	男	5	3	2	0	0	0	0	0	0	5	3	2	0	0			
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		計	5	3	2	0	0	0	0	0	0	5	3	2	0	0			
	購買部	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
	収益事業部門	男	5	3	2	0	0	0	0	0	0	5	3	2	0	0			
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0			
		計	5	3	2	0	0	0	0	0	0	5	3	2	0	0			
		教職員	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	教員	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	職員	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
	総合計	男	1,002	422	77	499	4	804	305	29	470	0	198	117	48	29	4		
		女	787	285	71	334	97	463	146	26	291	0	324	139	45	43	97		
		計	1,789	707	148	833	101	1,267	451	55	761	0	522	256	93	72	101		

注1:教員は、教授、准教授、助教、講師、助手、研究員、教諭、養護教諭、常勤講師をいう。

注2:職員は、事務職員、技術職員、技術指導員、指導員、実習助手、英語ティーチングスタッフ、

特別免許状を保有しないIB Programs Divisionの嘱託職員8名及びPrimary Division BLES・BLES-K担当の嘱託職員12名をいう。

注3:教職員数に非常勤の理事及び監事は含まない。

注4:出向者は出向元のみでカウントし、出向先の数には含まない。

Primary Division(幼稚部) 在籍者数

令和6年5月1日現在

性別 年令	3歳児	4歳児	5歳児						合計
男子	15	14	25						54
女子	16	20	18						54
計	31	34	43						108

Primary Division(1~5年) 在籍者数

令和6年5月1日現在

性別 学年	1年	2年	3年	4年	5年				合計
男子	65	66	62	62	63				318
女子	72	72	70	74	72				360
計	137	138	132	136	135				678

Secondary Division(6~12年) 在籍者数

令和6年5月1日現在

性別 学年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	合計
男子	30	80	59	70	103	82	81	505
女子	41	78	78	75	93	78	97	540
計	71	158	137	145	196	160	178	1,045

IB Division(6~12年) 在籍者数

令和6年5月1日現在

性別 学年	6年	7年	8年	9年	10年	11年	12年	合計
男子	26	28	15	15	15	10	14	123
女子	29	33	31	27	22	12	16	170
計	55	61	46	42	37	22	30	293

Primary Division(幼稚部) 在籍者数

令和6年5月1日現在

教職員						教員					職員				
	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
男	2	1	1	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0
女	19	4	5	10	0	17	4	4	9	0	2	0	2	0	0
計	21	5	6	10	0	19	6	4	9	0	2	0	2	0	0

Primary Division(1~5年) 在籍者数

令和6年5月1日現在

教職員						教員					職員				
	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
男	29	17	12	0	0	23	18	4	1	0	6	0	6	0	0
女	30	12	14	1	0	22	12	7	3	0	8	0	8	0	0
計	59	29	26	1	0	45	30	11	4	0	14	0	14	0	0

Secondary Division(6~12年) 在籍者数

令和6年5月1日現在

教職員						教員					職員				
	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
男	65	52	10	7	0	59	50	4	5	0	6	0	6	0	0
女	38	22	6	14	0	36	22	4	10	0	2	0	0	2	0
計	103	74	16	21	0	95	72	8	15	0	8	0	6	2	0

IB Division(6~12年) 在籍者数

令和6年5月1日現在

教職員						教員					職員				
	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート	合計	専任	嘱託	非常勤	パート
男	29	10	15	0	0	24	11	12	1	0	5	0	5	0	0
女	20	6	13	3	0	17	5	9	3	0	3	0	3	0	0
計	49	16	28	3	0	41	16	21	4	0	8	0	8	0	0

令和6年度 教職課程受講者数（通学課程）

令和6年5月1日現在

学部名	学科名	人数				計
		1年生	2年生	3年生	4年生	
文学部	英語教育学科	39	42	63	49	193
	国語教育学科	61	56	56	39	212
	計	100	98	119	88	405
農学部	生産農学科	24	32	19	31	106
	計	24	32	19	31	106
工学部	ソフトウェアサイエンス学科	14	17	15	3	49
	マネジメントサイエンス学科	40	29	23	17	109
	情報通信工学科	5	4	3	3	15
	デザインサイエンス学科	4	3	-	-	7
	計	63	53	41	23	180
教育学部	教育学科（幼稚園）	6	0	5	9	20
	教育学科（小学校）	166	142	145	147	600
	教育学科（社会・公民・地歴）	64	48	42	21	175
	教育学科（保健体育）	46	44	40	48	178
	乳幼児発達学科	83	81	81	77	322
	計	365	315	313	302	1,295
	音楽学科	16	20	21	26	83
	アート・デザイン学科	8	9	7	6	30
	計	24	29	28	32	113
	合計	576	527	520	476	2,099



for entry in 2024 履修ガイド

令和6年度 入学生用

玉川大学

2 履修の制限

- 科目を履修するにあたっては、以下のような制限があります。

- ① 各セメスターで履修できる科目は、その合計が16単位以内です。
(詳しくは、下記「履修登録単位数の制限（CAP制）」を参照)
- ② 履修できる科目は、各人が在籍するセメスターおよび下位セメスターにて開講の科目とします。
*在籍するセメスターより上位セメスターで開講している科目は履修できません。
- ③ 「B評価」以上で合格した科目は、再履修することはできません。
- ④ 同一時間帯に1科目を超えて履修することはできません。
- ⑤ 定期試験終了後、休暇期間中に開講される授業（サマーセッション・ウィンターセッションは除く）の履修登録および単位の認定は翌セメスターに行います。
*したがって、卒業時の最終セメスター（学期）の学生は「履修単位の制限（16単位CAP制）」の項にある履修上限外の科目を受講できない場合があります。

▶セメスター制
参照「履修ガイド」
p.16

1 履修登録単位数の制限（CAP制）

- 各人が1週間に授業を受講して学修するには、おのずと限界があります。そこで本学では、履修できる科目の合計単位を各セメスター16単位以内としています。上限16単位を超えて登録することは認められていません。

- ただし、上限16単位に含めない単位として、以下のものがあります。

- ① 「玉川の教育」
- ② 「音楽Ⅰ」
- ③ 「音楽Ⅱ」
- ④ 「体育」
- ⑤ 「玉川の行事・式典A～C」
- ⑥ サマーセッション、ウィンターセッションで修得した単位
- ⑦ 本学通信教育部が行う学内スクーリングの教職科目の単位（教育学部のみ）
- ⑧ 海外留学・研修（SAEプログラム等）で修得した単位（「国際研究A～F」「SAE（海外留学・研修）プログラムA～J」等）
- ⑨ 行政の取り組み等に参加して認定された科目（「地域創生プロジェクトA～F」）
- ⑩ 国内で実施した各種プログラムで修得した単位（「フィールドワークA～C」）
- ⑪ ネットワーク多摩単位互換制度の単位
- ⑫ 入学前に修得した単位（玉川大学学則第18条～第20条により認定）
- ⑬ インターンシップ（学校体験活動・介護等体験を含む）・キャリア実習（就業体験を含む）を実施して認定された単位
- ⑭ 外国語科目的履修免除制度で認定された科目

▶ネットワーク多摩単位互換制度
参照「履修ガイド」
p.33
▶玉川大学学則
参照「学生生活ガイド」
p.148～157

2 成績優秀者の18単位履修制度

- 前セメスターの当該学期GPA3.20以上という条件を満たした場合に、成績優秀者に対するスカラシップとして上限16単位を超えて最大2単位まで履修登録することができます。

*留学前の学期GPAが3.20以上の場合、帰国直後の学期に適用します（農学部環境農学科海外プログラムを除く）。

*休学前の学期GPAが3.20以上の場合、復学直後の学期に適用します。



資料⑦

University Book

学生要覽

for entry in 2024 教職課程受講ガイド

令和6年度 入学生用

玉川大学

本学が目指す『教師像』

本学は、

玉川教師訓「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を実践できる教師の育成を目指します。

子供に
親たちに
同僚に
慕われ
校長に
敬われ
信せられ
せえよ

玉川教師訓



本学が目指す『教師像』を実現するために、次の力量を備えた教師を養成します。

- ① 確かな学力と健やかな体を育てる「学習指導力」
- ② 豊かな心を育て自己実現を図る「幼児・児童・生徒指導力」
- ③ ともに高めあうクラスをつくる「学級経営力」
- ④ 新たな学校づくりを推進する「協働力」

教師教育 リサーチセンター

玉川大学
玉川大学 大学院

文学部	国語教育学科 英語教育学科
農学部	生産農学科 環境農学科 先端食農学科
工学部	情報通信工学科 ソフトウェアサイエンス学科 マネジメントサイエンス学科 デザインサイエンス学科
教育学部	教育学科 教育学科 通信教育課程 乳幼児発達学科
芸術学部	音楽学科 アート・デザイン学科 演劇・舞踊学科
経営学部	国際経営学科
リベラルアーツ学部	リベラルアーツ学科
観光学部	観光学科
大学院教育学研究科	教職大学院



「教員養成の玉川」

「教員養成の玉川」の特徴

特徴
1

教育学部は長い伝統の中で数多くの教員を輩出

優

れた教育学者で、教育実践家だった小原國芳の精神を色濃く受け継いでいるのが教育学部です。「自ら考え、自ら体験し、自ら試み、創り、行うことによってこそ、眞の知育、德育が成就する」と考え、「知行合一の強固なる意志と実践力を持った人間形成」を目指す「労作」教育や、「一級品にふれる」本物体験を重視した小原の理念は、教員としての実践力を養成する教育学部の体験教育に発展的に生かされています。1949年に前身である文学部教育学科として開設されて以来、長い伝統を誇る教育学部ではこれまで、確かな実践力を持つ、数多くの教員を全国に送り出しています。

卒業生教員数(現職)
(2024年2月現在)

幼稚園・保育園
26.0%

大学・短大・高専
8.2%

高等学校
8.5%

特別支援・各種学校 等
3.4%

小学校
40.4%

中学校
13.5%



特徴
2

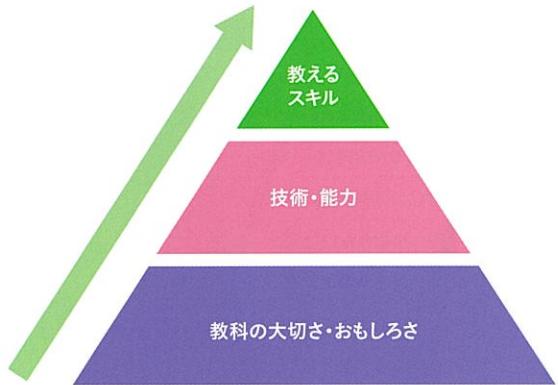
複数の免許を持った人材を輩出するダブル免許プログラム

教

育学部では小学校教諭1種免許に加え、中学校「英語」「国語」「数学」「技術」「理科」「音楽」「美術」2種、高等学校「情報」1種の免許取得が可能となっています。

また、教育学部以外の学部でも教員免許を取得することができ、免許取得希望者は、専門科目に教職課程を加えることなく、すでに教職課程が組み込まれたカリキュラムを履修できることが大きな特徴です。

文学部、農学部、工学部、芸術学部では、中学校・高等学校の教員免許に加えて小学校教諭免許(2種)を取得できる制度を用意。各学部の専門分野の深い学びを通して得た知識と経験を生かし、教育現場で活躍できる教員を輩出しています。



※上記プログラムの利用には条件があります。

「教員養成の玉川」の歴史

創立者・小原國芳の精神を継承した教師像を追究

玉川大学の創設者・小原國芳は青年時代、理想に燃える学校教員でした。小原は自分が理想とする「ゆめの学校」を実現するため、玉川学園を創設。豊かな人間性と人格を涵養する「全人教育」を理念とした独自の教育を始めました。その創立者の精神は「玉川教師訓」として現在も継承され、「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を実践できる教師の育成が、全学の教員養成の目標として掲げられています。



本学が目指す「教師像」

本学は、玉川教師訓「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を実践できる教師の育成を目指します。そのため、次の力量を備えた教師を養成します。

- 確かな学力と健やかな体を育てる
「**学習指導力**」
- 豊かな心を育て自己実現を図る
「**幼児・児童・生徒指導力**」
- ともに高めあうクラスをつくる
「**学級経営力**」
- 新たな学校づくりを推進する
「**協働力**」

子供に慕われ
親たちに敬われ
同僚に愛せられ
校長に信ぜられ
玉川教師訓

玉川教師訓

人格優れた教員を育て、教員になってからもサポート

玉川大学では、伝統ある教育学部を中心に他学部からも優れた教員を数多く輩出し、全国の教育現場をはじめ、教育委員会や校長・園長など教育界のリーダーとして幅広く活躍しています。玉川の「全人教育」による豊かな人間性を備えた教員は、これまでも高い評価を受けていますが、2012年には、さらなる“質の高い教員養成”を目指して「教師教育リサーチセンター」を開設。学生を対象とした教員養成にとどまらず、教員を対象とした教師教育にも力を注いでいます。

「教員養成」の学修環境

教育に関する最先端の実践や研究を展開する

キ

ヤンパスの中に幼稚部、小学部、中学部、高等部を併設し、日常的に子どもたちに接することができます。そこでは「K-12」一貫教育という先進的な取り組みのもと、学生の教育インターンシップも行われています。また、大学の脳科学研究所では心の発達やコミュニ

ケーション知能の研究、「赤ちゃんラボ」での乳児から幼児までの調査・研究など、「教育」に関わる独自の研究が行われています。このような最先端の教育実践や研究活動も、教員を目指す学生の教育に還元され、活用されています。

CLOSE UP

大学教育棟 2014 | 対話を軸に学びを深めるアクティブな学修環境

2015年4月に開館した「大学教育棟 2014」は、地上7階建ての建物に図書館、ラーニング・コモンズ、講義室などの最新設備を収容した、これまでにない新しい知の空間です。ICTを活用した最新鋭の「教育学術情報図書館」に隣接して、カンファレンス・ルーム、ワークショップ・ルーム、ラウンド・テーブル、フリースペースなど、多彩な部屋やスペースを用意。講義後や図書館での情報収集後、このスペースを活用した議論や対話などのアクティブ・ラーニングで、豊かな発想や表現を生み出し、主体的な学びを深めることができます。またラーニング・コモンズには、学修をサポートする大

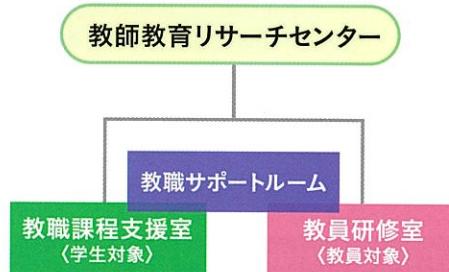


サポート | 教師教育リサーチセンター

玉川大学では、2006年4月、教職に関する総合センターとして「教職センター」を設置していましたが、さらなる“質の高い教員養成”と“教師教育学の研究活動推進”のために改組し、2012年4月に「教師教育リサーチセンター」を新設しました。

教師教育リサーチセンターは、教職課程履修学生のサポートをする『教職課程支援室』、そして教師教育に関わる研究活動を推進する『教員研修室』の2つの部門から成り立っています。当センターは、これまでの教職課程支援事務のみならず、教師教育(教員養成・採用・研修)に関する研究・調査を行う研究機関的要素、さらには教育委員会、小・中・高等学校、幼稚園、保育所との連携を推進する機能をもつ全学教員養成の全体を包括する組織として位置付けられています。

構成図



客員教授・リサーチフェロー・教授・研究員

リサーチフェロー	玉川大学 大学院教育学研究科 教授	森山 貢一
准教授	玉川大学 教師教育リサーチセンター	大川 なつか
	千葉大学 名誉教授	天笠 茂
客員教授	広島文化学園大学 学長・教授/広島大学 名誉教授	坂越 正樹
	東京薬科大学 教授	田子 健

客員教授	九州大学 名誉教授	八尾坂 修
	玉川大学 教師教育リサーチセンター	宇田 陽一
	玉川大学 教師教育リサーチセンター	平井 広
	独立行政法人教職員支援機構 玉川大学センター	笠原 陽子

大学TOPICS 2014年4月に、日本初となる2コースを大学院 教育学研究科(修士課程)に設置!

IB研究コース

IB教員ならびにIB研究者の資格が取得できる

IBとは、国際的に通用する大学入学資格を付与するための国際基準によるプログラムで、知識の修得だけでなく、社会から求められている問題解決力や論理力などを身につけることを目的としたもの。玉川大学大学院 教育学研究科「IB研究」コースでは、国際バカロレア機構より認定を得てIB教員養成とその教育・研究を行っています。これまでの教師主導の学校教育と異なり、「教師は生徒の学習を支援する立場」と考えるIBの基本理念だからこそ、創立以来「全人教育」を掲げる玉川学園・玉川大学と自然に深い関わりを持つことができます。併設する高等部・中学部にもIBクラス(MYP, DP)を設置。教員養成と現場教育の往還が可能になっています。

教師教育学コース

教員養成を行う課程を担当できる大学教員を育成する

教員養成制度の改革が急がれる中、大学の教員養成機関では、指導力ならびに指導者としてふさわしい教育研究実績を有する実務経験者の登用など、実践的指導力を育成できる教員が求められています。しかし、そのためには採用に値する教員の養成が必要です。こうした社会からの要請に応え、玉川大学大学院 教育学研究科「教師教育学」コースでは、教師教育学の研究と教育を目的として2014年4月に本コースを開設。この分野を深く専門的に教授・研究することで必要な人材の育成を図ります。校長・教育長・幹部教員などの職にあって、その豊富な経験を生かし、将来、大学で教員養成を担う大学教員を目指す人たちも入学の対象としています。

玉川独自の教員養成プログラムで、教員を目指す学生をサポート

教職課程支援室

Teacher Education Support

学生対象

「教職課程支援室」では、各種実習、介護等体験などの手続きを始め、教員免許状の一括申請等の申請業務のほか、教員（保育士）就職支援や採用試験対策講座等の学生支援を行っています。また小・中・高等学校長、幼稚園長、保育所長経験者など、現場経験豊富なスタッフを擁する教職サポートルームを併設し、学生の指導や相談に応じています。



教員養成の取り組み

本学では、5学部11学科（2024年度入学生）・通信教育課程において、それぞれの学部学科の専門領域を活かした教員免許の取得が可能です。教職に就くという大学入学時のモチベーションを持続させ質の高い教員を養成するために、1年次から教職課程受講支援を実施し、大学4年間を通じた教職課程受講支援プログラムを構築することで、一貫した学生支援を行っています。

現在、本学では、全学年合わせて約3,700名（大学院、通信教育課程を含む）を超える学生が教員免許の取得を目指して学修しています。

通学課程においては、下記のような教職キャリアプランに沿って4年間を通して一貫した教職課程受講支援プログラムを展開しています。

さらに大学院では、学部で学んだ専門領域を深め、より高い能力を備えた教員職等を目指す学生のために大学院6つの研究科のうち、文学研究科、農学研究科、工学研究科、教育学研究科・教職大学院で専修免許取得が可能となっています。

令和6年度入学生より、1年次で「参観実習」・「学校体験活動A」、2年次で「介護等体験」（特別支援学級を設置する小中学校で実施）、3年次で教育実習実施前「学校体験活動B」を実施することで、理論と実践の往還を重ね、最終的に4年次の教育実習へ繋げる取り組みを開始いたします。

玉川大学の教職課程受講支援プログラム

*1年生から4年生まで常に教育現場で実践的指導力を学び、理論と実践の往還を繰り返すことで、即戦力となる教員の養成を目指します！

大学のカリキュラム（授業）		1年次		2年次		3年次		4年次			
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
ステップ		教育現場に学ぶ									
理論	実践	教養を身につける		実践的指導力の基礎を身につける		実践的指導力を身につけ、採用試験に備える					
		教職の意義と基礎理論を学ぶ		指導法の基礎を学ぶ		教科・教職の専門性と実践力を養う		実践と応用	総まとめ		
実践	実践	各教科の指導法に関する学修				教職の専門的な学修		教育実習3単位	教職実践演習		
		領域・教科に関する専門的事項・教育の基礎的理解に関する学修				教育実習先開拓					
採用試験対策	実践	教育実習事前指導		教育実習事前指導		教育実習事後指導		学校体験活動			
		参観実習+学校体験活動A 1単位		介護等体験 2単位 教育インターンシップA・B 各2単位		学校体験活動B 1単位 教育インターンシップC・D 各1単位		学校体験活動C・D (現場実習)各1単位			
採用試験対策	実践	直前対策		教員採用試験		直前対策		教員採用試験			
		ガイドンス		筆記・面接・論作文等試験対策		筆記・面接・論作文等試験対策・総まとめ		模擬試験・県別学修等			
採用試験対策	実践	模擬試験		模擬試験・進路相談等		模擬試験・県別学修等		特別講話等			

PICK UP

参観実習

特徴的な取組みの1つとして参観実習があります。参観実習は、教職課程を履修中の1年生（約500名）を対象に、教える立場、教師の目線から、学校の1日を体験することで、学生の教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路選択の機会を与えることを目的として実施しています。

【実施先】町田市立小・中学校、稻城市立小・中学校、川崎市立小・中学校、横浜市立小・中学校、相模原市立小・中学校、藤沢市立小・中学校等/私立幼稚園（町田市、多摩市、川崎市、横浜市等）



ココもポイント

教員（保育士）就職対策として、各種ガイドンス、対策講座、模擬試験の実施や日本語検定の導入も行っています。

通学課程・通信教育課程

教育実習・保育実習

教育実習は、学校現場での教育実践を通じて、また保育実習は保育現場での実践を通じて、学生自らが教員・保育士への実践的指導力を身につけるとともに、適性や進路を考える貴重な機会です。

本学では、教員・保育士を志す者としてふさわしい学生を、責任を持って実習校に送り出すべく、教育実習・保育実習事前指導の充実を図っています。



«「教育実習・保育実習」事前指導の概要»

- ・現場実習に向けての心構え
- ・全人教育の実践的理解
- ・学校教育(公立学校の現状と課題、教育実践への理解、教員服務、実習生への期待など)

- ・学級経営と特別活動(特別支援、教育行事等を含め現場的視点からの実践的・具体的理解)
- ・授業演習(領域別の授業計画、指導案作成、学習指導の実際、教師としての基礎能力の充実) など

介護等体験

小学校・中学校の教育職員免許状取得に必要な「介護等体験」(平成九年法律第九十号)では、令和5年4月1日付の省令改正(令和五年文部科学省令第六号による改正)により、介護等体験を行うことができる施設として「特別支援学級を設置する学校」が追加されました。

本学では教員を目指す学生に特別な支援を必要とする児童生徒との関わりは必須と捉え、令和6年度からの「介護等体験」について、特別支援学級を設置する小・中学校にて実施いたします。



教員・保育士採用試験対策講座

本学では、教員・保育士を目指す学生のためにさまざまな支援プログラムを実施しています。年間を通して、各対象学年向けの対策講座、採用試験の時期に応じた対策講座の実施をはじめ、筆記試験対策、模擬試験の実施、また各教育委員会の学内説明会も積極的に実施

しています。

さらに、教員採用に伴う学生の指導体制を整えるため、教職サポートルームを設置し、専門教員が常駐し、学生に対する個別指導、キャリアカウンセリングにも対応しています。

ガイダンス・採用試験対策等の一例

- ・採用試験の概要解説
- ・都道府県教育委員会等採用担当者による学内説明会
- ・面接や論文・作文の個別指導
- ・一次試験(一般教養・教職教養・専門教養)対策
- ・二次試験(実技を含む)対策
- ・模擬試験 など



進路相談

教育委員会採用担当者による学内説明会

2023年度 教員採用者数一覧(通学課程)

公立学校教員	
校種	採用者数
幼稚園教員	3
小学校教員	146
中学校教員	95
高等学校教員	20
計	264

私立学校教員等	
校種	採用者数
幼稚園教員	39
小学校教員	11
中学校教員	4
高等学校教員等	16
大学講師等	3
計	73

公立・私立保育士等区分		
公立	私立	計
8	37	45
教員・保育士就職者数		
計		382

正規・非常勤等含む

2023年度 教員採用者数一覧(通信教育課程)

学校教員	校種	幼稚園教員	小学校教員(全科)	中学校教員(社会)	高等学校教員(公民)
		1	116	—	—

在学生にアンケート調査を行い、回答のあったデータ数。正規・非常勤等含む



教職サポートルームについて

教員、保育士を目指す学生に対するキャリア形成支援、教職指導の一翼を担うため、小学校・中学校・高等学校の校長、幼稚園長・保育所長、教育行政経験者を教職サポートルーム客員教員として迎え、教職・保育職を目指す学生たちの夢を叶えるための相談、支援にあたっています。

教職サポートルーム教員は、教師教育リサーチセンターや各学部・学科の教職担当教員と連絡、調整しながら、教育実習に関する指導、教員・保育士採用候補者選考試験対策の企画・講師等を担当しています。

また、取り揃えた教科書・指導書や教職に関する参考書なども自由に閲覧できたり、模擬授業や共同討議などができるスペースを利用して、教職サポートルーム教員の指導を受けながら実践的指導力を身につけることができます。



教職サポートルーム客員教員

氏名	校種	専門分野
飯島 将仁	小	生活科教育/特別活動
今城 徹	小	体育科教育
小川 俊哉	小	理科教育
神田 しげみ	小	国語科教育
芹澤 成司	小・中	生徒指導・教育相談
滝澤 優子	小	図画工作科教育
西川 克行	小	社会科教育/特別活動
田中館 明	小	社会科教育
藤澤 由紀夫	小	道徳科教育
三好 浩一	小	社会科教育

氏名	校種	専門分野
宮谷 映美子	小	国語科教育
八嶋 真理子	小	理科教育/生活科教育
柳瀬 泰	小	算数科教育
山口 祐一	小	特別活動
山重 ふみ子	小	算数科教育/生徒指導
余郷 和敏	小	国語科教育
風見 章	中・高	音楽科教育
大嶋 一夫	中・高	理科教育
門倉 松雄	中・高	理科教育/化学科教育
篠生 恵美子	中・高	国語科教育

氏名	校種	専門分野
仙北屋 正樹	中・高	国語科教育
刀根 武史	中・高	英語科教育
永松 由次	中・高	保健体育科教育
林 孝之	中・高	美術科教育
堀井 仁	中・高	国語科教育
山川 伸二	中・高	数学科教育
佐藤 博子	幼	幼児教育
明田 貴和子	保	幼児教育
小野塚 正枝	保	幼児教育

校種別50音順
以下同

教職講座・実習指導担当客員教員

氏名	校種
井上 由美子	小学校
今井 東	小学校
上野 直哲	小学校・中学校
神津 長生	小学校
酒井 浩明	小学校
志村 明彦	小学校

氏名	校種
鈴木 隆之	小学校
内藤 和彦	小学校
長沢 剛	小学校
宮澤 晴彦	小学校
渡辺 昭登	小学校・中学校

氏名	校種
阿曾 祐康	中学校
天達 新一	中学校
石上 和宏	中学校
大島 昭彦	中学校
福島 博子	中学校

氏名	校種
鳥塚 恵子	幼稚園
齊藤 景子	保育所
鳥海 啓子	保育所

非常勤教員（実務家教員）

氏名	校種
佐藤 修	中学校
白井 一之	小学校

氏名	校種
鈴木 明子	小学校
盛山 隆雄	小学校

氏名	校種
長谷 豊	小学校
檜垣 義久	小学校

氏名	校種
堀内 俊吾	中学校
波田 寿一	小学校

ホームページ

玉川大学 教職課程の取り組みについてさまざまな情報を掲載しています。



公式SNS(Instagram)

教師教育リサーチセンターにて
随時、情報を発信しています。



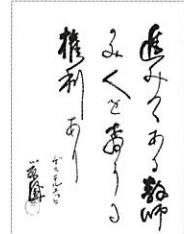
TMGW_KYOSHOKU

研修会や研究活動などを通して、現職の教員を多様に支援

教員研修室 Teacher Development

教員対象

「教員研修室」では、教師教育、教員養成に関する研究活動の支援として、文部科学省委託調査研究事業や科学研究費助成事業に関する支援業務を行っています。また、研究活動支援だけでなく「教師教育フォーラム」、教職課程 FD・SD 研修の実施、日米教員養成協議会 (JUSTEC) に係る業務（日本における事務局校）も担当しています。教員養成大学の主要部署として「教師教育研究」を主体的に行い、紀要・年報の発行や、近隣の教育委員会と連携し、現職の教員を対象にした研修会を開催しています。



「進みつつある人のみ人を教ふる 権利あり」[※]

小原園芳

※ドイツの教育学者ディーステルヴェークの言葉

教育委員会との連携

令和4年12月の中教審答申「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について」の中で、子供の学びを支える専門的かつ創造的な高度職業人としての教師像の確立に向け、教育委員会との積極的な連携・協働が求められています。

本学でも近隣教育委員会と連携協定を結び、教育ボランティア・インターンシップをはじめ、参観実習、教育実習等で学生がお世話になることも多くある一方で、大学教員が学校現場へ出向き授業や講演を行う、教育委員会等での研修に、大学として協力・支援させていただく場面も多々あります。

また、本学では、独立行政法人教職員支援機構(NITS)の協力を得て、現職教員研修[校長] [副校长・教頭等] [中堅教員] [指導主事] 等を主催しています。学校経営や組織マネジメントを推進する指導者の養成など、学校が直面する課題に組織的に対応し、特色ある教育活動を推進するマネジメント力と教職員の専門性向上も牽引する人材育成・研修推進力を育成する研修を行っています。

教師教育フォーラムの開催

教員養成の現状と今後の課題について理解を深めるためのフォーラムを毎年10月に主催しています。各界で活躍されている方々をお招きし、教員養成に関する講演やシンポジウムを行い、教育界だけでなく、広く一般に向けても提言を行っています。



令和5年度テーマ

- 新しい時代(変化の時代)に対応できる質の高い教職員集団の形成に向けて

紀要・年報・教員養成研究の刊行

新の教師教育や、教員養成に関する研究を推進し、その研究成果を広く公表するために『紀要』、『年報』と『教員養成研究』を発行しています。『紀要』は、より高度な教師教育研究について原著論文のみ掲載し、世界を視野に入れた研究を行うことを目的とし、『年報』は、特別寄稿をはじめ論説、原著論文、実践報告、教育実習報告、各種データ等を掲載し、本学の教師教育研究におけるさまざまな取り組みやデータを公表することを目的として発行しています。『教員養成研究』は、教職サポートルーム教員による教職課程科目に関する事例研究や報告を掲載しています。



今後は学び続ける教師の支援のため、大学の知を活用した現職教員研修の充実を図る必要があり、継続的に教員の資質能力向上を実現する仕組みを構築することが重要となっています。本学では、教育委員会とのさらなる連携・協働を深めていきたいと考えています。

令和5年度 研修一例

- 校長研修：これからの子供たちが学ぶ学校像の構築について
- 中堅教員(指導主事含)研修：今後の教育課程、学習指導及び学習評価の在り方について



教職課程 FD・SD 研修の実施

本学の教員・職員に向けて教員養成に伴う最新の動向等を共有すべく、教職課程 FD・SD 研修を行っています。



令和5年度テーマ

- 教員養成における理論と実践の往還の中心としての教育実習

研究助成金事業

文部科学省委託調査研究事業

- 平成26年度 (1)「総合的な教師力向上のための調査研究事業」
(2)「免許更新制高度化のための調査研究事業」

- 平成27年度 「現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業」

- 平成28年度 (1)「免許更新制高度化のための調査研究事業」
(2)「現職教員の新たな免許状取得を促進する講習等開発事業」
(3)「総合的な教師力向上のための調査研究事業」

科学研究費助成事業

- 平成25年度～27年度 「教員養成制度の移行に関する総合的研究」

- 平成28年度～30年度 「教員育成」に関わる大学・教育委員会間関係の構築に関する研究

■ 学部で取得できる教員免許・資格一覧 (2024年度入学生)

- =自学科開設科目受講により免許・資格取得
- =「ダブル免許プログラム」の受講により免許取得
- ◎=他教科の中学校、高等学校専修免許状・1種または2種免許状を所有していることが必要。(単位修得後、授与権者の検定により中学2種も取得可)

学部・学科

免許・資格の種類	幼稚園教諭		小学校教諭		中学校教諭										高等学校教諭										保育士											
	1種	2種	1種	2種	国語	英語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術	国語	英語	地理歴史	公民	数学	理科	音楽	美術	工芸	農業	情報	工業			
文学部	国語教育学科	○	●																			●														
	英語教育学科	○		●																		●														
農学部	生産農学科	○					●																		●											
	理科教員養成プログラム																																			
工学部	情報通信工学科	○			●																				●											
	ソフトウェアサイエンス学科	○		●																					●											
	マネジメントサイエンス学科	○		●																					●											
	デザインサイエンス学科	○		●				●																	●											
	数学教員養成プログラム	○		●																					●											
教育学部	教育学科	●	●	●	●		●			●			○	●	○	○	○	○	○	●	○	○	●	●	●		●		○							
	通信教育課程	●	●	●	●		●	○					●	○							●	○		●	●	○										
	乳幼児発達学科	●																																		
芸術学部	音楽学科		○				●																		●											
	アート・デザイン学科		○							●															●	●										

※上記一覧以外に取得可能な資格として、学校図書館司書教諭、図書館司書、社会教育主事(任用資格)・社会教育士、学芸員などがあります。その他の資格については下記方法でご確認ください。

本学で取得可能な免許・資格一覧参考 [玉川大学 教員免許・資格一覧](#)

■ 大学院・専攻科で取得できる専修免許一覧

研究科	専攻	取得可能免許
文学研究科	人間学専攻	中学校教諭専修免許状(社会) 高等学校教諭専修免許状(公民)
	英語教育専攻	中学校教諭専修免許状(英語) 高等学校教諭専修免許状(英語)
農学研究科	資源生物学専攻	中学校教諭専修免許状(理科) 高等学校教諭専修免許状(理科、農業)

専攻科	専攻	取得可能免許
芸術専攻科	芸術専攻	中学校教諭専修免許状(音楽、美術) 高等学校教諭専修免許状(音楽、美術)

※1 国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、英語 ※2 国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、保健体育、保健、家庭、情報、農業、工業、英語

研究科	専攻	取得可能免許
工学研究科	機械工学専攻	高等学校教諭専修免許状(工業)
	電子情報工学専攻	中学校教諭専修免許状(数学) 高等学校教諭専修免許状(数学、工業)
教育学研究科	教育学専攻	幼稚園教諭専修免許状 小学校教諭専修免許状
	教職専攻 【教職大学院】	小学校教諭専修免許状 中学校教諭専修免許状※1 高等学校教諭専修免許状※2



独立行政法人教職員支援機構 「玉川大学センター」の開設

平成27年5月の教育再生実行会議第7次提言を発端として「養成・採用・研修の一体的改革」は教育の重要課題とされています。こうした中、玉川大学は、令和元年3月、独立行政法人教職員支援機構(NITS)と「連携・協力に関する協定書」を締結し、令和元年10月には「独立行政法人教職員支援機構玉川大学センター」を開設し、令和2年度より「養成・採用・研修の一体的改革」を踏まえた研修拠点として、全国で6番目のNITS地域センターの活動をスタートしました。

玉川大学 教師教育リサーチセンター

〒194-8610 東京都町田市玉川学園6-1-1

教職課程
支援室

◆通学課程 042-739-8806

◆教員・保育士就職 042-739-8161

mail t-box@tamagawa.ac.jp(求人関係)

◆通信教育課程 042-739-8848

◆教職大学院 042-739-8340

教員
研修室

042-739-7097

mail t-kenshu@tamagawa.ac.jp



学校での 多様な体験活動による 理論と実践の往還

実践的指導力の質的向上を目指して
1年生から4年生まで毎年学校現場へ

2024
Start!

- 1年次からの実践での学びの確保で、大学での学習意欲の向上を図ります！
- 学校現場での学びと大学授業での学びが往還的になり、双方の学びの充実を図ります！
- 校長経験のある客員教員が、現場活動の事前・中間・事後指導に携わります！



学校での活動を増やし、学校や教職への理解を促進する
量的にも拡大
1～3年次に必修120時間の現場活動を経て、4年次の教育実習を実施！

令和6年度入学生以降と令和5年度入学生以前の必修の実習時間数の比較

(単位:時間)

学年	1年次		2年次	3年次	4年次	計
学校での実習活動	参観実習	学校体験活動A	介護等体験	学校体験活動B	教育実習	
令和6年度入学生	6	24	60	30	【2週間】 80	【2週間】 200
令和5年度入学生以前	6	(選択)	(選択)	(選択)	【4週間】 160	【3週間】 120

体験日数、1日の体験時間は、学校の状況、大学の授業等を考慮して、柔軟に対応することが可能です。

参観実習

教師の立場で1日学校体験

憧れから夢の実現への一歩を踏み出す 教員養成の入り口

参観実習は、教職課程を受講する1年生を対象に、教える立場、教師の立場から学校の1日を体験します。

学生の教職への自覚を促し、進路選択の機会を与えることを目的として、2012年度より実施しています。

2024
Start!

学校体験活動A※



参観実習で1日学校体験を終えた学生が、次のステップとして24時間(授業見学12時間、その他の補助業務12時間)の学校体験活動を実施します。

「チーム学校」を体験し、学校での感動を大学での学びに活かすことができる体験とすることを目指します。

実施例	条件	時期	理由	主な対象学生
2時間×12日	大学の授業を午前中空けられる場合	10～2月	多くの時期に分散して参加することにより、子供たちのさまざまな変化を体験するため	小学校・幼稚園・中学校(国語・英語・社会・理科・数学・技術)・高等学校を主免とする学生
3時間×8日				
4時間×6日				
6時間×4日	免許科目の特性および上記が困難な場合	以下に集中実施 9月・2月	各学校の合唱祭・音楽祭・展覧会・体育祭を準備する授業に参加するため	中学校(音楽・美術・保健体育)・高等学校を主免とする学生
8時間×3日				

※教育学部教育学科で幼稚園免許を主とする場合と教育学部乳幼児発達学科で幼稚園免許・保育士資格取得を目指す学生は、科目名称が「教育・保育体験活動A」となります。

介護等体験

2024
Start!

特別支援学級を設置する小・中学校で 早い時期から児童・生徒理解を深める取り組み

「学校体験活動A」に続き、60時間の特別支援学級における学校体験活動を実施します。

学校では多様な児童・生徒が学んでおり、対応も多様であることを学ぶ機会とします。



実施例	条件	時期	理由	主な対象学生
2時間×15日 + 6時間×5日	大学の授業を午前中空けられる場合	(春開始) 5～9月 (秋開始) 10～2月	多くの時期に分散して参加することにより、子供たちのさまざまな変化を体験するため	小学校・中学校(国語・英語・社会・理科・数学・技術)の免許を取得する学生
3時間×15日 + 5時間×3日				
4時間×15日				
6時間×10日	免許科目の特性および上記が困難な場合	以下の時期を中心に集中実施 (春開始) 9月 (秋開始) 2月	各学校の合唱祭・音楽祭・展覧会・体育祭を準備する授業に参加するため	中学校(音楽・美術・保健体育)・高等学校を主免とする学生

※1 小学校または中学校免許を取得する学生は必修です。

※2 幼稚園免許・高等学校免許のみ取得を目指す学生は、実施する必要はありません。

教育実習へつながる実践的指導力の基礎づくり

教育実習の受講を許可された学生が、前の学期に30時間の学校体験活動を実施します。

教育実習へつなげていけるよう、教師になるという気持ちを高め、学校の環境への適応等さまざまな準備を整える活動と位置付けています。



実施例	条件	時期	理由	主な対象学生
2時間×15日	大学の授業を午前中空けられる場合	10～2月	多くの時期に分散して参加することにより、子供たちのさまざまな変化を体験するため	小学校・幼稚園・中学校（国語・英語・社会・理科・数学・技術）・高等学校を主免とする学生
3時間×10日				
4時間×7.5日				
6時間×5日	免許科の特性および上記が困難な場合	以下の時期を中心に集中実施 9月・2月	各学校の合唱祭・音楽祭・展覧会・体育祭を準備する授業に参加するため	中学校（音楽・美術・保健体育）・高等学校を主免とする学生

※1 原則として教育実習校での活動を想定していますが、遠方で教育実習を予定している学生が大学近隣の学校で実施する場合もあります。

※2 教育学部教育学科で幼稚園免許を主とする場合と教育学部乳幼児発達学科で幼稚園免許・保育士資格取得を目指す学生は、科目名称が「教育・保育体験活動 B」となります。

連続2週間実習による実践的指導力の総仕上げ

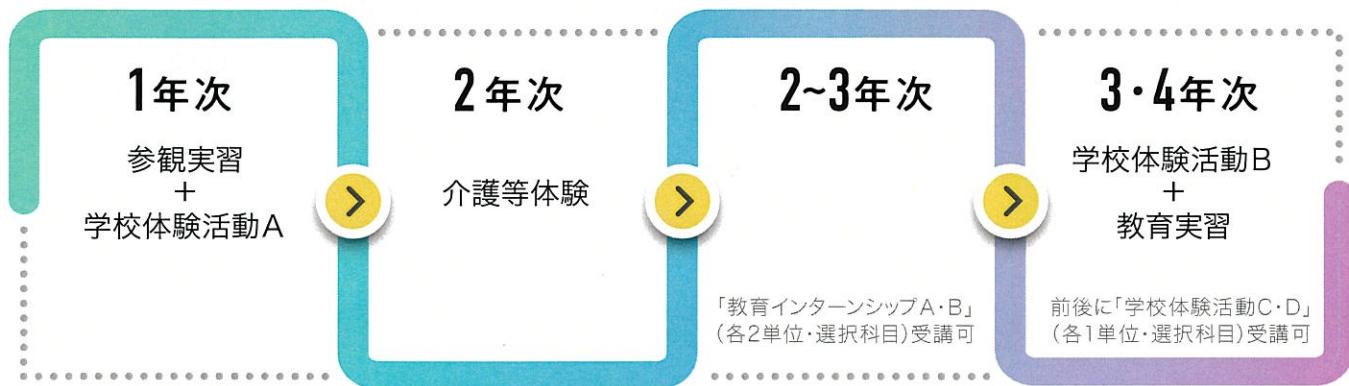
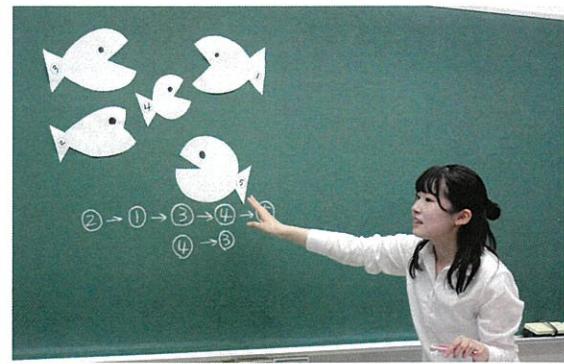
連続しての実施は2週間となります。1～3年次に積み上げてきた120時間の学校体験活動による必修実習を含めた総仕上げに位置付けられる免許取得のための最も重要な実習です。



2024
Start!

~現場で即戦力となる 教員の養成を目指して~

玉川メソッドによる教員養成



玉川大学の教職課程受講支援プログラム

* 1年生から4年生まで常に教育現場で実践的指導力を学び、理論と実践の往還を繰り返すことで、即戦力となる教員の養成を目指します！

大学のカリキュラム(授業)	ステップ	1年次		2年次		3年次		4年次	
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
教育現場に学ぶ									
理論	教養を身につける		実践的指導力の基礎を身につける		実践的指導力を身につけ、教員採用試験に備える				
	教職の意義と基礎理論を学ぶ		指導法の基礎を学ぶ		教科・教職の専門性と実践力を養う		実践と応用		総まとめ
実践	教科の基礎を学ぶ				教職の専門的な学修		教育実習3単位		教職実践演習
			各教科の指導法に関する学修		領域・教科に関する専門的事項・教育の基礎的理験に関する科目の学修		教育実習事前指導		教育実習事後指導
採用試験対策	参観実習+学校体験活動A 1単位		介護等体験 2単位		学校体験活動B 1単位		学校体験活動C・D (現場実習)各1単位		
	ガイダンス		筆記・面接・論作文等試験対策		直前対策		教員採用試験		直前対策
		模擬試験		模擬試験・自主学修会等		筆記・面接・論作文等試験対策、総まとめ		教員採用試験	
								模擬試験・自主学修会等	
								特別講話等	

玉川大学教師教育リサーチセンター

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

玉川大学

教育実習日誌

自 令和 年 月 日

至 令和 年 月 日

(週間)

実習校

実習教科

大学指導教員

学部	氏名
学科	
年	

本学のモットー

玉川教師訓

く生の最³若³い
いやな事³に挑³む
場面を真³め先³ん
微³笑³み³て相³当³せよ

玉川
教師訓

子供に慕³われ
親³たちに敬³われ
同僚に愛³せられ
校長に信³せられ

玉川
教師訓

玉川
教師訓

本学が目指す「教師像」

本学は、

玉川教師訓「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」を実践できる教師の育成を目指します。

そのために、次の力量を備えた教師を養成します。

- ① 確かな学力と健やかな体を育てる「学習指導力」
- ② 豊かな心を育て自己実現を図る「幼児・児童・生徒指導力」
- ③ ともに高めあうクラスをつくる「学級経営力」
- ④ 新たな学校づくりを推進する「協働力」

資料1-1-2



令和7年1月21日 全学園連絡会

教員養成支援の成果と課題 2024

教師教育リサーチセンター

Contents 成果と課題

はじめに～2024年度の教員採用試験結果報告

- ① 教育実習等の在り方の見直し 取り組み開始
- ② 教職課程認定申請 小学校二種免許
- ③ 中学校複数免許取得 検討開始
- ④ 実務家教員による指導体制 進行中
- ⑤ 教員採用試験対策講座 試験早期化対応完了
- ⑥⑦ 併設校との連携 できることから
- ⑧ 教職研究 現場に還元する
- ⑨ 教員研修 NITS第2期開始

名簿登載率

公立学校教員採用候補者選考試験の成果を表す指標。
(幼稚園は含み、保育士は含まない)
以下の式で求める。

$$\frac{\text{二次試験名簿登載者数}}{\text{一次試験受験者数}}$$

二次試験の合格は、各自治体の次年度配置の名簿に登載されることを意味するため、合格者を「名簿登載者」と呼ぶ。

本学では50%以上の名簿登載率を目標に掲げている。

教員・保育士就職率

正規・非常勤、公立・私立を問わず、免許取得者が教職に就いた成果を表す指標。
以下の式で求める。

$$\frac{\text{教員・保育士就職者数}}{\text{教員免許取得者数}}$$

広報用に教員採用試験受験者数、実態把握用に1年次教職課程受講者数を分母とする場合もある。

本学では80%以上の教員・保育士就職率を目標に掲げている。

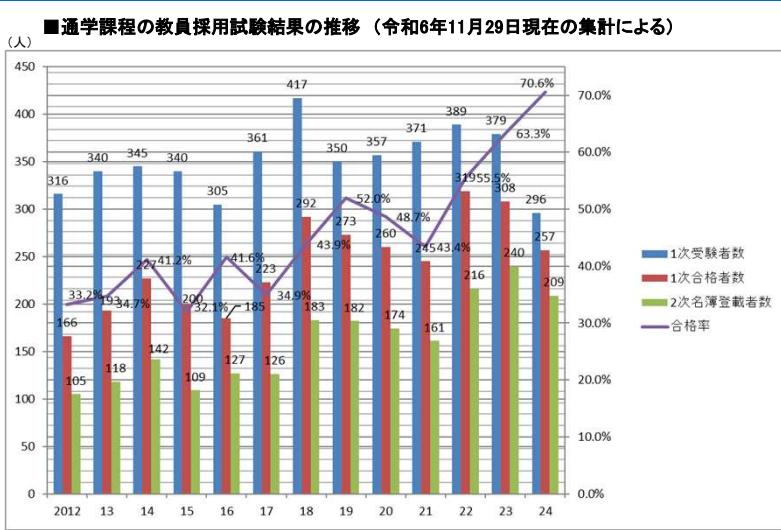
令和6年度実施までの

公立学校(園)教員採用試験結果の推移

目標:名簿登載率
50% (合格率)

【通学・通信合計】

2019年度 59.0%
2020年度 53.2%
2021年度 47.9%
2022年度 59.1%
2023年度 62.5%
2024年度 67.3%



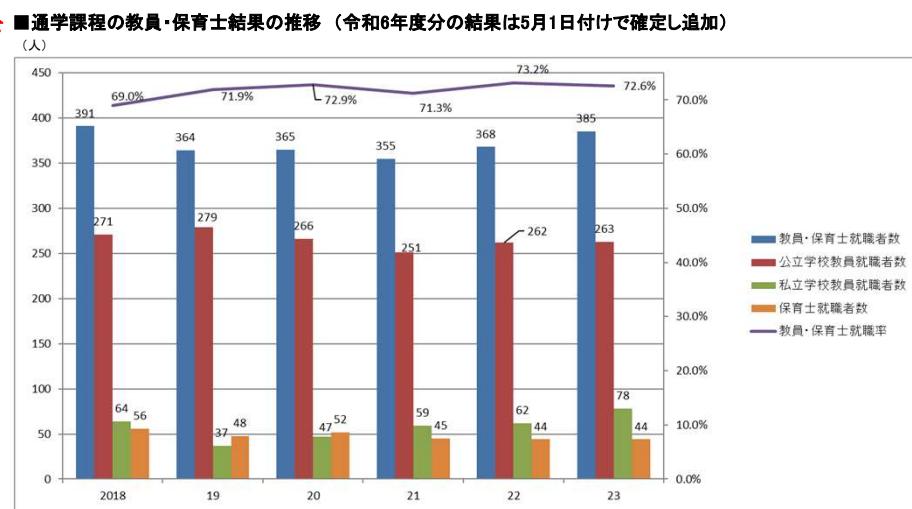
令和5年度実施までの

教員・保育士就職結果の推移

目標:教員・保育士就職率80%

文部科学省による教員就職率(大学院生・保育士を除く)は令和4年度まで公表

東京学芸大 53.6%
横浜国立大 49.1%
千葉大 51.3%
埼玉大 46.7%



『大学ランキング』(朝日新聞出版)は、「教員就職者数」校種別

5

名簿登載率好成績の理由と今後の動向

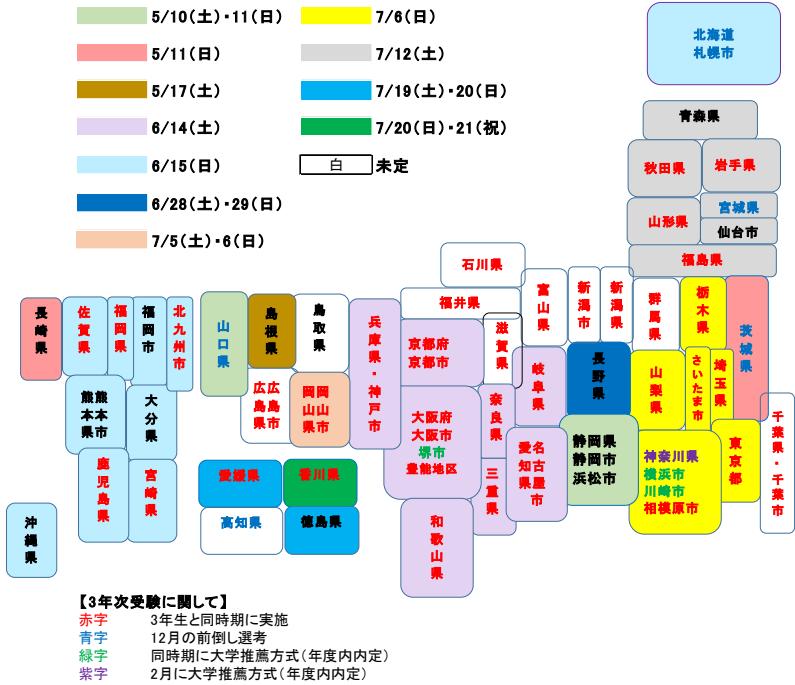
●好成績が続いている理由 (低倍率の自治体・校種もあるが)

教員採用数は高い水準で一定だった中で、受験者数は新卒が増加傾向、既卒が減少傾向を示している(高等学校はいずれも減少)。本学の学生は教員の熱心な指導により、新卒の中では優位に立てたと推測される。

●教員採用試験対策のこれから(倍率回復も見込まれる中で)

令和7年度採用分から教員採用数は減少に転じ、令和8年度採用からは毎年史上最低数を下回っていく見込み。その中で本学学生が合格を勝ち取っていくためには、従来通りの教員の熱心な指導に加えて、これまで以上に学生本人の質向上が求められる。

2025年度実施 教員採用試験 日程



7

① 教育実習等の在り方の見直しによる新制度構築

玉川大学の教員養成改革:「教育実習の柔軟な見直し」を実現!
実践的指導力の質的向上を目指し、1~4年次まで毎年学校現場へ

学校での多様な体験活動による理論と実践の往還

1年次:「参観実習」…教師の立場で1日学校体験
… 6時間分現場実施

「学校体験活動A」…24時間分現場実施



2年次:「介護等体験」…特別支援学級を設置する
小・中学校で早い時期から児童・生徒理解を深める取り組み

…60時間分現場実施



3年次:「学校体験活動B」…教育実習へつながる実践的指導力の基礎づくり
…30時間分現場実施

4年次:「教育実習」…連続2週間実習による
実践的指導力の総仕上げ
…80時間分現場実施



◆Point◆

1. 教育実習実施までに、合計120時間現場へ
2. 介護等体験を特別支援学級設置の学校で実施
3. 学校体験活動・介護等体験を単位化し、授業空き時間を利用して実施。
4. 現場体験120時間を経て教育実習2週間によう、教員採用試験の早期化等へ対応。
5. 学生が早い段階から現場へ行くことにより、より質の高い、即戦力となる教員養成を実現。

☆文部科学省推奨:「学校体験活動」から
「教育実習」へ繋げていく、中教審の指針を
実現する先駆的な取り組み!

② 実務家教員による指導体制の拡充

2029年度(令和11年度)までに

- ◆教育実習に伴う大学指導教員訪問指導実施率100%
- ◆首都圏以外の自治体教員による教員採用試験対策講座実施のため、自治体の求める教師像理解に向け地元出身の校長経験者(教職講座・実習指導客員教員)の採用100%

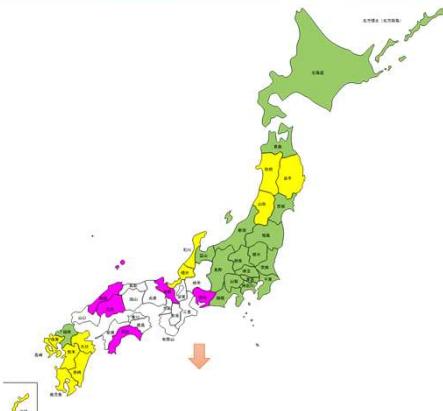
教育実習訪問指導地域を拡充 訪問指導実施率 R5:69.1%→R6:91%
教員採用試験合格率も前年度比20~30%UP!

2023年度(令和5年度)実績 ※二次試験結果

茨城県(R4:6名中5名合格 83.3% →R5:12名中9名合格 75% →R6:7名中7名合格 100%)
静岡県(R4:11名中5名合格 45.4% →R5:12名中9名合格 75% →R6:4名中1名合格 25%)

2024年度(令和6年度)実績 ※二次試験結果

群馬県(R5:1名中1名合格 100% →R6:2名中1名合格 50%)
栃木県(R5:4名中2名合格 50% →R6:受験者なし)
福島県(R5:4名中4名合格 100% →R6:5名中5名合格 100%)
新潟県市(R5:2名中2名合格100%→R6:2名中2名合格 100%)
山梨県(R5:4名中3名合格 75% →R6:3名中2名合格 66.7%)
長野県(R5:1名中1名合格 100% →R6:3名中1名合格 33.3%)



2025年度(令和7年度)からの拡充 都道府県

北海道・札幌市・青森県・宮城県・富山県・福岡県

2026年度(令和8年度)からの拡充 都道府県

秋田県・東海地方(愛知県・名古屋市など3県市)付近
石川県・近畿地方・中国地方・四国地方・沖縄県

4年一貫した教職課程受講支援プログラム

●令和6年度改訂

	1年生	2年生	3年生	4年生
ステップ	第1セメスター 教育現場に学ぶ	第2セメスター 教養を身につける	第3セメスター 実践力の基礎を身につける	第4セメスター 実践力を身につけて、教員採用試験に備える
理論	教職の意義と基礎理論を学ぶ 教科の基礎を学ぶ	指導法の基礎を学ぶ	教科・教職の専門性と実践力を養う	実践と応用 総まとめ
大学のカリキュラム(授業)	各教科の指導法に関する学修 領域・教科に関する専門的事項・教育の基礎的理解に関する科目的学修	教職の専門的な学修	教育実習3単位	教職実践演習
実践	参観実習+学校体験活動A 1単位 教育インターンシップA・B 各2単位	介護等体験 2単位 教育インターンシップA・B 各2単位	学校体験活動B 1単位 教育インターンシップC・D 各1単位	学校体験活動C・D (現場実習) 各1単位
採用試験対策	ガイダンス	筆記・面接・論作文等試験対策	直前対策 教員採用試験	直前対策 教員採用試験
	模擬試験	模擬試験・自主学修会等	模擬試験・自主学修会等	特別講話等

③ 教員採用試験対策講座 3年次内定学生の特別講座新設

神奈川県・横浜市・川崎市は3年次受験の結果により内定

令和6年度採用8名(神奈川県4名・横浜市2名・川崎市2名)

令和7年度採用8名(横浜市5名・川崎市3名)(神奈川県8名が結果待ち)



講義と演習による3回の特別講座を実施

④ 教職課程認定申請 小学校2種免許承認

令和6年12月10日付で文部科学省より認定通知が届く＼(^o^)／

学部等名	学科等名	免許状の種類	備考
文学部	英語教育学科	小学校教諭二種免許状	小専科指導
農学部	生産農学科	小学校教諭二種免許状	小専科指導
工学部	情報通信工学科	小学校教諭二種免許状	小専科指導
	ソフトウェアサイエンス学科	小学校教諭二種免許状	小専科指導
	マネジメントサイエンス学科	小学校教諭二種免許状	小専科指導
	デザインサイエンス学科	小学校教諭二種免許状	小専科指導

全国で申請は3大学8学科

⑤ 中学校複数免許取得の検討開始

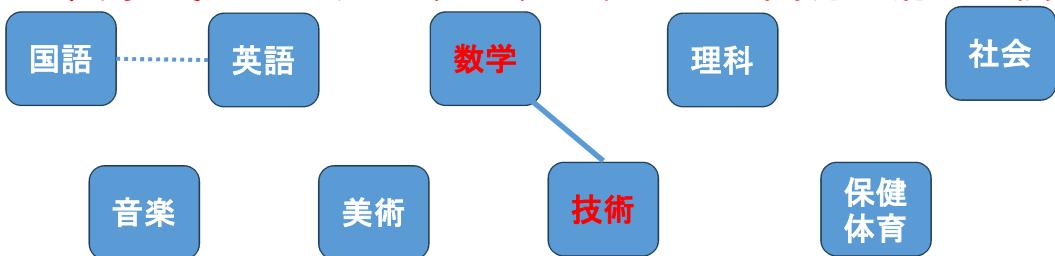
教員採用試験における加点制度の対象

学校現場における希少免許取得率向上の要請

令和5年度入学生より、工学部デザインサイエンス学科において

「数学」と「技術」の中学校複数免許取得が可能となる

令和8年度入学生より、その他の組み合わせが実施可能かを検討



⑥ 大学院版教育実習の開始 併設校との連携強化

文部科学省による奨学金返還免除の制度再開

対象: 教職大学院および他研究科で学校現場活動30時間以上

令和7年度より「教職特別実習」を新設



写真提供:教職大学院

⑦ 「教育インターンシップ」目的特化型の開設

令和6年度 「学校体験活動A」(必修科目)の学生派遣開始



令和7年度以降 「教育インターンシップ」の学生派遣

- 玉川学園 併設校(現場ニーズを目的とした活動) アカデミックサポートセンターと企画検討中
- ICT 実践校 相模原市立中野中学校
- 学びの多様化学校(不登校特例校)分教室 世田谷区立世田谷中学校・鎌倉市立由比ヶ浜中学校(令和7年度新設)
- 特別支援学校(町田の丘学園等) 都内関係性のある特別支援学校 等



⑧ 教職研究の充実

平成28年度「教員採用試験対策のための論作文&面接対策」刊行
(以降、年度版として時事通信出版局より毎年刊行。今年度で9冊目)

令和元年度 「教員養成研究」創刊(毎年4冊発行)

令和2年度 「教育実習ガイド」「保育者養成・実習ガイド」刊行

令和3年度 再課程認定経過措置対応に伴う「年報」増刊号発行

令和6年度 「教職IRデータブック 2018-2023」を製作



⑨ NITS玉川大学センターによる教員研修の新たな創出

教員研修：教師教育、教員養成に関する研究活動および現職教員を支援

●研修

- 「新たな教師の学びの姿」、教職員の資質・能力向上を目指した研修の高度化および体系化
- 社会情勢、職域の特性や課題を踏まえた研修内容の提供
- 自身の問題解決の場の提供
- 課題解決のための具体的な方法や取組を明確化（Why-What-How）
 - ・校長研修
 - ・副校长、教頭、指導主事研修
 - ・指導主事研修
 - ・中堅教員研修

●連携

- 教育委員会との連携
- 学校の協働的探究（組織的な改善等）
- 教職員の探究的な学びの創出・支援
- 教師人材確保強化に向けた取り組み
- 求められる学校像・教師像の実現
 - ・ペーパーティーチャー研修の実施
 - ・講師派遣

●促進・発信

- 教師教育や教員養成に関する研究の促進・研究成果発表
- 教師教育・教員養成に関する興味・関心の醸成
 - ・「年報」「紀要」「教員養成研究」刊行
 - ・教師教育フォーラムの開催
 - ・FD・SD研修の実施



教員研修



教師教育フォーラム

◆Point◆

「教員研修」に関連して、さまざまな角度から「新しい時代（変化の時代）に対応できる質の高い教職員集団の形成」に向けてアプローチをする。

⑩ 教職課程自己点検・評価の義務化への対応

令和4年4月より教育職員免許法施行規則の改正により、義務化



全国私立大学教職課程協会（以下、全私教協）で、以下の2点を作成

- 文部科学省のガイドラインに適合する「教職課程自己点検・評価基準」
- 「教職課程自己点検・評価報告書作成の手引き」



本学では、全私教協作成フォーマットにて令和4・5年度版を提出

全私教協会長校として他大学加盟校と連携・協力

- 文部科学省の施策理解に向けた職員間交流・勉強会等開催
- 担当者が不足する科目の非常勤講師紹介等、各種情報提供

ご清聴ありがとうございました



令和6年度
教職課程受講支援
プログラムの手引き



玉川大学教師教育リサーチセンター

目 次

教員・保育士をめざす皆さんへ.....	1
I プログラムの概要	2
学部ごとの実施内容／学年ごとの取り組み／	
参観実習・学校体験活動 A／教育インターンシップ／介護等体験／	
教育実習・保育実習/各種申請／配付資料／	
教員・保育士採用試験対策講座	
II 受講にあたって	8
1 年次(教育) 9 1 年次(文農工芸) 10	
2 年次(教育) 18 2 年次(文農工芸) 19	
3 年次(小中高) 25 3 年次(幼保) 26	
4 年次(小中高) 33 4 年次(幼保) 34	
III 教職サポートルーム相談室について	39
教職サポートルーム相談室(個別相談)対応担当表	
IV 自主学修室の利用	40
V 自学自習教材について	41
教育実習前 CBT 42	
東京学芸大学 21CoDOMoS 43	
YouTube文部科学省公式チャンネル 外国語教育はこう変わる 47	
NITSオンライン講座 50	

教員・保育士をめざす皆さんへ

教職・保育職をめざす皆さんは、大多数が高等学校での進路決定時に「教師になりたい」「ぜひ免許状を取得したい」という強い意志をもって大学を選択したと思います。しかし、学部・学科によっては教職関連科目的受講が2年次から始まる場合もあるので、入学後1年間教職課程としては空白の期間を過ごすことになります。このため「教職課程を履修したい」「教員になりたい」という意欲が低下することになりかねません。

本学では、1年次から教職課程受講支援を実施し、大学4年間を通じた「教職課程受講支援プログラム」を構築することで、一貫した学生支援を行い、教職に就くという大学入学時のモチベーションを持続させ質の高い教員を養成することをめざしています。

また、教職・保育職に就くためには専門的なスキルが必要です。そして専門的なスキルを身につけるためには多くの「時間」がかかります。

本学では、主に公立の幼稚園・保育所・小学校・中学校・高等学校の教員や保育士になる人材を養成することをめざしていますが、その職に就くためには、まず免許や資格が必要です。それらを取得するためには、授業で必要な単位を修得しなければなりませんが、免許や資格が取れれば誰もが教職に就けるわけではありません。教員や保育士になるためには、求められる資質・能力が必要です。それらを身につけるためには時として大学を離れ、教育の現場で子供たちや現職の先生方と交わり、自身に足りないもの、できないことを知り、自分に磨きをかけることも必要です。

教員・保育士になるためには、資質・能力が必要であり、免許・資格が必要であり、そしてそれを兼ね備えることに加えて、採用試験に合格しなければなりません。道は決して簡単ではありませんが、だからこそ尊いのです。

本学では、教員・保育士をめざす学生の皆さんのために、「教職課程受講支援プログラム」を用意し、皆さんの夢の実現のために戦略的に準備を進めていきます。しかしながら、大学で用意されたことだけをやっていれば必ず教員・保育士になれるなどを保証するものではありません。ご自身の正しく主体的な努力があつて初めて、教員・保育士になることができるのです。

ぜひ高い意識をもって、教職・保育職というすばらしい仕事に就くことをめざしてもらえばと思います。

教員を務めていく上では学び続けることが大切です。このプログラムが教員としての学びのスタートとなります。本気で教員・保育士になりたい皆さんを教師教育リサーチセンターは全力でサポートします。

I プログラムの概要

本プログラムは、教職課程受講学生を対象としています(ただし、指定期日までに所定の教職課程受講料が納入されなかった場合には、受講を中止します)。

毎年4月初旬にUNITAMA「教職・資格情報」へ本ガイドの当該年度版を掲示しますので、内容を確認のうえ、プログラムを受講してください。

●学部ごとの実施内容

本プログラムでは、1年次から4年次まで段階的に、教員採用試験合格へ向けて必要なスキルを習得していきます。

以下に示す図のとおり、入学年度、学部ごとに一部実施時期が異なりますが、同様の内容を実施します。

令和6年度入学生用

学部		1年次		2年次		3年次		4年次								
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター							
ステップ		教育現場に学ぶ														
大学のカリキュラム(授業)	理論	教養を身につける		実践的指導力の基礎を身につける		実践的指導力を身につけ、採用試験に備える										
		教職の意義と基礎理論を学ぶ		指導法の基礎を学ぶ		教科・教職の専門性と実践力を養う		実践と応用	総まとめ							
		教科の基礎を学ぶ			教職の専門的な学修			教育実習3単位	教職実践演習							
		各教科の指導法に関する学修														
		領域・教科に関する専門的事項・教育の基礎的理理解に関する科目の学修														
	実践	教育実習先開拓			教育実習事前指導		教育実習活動									
		参観実習+学校体験活動A・1単位			介護等体験 2単位		学校体験活動B・1単位 教育・保育体験活動B・1単位		学校体験活動C・D (現場実習)各1単位							
		参観実習+教育・保育体験活動A・1単位			教育インターンシップA・B 各2単位		教育インターンシップC・D 各1単位									
		ガイダンス		筆記・面接・論作文等試験対策			直前対策 教員採用試験		直前対策 教員採用試験							
		模擬試験		模擬試験・自主学修会等			模擬試験・自主学修会等		特別講話等							

※芸術学部は第6セメスターで教育実習を実施するため、実習先開拓、事前指導も前倒しになります。

令和5年度以前入学生用

【文学部・農学部・工学部・教育学部】

玉川大学の教職課程受講支援プログラム											
学部		1年次		2年次		3年次		4年次			
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
ステップ		教職の意義と基礎理論を学ぶ			指導法の基礎を学ぶ		教科・教職の専門性と実践力を養う		実践と応用		
大学のカリキュラム(授業)	実践	各教科の指導法に関する学修						教育実習事前指導			
		教科に関する専門的事項・教育の基礎的理理解に関する科目の学修						教職の専門的な学修			
		参観実習		学校体験活動(教育ボランティア・教育インターンシップなど学校現場(他)における活動)		介護等体験(事前指導含む)		教育実習先開拓、事前指導、現場実習、事後指導			
		模擬試験		筆記・面接・論作文等試験対策		筆記・面接・論作文等試験対策、総まとめ		教員採用試験			
採用試験対策		ガイダンス		模擬試験・対策講座、自主学修会等		模擬試験・対策講座、自主学修会等		直前対策等			

【芸術学部】

玉川大学の教職課程受講支援プログラム

	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
ステップ	教職の意義と基礎理論を学ぶ		指導法の基礎を学ぶ		教科・教職の専門性と実践力を養う		実践と応用	総まとめ
大学のカリキュラム(授業)		教科の基礎を学ぶ			教育実習事前指導 教職の専門的な学修	教育実習	教育実習事後指導	教職実践演習
				各教科の指導法に関する学修				
学外実習など		参観実習		学校体験活動(教育ボランティア・教育インターンシップなど学校現場(他)における活動) 教育実習先開拓、事前指導、現場実習、事後指導 介護等体験(事前指導含む)				
採用試験対策	ガイダンス		筆記・面接・論作文等試験対策		筆記・面接・論作文等試験対策、総まとめ		教員採用試験	
	模擬試験		模擬試験・対策講座・自主学修会等		模擬試験・対策講座・自主学修会等		直前対策等	

●学年ごとの取り組み

学年ごとの取り組みについては、以下のとおりです。

	小・中・高	幼・保	教員就職対策講座の主な取り組み
1年次	参観実習 学校体験活動 A 教育インターンシップ	参観実習 教育・保育体験活動 A 保育インターンシップ	教職講座 教育・教師の諸問題について書く 一般教養・専門教養の学び方 論作文基礎講座
2年次	教育インターンシップ	保育インターンシップ	教職講座 教員の資質・能力について考える 教職教養の学び方 論作文基礎講座 面接基礎講座
3年次	介護等体験 ※	教育実習・保育実習	教職講座 論作文実践講座 面接対策講座
4年次	教育実習 教員採用試験	教育実習・保育実習 教員採用試験	教員採用試験対策講座 合格者対象講座

※芸術学部は2年次に介護等体験、3年次に教育実習。

※幼稚園・高等学校のみ免許取得の場合は、介護等体験は実施不要。

参観実習・学校体験活動 A

● 1年生から現場体験

教える立場、教師の目線から学校を1日体験することで、教育現場の理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに進路選択の機会とする目的として実施

● 教育学部・文学部(英語教育)は6月に実施

● 文(英語教育除く)・農・工・芸術学部は10月に実施

● 学校体験活動 A (令和6年度入学生より実施) : 24時間分の学校体験活動



参観実習の様子

教育インターンシップ

● 参観実習に参加した後に受講 (選択科目)

● 授業として、学校現場での活動に加えて事前・中間・事後指導を実施。

現場での活動は2単位60時間。2年次春学期から受講可 (ガイダンス出席必須)



介護等体験

- 令和6年度より「特別支援学級」を設置する小中学校にて60時間実施。
令和6年度は、文学部・農学部・工学部・教育学部は3年生で実施。
芸術学部は2年生で実施。

教育実習・保育実習

【教育実習】

- 教育・文・農・工学部生は
4年次春学期に主免、秋学期に副免の現場実習実施
 - 芸術学部生
3年次秋学期に主免、4年次秋学期に副免の現場
実習を実施
 - 教育学部で幼稚園を主免とする学生
3年次秋学期・4年次春学期に現場実習を実施
- ※原則として現場実習の前年度に実習校を開拓し、
前学期に事前指導を実施



【保育実習】

- 教育学部乳幼児発達学科生
3年次2回と4年次1回の現場実習を実施

●各種申請

UNITAMA掲示に従い、指定期日までに行ってください。
期日を過ぎた場合には、教師教育リサーチセンター窓口での受付はできませんので、学科の教
職担当教員に報告・相談してください。

●配付資料

教職課程受講支援プログラム受講者には、以下の資料を配付する予定です。

資料名	対象	時期
学校体験活動Aの手引き	1年次生	参観実習事前指導
教育インターンシップの手引き	教育インターンシップ受講生	教育インターンシップガイダンス等
必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策(時事通信出版局)	2年次生	論作文基礎講座
介護等体験の手引き	3年次生 (芸術学部は2年次生)	介護等体験事前指導
教育実習ガイド 小学校・中学校・高等学校版(時事通信出版局)	小学校・中学校・高等学校で実習を実施する3年次生 (芸術学部は2年次生)	教育実習事前指導
これからの時代の保育者養成・実習ガイド(中央法規出版)	幼稚園・保育所で実習を実施する3年次生	教育実習事前指導 保育実習指導

※上記以外にも、UNITAMA掲示等で必要に応じて資料を配付します。



教員・保育士採用試験対策講座

- **1年生**から模擬試験受験ほか各種講座を実施
- 論作文対策として**1,2年生**で基礎講座、**3年生**で実践講座
- 面接対策として**3年生**で実践講座
- **4年生**で教員採用試験直前対策講座（実技等、自治体ごとの試験対策）
- 合格者、次年度再受験者へのガイダンスも実施）

1年次から2年次は、受験を希望する自治体・校種を問わずに同じ講座に出席します。

3年次からは希望調査を実施のうえ、以下の3コースに分かれます。

A(アドバンス)コース

Aコースは、小学校・中学校・高等学校の教員採用試験合格を目指し、公立学校の教員採用試験をもとに対策講座の受講を希望する学生用のコースです。

K(キンダーガーデン)コース

Kコースは、幼稚園・認定こども園、保育所・社会福祉施設等への就職を目指すため、公立園の教員・保育士採用試験をもとに対策講座の受講を希望する学生用のコースです。

S(セルフスタディ)コース

Sコースは、卒業後すぐには教員・保育士就職を目指さないが、将来に備えて免許取得を目指すため、教員・保育士採用試験対策講座の受講(提供)を希望しない。自学自習にて学修を行う学生用のコースです。

※どのコースに所属する場合でも、教職課程受講料納入額は変わりません。

※Sコースの所属学生も、教員・保育士採用試験対策講座の配付資料を受け取ることができますので、希望者は講座実施日翌日から1週間以内に教師教育リサーチセンター教員就職担当にご連絡ください。

※選択したコースを変更することは可能です。変更を希望する場合には、教師教育リサーチセンター教員就職担当にご相談ください(教員採用試験出願間際の変更はお勧めしません)。

II 受講にあたって

●出席

指定された講座等には必ず出席してください。

やむをえず欠席する場合には、事前に教師教育リサーチセンターへ連絡をすること。無断欠席をした場合には、学科教員の指導のうえ、受講中止になる場合があるので注意してください。

オンライン講座においては、すべて録画・録音・撮影は禁止します(事実が判明した際には、以後の教職課程受講を認めない場合があります)。また接続の状況等で受講できない場合には、当該時間中にメールにて教師教育リサーチセンターへご相談ください。

● 目程・開催方法・準備について

該当する学年・学部(3年次以降は免許種)の「年間予定表」「各講座内容」を確認してください。

◇学修スケジュール

1年次生(教育)

実施プログラム一覧

●年間予定表

月	日	曜	実施プログラム	備考
4	3	水	教職課程受講ガイダンス	4/14(日)まで視聴可能 (アンケート登録締切)
4	25	木	教職講座1(共通)「教員・保育士を目指す学生たちへ」	Blackboardを確認すること
5	14	火	「学校体験活動A・教育・保育体験活動A(参観実習)」事前指導	
5	30	木	教職講座2(共通)「学修スタートガイダンス」	Blackboardを確認すること
6	13	木	「学校体験活動A・教育・保育体験活動A(参観実習)」	
6	14	金	【有料】日本語検定(第1回)【希望者のみ対象】	要申込み制
6	20	木	ダブル免許プログラム(中2)ガイダンス	希望者のみ
7	4	木	教職講座3(共通)「進路について考えよう」	Blackboardを確認すること
9	24	火	「学校体験活動A・教育・保育体験活動A」直前指導	
9	26	木	教職講座4(幼・保)「幼稚園・保育所の違い」	Blackboardを確認すること
9	26	木	教職講座4(小中高)「最新動向ガイダンス」	Blackboardを確認すること
10	17	木	教職講座5(幼・保)「学修ガイダンス」	Blackboardを確認すること
10	29	火	「学校体験活動A」中間指導	
10	31	木	教職講座5(小中高)「私立学校と公立学校の違い」	Blackboardを確認すること
11	14	木	(保・幼)保育士就職模試【幼稚園】	要申込み制
11	14	木	(幼小中高)模擬試験「2024年模試」	要申込み制
12	5	木	第1回論作文基礎講座	Blackboardを確認すること
12	12	木	第2回論作文基礎講座	Blackboardを確認すること
1	7	火	学芸員資格取得ガイダンス	希望者のみ
1	10	金	令和7年度 教育インターンシップ募集ガイダンス	希望者のみ
1	14	火	社会教育主事・社会教育士資格取得ガイダンス	希望者のみ対象
1	16	木	教職講座7(幼・保)「認定こども園」	Blackboardを確認すること
1	16	木	教職講座7(小中高)「特別支援教育について」	Blackboardを確認すること
1	16	木	「教育・保育体験活動A」中間指導(予定)日程変更可能性あり	
1	21	火	学校図書館司書・図書館資格取得ガイダンス	希望者のみ対象
2	6	木	第3回論作文基礎講座	Blackboardを確認すること

1年次生(文農工芸)

実施プログラム一覧

●年間予定表

月	日	曜	実施プログラム	備考
4	3	水	教職課程受講ガイダンス	4/14(日)まで視聴可能 (アンケート登録締切)
4	25	木	教職講座1(共通)「教員・保育士を目指す学生たちへ」	Blackboardを確認すること
5	14	火	「学校体験活動 A(参観実習)」事前指導	※英語教育学科のみ
5	23	木	ダブル免許プログラム(小2)ガイダンス	希望者のみ対象
5	30	木	教職講座 2(共通)「学修スタートガイダンス」	Blackboardを確認すること
6	13	木	「学校体験活動 A(参観実習)」	※英語教育学科のみ
6	14	金	【有料】日本語検定(第1回)【希望者のみ対象】	要申込み制
7	4	木	教職講座 3(共通)「進路について考えよう」	Blackboardを確認すること
7	11	木	「学校体験活動 A(参観実習)」事前ガイダンス	※英語教育学科を除く
9	24	火	「学校体験活動 A」直前指導	※英語教育学科のみ
9	26	木	教職講座 4(小中高)「最新動向ガイダンス」	Blackboardを確認すること
10	1	火	「学校体験活動 A(参観実習)」事前指導	※英語教育学科を除く
10	4	金	「学校体験活動 A」直前指導	※英語教育学科のみ
10	11	木	「学校体験活動 A(参観実習)」	※英語教育学科を除く
10	22	火	「学校体験活動 A」直前指導	※英語教育学科を除く
10	25	金	「学校体験活動 A」直前指導	※農学部のみ
10	29	火	「学校体験活動 A」中間指導	※英語教育学科のみ
10	31	木	教職講座 5(小中高)私立学校と公立学校の違い	Blackboardを確認すること
11	1	金	「学校体験活動 A」中間指導	※英語教育学科のみ
11	14	木	(小中高)模擬試験「2024年模試」	要申込み制
11	26	火	「学校体験活動 A」中間指導	※英語教育学科を除く
12	5	木	第1回論作文基礎講座	Blackboardを確認すること
12	6	金	「学校体験活動 A」中間指導	※農学部のみ
12	12	木	第2回論作文基礎講座	Blackboardを確認すること
1	7	火	学芸員資格取得ガイダンス	希望者のみ対象
1	14	火	「学校体験活動 A」直前指導(予定)	※芸術学部のみ
1	16	木	教職講座 7(小中高)「特別支援教育について」	Blackboardを確認すること
1	10	金	令和7年度 教育インターナシップ募集ガイダンス	希望者のみ
1	14	火	社会教育主事・社会教育士資格取得ガイダンス	希望者のみ対象
1	21	火	学校図書館司書・図書館資格取得ガイダンス	希望者のみ対象
2	6	木	第3回論作文基礎講座	Blackboardを確認すること
2	25	火	「学校体験活動 A」中間指導(予定)	※芸術学部のみ

●1年次に受講する各講座内容

講座名	教職課程受講ガイダンス
講 師	教師教育リサーチセンター職員(免許取得担当)
目的	教員になるために必要なこと、玉川大学で教員免許を取得するために必要なことを知ること
位置づけ	スタートアップ、玄関口 教員免許は教職課程受講を許可された学生のみ取得できる。教職課程を受講するためには、このガイダンス動画を視聴し、決められた期限までに登録を完了することが必須事項となっている。手続きをしなければ教職課程受講ができないため教員免許を取得することができない。
内 容	●教職課程受講支援プログラムとは何か ●教員になるために必要なこと ●教職課程受講申請の手続きについて
実施方法	期間内に Blackboard@TAMAGAWA の説明動画を確認の上、UNITAMA アンケートにて登録を行う
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、『教職課程受講ガイド』を参照しながら説明を聞くこと

講座名	教職講座1(共通)「教員・保育士を目指す学生たちへ」 ・「教員・保育士になるために必要な資質・能力について」 ・「教員・保育士にとって必要な日本語力」
講 師	山重 ふみ子(教職サポートルーム客員教員) 宮谷 映美子(教職サポートルーム客員教員)
目的	教員・保育士を目指すうえで、必要な資質・能力を理解し、どのような心構えで4年間を過ごすべきか、自身で考え具体的な取り組みにつなげていく意識をつくること
位置づけ	「教職の意義を学ぶ」ファーストステップの基礎講座
内 容	教員・保育士になるために必要な資質・能力について本学教員より講義
実施方法	動画配信
注意事項	Blackboardを確認すること

講座名	教職講座 2(共通) 「学修スタートガイダンス」
講 師	時事通信出版局
目的	教員・保育士採用試験で出される教職教養の問題に触れ、今後の授業や自主学修を行うものを意識づけする。 3年後の教員・保育士採用試験へ向け、勉強法を身につけること
位置づけ	「教職の意義を学ぶ」ファーストステップの基礎講座。
内 容	教職教養の試験を事前に受験し、これから約4年間の学習計画について説明。 段階的に筆記試験の準備をおこない、重点科目は何かを確認。弱点分野を分析し、各個人が補強すべきプログラムについて、冊子を配布。 専門の講師より、各プログラムを説明。
実施方法	指定教室でのライブ配信
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 3(共通) 「進路について考えよう」
講 師	教職サポートルーム客員教員 教育学研究科・教職大学院
目的	学校現場や教師を取り巻く状況は大きな変革を迎えており、社会状況を踏まえ、教員・保育士を目指す学生として、教育改革をはじめとする社会の動きについて、しっかりと意識すること
位置づけ	「教職の意義を学ぶ」ファーストステップの基礎講座。 12月より開始する「論作文基礎講座」への基礎となる。 教職に関心をもつ、書くことに慣れることを意図した取り組み。 課題として提出するのは1本だが、いろいろなテーマについて複数書いてみたうえで自身が最もよく書けたと思うレポートを提出すると本講座の目的を達成することができるだろう。
内 容	・夏休みの課題 教職を取り巻く背景についての講話を聞いたうえで、夏休みに新聞(インターネット版ならびに新聞各社のホームページ等でも可)の特別支援に関する記事の中から、関心を持った教育問題について研究・調査し、レポートとして提出する。 レポートの形式や内容提出期間、提出方法についての説明がある。
実施方法	指定教室でのライブ配信
注意事項	UNITAMA「教職・資格情報」/Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 4(幼・保) 「幼稚園・保育所の違い」
講 師	教職サポートルーム客員教員
目的	教員・保育士を目指すにあたって、自身が希望すること校種の違いについて知る
位置づけ	教員・保育士採用試験受験へ向けての意識づくり
内 容	幼稚園・保育所での働き方などの違いを説明する。
実施方法	指定教室での実施
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 4(小中高) 「最新動向ガイドンス」
講 師	時事通信出版局
目的	教員を目指すにあたって、自身が希望する自治体の採用がどのような状況かを把握する
位置づけ	教員採用試験受験へ向けての意識づくり
内 容	当該年度の教員採用試験をふまえた最新動向ガイドンスを実施。
実施方法	指定教室でのライブ配信
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 5(幼・保) 「学修ガイドンス」
講 師	幼稚園:特別区人事厚生組合(東京 23 区) 保育所:世田谷区役所 ・卒業生(現役幼稚園教員・現役保育士)
目的	教員・保育士を目指すにあたって、実際の現場について、学ぶ
位置づけ	教員・保育士採用試験受験へ向けての意識づくり
内 容	幼稚園・保育所の採用試験について学ぶ。また、本学卒業生の現役教員を招聘し、現在の働き方や在学中の学修方法について聞く。
実施方法	指定教室での実施
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 5(小中高) 「私立学校と公立学校の違い-就職ガイドンス-」
講 師	教職サポートルーム客員教員
目的	教員を目指すにあたって、私立学校と公立学校の違いを把握する
位置づけ	教員採用試験受験へ向けての意識づくり
内 容	私立学校と公立学校の成り立ちや違いについて説明
実施方法	指定教室でのライブ配信
注意事項	UNITAMA 掲示・Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 6(幼・保) 「認定こども園について」
講 師	鳥塚 恵子 (教職講座・実習指導担当客員教員)
目的	学校現場や教師を取り巻く状況は大きな変革を迎えており、社会状況を踏まえ、教員を目指す学生として、教育改革をはじめとする社会の動きについて、しっかりと意識すること
位置づけ	「教職の意義を学ぶ」セカンドステップ。 12月より開始した「論作文基礎講座」で学んだことを用いて書くこと、具体的に進路をイメージすることの2つを意図した取り組み。課題として提出するのは1本だが、いろいろなテーマについて複数書いてみたうえで自身が最もよく書けたと思うレポートを提出すると本講座の目的を達成することができるだろう。
内 容	春休みの課題:「幼稚園・保育所・認定こども園の働き方について考える」
実施方法	指定教室での実施
注意事項	UNITAMA掲示・Blackboardを確認すること

講座名	教職講座 6(小中高) 「受験する自治体を考えよう」
講 師	教職サポートルーム客員教員
目的	学校現場や教師を取り巻く状況は大きな変革を迎えており、社会状況を踏まえ、教員を目指す学生として、教育改革をはじめとする社会の動きについて、しっかりと意識すること
位置づけ	「教職の意義を学ぶ」セカンドステップ。 12月より開始した「論作文基礎講座」で学んだことを用いて書くこと、具体的に進路をイメージすることの2つを意図した取り組み。課題として提出するのは1本だが、いろいろなテーマについて複数書いてみたうえで自身が最もよく書けたと思うレポートを提出すると本講座の目的を達成することができるだろう。
内 容	春休みの課題:「受験する自治体について考える」 レポートの形式や内容提出期間、提出方法についての説明がある。 以下の資料を読み、自身の考えをまとめる。 ・「採用担当課長に聞く 2023年度教員採用試験の最新動向」 ・受験を希望する自治体に関する記事の「求める教師像」
実施方法	指定教室へのライブ配信
注意事項	UNITAMA掲示・Blackboardを確認すること

講座名	第1回 論作文基礎講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を基本から学ぶ
位置づけ	2年次で実施する論作文応用講座への基礎固め
内 容	3回の講座をとおして、論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆(演習)を行う。第1回は講義1. 希望校種等のクラス編成にて取り組む。
実施方法	校種ごとに分けて講義・演習
注意事項	大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとしているので手元に置いておくこと

講座名	第2回 論作文基礎講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を基本から学ぶ
位置づけ	2年次で実施する論作文応用講座への基礎固め
内 容	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆(演習)を行う。第2回は、「論作文の書き方(講義2)」+「執筆1」に取り組む。執筆1は次回、赤字添削・評価を各自へ返却。
実施方法	校種ごとに分けて講義・演習
注意事項	大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとしているので手元に置いておくこと

講座名	第3回 論作文基礎講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を基本から学ぶ
位置づけ	2年次で実施する論作文応用講座への基礎固め
内 容	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆(演習)を行う。第3回は、「論作文の書き方(講義3)」+「執筆2」に取り組む。※第3回で執筆した論作文の講評はなく、添削・採点のみとなる。
実施方法	志望する自治体ごとに分けて講義・演習
注意事項	大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとしているので手元に置いておくこと

講座名	ダブル免許プログラム(中2)ガイダンス【教育学部教育学科対象】
講 師	教師教育リサーチセンター職員(ダブル免許プログラム担当)
目的	国が推進する小中免許の併有にチャレンジする学生を増やすため
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	ダブル免許プログラムで取得できる免許と取得のための留意事項について説明する
実施方法	指定教室での実施
注意事項	UNITAMA掲示を確認のうえ、『教職課程受講ガイド』を手元に置いて参加すること

講座名	ダブル免許プログラム(小2)ガイダンス【文・農・工・芸術学部対象】
講 師	教師教育リサーチセンター職員(ダブル免許プログラム担当)
目的	国が推進する小中免許の併有にチャレンジする学生を増やすため
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	ダブル免許プログラムで取得できる免許と取得のための留意事項について説明する
実施方法	指定教室での実施
注意事項	UNITAMA掲示を確認のうえ、『教職課程受講ガイド』を手元に置いて参加すること

講座名	学芸員資格取得ガイダンス【希望者のみ対象】
講 師	教師教育リサーチセンター職員(資格取得担当)・芸術学部担当教員
目的	学芸員の資格取得者を増やすため
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	資格についての概要と、資格取得のために必要な手続き等を説明する
実施方法	Zoomによるオンライン説明会
注意事項	UNITAMA掲示を確認のうえ、『履修ガイド』を手元に置いて参加すること

講座名	資格取得ガイダンス【希望者のみ対象】
講 師	教師教育リサーチセンター職員(資格取得担当)・教育学部担当教員
目的	社会教育士、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格取得者を増やすため
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	資格についての概要と、資格取得のために必要な手続き等を説明する。
実施方法	Zoomによるオンライン説明会
注意事項	UNITAMA掲示を確認のうえ、『履修ガイド』を手元に置いて参加すること

講座名	日本語検定(第1回)【希望者のみ対象】
講 師	東京書籍
目的	教師の資質・能力のひとつである「日本語力」を高める
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	文部科学省をはじめ、43 都道府県教育委員会、42 市区町村教育委員会等が後援している日本語検定を準会場である本学にて実施
実施方法	本学会場にて受検
注意事項	UNITAMA掲示を確認のうえ、参加すること

2年次生(教育)

実施プログラム一覧

●年間予定表

月	日	曜	実施プログラム	備考
4	11	木	(小中高)教育委員会集団説明会	要 申込み制
4	18	木	第1回 論作文応用講座	
5	9	木	教職講座1(幼・保)「スタートガイダンス」	
5	9	木	教職講座1(小中高)「学修スタートガイダンス」	
6	6	木	第2回 論作文応用講座	
6	13	木	(小中高) ICT 教育	
6	14	金	【有料】日本語検定(第1回)	希望者のみ
6	27	木	教職講座2(幼・保)「私立園と公立園の違い」	
7	5	金	実習開拓ガイダンス(幼稚園)	
7	11	木	教職講座2(小中高)「過去問分析ガイダンス」	
9	12	木	(保・幼)保育士就職模試【+幼稚園】	要 申込み制
9	12	木	(幼小中高)模擬試験「2024年模試」	要 申込み制
10	3	木	保育士資格取得ガイダンス【乳幼児発達学科のみ対象】	
10	17	木	(幼・保)採用試験説明会	希望者のみ
10	31	木	(小中高)私立学校就職ガイダンス	希望者のみ
11	7	木	面接基礎講座	
1	7	火	学芸員資格取得ガイダンス・博物館実習受講ガイダンス	希望者のみ
1	12	金	令和6年度 教育インターンシップ募集ガイダンス	希望者のみ
1	23	木	教職講座3(幼・保)「就職試験の最新動向」	
1	23	木	教職講座3(小中高)「最新動向ガイダンス」	
1	14	火	社会教育主事・社会教育士資格取得ガイダンス	希望者のみ
1	21	火	学校図書館司書・図書館資格取得ガイダンス	希望者のみ
2	6	木	【有料】(小中高)模擬試験「自治体別模試」	希望者のみ

2年次生(文農工芸)

実施プログラム一覧

●年間予定表

月	日	曜	実施プログラム	備考
4	11	木	(小中高)教育委員会集団説明会	要 申込み制
4	18	木	第1回 論作文応用講座	
5	9	木	教職講座1(小中高)「学修スタートガイダンス」	
6	2	金	令和5年度(秋) 教育インターンシップ募集ガイダンス	希望者のみ
6	6	木	第2回 論作文応用講座	
6	13	木	(小中高) ICT 教育	
6	14	金	【有料】日本語検定(第1回)	希望者のみ
7	11	木	教職講座2(小中高)「過去問分析ガイダンス」	
9	12	木	(小中高)模擬試験「2024年模試」	要 申込み制
9	20	金	介護等体験事前指導①【芸術学部のみ】	
9	27	金	介護等体験事前指導②【芸術学部のみ】	
10	4	金	介護等体験事前指導③【芸術学部のみ】	
10	31	木	(小中高)私立学校就職ガイダンス	希望者のみ
11	7	木	面接基礎講座	
11	29	金	介護等体験 中間指導【芸術学部のみ】	
1	7	火	学芸員資格取得ガイダンス・博物館実習受講ガイダンス	希望者のみ
1	10	金	令和6年度 教育インターンシップ募集ガイダンス	希望者のみ
1	23	木	教職講座3(小中高)「最新動向ガイダンス」	
1	14	火	社会教育主事・社会教育士資格取得ガイダンス	希望者のみ
1	21	火	学校図書館司書・図書館資格取得ガイダンス	希望者のみ
2	6	木	【有料】(小中高)模擬試験「自治体別模試」	希望者のみ

●2年次に受講する各講座内容

講座名	教職講座 1(幼・保) 「スタートガイダンス」「幼稚園・保育所の最新動向」
講 師	教職サポートルーム客員教員
目的	進路の明確化、進路を踏まえ、受験対策をしていくための方向性を定める
位置づけ	教員・保育士採用試験対策のスタート
内 容	進路や学習の仕方など、相談する教員を、就職希望の校種ごとに、紹介。幼稚園・保育所の動向について、担当教員より、説明。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 1(小中高) 「学修スタートガイダンス」
講 師	時事通信出版局
目的	進路の明確化、進路を踏まえ、受験対策をしていくための方向性を定める
位置づけ	教員採用試験対策のスタート
内 容	学習計画の確認と説明。各学年でどの科目を準備し、重点科目は何かを確認。 各自の弱点科目・分野を分析する。各個人が補強すべきプログラムについて、冊子を配布。
実施方法	指定教室でのライブ配信
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 2 「私立園と公立園の違い」
講 師	田澤 里喜(教育学部教育学科)
目的	私立園を中心に、公立園との違いについて説明し、進路の方向性を定める
位置づけ	進路の明確化、進路を踏まえ、受験対策をしていくための方向性を定める
内 容	私立園を中心とした公立園との違いについて、説明。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 2(小中高) 「過去問分析ガイダンス」
講 師	時事通信出版局
目的	進路の明確化、進路を踏まえ、受験対策をしていくための方向性を定める
位置づけ	教員採用試験の過去問から、受験する自治体の傾向をつかむ
内 容	●実際に出題傾向の分析の仕方をその場で体験する ●自らの志望自治体の現状を知り、具体的な対策につなげる ●複数の課題より選択し、ワークシート作成・模試等に取り組む
実施方法	指定教室へのライブ配信
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 3(幼・保) 「就職試験の動向」・「コース選択ガイダンス」
講 師	教職サポートルーム客員教員
目的	採用試験に向け、本格的な心構えを説明。
位置づけ	「実践力を養う」ステップへの導入
内 容	3 年次の目的「採用試験に備える」にあわせ、卒業後の進路に基づくコース選択ガイダンスを実施。採用試験の動向を把握し、自身の進路の再確認を促す。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 3(小中高) 「最新動向ガイダンス」
講 師	時事通信出版
目的	教員を目指すにあたって、自身が希望する自治体の採用がどのような状況かを把握する
位置づけ	教員採用試験受験へ向けての意識づくり
内 容	当該年度の教員採用試験をふまえた最新動向ガイダンスを実施。
実施方法	指定教室へのライブ配信
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	(小中高) ICT を活用した授業の重要性
講 師	外来講師
目的	ICT を活用した講座の設置
位置づけ	「実践力を養う」ステップへの導入
内 容	調整中
実施方法	指定教室へのライブ配信
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	第1回 論作文応用講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員・保育士採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を習得する
位置づけ	教員・保育士採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	1年次の論作文基礎講座で習得した論作文の書き方を復習。 「論作文の書き方①(講義) + 執筆①」を実施。 「執筆①」は各担当教員により個別指導。
実施方法	校種ごとに分けて講義・演習
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	第2回 論作文応用講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員・保育士採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を習得する
位置づけ	教員・保育士採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	第1回の講義等をふまえ、「論作文の書き方①」の復習。 新たな課題について、「論作文の書き方②(講義) + 執筆②」を実施。 「執筆②」は各担当教員により個別指導。
実施方法	校種ごとに分けて講義・演習
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	面接基礎講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員・保育士採用試験合格へ向けて、面接票の書き方を習得する
位置づけ	教員・保育士採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	・面接の流れを全体で実施 ・面接票の書き方のレクチャー ・面接票に基づく、進路および受験地
実施方法	校種ごとに分けて講義・演習
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	実習開拓ガイダンス(幼稚園)
講 師	幼稚園実習担当教員・教師教育リサーチセンター職員(実習担当)
目的	次年度に実施する実習先を決めるにあたっての方法を理解する
位置づけ	免許取得の必須事項となっている実習の準備
内 容	教育実習園開拓に必要な手続き等を説明する
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、参加すること

講座名	保育士資格取得ガイダンス【乳幼児発達学科のみ対象】
講 師	乳幼児発達学科 保育実習指導担当教員 教師教育リサーチセンター職員(実習担当)
目的	保育士資格取得を取得するための手順や実習前後の流れ、3年次の実習先を決めるための保育実習調査票について理解する
位置づけ	保育士資格取得に必須事項となっている実習の準備
内 容	保育士資格を取得するための実習に必要な手続き等を説明する
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、『履修ガイド』を手元に置いて参加すること

講座名	実習開拓ガイダンス(小中高)
講 師	教師教育リサーチセンター職員(実習担当)
目的	次年度に実施する実習先を決めるにあたっての方法を理解する
位置づけ	免許取得の必須事項となっている実習の準備
内 容	教育実習校開拓に必要な手続き等を説明する
実施方法	未定
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、参加すること

講座名	学芸員資格取得ガイダンス【希望者のみ対象】
講 師	教師教育リサーチセンター職員(資格取得担当)・芸術学部教員
目的	学芸員の資格取得者を増やすため
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	資格についての概要と、資格取得のために必要な手続き等を説明する
実施方法	Zoom によるオンライン説明会
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、『履修ガイド』を手元に置いて参加すること

講座名	博物館実習受講ガイダンス【希望者のみ対象】
講 師	教師教育リサーチセンター職員(資格取得担当)・芸術学部教員
目的	学芸員の資格取得者を増やすため
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	学芸員資格取得に必要な博物館実習の概要と、必要な手続き等を説明する
実施方法	Zoom によるオンライン説明会
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、『履修ガイド』を手元に置いて参加すること

講座名	資格取得ガイダンス【希望者のみ対象】
講 師	教師教育リサーチセンター職員(資格取得担当)・教育学部教員
目的	社会教育主事・社会教育士、図書館司書、学校図書館司書教諭の資格取得者を増やすため
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	資格についての概要と、資格取得のために必要な手続き等を説明する
実施方法	Zoom によるオンライン説明会
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、『履修ガイド』を手元に置いて参加すること

講座名	日本語検定(第1回)【希望者のみ対象】
講 師	東京書籍
目的	教師の資質・能力のひとつである「日本語力」を高める
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	文部科学省をはじめ、43 都道府県教育委員会、42 市区町村教育委員会等が後援している日本語検定を準会場である本学にて実施
実施方法	本学会場にて受検
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、参加すること

3年次生(小中高)

実施プログラム一覧

●年間予定表

月	日	曜	実施プログラム	備考
4	11	木	(小中高)教育委員会集団説明会	要 申込み制
4	12	金	介護等体験事前指導①【春実施対象者】	
4	18	木	第1回 論作文応用講座	
4	19	金	介護等体験事前指導②【春実施対象者】	
4	20	土	模擬試験「2024年模試」	要 申込み制
4	25	木	教職講座1「Aコーススタートガイド」	
4	26	金	介護等体験事前指導③【春実施対象者】	
5	16	木	第1回 面接対策講座	
5	23	木	第2回 面接対策講座	
6	6	木	第2回 論作文応用講座	
6	7	金	令和6年度(秋)教育インターナシップ募集ガイド	文・農・工・芸希望者のみ
6	14	金	【有料】日本語検定(第1回)	希望者のみ
6	21	金	介護等体験中間指導【春実施対象者】	
6	27	木	教職講座2「アンガーマネジメント」	
7	4	木	実習直前ガイド【芸術学部対象】	
9	19	木	第1回 論作文実践講座	
9	20	金	介護等体験事前指導①【秋実施対象者】	
9	27	金	介護等体験事前指導②【秋実施対象者】	
9	28	土	模擬試験「プレ模試」	要 申込み制
10	3	木	第3回 面接対策講座	
10	4	金	介護等体験事前指導③【秋実施対象者】	
10	24	木	第2回 論作文実践講座	
10	31	木	(小中高)私立学校就職ガイド	希望者のみ
11	23	土	教職講座3(小中高)「県別学習ガイド」	
11	28	木	第3回 論作文実践講座	
11	29	金	介護等体験中間指導【秋実施対象者】	
1	7	火	博物館実習受講ガイド【希望者のみ】	
1	16	木	第4回 論作文実践講座	
1	24	金	介護等体験事後指導【春実施対象者】	
3	20	木	教職講座4「教員採用試験直前ガイド」	
3	27	金	実習直前ガイド【文・農・工・教育学部のみ対象】	

※文学部英語教育学科は留学から帰国後、6月下旬開拓ガイドに出席すること。

3年次生(幼・保)

実施プログラム一覧

●年間予定表

月	日	曜	実施プログラム	備考
4	18	木	第1回 論作文応用講座	
4	20	土	(幼稚園)模擬試験「2024年模試」	要 申込み制
4	20	土	(保育士)公立保育所模試	要 申込み制
4	25	木	教職講座1 「Kコーススタートガイダンス」	
5	16	木	第1回 面接対策講座	
5	23	木	第2回 面接対策講座	
6	6	木	第2回 論作文応用講座	
6	14	金	【有料】日本語検定(第1回)	希望者のみ
6	27	木	教職講座2「アンガーマネジメント」	
7	4	木	私立幼稚園・保育士就職ガイダンス	希望者のみ
9	19	木	第1回 論作文実践講座	
9	25	水	実習直前ガイダンス(幼稚園Ⅰ)	
9	28	木	(幼稚園)模擬試験「プレ模試」	要 申込み制
9	28	木	(幼・保)保育士就職模試 (+幼稚園)	要 申込み制
10	3	木	第3回 面接対策講座	
10	10	木	教職講座3 「教育課程と幼稚園教育要領」	
10	17	木	(幼・保)採用試験説明会	希望者のみ
10	24	木	第2回 論作文実践講座	
11	28	木	第3回 論作文実践講座	
12	19	木	教職講座4「保育・教育に関する関連法規と専門科目」	
1	23	木	実習中間指導(幼稚園Ⅰ)	
1	16	木	第4回 論作文実践講座	

●3 年次に受講する各講座内容

講座名	教職講座 1(小中高) 「A コーススタートガイダンス」
講 師	教職サポートルーム客員教員
目的	教員採用試験対策の本格的な取り組みにあたっての意識づけ
位置づけ	「実践力を養う」ステップのキックオフ
内 容	元校長による現場経験をもとにした講話。3 年次に実施する「論作文実践講座」「面接対策講座」の受講にあたっての心構えを説く。
実施方法	Zoom によるライブ配信
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 1(幼・保) 「K コーススタートガイダンス」
講 師	教職サポートルーム客員教員
目的	教員・保育士採用試験対策の本格的な取り組みにあたっての意識づけ
位置づけ	「実践力を養う」ステップのキックオフ
内 容	元園長による現場経験をもとにした講話。3 年次に実施する「論作文実践講座」「面接対策講座」の受講にあたっての心構えを説く。
実施方法	Zoom によるライブ配信
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 2 「アンガーマネジメント」
講 師	仙北屋 正樹(教職サポートルーム客員教員)
目的	教員・保育者として、自身の心情を管理。学級・児童の対応について、考える。
位置づけ	「実践力を養う」ステップの強化
内 容	教壇に立ったときの対応を誤らないために、「怒り」の感情をうまくコントロールする方法を学ぶ。
実施方法	指定教室にてライブ配信
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 3(小中高) 「県別学習ガイダンス」
講 師	時事通信出版局
目的	教員採用試験対策の本格的な取り組みにあたっての情報収集
位置づけ	「実践力を養う」ステップの強化
内 容	志望自治体ごとにグループ分けをし、自治体別情報や学習対策、また個別の受験相談に応じる
実施方法	Zoom によるライブ配信
注意事項	UNITAMA 掲示・Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 3(幼・保) 「教育課程と幼稚園教育要領」
講 師	若月 芳浩(教育学部乳幼児発達学科)
目的	教員採用試験対策の本格的な取り組みにあたっての情報収集
位置づけ	「実践力を養う」ステップの強化
内 容	
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	UNITAMA 掲示・Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 4(小中高) 「教員採用試験直前ガイダンス」
講 師	時事通信出版局
目的	教員採用試験対策の本格的な取り組みにあたっての情報収集
位置づけ	「実践力を養う」ステップの強化
内 容	
実施方法	Zoom によるライブ配信
注意事項	UNITAMA 掲示・Blackboard を確認すること

講座名	教職講座 4(幼・保) 「保育・教育に関する関連法規と専門科目」
講 師	明田 貴和子(教職サポートルーム客員教員)
目的	教員採用試験対策の本格的な取り組みにあたっての情報収集
位置づけ	「実践力を養う」ステップの強化
内 容	
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること

講座名	第 1 回 論作文応用講座
講 師	教師教育リサーチセンター教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員・保育士採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を習得する
位置づけ	教員・保育士採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	2 年次の論作文基礎講座で習得した論作文の書き方を復習。 「論作文の書き方①(講義) + 執筆①」を実施。 「執筆①」は各担当教員により個別指導。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	第2回 論作文応用講座
講 師	教師教育リサーチセンター教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員・保育士採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を習得する
位置づけ	教員・保育士採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	第1回の講義等をふまえ、「論作文の書き方①」の復習。 新たな課題について、「論作文の書き方②(講義) + 執筆②」を実施。 「執筆②」は各担当教員により個別指導。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	第1回 論作文実践講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員・保育士採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を習得する
位置づけ	教員・保育士採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	応用講座の講義等をふまえ、各自治体の字数・制限時間に応じた実践講座を行う。「論作文の書き方①(自治体ごとの講義) + 執筆①」を実施。 「執筆①」は自治体・校種等に応じた教員により個別指導。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	第2回 論作文実践講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を習得する
位置づけ	教員採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	第1回の実践講座をふまえ、「論作文の書き方②(自治体ごとの講義) + 執筆②」を実施。 「執筆②」は自治体・校種等に応じた教員により個別指導。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	第3回 論作文実践講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を習得する
位置づけ	教員採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	第2回の実践講座をふまえ、「論作文の書き方③(自治体ごとの講義) + 執筆③」を実施。 「執筆③」は自治体・校種等に応じた教員により個別指導。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	第4回 論作文実践講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員採用試験合格へ向けて、論作文の書き方を習得する
位置づけ	教員採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	論作文実践講座最終回。地域別対策(本番の試験時間にて演習のみ)。新学年で教育実習前、最後の総仕上げ実践講座。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	第1回 面接対策講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員・保育士採用試験合格へ向けて、面接の基本を学ぶ
位置づけ	教員・保育士採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	面接実践講座として3回の演習を通して、面接試験における面接票の書き方、面接の基本動作、心構え等を学ぶ。第1回目は個別面接を中心に演習を実践。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	第2回 面接対策講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員採用試験合格へ向けて、面接の基本を学ぶ
位置づけ	教員採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	前の回で回収した面接票の返却・指導。改めて面接実践演習として、基本である個別面接を中心に演習を実践。様々な質問等への対応。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	第3回 面接対策講座
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員採用試験合格へ向けて、面接の基本を学ぶ
位置づけ	教員採用試験対策の本格的な取り組み
内 容	面接実践講座の最終回。総仕上げとして、これまでの演習内容を振り返る。個人面接の総仕上げを目標に実施。また集団討議・集団面接等の実践にも触れる。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	Blackboard を確認すること 大学より配付される『必出テーマで押さえる教員採用試験のための論作文&面接対策』(時事通信出版局)をテキストとして手元に置いておくこと

講座名	実習直前ガイダンス(幼稚園Ⅰ)
講 師	教育学部幼稚園実習担当教員・教師教育リサーチセンター職員(実習担当)
目的	幼稚園実習に向けて必要な手続き、心構え等を理解する
位置づけ	免許取得の必須事項となっている実習の準備
内 容	教育実習に必要な手続き等を説明する。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	UNITAMA掲示またはBbを確認のうえ、参加すること

講座名	実習中間指導(幼稚園Ⅰ)
講 師	教育学部幼稚園実習担当教員・教師教育リサーチセンター職員(実習担当)
目的	実習Ⅰの振り返りと実習Ⅱに向けて必要な手続き、心構え等を理解する。
位置づけ	免許取得の必須事項となっている実習の準備
内 容	実習Ⅰを振り返り、実習Ⅱに必要な手続き等を説明する。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	UNITAMA掲示またはBbを確認のうえ、参加すること

講座名	実習直前ガイダンス(小中高)
講 師	学部・学科教職担当教員・教師教育リサーチセンター客員教員・教師教育リサーチセンター職員(実習担当)
目的	実習に向けて必要な手続き、心構え等を理解する
位置づけ	免許取得の必須事項となっている実習の準備
内 容	教育実習に必要な手続き等を説明する
実施方法	Zoom によるオンライン説明会
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、参加すること

講座名	日本語検定(第1回)【希望者のみ対象】
講 師	東京書籍
目的	教師の資質・能力のひとつである「日本語力」を高める
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	文部科学省をはじめ、43 都道府県教育委員会、42 市区町村教育委員会等が後援している日本語検定を準会場である本学にて実施
実施方法	本学会場にて受検
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、参加すること

講座名	博物館実習受講ガイダンス【希望者のみ対象】
講 師	教師教育リサーチセンター職員(資格取得担当)・芸術学部教員
目的	学芸員の資格取得者を増やすため
位置づけ	より質の高い教員養成を目指した取り組み
内 容	学芸員資格取得に必要な博物館実習の概要と、必要な手続き等を説明する
実施方法	Zoom によるオンライン説明会
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、『履修ガイド』を手元に置いて参加すること

4年次生(小中高)

実施プログラム一覧

●年間予定表

月	日	曜	実施プログラム	備考
4	11	木	(小中高)教育委員会集団説明会	要 申込み制
4	20	土	模擬試験「2024年模試」	要 申込み制
5	30	木	大学推薦者ガイダンス【大学推薦者のみ対象】	
6	14	金	【有料】日本語検定(第1回)	希望者のみ
			教職特別講座「公立学校教員採用試験1次対策講座」 【Aコースのみ対象】※自治体ごとに掲示	要 出願報告
7	4	木	実習直前ガイダンス【教育学部:サブ免許、文学部・農学部・工学部・芸術学部のダブル免許対象者】	
			教職特別講座「公立学校教員採用試験2次対策講座」 【Aコース2次試験受験者のみ対象】※自治体ごとに掲示	要 出願報告 要 1次合格報告
7	25	木	教職特別講座「臨採ガイダンス(第1回)」	
10	10	木	教職講座1「教師・保育者になる学生に向けて」	
11	7	木	教職特別講座「臨採ガイダンス(第2回)」	
11	28	木	教職講座2「教師・保育者になる学生に向けて」	
12	19	木	教職特別講座「合格者ガイダンス」 【Aコース公立合格者のみ対象】	
1	9	木	教職講座3「教師・保育者になる学生に向けて」	

4年次生(幼・保)

実施プログラム一覧

●年間予定表

月	日	曜	実施プログラム	備考
4	4	木	実習直前ガイダンス(幼稚園Ⅱ)	
4	20	土	(幼稚園)模擬試験「2024年模試」	要 申込み制
4	20	土	(保育士)公立保育所模試	要 申込み制
5	11	土	【有料】保育士模試 (+幼稚園)	希望者のみ
6	14	金	【有料】日本語検定(第1回)	希望者のみ
			教職特別講座「公立教員・保育士採用試験 集中対策講座」 【Kコースのみ対象】 幼稚園対策講座Ⅰ期 5/2・6/20 幼稚園対策講座Ⅱ期 7/25・8/1・8/8 保育士就職対策講座Ⅰ期 5/2・6/20 保育士就職対策講座Ⅱ期 7/25・9/5・9/12 私立幼保施設就職ガイダンス 7/4	要 公立出願
10	10	木	教職講座1 「教師・保育者になる学生に向けて」	
11	28	木	教職講座2 「教師・保育者になる学生に向けて」	
12	19	木	公立幼保合格者ガイダンス 【Kコース 幼稚園・保育所のみ対象】	
1	9	木	教職講座3 「教師・保育者になる学生に向けて」	

●4年次に受講する各講座内容

講座名	実習直前ガイダンス(幼稚園Ⅱ)
講 師	教育学部幼稚園実習担当教員・教師教育リサーチセンター職員(実習担当)
目的	幼稚園実習に向けて必要な手続き、心構え等を理解する
位置づけ	免許取得の必須事項となっている実習の準備
内 容	教育実習に必要な手続き等を説明する
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	UNITAMA掲示またはBbを確認のうえ、参加すること

講座名	大学推薦者ガイダンス(大学推薦者のみ対象)
講 師	教職サポートルーム客員教員
目的	大学推薦者特有の試験対策
位置づけ	教員採用試験対策の具体的な取り組み
内 容	全学部(院生含む)該当者を対象に、対策講座を実施。具体的な第1次・2次試験を確認。学内担当教員との引き合わせを元に今後のスケジュールを確認する。
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	UNITAMA掲示を確認のうえ、参加すること

講座名	教職特別講座「公立学校教員採用試験1次対策講座」
講 師	教職サポートルーム客員教員ほか
目的	教員採用試験合格へ向けての総仕上げ
位置づけ	教員採用試験対策の具体的な取り組み
内 容	第1志望の自治体の試験内容に合わせて、指導する。
実施方法	未定
注意事項	・UNITAMA掲示・Blackboardを確認すること ・出願報告と1次試験の結果を必ず教師教育リサーチセンターに報告すること。

講座名	実習直前ガイダンス(小中高)
講 師	学部・学科教職担当教員・教師教育リサーチセンター客員教員・ 教師教育リサーチセンター職員(実習担当)
目的	実習に向けて必要な手続き、心構え等を理解する
位置づけ	免許取得の必須事項となっている実習の準備
内 容	教育実習に必要な手続き等を説明する
実施方法	Zoomによるオンライン説明会
注意事項	UNITAMA掲示を確認のうえ、参加すること

講座名	教職特別講座(幼・保)「公立集中対策講座(Kコース対象)」
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員・保育士採用試験合格へ向けての総仕上げ
位置づけ	教員・保育士採用試験対策の具体的な取り組み
内 容	第1志望の自治体の試験内容に合わせて、指導する。
実施方法	未定
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> UNITAMA掲示・Blackboardを確認すること 出願前に教職サポートルーム客員教員に相談し、出願報告と結果を必ず教師教育リサーチセンターとサポートルーム客員教員に報告すること。

講座名	教職特別講座(小中高)「公立学校教員採用試験1次対策講座(Aコース対象)」
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員採用試験合格へ向けての総仕上げ
位置づけ	教員採用試験対策の具体的な取り組み
内 容	第1志望の自治体の試験内容に合わせて、指導する。
実施方法	未定
注意事項	<ul style="list-style-type: none"> UNITAMA掲示・Blackboardを確認すること 出願報告と1次試験の結果を必ず教師教育リサーチセンターに報告すること。

講座名	教職特別講座(小中高)「公立学校教員採用試験2次対策講座(Aコース対象)」 (※1次試験合格者のみ対象)
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	教員採用試験合格へ向けての最終確認
位置づけ	教員採用試験対策の具体的な取り組み
内 容	各自治体の試験内容に合わせて指導する
実施方法	試験日程が発表になり次第、調整するので直前の確定になる。
注意事項	1次合格の報告・試験内容報告書とともに、講座申し込みをすること。 全日程参加が条件となる。

講座名	教職特別講座「臨採ガイダンス+大学院説明会」 (当該年度採用試験不合格者・次年度、教員就職希望者の4年次生のみ対象)
講 師	・教師教育リサーチセンター職員(教員就職担当)
目的	今回の試験結果をふまえ、卒業後の進路について考え、次年度の教員採用試験合格を目指して、現場体験を積む準備を進める
位置づけ	次年度教員採用試験へ向けての準備
内 容	・次年度4月1日に産休代替教員として教壇に立つための方策を説明する ・玉川大学大学院(教育学研究科)の説明
実施方法	Zoomによるライブ配信
注意事項	UNITAMA掲示・Blackboardを確認すること

講座名	教職特別講座「合格者ガイダンス」(公立学校名簿登載者のみ対象)
講 師	教職サポートルーム客員教員 ほか
目的	新年度から教員になるにあたっての準備を進める
位置づけ	ともに対策講座に取り組んできたメンバーと合格を祝う締め括り。次年度の準備
内 容	次年度4月1日に教壇に立つまでの心構え、何をしておくべきかを指導する
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	UNITAMA掲示・Blackboardを確認すること

講座名	教職講座1「教師・保育者になる学生に向けて」
講 師	森山 賢一(教育学部教授・教師教育リサーチセンターリサーチフェロー)
目的	新年度から教員になるにあたっての準備を進める
位置づけ	教職課程受講支援プログラムの締め括り。次年度の準備
内 容	文部科学省や教育委員会で活躍する講師による最新の教育事情を紹介。
実施方法	Zoomによるライブ配信
注意事項	UNITAMA掲示・Blackboardを確認すること

講座名	教職講座2(小中高)「教師・保育者になる学生に向けて」
講 師	山崎 克洋(小田原市立足柄小学校教諭)
目的	新年度から教員になるにあたっての準備を進める
位置づけ	教職課程受講支援プログラムの締め括り。次年度の準備
内 容	教師1年目がハッピーになるテクニック
実施方法	指定教室にて実施
注意事項	UNITAMA掲示を確認のうえ、参加すること

講座名	教職講座 2(幼・保)「教員・保育者になる学生に向けて」
講 師	佐藤 淳穂(新宿区立西戸山幼稚園長)
目的	新年度から教員・保育士になるにあたっての準備を進める
位置づけ	教職課程受講支援プログラムの締め括り。次年度の準備
内 容	現場の第一線で教壇に立つ園長からのメッセージ。 新任教員として赴任してくる先生をどんな目線で見ているか など
実施方法	Zoom によるオンライン講話(予定)
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、参加すること

講座名	教職講座 3「教員・保育者になる学生に向けて」
講 師	盛山 隆雄(筑波大学附属小学校教諭、玉川大学教師教育リサーチセンター非常勤講師)
目的	新年度から教員になるにあたっての準備を進める
位置づけ	教職課程受講支援プログラムの締め括り。次年度の準備
内 容	現場の第一線で教壇に立つ教師からのメッセージ。
実施方法	Zoom によるオンライン講話(予定)
注意事項	UNITAMA 掲示を確認のうえ、参加すること

III 教職サポートルーム相談室について

教員採用試験対策全般(学習方法、講座、教員の職務について等)を個別に相談したい際には、公立学校の校長・園長・所長等の経験者で構成される教師教育リサーチセンター教職サポートルーム客員教員が対応します。

個別相談を希望する場合には、Blackboard@TAMAGAWA にて希望日時に予約をしてください。対面または、オンラインによる面談となります。

※特定の自治体、教科、校種について相談したい場合には、下記の表「教職サポートルーム相談室(個別相談)対応担当表」を参考に希望する教職サポートルーム客員教員が対応可能な日時に予約してください。(日程詳細は Blackboard@TAMAGAWA にて確認してください。)

※本件に関する問い合わせについては、kyoshoku@tamagawa.ac.jp にメールを送付してください。

令和6(2024)年度 教職サポートルーム相談室(個別相談) 対応担当表						
		月	火	水	木	金
午前 9:00	小	八嶋 真理子 先生(横浜市)	西川 克行 先生(神奈川県) ☆柳瀬 泰 先生(東京都)	宮谷 映美子 先生(神奈川県)	芹澤 成司 先生(川崎市) 山重 ふみ子 先生(相模原市)	☆田中館 明 先生(千葉県・千葉市) 飯島 将仁 先生(神奈川県)
	中高		篠生 恵美子 先生(神奈川県)	門倉 松雄 先生(相模原市)	堀井 仁 先生(埼玉県/さいたま市)	山川 伸二 先生(横浜市)
午後 13:00	小	小川 俊哉 先生(川崎市)	山口 祐一 先生(東京都) 藤澤 由紀夫 先生(埼玉県/さいたま市)	瀧澤 優子 先生(横浜市) 余郷 和敏 先生(東京都)	今城 徹 先生(東京都)	神田 しげみ 先生(東京都) ☆三好 浩一 先生(東京都)
	中高	☆刀根 武史 先生(東京都)	風見 章 先生(東京都) ☆仙北屋 正樹 先生(東京都)	永松 由次 先生(神奈川県)	林 孝之 先生(神奈川県)	大嶋 一夫 先生(千葉県・千葉市)
	幼保			小野塚 正枝 先生(保育所)	明田 貴和子 先生(保育所)	佐藤 博子 先生(幼稚園)

* 上記の一覧表の曜日・時間帯に原則として隔週で担当教員が対応します。

* 詳細日程は、Blackboard@TAMAGAWA に表示されますので、そちらからご確認ください。

* 8月は教員採用試験2次面接指導対応のため、教職サポートルーム相談室は閉室となります。

IV 自主学修室の利用について

自主学修室では、教員・保育士採用試験の過去問や先輩教員の試験内容報告書等を閲覧することができます。自主学修室 受付にて学生証を掲示のうえ、訪問記録を提出し使用ください。

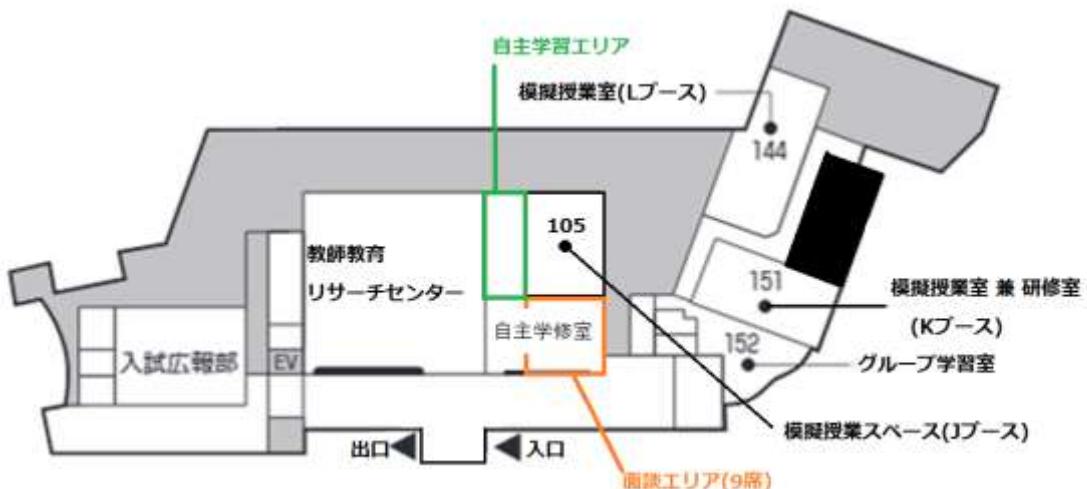
自主学修室の書籍について

- ・小学校 教科書・指導書
- ・中学校 教科書・指導書
- ・高等学校 教科書・指導書
- ・2022年度 教員採用試験対策 ステップアップ問題集(東京アカデミー)
- ・2021年度版/2022年度版/2023年度版

専門試験 公立幼稚園教諭・保育士採用試験対策シリーズ(協同出版)

- ・2022年度版/2023年度版 教員採用試験「全国版」過去問シリーズ (協同出版)
- ・2022年度版/2023年度版/2024年度版 教員採用試験 過去問シリーズ (協同出版)
- ・2022年度版/2023年度版/2024年度版 教員採用試験 参考書シリーズ (協同出版)
- ・2024年度版 教員採用試験(Build Upシリーズ・Twin Books 完成シリーズ)(時事通信社)

…etc



【使用方法】

- * 入室にあたっては検温、手指消毒を行っていただきます。
- * 自主学修エリアは、個別学修の場所です。私語や共同作業は禁止します。
- * 自主学修室内では飲食禁止です。飲食する場合は、152 グループ学習室を使用ください。
- ※飲み物の持込みは、蓋つきのボトルのみ可能です。
- * コピー機は、Suica や PASMO の交通系のカードが必要となります。
- ※モバイルスイカなどは使用できません。

V 自学自修教材について

教員採用試験の準備にあたって、教師教育リサーチセンターでお勧めする自学自修のための教材を紹介します。

No.	教材名	入手方法
筆記試験対策におススメ！		
1	一般教養講座【@じぶんゼミ】	時事通信に申し込みが必要(有料講座)
2	教職教養講座【ライブ講座&じぶんゼミ】	
3	専門教養講座【@じぶんゼミ】 中高国語／社会／英語／保健体育	
受験する自治体の動向を探る！		
4	『教員養成セミナー』(時事通信) ※毎月 22 日発行	自主学修室で閲覧可
5	『教職課程』(協同出版) ※毎月 22 日発行	
6	「教育新聞」(教育新聞社) ※週 2 回・月曜・木曜発行)	
実習前にセルフチェック！【4 年次生および芸術学部 3 年次生対象】		
7	教育実習前 CBT	資料参照。 問題集は 4 月初旬に Blackboard@TAMAGAWA に掲載予定
現場実習の様子を先取り！		
8	東京学芸大学 21CoDOMoS	資料参照
教科教育の最新研究情報！		
9	YouTube文部科学省公式チャンネル MEXT Channel 外国語教育はこう変わる！	資料参照
教師としての意識を高める！		
10	NITS オンライン講座	資料参照

はじめに

1 教育実習前 CBT のねらい

教員養成大学は、教師の職責を果たすことができる資質や指導力を培う使命を担っています。そのため、大学によって時期等は異なりますが、多くの専攻で、教育実習を必修としています。1年次から学んできた基礎的な学修内容を現場で確かめ、磨くのが教育実習なのです。単に教員免許を取得するためではなく、自らの将来に対する大きな動機付けと捉え、意欲と自信を持って学びたいものです。

CBT とは【Computer Based Testing】の略です。

教育実習前 CBT（以下「CBT」といいます）は、教職に対する基礎的な知識を確かなものとし、教育実習への意欲と自信を高めるためのものです。知っておきたいことを、事前にこの問題集で学び、テストで理解度を確かめ、不足している点は補って、意欲と自信を高めて教育実習に臨んで欲しいと願っています。

CBT に取り組むことは教育実習だけでなく、その後の教員採用試験などにも、そして教師となって実践に取り組む際にも役立つはずです。また、教職には進まず、社会人を目指す人にとっても役立つはずです。

2 CBT の内容と本問題集の構成

CBT は、以下の内容で構成されています。

- 子どもと適切な関わりを持つための教師論や学級経営、生徒指導・児童生徒理解、特別支援教育に関するここと
 - 学習指導や授業改善の基礎的な知識に関するここと及び授業を規定する学習指導要領各教科等の目標や内容、教育課程に関するここと
 - 危機管理に関するここと
 - 教職という立場や現場での判断を支える学習指導要領の総則や法規に関するここと
- これらの基礎的な知識を確かにしておくことで、現場での判断が、的確に自信を持ってできるようになることでしょう。問題の後には、答えと解説を示しています。参考にしてください。

21st century Competency Development Online Moving-image Service

21CoDOMoS

21世紀のコンピテンシー育成のためのオンライン動画サービス

動 画 で 教 え 方 を



スマートフォン・タブレットにも対応しました



東京学芸大学
次世代教育研究推進機構
Research Organization for Next-Generation Education



ネットで見る研究授業

無料で使える授業動画の配信サービス

21CoDOMoS(トゥエンティワン・コドモス)とは

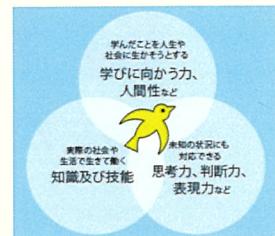
21世紀の教育では、子どもたちに**コンピテンシー(資質・能力)**を育成することが大事だと言われています。

では、それはどのような授業で育成できるのでしょうか？

「21CoDOMoS」では、東京学芸大学附属小・中学校をはじめとした学校の教員が様々な教科の授業の中でコンピテンシーを育成する実践例を、インターネット上で無料配信しています。

21CoDOMoSは、いわばネットで見る研究授業です。

学習指導要領における
「資質・能力の3つの柱」*



こんな方にご利用いただけます

学校の教員



授業を行われている方

教育委員会



教員研修を企画する方

大学関係者



教員養成に携わっている方
教員を目指す学生の方



授業力向上のための自己研鑽に



教員研修での活用に



大学の教職課程の教材に

コンピテンシーを育成する

■一覧画面から選んで視聴

教科	学年	単元/題材
国語	小4	比べて考えよう『くらしの中の和と洋』
国語	小5	動物園について話し合おう
社会	小3	みんなが楽しむ地域の祭り
算数	小6	速さの理解を深める
理科	小3	物と重さ
理科	小5	ものの溶け方
音楽	小6	最後の音楽会～これまでの音楽経験を生かして演奏しよう
音楽	小4	三宅太鼓のリズムで私たちの音楽をつくろう
家庭	小5	おいしいみそ汁を作ろう
家庭	小5	寒い季節を快適に
体育	小4	はこべ！とめろ！タッチハンドボール
体育	小5	できたよ！やったね！跳び箱運動（器械運動）
保健	小5	「けがの防止」～君にもできる、やってみよう！つなぐ命
特別活動	小4	竹早祭をつくろう（学校行事・学級活動）
特別活動	小6	よりよい『われらの夢～最（こう）学年（学級目標）』をめざして
生活	小1	探検で知ったことや考えたことを友達に伝えよう

※2020年6月現在

小学校-理科



Science

英語字幕（2016年度撮影）
Unit title "Objects and their weight" This lesson aims to help students understand that objects have weight and to express their



理科

単元：物と重さがあることを文や図で表現する
目標に、様々な形で生活経験を検証する実験を

◀ 小学校

小学校-音楽



音楽（小6）

題材：最後の音楽会～これまでの音楽経験を生かして演奏しよう～
この音楽会に向け自分で選んだ曲をよりよく演奏するため、互いに思いや考えを出し合って合奏の練習をしています。



英語字幕（2017年度撮影）
Unit title "Let's own music with Miyake taill lesson aims to develop their

動画で教え方を…

学ぶ

- ▶ 1つの授業を最初から最後まで見ることができる
教師、児童・生徒、教室全体の3つの視点から視聴が可能

考える

- ▶ 指導案や授業者のコメントなど、授業を考えるための豊富な資料

議論する

- ▶ コメントを見たり書き込んだりすることが可能

メイン映像です。映像を他の視点に切り替えたり、全画面表示にしたりすることができます

どのようなコンピューター(資質・能力)が育成されているかが表示されます

テロップで教師や児童・生徒がどのような発話をしているかが確認できます

教師、児童・生徒、教室全体の3視点の映像を同時に見ることができます



授業の実践例を配信

中学校

教科	学年	単元/題材
国語	中2	七夕～文化的行事を文学としてたどる
社会	中1	統合を強めるヨーロッパの国々
社会	中3	人間を尊重する日本国憲法
数学	中1	最小公倍数の見つけ方
数学	中2	AEDで救える命を増やそう
理科	中1	いろいろな物質とその性質
理科	中2	化学変化と物質の質量の規則性
音楽	中2	アルトリコーダーで個性あふれるアレンジ演奏をしよう
美術	中2	抽象的な色の構成からステンドグラスを作る
家庭	中2	洗剤選びの達人になろう
体育	中1	ソフトバレーボール
保健	中3	感染症
外国語	中3	生徒の「やりたい」を引き出す表現活動

※ 2020年6月現在

教育関係の方ならどなたでも利用できます

ご利用には利用者登録が必要です

21CoDOMoSの登録手順

1. トップページ



授業の動画をご覧になる場合は「ログイン・新規登録」をクリック

2. ログイン画面



ユーザーIDとパスワードを入力し、「ログイン」をクリック

初めてご利用の方は、「新規登録」をクリック
※氏名、所属、メールアドレス等の入力が必要です。

21CoDOMoSへのログイン・新規登録はこちら▶
<https://www.u-gakugei.ac.jp/~jisawai/21CoDOMoS/>



PR動画の紹介



◀ 21CoDOMoSの詳細については、こちらからも
ご覧いただけます。

<https://youtu.be/P4GIH6xc2kk>



お問い合わせ先

東京学芸大学 次世代教育研究推進機構

 jisawai@u-gakugei.ac.jp

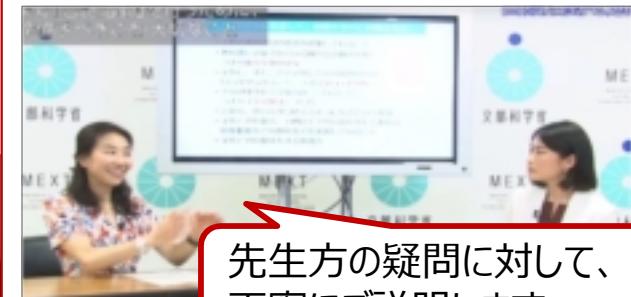


- ・新学習指導要領に基づく授業改善についての動画シリーズ
(11/27現在29本掲載、累積視聴数約40万回) ※随時、追加中
- ・実際の授業ダイジェスト、有識者や視学官・調査官による解説
- ・1本15分程度で構成、校内研修等でも活用可能



2020最新シリーズ

新学習指導要領全面実施対応
「なるほど！小学校外国語」



先生方の疑問に対して、
丁寧にご説明します



①言語活動

②読むこと・
書くこと

③学習評価



教科指導におけるICTの効果的な活用のための参考資料

GIGAスクール構想により令和2年度内に小中学校における「一人一台」端末環境を整備することを踏まえ、外国語科における、言語活動や練習、インターネットを使った他校や海外の児童生徒との交流など、様々なICT活用事例を紹介しています。



外國語の指導におけるICTの活用について

【言語活動・練習】発表ややり取りをする活動

小学校 We Can! 1に対応した自作教材を活用した発表をする活動

教材: We Can! 1のイラストを読み込んで発表

内容: 児童が一日の生活を発表。本授業では、朝食が話題(What do you have for breakfast?)。児童が朝食の食べ物イラストと一緒に発表

小学校 友達の発表の録画の視聴と、児童同士の意見交換

小学校 中学校 小規模校をWeb会議システムでつなげる「小小連携」「小中連携」の遠隔協働学習

・小学校5年生同士が、行きたい国について英語で交流。(宮山県・南砺市立上平小学校・赤穂市立赤口小学校)

・小学校6年生と、中学校2年生が、Web会議システムでつながり、将来就きたい職業について英語で交流。(宮山県・南砺市立上平小学校・南砺市立平中学校)

ICT機器活用の国際比較(OECD PISA2018調査)

■生徒の学校におけるデジタル機器の使用状況
生徒が「非常に」の程度でICT機器を「使っていない」と回答した生徒の割合: 87.0% (東南アジア圏)

■生徒の家庭におけるデジタル機器の使用状況
(月に1~2回以上使用していると回答した生徒の割合)

日本	OECD平均
スマートフォンを所有する	34.1
インターネットを楽しむ	62.7
インターネットを楽しむ	62.7
スマートフォンを所有する	31.8
インターネットを楽しむ	77.8
スマートフォンを所有する	59.7
インターネットを楽しむ	37.2
携帯電話でメールを読む	26.7
スマートフォンでメールを読む	51.7
コンピューターで学習をする	18.4
スマートフォンで学習をする	66.3

日本生活では多くの生徒がデジタル機器を楽しんでいるが、学習には十分に活用されていない

【交流・遠隔授業】遠隔地の教師やALTが指導を行う事例

高等学校 多様なバックグラウンドをもつ複数のALTを活用した遠隔授業

文部科学省「遠隔教育システム導入実証研究事業」として、地域の複数のALTを異郷双方でつなぐ遠隔授業を実施。

Web会議システム(リコーUnified Communication System)を使って、フィリピン、カナダ、日本の文化を熟知したALT20名が、オンラインでやり取りした。生徒はALTの会話を聞いて、英語で質疑し、個人の考えをまとめて英語で意見を述べた。

結果

1)両なるバックグラウンドをもつALTの会話を聞き、多様な英語の「発音」、「アクセント」、「声の抑揚」、「強調する言葉」、「言い方のスピード」に触れることができた。

2)1オーディオ同士の会話を聞き取る練習ができた。

3)オーディオ同士の会話を聞き、多様な考え方(文化)に触れることができた。

国連教科文フォーラム(国連教科文)の実施(ビデオ配信)
http://www.mext.go.jp/a_menu/sotsu/syukusho/detail/1494421.htm

「立派な教師」のビデオ配信のうち、「B1 ALTとつながった遠隔学習」(0:28:06~)で吉野教授が紹介されている。

地域教育委員会 説明資料「宮崎県立高岡高等学校ICT遠隔授業実施報告書」
http://www.mext.go.jp/content/02003001-mst_imgs/01-10000131_002.pdf

「子供の学び応援サイト」

- ・オンライン上の様々な学習コンテンツ・リソースを紹介とともに、それらを活用した家庭学習の例を紹介しています。
 - ・高等学校・外国語編は、延べ約 100 件を紹介。
→教職を目指す学生が、自身の英語力向上に活用できるコンテンツも多数掲載しています。



BRITISH COUNCIL 日本

英会話スクール 各種出版 英語留学 イベント情報 アー

校向け英語教材・指導教材
と活動例

problems?
Experienced IT engineer
will sort out problems with
home computers (PCs
and Macs). Phone the
Computer Doctor now for
a free estimate -
09651 325693

Noticeboard

DRUMMER WANTED

for recently formed band. M
have ability and experience.
play mostly indie rock. Many so
already performances in local pubs in N
Dec. Send details and sou
samples to:

発表)

校向け英語学習・教材サイト LearnEnglish Teens

学校では、高齢者団体から社会問題まで幅広い話題について、各種で情報

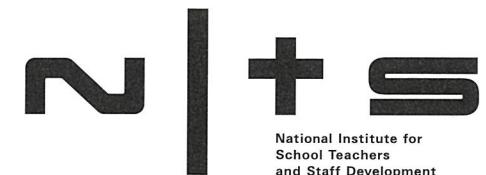
技能別の学習素材と活動例

- ・聞くこと
 - ・読むこと
 - ・話すこと（やり取り、発表）

ICTを活用した学習支援

- ・動画配信
 - ・オンラインミーティングツール
 - ・学習管理ツール
 - ・遠隔指導のヒント等

はじめまして、NITSです。



National Institute for
School Teachers
and Staff Development

略称はニッツ National Institute for School Teachers and Staff Development

正式名称は 独立行政法人教職員支援機構

ロゴに込めた ビジョン

- ・児童生徒や教師がそれぞれの個性を放ちながら、躍動している姿を表現
- ・個性の輝きを放ちながらも照応する造形として、調和しながら存在する文字群「NITS」は、教職員支援機構が目指す姿勢を表現

ニッツの役割

都道府県等から推薦された教職員など約8000名を対象に研修を実施とともに、研修に関する指導や助言、研修コンテンツの配信、研修プログラムの開発などを行っています。また、教職員の資質に関する調査研究や、教員の養成・採用・研修を担う大学や教育委員会等を結ぶネットワークづくり、海外の大学との連携などに取り組んでいます。

教育の
最新情報を
伝える

独立行政法人として文部
科学省と連携し、政策や
国の方針をふまえた講義
を実施。

第一線の
講師陣の
熱い指導

各分野の第一人者が講師
を務め、最先端の話を、
学校現場で実践できるよう
に事例などをもとに講義。

全国の
学校現場と
つながる

全国各地から参加する教
職員との情報交換や学校
に戻ってからのネット
ワーク構築を推進。

調査研究を
反映した
プログラム

教員の養成・採用・研修
の改善に資する調査研究
を行い、研修やセミナー
に成果を活用。

オンラインで
自学自習

校内研修の題材として
活用できるよう20分間
程度の講義動画を作成
してホームページで閲覧
可能に。

20分で学べる! 校内研修にも活用できる!!

NITSの オンライン講座

動画配信サイト『YouTube』で20分の講義動画を配信しています。

全国の学校教育関係職員に
豊富で質の高い研修機会を提供するため、
校外、校内、自己研修を問わず、
いつでもどこにいても研修が可能となるよう
「校内研修シリーズ」を始め、講義動画などの
研修教材を提供しています。

NITS 校内研修シリーズ

検索

校内研修で活用する例

研修の冒頭で視聴し、それをふまえた演習を行う流れが可能です。

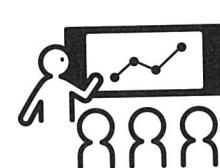
20分



40分



演習



発表・まとめ

個人で活用する例

スマホやタブレットのQRコードアプリで
読み込んでアクセス。



「オンライン講座、使っています」利用者の声より

初任研で使った。
自分自身に合う
テーマや内容を
選びやすい。

専門的な研修を
手軽にできるから
いいのでは?

具体的な対応例が
わかりやすかった。

コンパクトに
まとめられているのがよい。
そのまま校内研修で
活用できる。

日々の授業実践に
役立てることができた。

出張は時間が大幅に
削られる。オンラインで
研修できれば、業務に
時間を費やせる。

校内研修シリーズ

※職名は撮影当時のものです。



No1
学校組織マネジメントⅠ
(学校の内外環境の分析)
兵庫教育大学大学院教授
浅野良一



No2
学校組織マネジメントⅡ
(学校ビジョンの検討)
兵庫教育大学大学院教授
浅野良一



No3
チーム学校の実践を
目指して
文部科学省参与
貝ノ瀬滋



No4
新しい学習指導要領に
おいて期待される学び
國學院大學教授
田村学



No5
道徳教育
香川大学教育学部附属
教職支援開発センター長
七條正典



No6
学校のビジョンと戦略
千葉大学特任教授
天笠茂



No7
キャリア教育
筑波大学名誉教授
渡辺三枝子



No8
いじめ対策のポイントと
いじめ防止基本方針の
改定
文部科学省児童生徒課
専門官
山本悟



No9
学習指導要領
文部科学省教育課程課
課長
合田哲雄



No10
総則とカリキュラム・
マネジメント
文部科学省
教育課程教育課程企画室
室長
大杉住子



No11
教育と法Ⅰ
(学習指導要領と
教育課程の編成)
明星大学教授
樋口修資



No12
教育と法Ⅱ
(生徒指導)
明星大学教授
樋口修資



No13
生徒指導
関西外国語大学教授
新井肇



No14
自殺予防
関西外国語大学教授
新井肇



No15
教育相談に関する
マネジメントの推進
神田外語大学客員教授
嶋崎政男



No16
人材育成とコーチング
神田外語大学客員教授
嶋崎政男



No17
特別支援教育の実際
FR教育臨床研究所所長
花輪敏男



No18
総合的な学習の時間と
カリキュラム・マネジメント
甲南女子大学教授
村川雅弘



No19
学校組織マネジメントⅢ
(人材育成)
～教職員が育つ
学校づくり～
兵庫教育大学大学院教授
浅野良一



No20
特別支援教育総論
新潟大学教授
長澤正樹



No21
カリキュラム・
マネジメントとは
千葉大学特任教授
天笠茂



No22
生活安全
大阪教育大学教授
藤田大輔



No23
道徳科の授業の
充実を図るために
文部科学省
教育課程課教科調査官
浅見哲也



No24
「地域に開かれた学校」
から「地域とともにある
学校」へ
文部科学省
初等中等教育局参事官
木村直人



No25
「主体的・対話的で深い
学び」の実現に向けて
國學院大學教授
田村学





No26
災害安全
～災害から生き抜く力を
育む防災教育～
岩手大学大学院准教授
森本晋也



No27
保健教育の基礎
横浜国立大学教授
物部博文



No28
幼児教育
國學院大學教授
神長美津子



No29
学校全体で取り組む
食育の進め方
福岡教育大学
教職大学院教授
脇田哲郎



No30
人権教育
上越教育大学教授
梅野正信



No31
教職員のメンタルヘルス・
マネジメント
早稲田大学教育・
総合科学学術院教授
河村茂雄



No32
学校安全(総論)
東京学芸大学教授
渡邊正樹



No33
研修の企画・運営・評価
教職員支援機構
チーフ研修プロデューサー
堀田竜次



No34
新学習指導要領を
具現化した新教材の解説
文部科学省教育課程課・
国際教育課教科調査官
直山木綿子



No35
言語活動
文部科学省
教育課程課教科調査官
白井学



No36
外国人児童生徒等に
対する日本語指導
東京学芸大学教授
齋藤ひろみ



No37
学校教育の情報化
東京学芸大学准教授
高橋純



No38
体力向上マネジメント
筑波大学体育系教授
柳沢和雄



No39
教育と法III
(地方教育行財政制度)
明星大学教育学部教授
樋口修資



No40
教育と法IV
(学校の保健安全管理)
明星大学教育学部教授
樋口修資



No41
キャリア教育の実践
筑波大学人間系教授
藤田晃之



No42
消費者教育
鳴門教育大学大学院
学校教育研究科准教授
坂本有芳



No43
教育現場における
コーチング
コミュニケーション
シナジープラス株式会社
代表取締役社長
三宅裕之



No44
リスクマネジメント
～学校の危機を
いかに防ぐか～
高崎経済大学講師、
高崎市教育長
飯野眞幸



No45
ネットいじめの
未然防止及び解決に
向けた指導と対応
兵庫県立大学准教授
竹内和雄



No46
道徳科に求められる評価
文部科学省教育課程課
教科調査官
浅見哲也



No47
不登校児童生徒の支援と
教育相談
FR教育臨床研究所所長
花輪敏男



No48
いじめ問題に関する
保護者との連携、
信頼関係構築の在り方
公益社団法人
日本社会福祉士会
アドバイザー 愛沢隆一



No49
地域の教育活性化と
スクールリーダー
愛媛大学大学院教授
露口健司



No50
学校における働き方改革
「先生が忙しそう」を
あきらめない
文部科学省
学校業務改善アドバイザー
妹尾昌俊



No51
地域と共に創る教育
～隠岐島前高校の探究的な
学びが目指すもの～
島根大学教職大学院
准教授
中村怜詞



No52
学校財務マネジメント
日本大学教授
末富芳



No53
アクティブラーニングと
カリキュラム・マネジメント
をつなぐ
教職員支援機構 研修協力員
／研修プロデューサー
稻岡寛



No54
新学習指導要領と
これからの授業づくり
横浜国立大学名誉教授
高木展郎



No55
児童虐待防止に向けた
学校の取組
大正大学教授
玉井邦夫



No56
いじめのとらえ方と予防
日本大学文理学部教授
藤平敦



No57
育成指標の機能と活用
・NITS 次世代教育
推進センター長
大杉昭英(写真)
・愛媛大学教授 露口健司



No58
『主体的・対話的で
深い学び』を見取り、
実現する校内研修
・國學院大學教授 田村学
・NITS研修プロデューサー
／研修協力員 宮迫隆浩



No59
働き方改革時代の
管理職に求められる
タイムマネジメント・スキル
東北大学大学院
教育学研究科准教授
青木栄一



No60
教員採用統一試験実施の
可能性と課題
国士館大学教授
北神正行



No61
教師の資質と役割とを
めぐるディスコースの
国際動向
教職員支援機構
上席フェロー
百合田真樹人



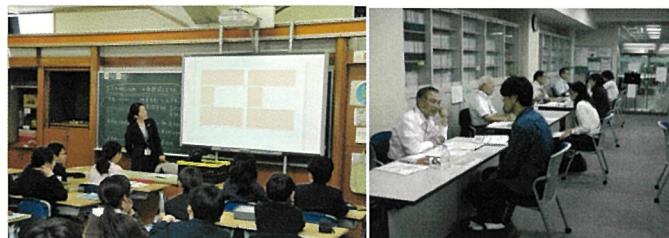
No62
あの日学校で起きたこと
～改めて備えと災害時の
対応について考える～
富谷市教育委員会
生涯学習専門指導員・相談員
戸倉小学校 元校長 麻生川敦



新学習指導要領編

No1 特別支援学校幼稚部教育要領、 特別支援学校小学部・中学部 学習指導要領 総則 文部科学省特別支援教育課 課長補佐 山下直也	No2 視覚障害者、聴覚障害者、肢体不自由者又は病弱者である 児童生徒に対する教育を行う特別支援学校の 各教科における配慮事項の改訂の要点 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官 青木隆一	No3 知的障害者である児童生徒 に対する教育を行う特別支援 学校の各教科等の改訂の要点 文部科学省 初等中等教育局 視学官 丹野哲也	No4 自立活動 文部科学省特別支援教育課 特別支援教育調査官 分藤賢之	No5 新しい幼稚園 教育要領について 文部科学省幼児教育課 幼児教育調査官 河合優子	No6 小学校学習指導要領・ 中学校学習指導要領 総則 文部科学省教育課程課 教育課程企画室長 白井俊	No7 小学校・総合的な学習の時間 改訂のポイントと 指導の改善・充実 文部科学省教育課程課 教科調査官 渋谷一典	
No8 小学校学習指導要領 生活科改訂のポイントと 指導の改善・充実 文部科学省教育課程課 教科調査官 渋谷一典	No9 小学校学習指導要領 社会科の改訂のポイント 文部科学省初等中等教育局 視学官 澤井陽介	No10 小学校学習指導要領 家庭科の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 筒井恭子	No11 小学校学習指導要領 理科の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 鳴川哲也	No12 新小学校学習指導要領における 外国語活動及び、外国語科の 指導の在り方の要点 文部科学省教育課程課・ 国際教育課外国語教育推進室 教科調査官 直山木綿子	No13 小学校学習指導要領 特別活動の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 安部恭子	No14 小学校学習指導要領 算数科の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 笠井健一	No15 小学校学習指導要領 体育科の改訂のポイント スポーツ庁政策課 教科調査官 高田彬成・森良一
No16 小学校学習指導要領 図画工作科の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 岡田京子	No17 小学校学習指導要領 国語科の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 菊池英慈	No18 小学校学習指導要領 音楽科の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 津田正之	No19 中学校学習指導要領 外国語科の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 山田誠志	No20 中学校学習指導要領 技術・家庭科 技術分野の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 上野耕史	No21 中学校学習指導要領 技術・家庭科 家庭分野の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 筒井恭子	No22 中学校学習指導要領 国語科の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 杉本直美	No23 中学校学習指導要領 数学科の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 水谷尚人
No24 中学校学習指導要領 特別の教科 道徳(道徳科) のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 澤田浩一	No25 中学校学習指導要領 理科の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 野内頼一・ 藤枝秀樹・遠山一郎	No26 中学校学習指導要領 総合的な学習の時間 の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 渋谷一典	No27 中学校学習指導要領 社会科の改訂のポイント 文部科学省初等中等教育局 視学官 濱野清 文部科学省教育課程課 教科調査官 藤野敦・小栗英樹	No28 中学校学習指導要領 音楽科の改訂のポイント 文化庁参事官(芸術文化担当)付 教科調査官 文部科学省教育課程課 教科調査官 白井学	No29 中学校学習指導要領 美術科の改訂のポイント 文部科学省初等中等教育局 視学官 東良雅人	No30 中学校学習指導要領 保健体育科の改訂のポイント スポーツ庁 政策課 教科調査官 高橋修一・横嶋剛	No31 中学校学習指導要領 特別活動の改訂のポイント 文部科学省教育課程課 教科調査官 長田徹

玉川大学における 教員養成への取り組み



文部科学教育通信
No.351～353 より抜粋

玉川大学教師教育リサーチセンター
平成27年3月

ここに掲載したものは、『文部科学省教育通信』No.351～No.353「連載 学修支援の教育方法」第34回～第36回に掲載された文書を抜粋したものです。

◆第34回

教員養成における単位の実質化への取り組み ・・・・・・・・・・・・

16単位C A P制度の導入と全学教職課程カリキュラム

◆第35回

四年間を通した教職課程指導・支援体制の試み ・・・・・・・・

—キャリアプランを明確にしたプログラムの開発—

◆第36回

教員養成の質向上に向けた教職課程の全学体制による組織の運営 ・・・・

—教師教育リサーチセンターによる全学学生支援と研究活動の推進—

連載 学修支援の教育方法 第34回

教員養成における単位の実質化への取り組み —16単位CAP制度の導入と全学教職課程カリキュラム—

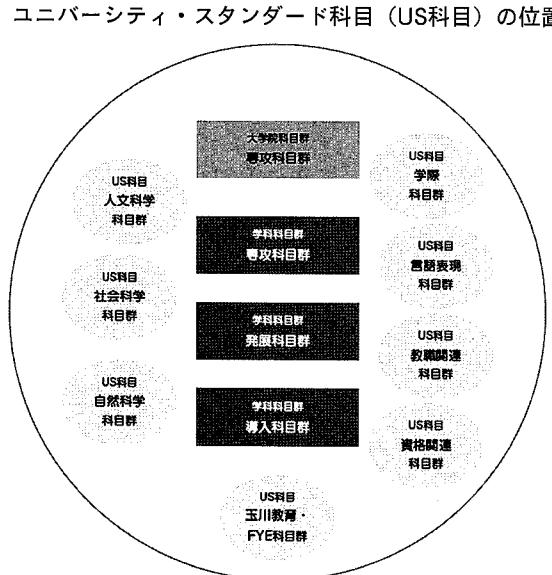
玉川大学教育学研究科教職専攻・教育学部教授
玉川大学教師教育リサーチセンター長
森山 賢一

玉川大学は、全学体制における教員養成の充実に向けて、「教師教育リサーチセンター」を設置し、「質の高い教員養成」の実施に向けて具体的な対応を取り組んでいる。本学では、全学として二〇一三（平成二十五）年度入学生から、半年間に履修できる単位数を一六単位に制限しており、教職課程全科目もその例外ではなく、その学部・学科の卒業単位に含まれ、教員養成における単位の実質化に取り組んでいる。本稿では、本学での一六単位CAP制度における全学体制教職課程の指導支援について紹介する。

本学カリキュラムの特徴

本学のカリキュラムは、教養豊かな幅広い知識を持ち、基礎学力の堅固な基盤と高度な専門能力を持つ有為な人材を育成するため、ユニバーシティ・スタンダード科目と学科科目群で構成されている。

ユニバーシティ・スタンダード科目は、学士課程教育において重要な役割を果たす教養



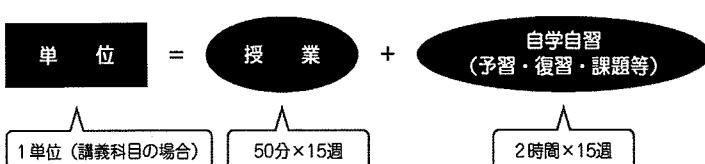
教育と、専門教育との連動を目指して構成されている。広い教養の世界に旅立つ学生の原点となる科目は、所属学科で専攻する領域と並行して学ぶことで、様々な学問分野にふれると同時に、自らの専門領域の学問的・社会的役割と関連づけて理解できるようになっていく。教員免許状を取得するために必要な教職に関する科目は、この中の「教職関連科目群」として開設されている。学科科目群は、導入科目群、発展科目群、専攻科目群に区分され、学修進度に合わせて順に履修するよう開設されている。各学科で取得することができる免許種により、その教科の専門性を高めるための科目は、学科科目群の中に開設されている。このカリキュラム構成により、学生は四年間を通して学修をすすめ、「学士」にふさわしい力即ち「学士力」を身につけていくことが可能になっている。

16単位CAP制度と教職課程科目

一方、大学での学修は授業とその予習・復

習で成り立っており、一週間に授業を受講して学修するには、その量においておのずと限界がある。

このため、本学では、それぞれの科目について深い理解を促すため、履修登録の上限単位を半期（各セメスター）一六単位とするC A P制度を導入している。したがって、四年間で履修できる総単位数は一二八単位までとなる。本学では単位の実質化が課題となつてゐる高等教育において、教職課程も同様に上記の考え方を踏襲することが責務であると捉えている。このため、全学部の教職課程科目全科目がその学部・学科の卒業単位に含まれ、「教育実習」の単位であつても例外なく卒業単位に含まれている。



教職課程科目の履修はこのルールの中で行つていいくが、「教職に関する科目」や「教科に関する科目」など、より効果的な履修ができるよう、学士課程全体のカリキュラムの中に、各学科で教職課程の履修カリキュラムが構築されている。各学科には教職担当の教員が配置されており、教職課程を履修している学生は、この先生方の指導を受けながら所定の単位を修得している。

本学での教職課程受講は、上記のカリキュラムに基づいた学士課程教育

の学修が展開され、その中で教員免許取得に必要な科目も履修することとなつてゐるため、卒業単位の中に教職課程のカリキュラムを組み入れることは、当然のことといえる。これは、やみくもに多くの単位を履修し、資格取得の一つとして教員免許状を捉えるのではなく、教職課程に関する科目も含めて、履修した科目の内容を確実に理解し、確かな学士力を身につけたうえで、教員免許の取得をしなければ、社会が求める教員として送り出すことができないのではないかと捉えているためである。このために、各学部・学科においては履修モデルの十分な検討がなされている。

教職課程の質保証

学生にとってはそれぞれ所属する学科において専門の学修を行い、さらには、教師としての資質能力を身につけていくために、教職に関する専門の学修を両立して進めていくことが必要である。どちらが大事ではなくどちらも大事なわけである。

教員養成においては、これらの一つの立場を「あれかこれか」(Entweder-Oder)の二者択一的な対象と捉えるのではなく、教職科目と教科科目を中心とした、その学科の専門科目のそれぞれの内容が、本来の意味において統合される立場を求めるということにある。このような見解においては単位の実質化とも関連して、学士課程教育と教職課程の教育は相互に同様な枠組の中で位置づけられ、展開されなければならない。

○一五年四月よりスタート）の教員養成カリキュラムを紹介してみる。

芸術教育学科の教員養成プログラムにおいては、音楽教育コースと美術・工芸教育コースの二つの教員養成プログラムが、英語教育プログラムが展開され、その全体の特色として中学校、高等学校教諭の一種免許状と小学校教諭一種免許状が取得可能であること、小・中・高等学校の現場と大学での学びをつなぎ、実践的な学修を重視していること、本学の特色を生かし、総合学園として同一キャンパスにある幼・小・中・高校の多くの学習活動を通して、子どもたちの活動や発達を実感しながら学修を進めることができることがあげられる。特に小学校二種免許取得プログラムにおいては、単位の実質化に即して、春学期、秋学期には科目の開講を行わず、サマーセッション、ウインターリセッションでの開講とした。学びを深化させる学修システムの工夫として、自らの目的に合わせてU.S.科目を選択すること、芸術教育または英語教育を学ぶ上で導入科目（必修、選択必修の専門科目）から発展科目（選択必修の専門科目）へ深まつていくこと、「教育方法学」や「教育心理学」などの教職に関する科目と、各学科で開講されている教科に関する科目（専門科目）ができる限り相互に対応して学修できること、一年次から参観実習をはじめとした教員養成プログラムがスタートし、四年一貫して学修できることなどがあげられる。まさに教職科目と教科科目が相互補完されて学修されることになつてゐる。

教員養成の質保証に向けた新たな学科の設置

具体的な展開例として、本学の芸術学部芸芸

連載 学修支援の教育方法 第35回

四年間を通した教職課程指導・支援体制の試み —キャリアプランを明確にしたプログラムの開発—

玉川大学教育学研究科教職専攻・教育学部教授
玉川大学教師教育リサーチセンター長 森山 賢一

玉川大学における 教職課程受講学生の現状

平成二十六年度入学生における本学の学部組織においては、六学部（文学部、農学部、工学部、教育学部、芸術学部、リベラルアーツ学部）一二学科で教職課程認定を受けている。平成二十六年五月の教職課程受講者は、一年生・七一六名、二年生・五五五名、三年生・五二一名、四年生・五九三名の合計・二二八五名であった。本学は通信教育課程も有しており、通信教育の学生は約四〇〇〇名で、そのほとんどが教員免許取得希望者である。このように大変多くの教職課程受講学生が教員免許取得に向けた学習を展開している。

取得できる免許状は、教育学部においては幼稚園、小学校教諭免許状と保育士資格（乳幼児発達学科のみ）、その他に中学校・高等学校教諭の社会・公民、保健体育の免許状を

取得することができる。その他の学部においては、学部教育の特徴を生かした中学校・高等学校教諭免許状を取得することが可能となっている。

また、教育学部を除く学部で教職課程（中学校・高等学校教諭免許状）を履修している学生が、本学の通信教育課程を利用することで、卒業と同時に小学校教諭二種免許状を取得できるプログラムを実施している。このプログラムにより、「理科や数学に強い小学校教諭」「英語に強い小学校教諭」など専門的知識を持った小学校教諭、あるいは「小学校教育を知る中・高等学校教諭」を社会に輩出している。

一年次からの教員養成と 教職課程受講支援プログラム

教職課程を履修する学生は、大多数が高等学校での進路決定時に「教師になりたい」

「ぜひ免許状を取得したい」と強い意志を持つ大学の選択をしている。具体的には入学時の志望動機に教員希望と書いて入学する学生が多い。しかし、教育学部および芸術学部芸術教育学科以外の学部・学科においては、教職課程の受講が一年次からはじまるところから、入学後一年間教職課程としては空白の時間を過ごすこととなる。このため当然のことながら入学時の「教職課程を履修したい」「教員になりたい」との意欲は低下するわけである。教職に就こうという大学入学時のモチベーションを持続させるには、一年次の教職課程支援が必要不可欠であり、大学四年間でのトータル的な教職課程受講支援プログラムの構築、実践が重要である。

現在本学では七〇〇名を超える学生が一年次から教職課程受講支援プログラムのもとで学んでおり、教育現場体験プログラムと教員採用試験対策プログラムとが展開されている。

各学年における教職課程受講支援プログラムの概要については次の通りである。

(1) 一年次

- ・教職の意義と基礎理論を学び、教養を身につける
- ・教職課程の受講に関する四年間の流れを理解して教員になるための動機づけを行う
- ・教職課程ガイダンスの実施、模擬試験（一般教養を中心）
- ・一日参観実習
- ・読売新聞社教職課程特別講座

(2) 二年次

- ・教科指導法の基礎を学び、実践的指導力の基礎を身につける
- ・ガイダンスの実施、模擬試験（一般教養、教職教養、教職専門）、論作文の基礎
- ・介護等体験（義務教育免許のみ）への参加、教育ボランティア、インターンシップへの積極的参加

(3) 三年次

- ・教職、教科の専門性と実践力を養い、教育現場に学ぶ
- ・教員採用試験に備える
- ・教員としての資質能力を理解し、自らの資質能力の再確認を行い、教員採用試験に向けた学修を強化する
- ・ガイダンスの実施、模擬試験（一般教養、教職教養、教職専門）論作文、面接対策
- ・教育ボランティア、インターンシップへの積極的参加
- ・教育、保育実習

(4) 四年次

- ・三年間の学習成果の確認とそれを踏まえての補完と総まとめ
- ・教員採用試験受験に向けた直前対策と教員就職までの準備
- ・教育ボランティア、インターンシップ
- ・教育、保育実習

一年次の主な教職課程支援講座の内容

- ・教職課程受講に関するガイダンス
- ・『教職を目指す学生に向けて—教員に求められる資質能力』の講話

『文章力・言語表現力を身につける—日本語検定の活用等』の講話

この講座の趣旨は、教員になる以上、正しい日本語を使う必要性を学生に理解してもらうための機会としている。この講話から、日本語検定（主催・日本語検定委員会）の受検につなげ、各自が日本語検定過去問題集等を利用して自主学習をしてもらうことをねらっているものである。

- ・夏休み課題の実施

夏期休暇中に、新聞の記事の中から関心を持った教育問題について調査・研究し、レポート（二四〇〇字程度）として提出する。あるいは、補習教室や水泳教室の補助等の体験結果を、レポート（二二〇〇字程度）にまとめて提出する。

・教養基礎力向上講座（理科・数学）

一般教養の中でも、理科・数学が苦手な学生を対象に実施しているが、特に高等学校で「物理」「化学」を履修していない学生も対象としている。演習問題を実際に解きながら、基本的事項から徹底的に取り組む講座である。これらの他、筆記試験対策講座（一般教養）、小学校講座、トライアル模擬試験などを実施している。

一般教養分野の教員採用模擬試験を受験し、現在の時点での一般教養に関する理解度の確認を行なう。

・『日本語検定』の導入

教員としての基本的な能力として、日本語能力について理解を深め、その能力の確認を行う。

一年次生への参観実習の導入

参観実習は、一年次生教職課程受講者七〇名を対象に、教育ボランティア、三年次の教育実習事前指導、四年次の教育実習に先立ち、教える立場、教師の目線から、学校の一日を体験することで、学生の教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路選択の機会を与えることを目的に実施している。

近隣の市教育委員会にお願いし、その管轄下の公立小学校・中学校で受け入れていただき、一校あたり、五〇一〇名の学生が配当され、十一月中旬（教育学部は七月）に行われる。

参観実習の実際の流れについての概略は次の通りである。

・事前指導

各受け入れ先の校長先生に本学に来校いただき、地域の特徴、教育内容、学校の特色ならびに参観実習にあたって注意すべき点について講話をを行う。

・プロフィール文書作成

学生各自で自己紹介、教職への志望動機、参観実習での課題、さらには、受け入れ校への質問内容を作成する。このプロフィール文書は引率教員の添削後に教師教育リサーチセンターより参観実習受け入れ校へまとめて送付する形をとっている。

・参観実習受け入れ校との事前打ち合わせ
学生の代表者（班長）が受け入れ校を事前

に訪問し、参観実習の事前打ち合わせを行う。なお、班長は受け入れ校との打ち合わせの内容をもとにして、参観実習計画書を作成し、引率教員ならびに班員に配布する。

・参観実習当日

参観学生は、八時に実習校に集合し、校長先生、教頭先生による学校紹介および講話終了後、児童、生徒への紹介を行い、午前中は授業参観、昼食（給食）、昼休み、午後は総括指導（質疑応答を含む）という流れで各学校において進められる。

・報告書の作成

実際の教育活動、教師の任務、児童・生徒の様子、学校の雰囲気、環境、今後この参観実習をどう生かすかなどについて記載し、プロフィールの文書作成と同様に、引率教員の添削後、教師教育リサーチセンターより受入れ校にまとめて送付する。

このような一日参観実習は、実習校、教育委員会との連携によって実現するが、四年一貫した教職課程の試みとしては、重要な要素となっている。受け入れ校からも、実習校と学生が継続したかかわりをもつきっかけとなっているとか、一年次から教職に目的をもつて取り組めるよい機会であるといった非常に良い評価を得ている。

今後の課題としては、事前指導における指導内容のさらなる検討、実習校との連携方法の検討などがあげられる。

待望の書籍化！

Kommentar

国立大学法人法
コンメンタール
National University Corporation Act



国立大学法人法制研究会 編著
A5判/710頁
定価4,935円(本体4,700円+税)

特色GPのすべて 大学教育改革の起動 (JUAA選書第14巻) 編川正吉 小笠原正明 編 A5判/464頁 4,300円(税込)	質保証時代の高等教育(下) 教育・研究編 B6判/3332頁 2,415円(税込)	大学の自律性を踏まえた国立大学法人の特殊性を中心に、基本的なロジックと国会答弁等のエビデンスを端的かつ骨太に解説。「文部科学教育通信」誌に平成二十年八月号から平成二十三年一月号まで計五五回連載されたものを、今回改めて全体的に見直し、新たに概説や参考資料等を加え、資料としての充実と便宜を図った。
データで見る 大学財政の基礎知識 3訂版 合田隆史 杉野剛 藤原誠 著 A5判/188頁 1,890円(税込)	障害学生支援入門 —誰もが輝くキャンパスを— 鳥山由子 竹田一則 編 B5判/278頁 1,700円(税込)	データで見る 大学財政の基礎知識 3訂版 合田隆史 杉野剛 藤原誠 著 A5判/188頁 1,890円(税込)
テキスト教育制度・教育法規 鳥山由子 竹田一則 編 A5判/278頁 2,310円(税込)	テキスト教育制度・教育法規 鳥山由子 竹田一則 編 B5判/278頁 2,310円(税込)	テキスト教育制度・教育法規 鳥山由子 竹田一則 編 B5判/278頁 2,310円(税込)

教員養成の質向上に向けた教職課程の全学体制による組織の運営 —教師教育リサーチセンターによる全学学生支援と研究活動の推進—

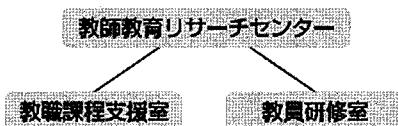
玉川大学教育学研究科教職専攻・教育学部教授
玉川大学教師教育リサーチセンター長 森山 賢一

全学教員養成を担う 教師教育リサーチセンター

教員を目指す学生の支援を担うため、二〇〇六年度から設置された教職センターを、全学体制における教員養成の充実に向けて、二〇一二年度より「教師教育リサーチセンター」に改組し、「質の高い教員養成」の実施に向けて具体的な対応に取り組んでいる。

教師教育リサーチセンター（以下、センターと表記）には、大きく分けて二つの機能がある。一つには、教職課程受講学生に関する学生支援機能で、教職課程支援室が担当している。教育実習や保育実習、介護等体験、ボランティア等や、教員、保育士希望の就職支援及びキャリアデザイン支援に関する業務を担当する。

二つ目は、教師教育・教員養成に関する研究支援機能で、教員研修室が担当している。教員養成のための「教職カリキュラム研究」「教師教育に関する研究」や近隣教育委員会、教育現場との連携による現職教員を対象とした研修会等の業務を担当する。



- ・教職課程支援室は、教育実習、保育実習、介護等体験、ボランティア等や、教員、保育士希望の就職支援及びキャリアデザイン支援に関する業務を担当
- ・教員研修室は免許状更新講習や教員養成のための「教職カリキュラム研究」「教師教育に関する研究」や近隣教育委員会、教育現場との連携による現職教員を対象とした研修会等の業務を担当

動の支援を行っている。教員研修室の主な業務としては、上記の内容をはじめとして、近隣教育委員会・学校との連携、教職課程におけるFD・SD研修、教員免許状更新講習の実施、センターが主催する「教員養成フォーラム」の企画・運営等、担当する業務は多岐にわたっている。

教職課程の学生支援

センターにおける支援業務については、教職課程の履修にかかる支援、免許状の申請業務にとどまらず、学校現場、教育委員会との連携を図りながら、教師になりたいという強い意志と情熱を持った学生を支援している。具体的には、教育実習や介護等体験、学外ボランティアや教員採用試験対策プログラム、学校現場体験プログラムの提供等における支援を行っている。これ以外のことについては、基本的には各学部・学科の責任のもとに対応してもらうという形をとっている。

全学に対応するセンターの開設は、ある面ではリスクを生じることもある。「教職に関するところでは、センターやが全部やつてくれるだろう」「センターやの仕事だから任せておけば良い」と考えられてしまう懸念があることである。また、どこまでがセンターでどこからが学部・学科かという、責任の所在があいまいになってしまうという面もある。センターを開設した当初は、学部・学科との間で“押して・引いて”という場面も見られた。

一方、双方で共有する部分というのも当然出てくる。そういう場合、学部・学科の業務を司る教学部と、センターが協働して対応していくことになる。例えば課程認定の申請などに関わって、教学部とセンターにまたがって問題が生じることもある。そういう時に気付けるのは、問題が対応されずにそのまま放っておかれてしまうことがないようになります。分掌を明確にしておくことである。それが教員に関わる問題であれば、その責任は教学部ということになるため、しかるべき対応を求めるなど、問題の一つ一つが抜け落ちることになる。そういう意味で、今、教学部とセンターの両輪で教職課程を運営しているといえる。

センターと学部・学科の関わりという点では、教育学部も他の学部と同じ。ただ、教育学部は教職課程受講者の数も非常に多く、関わり具合は相応に多いが、大前提として、教員免許を取得するということは同じであると考えている。このことは、どの学部であろうと全く差はない。例えば、教育学部で取る体育の免許と、農学部で取る理科の免許は、教

科は違つても同じ中学・高校の免許で、そこには平等に力を注がなければいけない。教員免許の取得を目指す学生をサポートするということに対して、全学の体制を整えているということは、学部・学科にかかわらず平等に対応していくとする意思表示であり、また、そのサポートが求められているからこそ、全学の体制を敷いているのだと理解している。

教職サポートルームの運営

教員・保育士を目指す学生に対するキャリア形成支援、教職指導の一役を担うため、幼稚園、保育園、小学校、中学校、高等学校での園長・校長・教育行政経験者を教員・保育士指導担当教員として迎え、教職サポートルームを構成している。教職サポートルームの教員は、教職・保育職を目指す学生たちの夢をかなえるための相談、支援にあたる。具体的には、センターや各学部・学科の教職担当教員と連絡調整をしながら、教育実習に関する指導、教員・保育士採用候補者選考試験対策の企画・講師等を担当する。

教職課程受講学生は、センターで取り揃えられた教科書・指導書や教職に関する参考書等が自由に閲覧できるだけでなく、模擬授業や共同討議等ができるスペース（センターで運営）を利用して、教職サポートルーム教員の指導を受けながら実践的指導力を身につけていく。

センターを中心に全学教職課程を運営

教職課程のカリキュラムは、教学部とセンターの協働のもとで検討・構築されている。このため教職や教職課程カリキュラム等に関する事項を審議する「教職課程委員会」構成員

には、双方の教員、職員が含まれている。例えば教職課程に新しい科目が必要ではないか、あるいは教務委員会で議論がなされたうえで、学則改正を行うという仕組みになっている。最近では教職実践演習が新たに開設されたが、これはセンターが中心となって、全学共通に開設していくという方向で検討がなされた。全学共通シラバス、授業運営はセンターを中心へ動かし、教学部が運動して学部・学科専門科目との整合性をはかった。学部・学科から授業内容や教員構成に対して意見がある場合、教職課程委員会で議論されることになっている。

本学では、教職課程の履修カルテも全学共通としている。また、教職に関する科目は授業もシラバスも全学共通のため、そこでの議論や連絡事項は、月一回の教職課程担当者連絡会で、それぞれの学部・学科から意見を持ち寄り、あくまでも共通という形の中で確認が行われるようになっている。教職実践演習のようない新たな課題が出た時は、教職課程委員会の下にワーキンググループを作つて、頻繁に意見交換を行い、教職課程担当者連絡会と調整しながら、最終的に教職課程委員会で承認を得るという仕組みになっている。それぞの学部・学科の意見はそこで反映されため、新しい制度が始まつたと同時に、それに対して学部・学科側から大きな課題や問題が生じるといったことは少なくなっている。

この体制は今のところ、教職課程委員会の委員の先生方のご協力や、熱心な取り組みのおかげで、非常に円滑に進んでいると判断している。こういった仕組みがうまく機能する

まで何年かかかったが、センターとそれぞれの学部・学科との間で、それなりの合意形成できる仕組みを構築することができたと考えている。

学内全体で教職課程の質を担保

教職課程は、教職に関する科目と教科に関する科目で大きく成り立っている。一つ一つの授業の質を担保するとともに、日指す教師のものもとにそれぞれの授業が構成されていいと教職課程の質は向上しない。教職に関する科目は全学共通で、多くは教育学部が開設しているが、教科に関する科目は基本的にそれぞれの学部・学科の開設科目となっている。教職課程の質を維持向上させるため、本学では、教職課程科目については全学でシラバスチェックが行われている。教職に関する科目、教科に関する科目はセンターが確認する。それぞれ最終的な審査を通るまでは、担当教員に書き直しをしていただくようお願いをしている。

教職課程の質の担保に、大学としてどうかかわるかということを考えた時、どれをどこが確認するということを明確にしておくことは大変重要なこととらえている。

教師教育、教員養成に関する研究の推進

センターの特徴的な機能である研究活動の推進では、下記のような活動を中心として、教員研修室が教師教育・教員養成に関する研究活動の推進を支援している。

- 教員免許更新講習
- 本学では、全人教育を理念とする教員養成の実績と、多くの教員を輩出していることか

ら、二〇〇九年度より教員免許更新講習を実施している。また、今後は教員免許更新制度の改善に係る検討会議が提示した「教員免許更新制度の改善について（報告）」の内容に基づいて、改善すべく検討する予定である。

- 年報・紀要の発行

大学教員の研究実績を高める必要性、また今後の教師教育研究の質向上のため、二〇一一年度より年報を発行している。特別寄稿をはじめ、論説、論文、実践報告、各種データ、ならびに学生からの実習体験記を掲載したものを作成し、教職課程を有する私立大学はじめ連携教育委員会等の関係教育機関に配布している。

・学内向け「教員養成FD・SD研修」の実施

教員養成大学として、教員・職員に向けて教員養成に伴う最新の動向等を共有すべく、教員養成FD・SD研修を実施している。

- 教育委員会との連携

近隣教育委員会と連携協定を結び、教育ボランティア、インターンシップをはじめ、参観実習、教育実習等で学生がお世話になることが多くある一方で、大学教員が学校現場へ向向き、授業や講演を行うこと、教育委員会の研修に大学側が全面的に協力もしている。今後は、学び続ける教員の支援のため、大学の知を活用した現場研修の充実を図る必要があり、本学では、継続的に教員の資質能力向上を実現する仕組みを構築するため、教育委員会とのさらなる連携・協働を深めていきたと考えている。

・文部科学省委託事業

平成二十五年度は、「平成二十五年度教員の資質能力の向上に係る先導的取組事業」

「平成二十五年度免許更新制度高度化のための調査研究事業」の二件に採択され、その研究成果を報告書として発行した。平成二十六年度度も、「平成二十六年度総合的な教師力向上のための調査研究事業」「平成二十六年度免許更新制度高度化のための調査研究事業」の二件が採択された。

・「教員養成フォーラム」の企画・運営

二〇一三年度は「期待される教師と今後の教員養成」、二〇一四年度は「これからの教員に求められる資質能力と今後の教員養成」をテーマとし、講演、シンポジウムを実施した。

今後の課題

教師教育リサーチセンターは、「質の高い教員養成」の実現に向けた全学的組織として、教職課程を受講する全学の学生支援と、教師教育、教員養成に関する研究活動の推進に取り組んでいる。全体の概要是前述のとおりで、様々な課題も発生しており、一つ一つ学内外の協力体制を整えながら対応している。

今後の課題として、

- ①教職課程受講学生に対する支援プログラムや体制の効果・有効性の検証
- ②組織体制や活動内容に関する課題の抽出と協力体制を整えながら対応している。
- ③研究活動成績の学生支援への活用方法

これらの課題を解決していくことが、「質の高い教員養成」の実現のためには、必要不可欠ではないかと考えている。



資料1－2－2

令和6年4月16日
第1回教職課程委員会

教職関連科目担当教員の業績確認について

教師教育リサーチセンター

教職関連科目については、2019（平成 31）年度の再課程認定以降の課程認定申請で承認を得た教員にご担当いただくことを原則としております。

やむを得ず、上記以外の教員が科目を担当する場合には、教師教育リサーチセンター教職支援室課長宛に下記の申請をしていただきたく存じます。

学内審査基準に基づき確認し、教師教育リサーチセンター長の許可を得た上で回答いたします。回答までには1週間程度の期間を頂戴したく存じます。

記

「教職関連科目担当に伴う確認依頼書」を提出。その際には該当教員の履歴書、研究業績書、担当希望科目のシラバスを添付のこと。メールによる送付を可とする。

●新任教員の場合（専任・兼担・兼任すべて）

教務主任もしくは学科主任より、学内審査基準を満たしているかをご確認のうえ、上記の方法で申請してください。

学内審査にて許可を得た場合、専任教員については、年度末に文部科学省へ課程認定変更届の提出が必要になります。

●専任教員の場合（新任を除く）

教務主任・学科主任もしくは授業運営課長名で授業運営課各学部担当者より、学内審査基準を満たしているかをご確認のうえ、上記の方法で申請してください。

学内審査にて許可を得た場合には、年度末に文部科学省へ課程認定変更届の提出が必要になります。

●兼担教員、兼任教員の場合（新任を除く）

教務主任・学科主任もしくは授業運営課長名で授業運営課各学部担当者より、学内審査基準を満たしているかをご確認のうえ、上記の方法で申請してください。

課程認定変更届の提出が省略されるため、学内審査のみとなります。

【学内審査基準】

課程認定における研究業績の審査に準じて、以下の要件を満たしていると判断した場合に、教職関連科目担当者として許可をする。

ただし、専任教員の場合は文部科学省へ課程認定変更届を提出し、指摘を受けないことが条件となる。

基 準

- ① 直近 10 年以内の著書・学術論文等の活字業績が当該科目に対して複数あること
- ② 対象となる活字業績は、「当該科目のシラバスで掲げられている内容に関連していること」および「学習指導要領で示された内容が含まれていること」を原則とする
- ③ 実務家教員の場合は、上記①②の基準をふまえながら、学術論文に限らず、当該科目のシラバスに関連する活字業績が複数あることをもって可とする

※担当教員を増員（変更）する場合には、適切な業績を有する者であるかどうかを確認することが重要である。その他、変更内容について大学が責任をもって確認し、変更の届出を行うこと（[「手引き」<別冊>Q & A-96、p. 39](#)）

※職務上の実績を有している場合であっても、活字の業績が一切ない場合は、当該科目を担当するためには十分な能力を有する者であると認められない（[「手引き」<別冊>Q & A-110、p. 40](#)）

※活字業績について、定量的な基準は設けられていない（[「手引き」<別冊>Q & A-100、p. 39](#)）

※（あくまで目安であるが）活字の総執筆分量が一桁ページの場合は、業績追加の指摘がなされる可能性が非常に高いため、留意いただきたい。（[「手引き」<別冊>Q & A-99、p. 39](#)）

※「直近 10 年以内」は、授業担当年度の前年度を起算とする（例・令和 7 年度担当の場合は平成 28 年～令和 6 年）

※「実務家教員」の要件は、「専攻分野における 5 年以上の実務経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者」（専門職大学院に関し必要な事項について定める件 平成 15 年 3 月 31 日文部科学省告示第 53 号）

「教職専任教員」（[「手引き」<本体>p. 150 「教職課程認定基準 3\(7\)」](#)）

認定を受けようとする課程には、以下の事項を満たす教職専任教員を置くものとする。

- ① 専ら当該課程を有する学科等の教育研究に従事する者
- ② 当該学科等の教職課程の授業を担当する者
- ③ 当該学科等の教職課程の編成に参画
- ④ 当該学科等の学生の教職指導を担当

「兼任教員」

当該学部または他学部の他免許種教職関連科目を担当する専任教員

「教職専任教員」は下記①～③のいずれかでのみ扱える。

- ① 「領域に関する専門的事項」
- ② 「教科に関する専門的事項」
- ③ 「保育内容の指導法」、「各教科の指導法」、「教育の基礎的理解に関する科目」等

「兼任教員」……非常勤教員

※「手引き」＝「教職課程認定申請の手引き」（[令和 7 年度開設用](#)）

資料1－2－3

日付：令和6年6月4日

○玉川大学教授会等運営規程

平成14年4月1日制定

改正

平成15年4月1日
平成16年4月1日
平成17年4月1日
平成18年4月1日
平成19年4月1日
平成20年4月1日
平成21年4月1日
平成22年4月1日
平成23年4月1日
平成24年4月1日
平成25年4月1日
平成26年4月1日
平成27年4月1日
平成28年4月1日
平成28年7月29日
平成29年4月1日
平成30年4月1日
平成31年4月1日
令和2年4月1日
令和3年4月1日
令和4年4月1日
令和5年4月1日

玉川大学教授会等運営規程

(目的)

第1条 玉川大学学則（以下「本大学学則」という。）第44条第7項並びに第46条に規定する玉川大学教授会（以下「教授会」という。）の運営について、学校法人玉川学園会議等運営規程のほか、本規程に定める。

(会議)

第2条 教授会は毎月これを開会する。

2 教授会の議長は、学部長がこれに当たる。

3 教授会は、特に定めのある場合を除き、構成員の過半数の出席をもって成立する。

4 教授会に係る事務主管は教学部とする。

(審議事項)

第3条 本大学学則第44条第5項及び第6項の審議並びに第7項の運営については、次の各号による。

- (1) 学部長が必要と認めた場合には、学科ごとに審議し、学部教授会の意見とすることができる。
- (2) 本大学学則第44条第5項第1号の「入学者の決定」については、学長が委嘱した各学部入学試験判定会議において審議し、学長がこれを決定する。
- (3) 学長又は学部長は、前号の決定を学部教授会に報告するものとする。
- (4) 教員の任用、昇格にあたっての教員資格審査については、予め学長が委嘱した教員資格審査委員会で審議し、学長が決定する。

(審議事項の報告)

第4条 教授会の審議の結果は、学科主任等により、必要に応じ速やかに各学科に報告するものとする。

(各委員会)

第5条 本大学学則第46条に基づき、教務委員会、教職課程委員会、学生委員会、入学試験運営委員

会、課外活動支援委員会、キャリア・就職指導委員会、F D 委員会、大学学事運営委員会、国際教育推進委員会、インターンシップ委員会、E L F 運営委員会、及び I R 委員会を置く。また、教育学部には、通信教育課程入学選考委員会を置く。

2 各委員会の委員は、毎年度当初、学部長等が各学科主任等の意見を徴し、学長に推薦し、学長が任命する。

3 委員会は、学長の諮詢に答え、審議の結果を答申する。また、委員会は、必要な事項を審議し、大学部長会に建議又は学長に上申することができる。

(教職課程委員会)

第7条 教職課程委員会は、教師教育リサーチセンター長を委員長とし、各学部の教職担当及び事務担当をもって構成する。

2 委員長が必要と認めたときは、本委員会に前項以外の教職員を出席させることができる。

3 教職課程委員会は、次の事項を審議する。

- (1) 教職に関する事項
- (2) 教職課程に関する事項
- (3) 教職課程のカリキュラムに関する事項
- (4) 教育職員免許状・保育士資格、その他の資格に関する事項
- (5) その他本委員会に属する事項

4 教職課程委員会は、委員長が招集し開催する。

5 教職課程委員会は、原則として毎月開催する。

6 事務主管は教師教育リサーチセンターとする。

令和 6 年度
ファカルティ・ディベロップメント活動報告書

玉 川 大 学
大学 FD 委員会
大学院 FD 委員会

3. 教師教育リサーチセンターの活動

1 教職課程 FD・SD 活動への取組理念・目標

本センターは、大学における教職課程の運営を目的とし、大学附置機関として設置された。主な業務内容には、「教職課程における学生支援」と「教職に関する研究活動支援」がある。研究活動支援のひとつとして教員養成における教職課程 FD・SD 研修があり、教員養成の質を向上させることを理念・目標としている。

2 教師教育リサーチセンターにおける教職課程 FD・SD 活動の組織構成と役割

センター長、課長及びリサーチフェローを中心に教職課程 FD・SD 活動を計画し、課長補佐以下職員で研修会開催の実務を担当している。

3 令和 6 年度の活動内容

(1) 教師教育フォーラム

① 概要（目的を含む）

『教員不足解消のための教員確保と大学の教員養成改革』をテーマとして取りあげ、実施した。

令和 6 年 6 月 17 日の中央教育審議会初等中等教育分科会では、教師不足の現状と対応策が報告された。東京都内の公立小学校では、令和 6 年 4 月 7 日時点で約 20 人の教員が不足している。この問題に対処するため、教員採用試験の早期化（3 年生でも受験可能）、複数回実施などが検討されている。また、特定分野に強みを持つ人材を採用するため、教職課程の法改正や専科指導優先の教員養成特例も実施されている。さらに、教職大学院修了生に対して奨学金返還免除措置が提供されるなど、様々な支援が行われている。

今回の教師教育フォーラムでは、教員不足に関する現状や課題を文部科学省、教育委員会、教育現場、教員養成大学の各視点から共有し、今後の取り組みの方向性を議論した。各自治体の報告から、講演者、出席者がともに考える機会として計画した。

② 到達目標

学内外より 200 名以上の出席者を集客することを目標に掲げた。

③ 活動内容

日時：令和 6 年 10 月 19 日（土）9：30～15：30

於：大学教育棟 2014 よりオンライン（Zoom）配信

テーマ：教員不足解消のための教員確保と大学の教員養成改革

【プログラム】

午前の部

○開会挨拶（5 分） 小原 一仁 玉川大学学長

○講演 (40分)

教員確保に関する文部科学省の施策と大学教員養成への期待

文部科学省総合教育政策局 教育人材政策課長 後藤 教至 氏

○ショートレクチャー (10分) 全国私立大学教職課程協会会長 小原 芳明 教授

○シンポジウム (90分) 教員確保の現状と課題

・東京都の取り組み (15分) 東京都教育庁 人事部主任管理主事 金木 圭一氏

・神奈川県の取り組み (15分) 神奈川県教育委員会 副局長 羽鹿 直樹 氏

・横浜市の取り組み (15分) 横浜市教育委員会 教育次長 石川 隆一 氏

・教員不足をふまえた大学の教員養成改革の課題 (15分)

玉川大学教師教育リサーチセンター リサーチフェロー 森山 賢一 教授

【コーディネーター】玉川大学教師教育リサーチセンター 笠原 陽子 客員教授

午後の部

○分科会：教職大学院 13:00～15:30

・国語科教育：学びが活性化する言語活動&話し合い

『教育科学国語教育』グループ連載を受けて

玉川大学教職大学院 松本 修 教授

・学びの保障：誰一人取り残さない「教育」とは

—「生きる力」に繋がる学びの保障について考える—

玉川大学教職大学院 今井 勉 教授

・英語科教育：生徒が主体的に取り組む英語の授業について考える

～5ラウンドシステムの英語授業の実践から～

玉川大学教職大学院 西村 秀之 准教授

④ 評価

テーマに基づき文部科学省よりご講演いただき、シンポジウムでは、東京都教育長人事部、神奈川県教育委員会教育局、横浜市教育委員会、教員養成大学それぞれの立場からの報告をもとに、意見交換がされた。

午後の部では、本学の教職大学院担当者を中心に分科会を実施し、3つのテーマに分かれて発表を行い、意見を交換した。

また、遠方からの参加者の利便性なども鑑みて、開催方法は、全体会を引き続きオンライン形式、分科会を対面およびオンライン形式（※分科会による）の併用とした。成果として、近隣地域のみならず幅広い地域の現職教員等学校関係者、教員養成に携わる大学教職員、教員志望学生、教育研究者、教育委員会関係者等、教育に携わる方々に参加していただくことができた。

会としては延べ120名の参加者を迎えて、盛会のうちに終了した。

(2) 令和 6 年度教職課程 FD・SD 研修会（大学教育力研修分科会）

① 概要（目的を含む）

本学では、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」（令和 4 年 12 月 19 日付）にて提言された「理論と実践の往還を重視した教職課程への転換」に基づき、教育実習等の在り方の見直し、特別支援教育の充実に資する学校現場体験の充実、「介護等の体験」の活用の具現化を実施するカリキュラムを、令和 6 年度より開始した。

実施にあたっては、多くの自治体・学校に学生の現場実習の機会をいただいた。新たなこの取り組みにより、どのような状況が生まれたのか。今年度より開始した「学校体験活動 A」「介護等体験」の意義と課題について、建設的な意見交換をする場として、実施初年度を振り返りたいと考え本研修を計画した。今年度より、教学部主催の大学教育力研修の分科会のひとつとして取り扱ってもらうように協力をしていただき、更なる参加者増を目指した。

② 到達目標

本取り組みが年を重ねるごとに教員養成と学校現場にとって Win-Win になるために、どのような修正をしていけばよいか。学校と大学で共に教員養成を考える機会とする。

③ 活動内容

日 時：令和 7 年 2 月 21 日（金）13：30～15：30

場 所：大学教育棟 2014 605 教室

テーマ：新たな取り組み「学校体験活動 A」「介護等体験」の初年度振り返り

高橋 博幸 氏（町田市立忠生中学校 校長）

木村 典明 氏（横浜市立釜利谷中学校 校長）

辰口 直美 氏（川崎市立玉川小学校 校長）

沼澤 俊宏 氏（相模原市立藤野北小学校 校長）

対 象：大学教員、事務職員

内 容（目的）：各自治体（学校）の長より、実際の受け入れ状況をご報告いただくことで、今年度より開始した「学校体験活動 A」「介護等体験」の取り組みについて、受け入れ側からの視点を得て今後の指導に生かす。

④ 評価

学内教職員より約 54 名が参加した。「学校体験活動 A」および「介護等体験」の取り組みについて、各自治体（学校）の長から実際の受け入れ状況を直接伺うことで、現状を確認し、教員養成大学として今後の教育活動の改善意識を高める機会となった。

4 昨年度（令和 5 年度）に提案された予定・課題の達成度について

令和 6 年度は「教師教育フォーラム」及び「教職課程 FD・SD 研修会」各 1 回を計画し、

開催した。計画通り実施することができ、それぞれの目標を達成することができた。

5 今後（令和7年度以降）の予定・課題について

「教師教育フォーラム」及び「教職課程 FD・SD 研修会」（大学教育力研修分科会）を計画している。

教師教育フォーラム

教員不足解消のための
教員確保と大学の教員養成改革

オンライン
配信
事前申し込み制
参加費無料



2024年10月19日土
9:30～15:30

午前の部は「教員不足解消のための教員確保と大学の教員養成改革」をテーマに掲げ、講演者に様々なお立場からご報告いただきます。

午後の部は教職大学院分科会を行います。それぞれの専門分野について情報共有、意見交換をしていただきます。

社会の変化に伴い、学校教育も大きく変化している中で、教員不足解消に向けた様々な取り組みについて、みなさまと共に考える機会にしたいと考えております。

申込締切
10月15日(火)
23時59分

お申し込みは
こちら▶



<https://forms.gle/DpH6UuTgehB1rECc8>

後援

町田市教育委員会、稲城市教育委員会、神奈川県教育委員会、
横浜市教育委員会、川崎市教育委員会、相模原市教育委員会、
時事通信出版局、日本語検定委員会、玉川学園 K-12

プログラム

9:30～12:15 教師教育フォーラム

●開会挨拶 小原 一仁 学長

●講演

教員確保に関する文部科学省の施策と大学教員養成への期待
後藤 教至 氏 (文部科学省総合教育政策局 教育人材政策課長)

●ショートレクチャー 小原 芳明 理事長 (全国私立大学教職課程協会会長)

●シンポジウム

東京都の教員確保及び育成に向けた取組
金木 圭一 氏 (東京都教育庁 人事部主任管理主事)

神奈川県の取り組み

羽鹿 直樹 氏 (神奈川県教育委員会教育局 副局長)

横浜市の取り組み

石川 隆一 氏 (横浜市教育委員会 教育次長)

教員不足をふまえた大学の教員養成改革の課題

森山 賢一 (玉川大学教師教育リサーチセンター リサーチフェロー)

【コーディネーター】

笠原 陽子 (玉川大学教師教育リサーチセンター 客員教授)

13:00～15:30 教職大学院 分科会

●国語科教育 ●英語科教育 ●学びの保障 詳細は裏面をご覧ください。

問い合わせ先

玉川大学教師教育リサーチセンター

〒194-8610 東京都町田市玉川学園 6-1-1

TEL: 042-739-7097 FAX: 042-739-8857

e-mail: t-kenshu@tamagawa.ac.jp HP: www.tamagawa.jp

分科会テーマ

国語科教育

対面+オンライン形式

学びが活性化する言語活動＆話し合い『教育科学国語教育』グループ連載を受けて

現在進行中の「教育科学国語教育」(明治図書)におけるグループでの連載において、どのような発信がなされているかを概観とともに、執筆者による解説を聞いた上で、参加者と討議し、国語科の学習における「言語活動」や「話し合い」の位置づけについて検討する。

ゲストスピーカー

橋本 祐樹 氏 (対面) (修了生・世田谷区立等々力小学校主任教諭)
大村 幸子 氏 (対面) (修了生・お茶の水女子大学附属小学校教諭)
渡辺 優菊 氏 (対面) (修了生・府中市立白糸台小学校教諭)
井上 功太郎 氏 (オンライン) (美作大学専任講師) 連載編集担当
佐藤 多佳子 氏 (オンライン) (上越教育大学教職大学院教授) 連載編集担当

担当教員 松本 修 (玉川大学教職大学院教授)

英語科教育

対面+オンライン形式

生徒が主体的に取り組む英語の授業について考える～5ラウンドシステムの英語授業の実践から～

英語教育では、小学校3年生から外国語活動が始まり、5年生からは教科としての外国語が始まっている。また中学校においては、どの教科の時数よりも3年間の総時数が一番多くなっている。しかし、令和5年度に行われた全国学力学習状況調査の英語の正答率は思わしくなく、また興味関心を問う質問に対する回答の肯定的回答の割合も下がっている。改めて英語の授業についてどのような改善が必要なのか、ということを生徒の活動が授業の大半を占める5ラウンドシステムの授業実践を基に、考えていきたい。

ゲストスピーカー

土屋 雅徳 氏 (川崎市立有馬中学校)
山本 丁友 氏 (横浜市立本牧中学校)

担当教員 西村 秀之 (玉川大学教職大学院准教授)

学びの保障

オンライン形式

誰一人取り残さない「教育」とは ～「生きる力」に繋がる学びの保障について考える～

不登校児童生徒数が小・中・高を合わせて約30万人に上り過去最高となっていることを受け文部科学省が取りまとめた「誰一人取り残さない学びの保障」に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」の中では「児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える」とされているが、学校教育以外の場で保障される「学び」の具体については示されていない。限られた資源や時間の中で、一人一人の子どもたちがその後の人生を豊かに暮らしていくために必要な学びとは何か。実際に不登校を経験した若者の生の声を軸にして、NPOや行政・学校等周囲の関係者とともに「生きる力」に繋がる学びの保障について考える。

ゲストスピーカー

大神田 佑雅 氏 (西門ホットスペース Colore メンバー)
霜田 直道 氏 (Colore メンバー兼勉強会ボランティア)
河村 香織 氏 (Colore 保護者ボランティア)
雨宮 健一郎 氏 (NPO 法人文化学習協同ネットワーク相模原エリア事業部統括)
古屋 礼史 氏 (相模原市中学校長会長 相模原市立大野北中学校校長)
折原 奈帆 氏 (相模原市青少年相談センター所長)
丸岡 智美 氏 (相模原市青少年相談センター指導主事)

担当教員 今井 勉 (玉川大学教職大学院教授)

講演者プロフィール

後藤 敦至

文部科学省総合教育政策局教育人材政策課長。

平成12年4月文部省入省、初等中等教育局、高等教育局、スポーツ庁等で勤務。その後、宮城県教育委員会、内閣官房教育再生実行会議担当室へ出向。その後、令和元年9月高等教育局国立大学法人支援課企画官、令和3年8月初等中等教育局企画官、令和4年8月文部科学広報官等を経て、令和5年2月より現職。

羽鹿 直樹

神奈川県教育委員会教育局副局長。

平成元年4月神奈川県庁入庁。県土整備局、県民局、総務局、環境農政局等で勤務。その後、令和3年4月教育局参事兼教職員人事課長を経て、令和5年6月より現職。

森山 賢一

玉川大学教育学研究科教授、教師教育リサーチセンターリサーチフェロー。

専門は教育内容・方法学、教師教育学。特に教育の理論と実践との結合を目指すことによって、教育実践に関する研究水準の向上に取り組む。町田市教育委員、第9期～第12期中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会委員、教育実践学会会長、日本感性教育学会会長等を務める。

金木 圭一

東京都教育庁人事部主任管理主事。

東京都公立小学校教諭・主幹として3校で勤務。江戸川区教育委員会指導室指導主事、練馬区立小学校副校長、練馬区教育委員会教育振興部教育指導課統括指導主事・副参事、町田市教育委員会指導室長兼指導課長を経て、令和2年度より東京都教育庁人事部職員課主任管理主事、令和4年度より現職。

石川 隆一

横浜市教育委員会教育次長。よこはま教師塾「アイ・カレッジ」塾長。

横浜市立小学校教諭、文部科学省研修派遣、横浜市教育委員会事務局教育政策推進室指導主事、指導主事室主任指導主事、横浜市立小学校長、横浜市教育委員会事務局小中学校企画課長、学校教育企画部長(横浜市教育センター所長兼務)等を経て、令和6年度より現職。

笠原 陽子

玉川大学教師教育リサーチセンター客員教授。

独立行政法人教職員支援機構 玉川大学センター 担当。

玉川大学大学院教育学研究科教職大学院教授、神奈川県内の小中学校教諭、中学校長を務め、神奈川県教育委員会子ども教育支援課長、支援部長、教育参事監、教育監、顧問を歴任。現在、神奈川県教育委員会教育委員を務める。

資料1－2－6

令和6年12月17日
大学部長会・大学院研究科長会

令和6年度 大学教育力研修 実施計画

開催日 令和7年2月21日（金）

目的 授業の内容及び方法の改善を図り教員個々の教育研究活動等のより一層の充実を目指すとともに、本学の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させることを目指す。

実施方法 基調講演：対面（本学の遠隔地勤務の教職員、連携協定校はハイブリッド）
分科会：対面（①～③）およびハイブリッド（④・⑤）

対象 本学の専任教員（特任を含む教授・准教授・講師・助教・助手・研究員、
技術指導員、新採用予定専任教員）および非常勤教員
高等教育附置機関および高等教育支援機関の教職員
初等中等教育機関および初等中等教育附置機関の教職員
連携協定校の教職員

内容 10:00～12:00

基調講演（SD）「AI時代の大学教育」

【概要】

大学教育の現場に大きな影響を与えており ChatGPT をはじめとする生成 AI などを利用したこれからの大学の授業、カリキュラム、学びのあり方について理解を深める。

【講師】※略歴別紙

中井 俊樹 氏（愛媛大学教育・学生支援機構教授）

佐藤 浩章 氏（東京大学大学総合教育研究センター教授）

【プログラム】

1. 開会挨拶・趣旨説明 [5分] 伊従記章教学部長・FD委員長

2. 本学における生成AIの教育利用の現状 [15分]

倉見昇一 ICT 教育研究センター長・教授

3. AI時代の学習と大学教育※1

[25分] 中井俊樹 氏

4. 大学教育の未来予測※2

[25分] 佐藤浩章 氏

5. 討論及び質疑応答

[40分]

中井俊樹 氏

佐藤浩章 氏

司会：倉見昇一 ICT 教育研究センター長・教授

6. 閉会（教務課事務連絡） [5分]

【会場】

大学教育棟 2014 521教室

※1 概要

AIなどのデジタル技術の発展は社会に大きな影響を与えています。大学がこれらのデジタル技術を効果的に活用することができれば、学生の学習をより豊かにすることができるでしょう。一方で、デジタル技術が進展する社会に対応する教育のあり方も大学が検討すべき課題と言えます。本話題提供では、AIやデジタル技術が学生の学習に与える影響を踏まえて、大学がどのようなカリキュラムや学生支援を提供できるのかを考えるための論点を紹介します。

※2 概要

2020年のCOVID-19の世界的流行、2022年のChatGPTの世界的利用者増を経て、大学教育は新たなステージに入っている。これらの動きが大学教育、大学教員、学生の学びにどのようなインパクトを与えるのかを予測したい。

13:30~15:30

分科会 (FD)

【分科会①: 対面】

【テーマ】教育資源としての玉川キャンパス： 労作教育を問い直す

【概要】玉川学園のキャンパスは、それ自体が玉川教育の実践活動約100年の歴史の成果です。本研修では、まず前半で学内全域のフィールド・ツアーアを実施し、それを通して全人教育の方法原理としての労作の意味と意義を考えるとともに、後半のグループワークでキャンパス環境の教材としての可能性を、参加者各位の所属学部学科の特性に応じて検討してもらいます。

※令和5年度に実施した内容と同じになります。

【講師】今尾 佳生（全人教育研究センター長・教育学部教育学科教授）

【分科会②: 対面】

【テーマ】教職課程 WS～新たな取り組み「学校体験活動A」「介護等体験」の初年度振り返り～

【対象】教職課程をもつ学科所属の教職担当教員ほか教員養成に関心のある教職員
原則、教職担当教員はご参加ください。ただし、教職担当教員が参加できない場合は、学部内で情報共有ができるように参加者をご調整ください。

【概要】本学では、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～」答申（令和4年12月19日付け）にて提言された「理論と実践の往還を重視した教職課程への転換」に基づき、教育実習等の在り方の見直し、特別支援教育の充実に資する学校現場体験の充実、「介護等の体験」の活用の具現化を実施するカリキュラムを、令和6年度より開始いたしました。今年度より開始した「学校体験活動A」「介護等体験」の意義と課題について、建設的な意見交換をする場として、実施初年度を振り返りたく存じます。

【講師】高橋 博幸 氏（町田市立忠生中学校 校長）

木村 典明 氏（横浜市立釜利谷中学校 校長）

辰口 直美 氏（川崎市立玉川小学校 校長）

沼澤 俊宏 氏（相模原市立藤野北小学校 校長）

【分科会③: 対面】

【テーマ】学生の主体的な学びを促進する授業設計ワークショップ

【対象】本学専任の実務家教員および講師

【必須】実務家教員のうち前職を含めて大学での教授経験が5年以内の教員

【任意】上記以外の実務家教員および講師

【概要】本プログラムでは、学生の主体的な学びを促進する授業設計について学ぶことを主目的としています。ご自身の授業に関する事前課題に取り組んで頂くことを前提に、講義とワーク、詳細シラバス・授業外学習課題・フィードバックの実例を見ること、参加者同士の意見交換を行なながら進めていきます。参加者のみなさんがアイデアを持ち寄ることで、自身の授業における課題解決のヒントや、今後の新しい実践のヒントが見つかることを期待しています。

【講師】榎原 暉久 氏（芝浦工業大学教育イノベーション推進センター長・教授）

〔分科会④：ハイブリッド〕

授業の事例報告（グループ1）

1. 秋保 亘（文学部国語教育学科講師）
2. 神谷 渉（経営学部国際経営学科教授）
3. 仁藤 喜久子（教育学部乳幼児発達学科准教授）
4. コーテ, トラヴィス（観光学部観光学科教授）
5. 茂木 悠太（ELFセンター講師）

〔分科会⑤：ハイブリッド〕

授業の事例報告（グループ2）

1. 石川 晃士（農学部環境農学科教授）
2. 佐藤 健治（工学部マネジメントサイエンス学科教授）
3. 栗田 絵莉子（芸術学部アート・デザイン学科講師）
4. 加茂 フミヨシ（リベラルアーツ学部リベラルアーツ学科講師）

その他

- ・専任教員は、基調講演（SD）・分科会（FD）ともに全員必ずご参加ください。
なお助手および研究員、技術指導員等については、分科会は任意参加とします。
- ・職員については、基調講演・分科会ともに任意参加とします。
- ・非常勤教員は、基調講演のみ任意参加とし、分科会は対象外とします。

以上

教職 I R データブック

2018-2023



玉川大学教師教育リサーチセンター

目 次

教職IR、さらに先へ	1
1 教職課程受講者	2
2 教員就職	15
3 教員採用試験	23
4 教員免許取得	61
5 ダブル免許プログラム	73
6 教育実習	84
7 参観実習	104
8 介護等体験	119
9 教職講座	124
10 教員研修	138
おわりに	143

アドミッション・ポリシー

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)を読んで、入学までに備えておくべき力を確認しましょう。

4年間で何をどのように学ぶか、
何を身に付けて卒業するかはこちら

3つのポリシー

玉川大学は創立者小原國芳が、人間を「生まれながらにして唯一無二の個性を持つつも、万人共通の世界をも有する存在」であると定義した人間像を実現させることを使命とし、日本社会および世界へ貢献する意欲を持った人材を養成することを目指しています。そのためには知識と技術を高め、健康な身体を育み、そして倫理観を備えなければなりません。このような観点から、本学では高等学校まで培う「生きる力」の修得を重視します。どのような状況にあっても、自ら課題を見出し、考え、判断し、行動できる力を有することは、変化の激しい社会を担う人材として必要不可欠です。本学ではそのような力を「学士力」として教育目標に据えています。

本学の教育理念、教育目標を理解するとともに、人材育成の方針に共感し、主体的に学修に取り組む姿勢を持った者の入学を望みます。入学者の受け入れについては、以下に掲げる点に留意して多様な選抜方法を実施します。

1. 高等学校で学習する各教科を単に履修したという事実に終わらせることなく、履修した教科内容を確実に修得していることを重視します。
2. 学校推薦型選抜・総合型選抜で本学への入学を希望する者は、高校での学習成績の状況だけでなく、各種資格・検定試験等で、高校生としての最低水準を示す等級、レベルや点数を併せて取得していることを評価の対象とします。
3. 志望学部・学科で学ぶ明瞭な目的意識(将来計画)や意欲があることを重視します。
4. クラブ活動やボランティア活動、科学オリンピックや各種大会・コンクールの成績、留学や海外活動の経験、生徒会活動の状況など高等学校内外における諸活動を重視し、多面的・総合的に評価します。

※「生きる力」: 基礎・基本を確実に身に付け、いかに社会が変化しようと、自ら課題を見つける自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力。自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心などの豊かな人間性。たましく生きるための健康や体力。

教育学部

教育学部のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーに基づき、入学者受け入れ方針を以下に明示する。

① 望む学生像について

- ・ 本学創立の理念である全人教育の理念について興味・関心を持つ人
- ・ 人間としての基本的な規範意識(モラル)を有する人
- ・ 人間の尊厳を大切にし、教育・保育について関心を持ち、それらの職への強い使命感や志のある人
- ・ 子どもの積極的なかかわりから、教育・保育への理解を深めることができる人
- ・ 専門的知識や教育的技術を獲得するために主体的、自発的に学ぶことができる人
- ・ 芸術活動などを通して育まれる創造性や環境に対する感性を磨くことができる人
- ・ 豊かな教養と国際感覚を身に付け、社会の発展に積極的に貢献することができる人

② 高等学校における学習について

- 通信教育課程では、学歴の多様性に対応し、また生涯学習に向けての出発点であることを踏まえ、特に教科、科目を定めるものではないが、教員や社会人の育成にあたり幅広い教養と基礎学力・諸経験を身に付けていることを求めている。このため、入学するまでに教育学に関する基礎的な学習を満遍なく行っておくことが望まれる。

③ 乳幼児発達学科

- ① 望む学生像について

- ・ 人間の発達や育ちに興味・関心を持ち、教職・保育職への強い志や使命感を持つ人
- ・ 理論と実践の両面から教育・保育・児童福祉について理解を深めることができる人
- ・ 教員・保育士などを目指し、主体的、自発的に学ぶことができる人

② 高等学校における学習について

- ・ 幼児の教育・保育、児童期の福祉を学修する上で基盤となる幅広い教養を担保するものとして、高等学校における各教科に関する基礎的学力を有する人
- ・ 乳幼児の教育・保育、児童期の福祉を学修する上で基盤となるいくつかの分野に関しては、深い興味・関心を持ち、さらに特定の得意分野を有する人

【教育学科】

(初等教育専攻)

- ① 望む学生像について
- ・ 子どもの発達と教育に関心を持ち、教職への強い志や使命感を持つ人
 - ・ 國際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人

② 高等学校における学習について

- 文部科学省「体力・運動能力調査」A判定レベル相当)が備わっている人

③ 乳幼児発達学科

(国際教養専攻)

④ 高等学校における学習について

- 文部科学省「体力・運動能力調査」A判定レベル相当)が備わっている人

⑤ 乳幼児発達学科

(国際教養専攻)

⑥ 高等学校における学習について

- 文部科学省「体力・運動能力調査」A判定レベル相当)が備わっている人

- ・ 変化の激しいこれから社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付けて、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献することを目指しています。そのためには知識と技術を高め、健康な身体を育み、そして倫理観を備えなければなりません。このような観点から、本学では高等学校まで培う「生きる力」の修得を重視します。どのような状況にあっても、自ら課題を見出し、考え、判断し、行動できる力を有することは、変化の激しい社会を担う人材として必要不可欠です。本学ではそのような力を「学士力」として教育目標に据えています。

② 高等学校における学習について

- ・ 初等教育を学修する上で基盤となる幅広い教養を担保するものとして、高等学校における各教科に関する基礎的学力を有する人

③ 初等教育を学修する上で基盤となるいくつかの分野に関しては深い興味・関心を持ち、さらに特定の得意分野を有する人

(社会科教育専攻)

① 望む学生像について

- ・ 高い目的意識を持ち、当該専攻で学んでいく強い意志と、これを適切に表現・発信するための表現力(情報収集力を基盤とした言語力、文章力、発表力、コミュニケーション力)を持つ人

② 中学校の社会科教員、または社会科に強い小学校の教員、あるいは中学校との連携を踏まえた高等学校の地理歴史科・公民科教員を目指し、主体的に努力していく覚悟と豊かな人間性を持つ人

- ・ グローバル社会を見据え、公務員や一般企業での活躍を目指し、教育分野の学びを活用し、広く社会に貢献しようとする意欲がある人
- ・ 中学校の社会科教員または小中・中高一貫教育に対応できる教員としての資質・能力の向上に向けて、大学院進学や多様なキャリアを目指し、主体的に努力していく覚悟と探究心を持つ人

③ 高等学校における学習について

- ・ 地理、歴史、文化、社会、倫理、政治、経済といった分野において、広く基礎的な知識と能力を有する人
- ・ 地理、歴史、文化、社会、倫理、政治、経済といった分野のうち、いくつかの分野については深い興味・関心を持ち、さらに得意な分野も持っている人

(英語教育学科)

① 望む学生像について

- ・ 高い目的意識を持ち、当該専攻で学んでいく強い意志と、これを適切に表現・発信するための表現力(情報収集力を基盤とした言語力、文章力、発表力、コミュニケーション力)を持つ人

② 初等教育を学修する上で基盤となる幅広い教養を担保するものとして、高等学校における各教科に関する基礎的学力を有する人

- ・ 初等教育を学修する上で基盤となるいくつかの分野に関しては深い興味・関心を持ち、さらに特定の得意分野を有する人

(国語教育学科)

① 望む学生像について

- ・ 高い目的意識を持ち、当該専攻で学んでいく強い意志と、これを適切に表現・発信するための表現力(情報収集力を基盤とした言語力、文章力、発表力、コミュニケーション力)を持つ人

② 中学校の社会科教員、または社会科に強い小学校の教員、あるいは中学校との連携を踏まえた高等学校の地理歴史科・公民科教員を目指し、主体的に努力していく覚悟と豊かな人間性を持つ人

- ・ グローバル社会を見据え、公務員や一般企業での活躍を目指し、教育分野の学びを活用し、広く社会に貢献しようとする意欲がある人
- ・ 中学校の社会科教員または小中・中高一貫教育に対応できる教員としての資質・能力の向上に向けて、大学院進学や多様なキャリアを目指し、主体的に努力していく覚悟と探究心を持つ人

③ 高等学校における学習について

- ・ 地理、歴史、文化、社会、倫理、政治、経済といった分野において、広く基礎的な知識と能力を有する人
- ・ 地理、歴史、文化、社会、倫理、政治、経済といった分野のうち、いくつかの分野については深い興味・関心を持ち、さらに得意な分野も持っている人

(保健体育専攻)

① 望む学生像について

- ・ 健康・スポーツに高い関心を持ち、教職への強い志や使命感を持つ人
- ・ 健康教育の専門家を目指し、そのために幅広く学び、成長する意欲のある人
- ・ 自らの健康・体力を高めることに強い意欲を持ち、その実践に積極的に取り組める人

② 高等学校における学習について

- ・ 得意なスポーツ分野を持っている人

③ 保健体育を専攻するに相応しい基礎体力(文部科学省「体力・運動能力調査」A判定レベル相当)

が備わっている人

(通信教育課程)

① 望む学生像について

- ・ 学校教育・社会教育・生涯学習に关心を持ち、教職への強い志や使命感を持つ人

② 國際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人

③ 変化の激しいこれから社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付けて、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献することを目指している。そのためには知識と技術を高め、健康な身体を育み、そして倫理観を備えなければなりません。このような観点から、本学では高等学校まで培う「生きる力」の修得を重視します。どのような状況にあっても、自ら課題を見出し、考え、判断し、行動できる力を有することは、変化の激しい社会を担う人材として必要不可欠です。本学ではそのような力を「学士力」として教育目標に据えています。

④ 高等学校における学習について

- ・ 國際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人

⑤ 変化の激しいこれから社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付けて、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献することを目指している。そのためには知識と技術を高め、健康な身体を育み、そして倫理観を備えなければなりません。このような観点から、本学では高等学校まで培う「生きる力」の修得を重視します。どのような状況にあっても、自ら課題を見出し、考え、判断し、行動できる力を有することは、変化の激しい社会を担う人材として必要不可欠です。本学ではそのような力を「学士力」として教育目標に据えています。

⑥ 高等学校における学習について

- ・ 國際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人

⑦ 変化の激しいこれから社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付けて、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献することを目指している。そのためには知識と技術を高め、健康な身体を育み、そして倫理観を備えなければなりません。このような観点から、本学では高等学校まで培う「生きる力」の修得を重視します。どのような状況にあっても、自ら課題を見出し、考え、判断し、行動できる力を有することは、変化の激しい社会を担う人材として必要不可欠です。本学ではそのような力を「学士力」として教育目標に据えています。

⑧ 高等学校における学習について

- ・ 國際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人

⑨ 変化の激しいこれから社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付けて、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献することを目指している。そのためには知識と技術を高め、健康な身体を育み、そして倫理観を備えなければなりません。このような観点から、本学では高等学校まで培う「生きる力」の修得を重視します。どのような状況にあっても、自ら課題を見出し、考え、判断し、行動できる力を有することは、変化の激しい社会を担う人材として必要不可欠です。本学ではそのような力を「学士力」として教育目標に据えています。

⑩ 高等学校における学習について

- ・ 國際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人

⑪ 変化の激しいこれから社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付けて、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献することを目指している。そのためには知識と技術を高め、健康な身体を育み、そして倫理観を備えなければなりません。このような観点から、本学では高等学校まで培う「生きる力」の修得を重視します。どのような状況にあっても、自ら課題を見出し、考え、判断し、行動できる力を有することは、変化の激しい社会を担う人材として必要不可欠です。本学ではそのような力を「学士力」として教育目標に据えています。

⑫ 高等学校における学習について

- ・ 國際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人

⑬ 変化の激しいこれから社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付けて、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献することを目指している。そのためには知識と技術を高め、健康な身体を育み、そして倫理観を備えなければなりません。このような観点から、本学では高等学校まで培う「生きる力」の修得を重視します。どのような状況にあっても、自ら課題を見出し、考え、判断し、行動できる力を有することは、変化の激しい社会を担う人材として必要不可欠です。本学ではそのような力を「学士力」として教育目標に据えています。

⑭ 高等学校における学習について

- ・ 國際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人

⑮ 変化の激しいこれから社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付けて、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献することを目指している。そのためには知識と技術を高め、健康な身体を育み、そして倫理観を備えなければなりません。このような観点から、本学では高等学校まで培う「生きる力」の修得を重視します。どのような状況にあっても、自ら課題を見出し、考え、判断し、行動できる力を有することは、変化の激しい社会を担う人材として必要不可欠です。本学ではそのような力を「学士力」として教育目標に据えています。

⑯ 高等学校における学習について

- ・ 國際感覚を持ち、初等教育をはじめ多方面において専門性の高い学修を志す人

⑰ 変化の激しいこれから社会を生き抜くための知識と態度、コミュニケーション能力を身に付けて、自分の個性を生かして、主に幼稚園または小学校の教員として、あるいは初等教育の専門家として教育関連の分野や広く社会に貢献することを目指している。そのためには知識と技術を高め、健康な身体を育み、そして倫理観を備えなければなりません。このような観点から、本学では高等学校まで培う「生きる力」の修得を重視します。どのような状況にあっても、自ら課題を見出し、考え、判断し、行動できる力を有することは、変化の激しい社会を担う人材として必要不可欠です。本学ではそのような力を「学士力」として教育目標に据えています。

⑱ 高等学校における学習について

<li

TOPICS

玉川大学の入試制度で、注目すべきポイントや2025年度からの変更点をまとめました。

4年間で何をどのように学ぶか、
何を身に付けて卒業するかはこれら

3つのボリシー

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学部では、異なる意見や文化を持つ人と協働できる幅広い教養を有した人材、特にグローバル化した世界と現代日本の姿を複眼的な視野から理解し、自ら問題を設定し、その問題解決に貢献できる高い思考力と論理力を持った学生の育成を目的としています。

入学にあたって

- ① 幅広く様々な事象に対して積極的に関心を持っていること。【態度・志向性】
- ② 高等学校で履修した教科のうち、特に国語、外国語、数学、地理歴史・公民、情報の教科書レベルの基礎知識を持っていること。【知識・理解】
- ③ 各種資格・検定試験に挑戦し、高等学校卒業程度の水準を示す等級を取得していること。【汎用的技能】
- 例: 実用英語技能検定準2級、TOEIC®L&R400点程度、日本語検定3級、日本漢字能力検定準2級、実用数学技能検定準2級
- ④ リベラルアーツ学部卒業後の将来計画をもち、自ら学修計画を立て、進んで学ぶ意欲を持っていること。【態度・志向性】
- ⑤ 高等学校内外においての諸活動(部活動、ボランティア活動、海外活動、生徒会活動、各種大会、コンクールへの参加など)に積極的に関わっていること。【態度・志向性】
- ⑥ 生涯にわたり学び続ける姿勢を備え、社会にその知識を還元・推進する意欲を持っていること。【態度・志向性】

農学部

農学部では、玉川大学の建学の精神・教育理念、農学部の教育方針を基盤とし、国際社会が必要とする能力と態度を備えた人材の養成を担う高等教育機関としての役割を果たすため、以下に示す各学科のアドミッション・ポリシーを設定します。

生産農学科

生産農学科ではあらゆる生物を人間生活の貴重な「資源」としてとらえ生物の持つ機能や特性を分子から個体の視点で追究できる人材の養成を目指している。そのためアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。

- ① 高等学校の課程における理数系科目(生物、化学、数学)の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定(実用英語技能検定準2級程度)、テスト(TOEIC®L&R400点程度)などに相応のスコアを有していることが望ましい。
- ② 農学に対して関心を持ち、積極的に専門知識を学ぼうとする姿勢を持つ人。
- ③ 実験や実習にも積極的に取り組む意欲を持つ人。
- ④ 自分の考えをしっかり言葉で表現でき、かつ互いに議論でき、協調性のある人。
- 理科教員養成プログラムについては、上記に加え、以下も要項として求める。

① 自然科学全般に対して高い関心を持つ人。

② 理科教員や農業科教員、または教育関連の職業に就くことを第一目標としている人。

③ 理科や農業の面白さや大切さ、自らの経験を通して生徒に伝えることのできる教員を目指す人。

④ 教材研究などに積極的かつ安全に取り組める人。

⑤ コミュニケーション力、文章作成力、協調性を備え、さまざまな問題の解決に主体的に取り組める人。

環境農学科

環境農学科では、「環境」を中心に「自然、農業、社会のつながり」をよく理解し、国際性と地域性のセンスを兼ね備え、「持続可能な開発目標、SDGs」の達成に貢献できる人材を養成することを目指す。そのため、アドミッション・ポリシーを以下のように設定する。

- ① 高等学校の課程における理数系科目(生物、化学、数学)の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定(実用英語技能検定準2級程度)、テスト(TOEIC®L&R400点程度)などに相応のスコアを有していることが望ましい。
- ② 自然環境や農業における諸問題や異文化交流を踏まえた国際協力について、常に問題意識を持って考えられる人。
- ③ 海外留学に4ヶ月間参加することを承諾できる人、在学期間を通して英語に関する授業に積極的に取り組むことができる人。
- ④ 本学科で学んだことを活かし、卒業後に環境・農業分野をはじめとし、さまざまな分野で貢献する意欲を有する人。

先端食農学科

先端食農学科では、世界の食料生産や食料需給、食品加工や食品製造に関わる状況を理解し、それらに関わる専門的な知識と実践的な能力を修得することにより、社会で必要とされる食料生産や食品加工の現場で貢献できる人材の養成を目指す。そのためのアドミッション・ポリシーを以下のように設定する。

- ① 高等学校の課程における主要な科目(生物、化学、数学)の教科書レベルの知識を持つ人。また、語学系科目に対する学力の指標の一つとして、関連する検定(実用英語技能検定準2級程度)、テスト(TOEIC®L&R400点程度)などに相応のスコアを有していることが望ましい。
- ② 食料生産、食料供給、食品製造、食品加工などについて問題意識を持ち、食料や食品に関する新しい技術やその開発に関心を持って取り組むことができる人。

- ③ 本学科で学んだことを活かし、卒業後に食料生産や食品製造加工をはじめとするさまざまな分野で貢献する意欲を有する人。

工学部

工学部では、玉川大学の教育信条に基づき、幅広い教養を持つ人材を備えた実践的技術者を世に送り出すことを共通に目指しています。そのために、以下のような入学生を求めています。

[デザインサイエンス学科]

- ① 高等学校の課程における主要な教科(数学、理科(物理・化学)、外国語(英語)、国語等)の教科書レベルの基礎知識を有し、文章を正しく読解できるとともに適切な表現を用いて論理的に説明できる基礎的な能力を有する人。例えば、数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。【知識・理解】
- ② 研修行事や各種コンテスト・学会などの学内外のさまざまな活動に積極的に関われる人。【態度・志向性】
- ③ 解が一つに定まらない社会の課題に対し、さまざまな学問を融合して課題解決に向けた取り組みを継続できる人。【思考・判断】
- ④ グローバルに活動するため、意思疎通ができる外国語(英語)の修得を目指せる人。【汎用的技能】
- 例: 実用英語技能検定準2級、TOEIC®L&R400点程度、日本語検定3級、日本漢字能力検定準2級、実用数学技能検定準2級
- ⑤ 本学科で学んだことを生かし、社会に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

[情報通信工学科]

- ① 高等学校の課程における主要な教科(数学、理科(物理・化学)、外国語(英語)、国語等)の教科書レベルの基礎知識を有する人。数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。【知識・理解】

② 学内外の活動などにも積極的に関わり、人間力の向上を目指す人。【態度】

- ③ 卒業までに外国人と意思疎通ができる英語力を修得することとともに、工学として必要な情報処理能力および数理的能力を修得することを目標にできる人。【態度・志向性】
- ④ 工学的成果を人類の社会福祉に役立てようとする倫理観を持つ人。【関心・意欲】
- ⑤ 新しい技術を創造するための専門知識を身に付けることを目標に、たえず努力することができる人。【態度・志向性】

[マネジメントサイエンス学科]

- ① 高等学校の課程における主要な教科(数学、理科(物理・化学)、外国語(英語)、国語等)の教科書レベルの基礎知識を持つ人。数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。【知識・理解】

② 教育課程以外の学内外の活動に積極的に関われる人。【態度】

- ③ 卒業までに外国人と意思疎通ができる英語力を修得することとともに、工学として必要な数理的能力を修得することを目標にできる人。【態度・志向性】
- ④ 社会が何を求めているか、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】

⑤ 本学科で学んだことを生かし、社会に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

[ソフトウェアサイエンス学科]

- ① 高等学校の課程における主要な教科(数学、理科(物理・化学)、外国語(英語)、国語等)の教科書レベルの基礎知識を有する人。数学は実用数学技能検定2級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。【知識・理解】

② 教育課程以外の学内外の活動に積極的に関われる人。【態度】

- ③ 卒業までに外国人と意思疎通ができる英語力を修得することとともに、工学として必要な情報処理能力および数理的能力を修得することを目標にできる人。【態度・志向性】

④ 社会が何を求めているか、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】

⑤ 本学科で学んだことを生かし、コンピュータ・ソフトウェア技術、情報セキュリティ・モバイルネットワーク技術、ゲーム・コンテンツ関連技術、情報・数学教員のなかから1つ以上の専門分野において社会に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

[数学教員養成プログラム]

- ① 高等学校の課程における主要な教科(数学、理科(物理・化学)、外国語(英語)、国語等)の教科書レベルの基礎知識を持ち、他者にその内容を説明できる人。数学は実用数学技能検定準2級程度の学力を有する人。文章を正しく読解し、適切な表現を用いて論理的に記述する基礎的な能力を有する人。英語は実用英語技能検定準2級程度、またはTOEIC®L&R400点程度の学力を有する人。【知識・理解】

② 教育課程以外の学内外の活動に積極的に関われる人。【態度】

- ③ 卒業までに外国人と意思疎通ができる英語力、数学教員としての数学力並びに指導力を修得することを目標にできる人。【態度・志向性】

④ 社会が何を求めるか、常に問題意識を持って考えられる人。【思考・判断】

⑤ 本プログラムで学んだことを生かし、教育の分野に貢献する意欲を有する人。【関心・意欲】

NEW! 実用英語技能検定(英検)ではCSEスコアを指標とします!

等級の合否としていた実用英語技能検定(英検)の指標をCSEスコアに変更します。これまで高い等級に挑戦した結果、不合格だった場合は利用ができませんでしたが、今後はCSEスコアに応じた評価をしていきますので積極的に挑戦してください。



実用英語技能英語検定(英検)は、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、受験料割引など、さまざまな制度で利用することができます。

TOPICS 総合型入学審査の個別面接を全国22会場で開催!

総合型入学審査の出願条件である個別面接を玉川大学会場に加え、全国22会場で実施します。面接は玉川大学会場と同様にアドミッション・オフィサーと受験生の1対1で行います。

開催場所(エリア) : 札幌、仙台、郡山、水戸、大宮、千葉、秋葉原、新宿、品川、横浜、藤沢、小田原、新潟、金沢、甲府、長野、松本、静岡、名古屋、大阪、福岡、沖縄

※秋葉原・藤沢会場を新規で設置

個別面接申込開始日: 6月14日 16:00~(予定)

個別面接実施期間 : 7月末~8月末(開催場所によって日々異なります。)

※日程の詳細や会場は4月下旬ごろ、入試情報サイト(入試Navi)に公開予定です。

NEW! 一般選抜にて「外国語(英語)」に代わり英語外部試験または大学入学共通テスト「外国語」(リスニング含む)を課します。

これまで一般選抜にて個別試験を実施していた「外国語」の代わりに、英語外部試験のスコア、または大学入学共通テストの「外国語」(リスニング含む)の得点を換算点とします。これにより、一般選抜にて「外国語」が必修、または選択をする場合は、本学独自の入学試験は1科目で受験することができます。

※教育学部教育学科保健体育専攻で実技試験を実施する場合は、本学独自の試験(1科目) + 英語外部試験・共通テストの換算点+実技試験となります。

対象となる外部試験と換算点

玉川大学 換算点	共通テスト 英語得点	実用英語技能検定	GTEC (Advanced, Basic, Core, CBT)	ケンブリッジ英語検定	IELTS	TEAP	TEAP CBT	TOEFL® iBT	TOEIC® L&R	
100点	200 150	CSEスコア	CBT 1級 2304~100点に換算 準1級 2304~100点に換算 2級 1980~2303:80点に換算 準2級 1980~80点に換算 共通テストのみ	CBT 1級 1180~100点に換算 930~1179:80点に換算 Advanced 1180~100点に換算 930~1179:80点に換算 Basic 930~80点に換算 680~929:70点に換算 Core 680~70点に換算	C2 Proficiency 180~100点に換算 C1 Advanced 160~100点に換算 B2 First 160~100点に換算 B1 Preliminary 140~159:80点に換算 A2 Key 140~80点に換算 120~139:70点に換算	5.5 以上	309 以上	600 以上	72 以上	785 以上
80点	149 120									
70点	119 90									
60点	89 60									

※受験した試験の種類(等級)とスコアで換算点が算出されます。

(例) 実用英語技能検定 準2級を受験し、CSEスコア1995だった場合…80点に換算(準2級は70点までしか換算されません)

実用英語技能検定 2級を受験し、CSEスコア1995だった場合…80点に換算(準2級と同点数であっても2級の場合は80点に換算されます)

実用英語技能検定 準1級を受験し、CSEスコア1979だった場合…換算点なし(準1級 CSEスコア1980から換算されます)

※ 大学入学共通テストの60点~89点のみ、60点に換算します。※ 大学入学共通テストの59点以下は、1/2の点数を換算点とします。

※ 大学入学共通テストを受験せず、外部試験のスコアも持していない場合、外国语が必須となっている学部へは出願することはできません。

玉川大学

「教員養成の玉川」ガイド

先生になろう

Start Book

2025



「理想の先生」への
第一歩。

「先生」という存在は、子どもたちにとって大きな存在。
だからこそ、「どんな先生になりたいか」目標をしっかりともって、
大学で「教育」について学ぶ必要があります。

「こんな先生になりたい!」と思った先生が、
あなたにとっての理想の先生像。
大学時代、どこに身を置くかで、
その人の教育観は大きく変わります。
先生になって何がしたいのか、そのためには何が必要なのか。
そんなことを思い描きながらこの冊子を読んでみましょう。

part

1

先生になるには??



先生になりたい!…って思ったけれど
そもそも先生ってどうしたらなれるのでしょうか??

先生になるためには教員免許状の取得や
教員採用試験に合格することが必要です。
まずは先生になるための仕組みを確認してみましょう。



「教育」を学ぶって?



一言で「教育」を学ぶと言っても教員養成系
と教育学系の2つがあります。同じ教育でも
学ぶ内容は大きく異なるんですよ。

学校の先生をめざしたい!

教員養成系

教科ごとの知識や指導方法など、実践的に学び、教員免許
状の取得をめざします。

教育を学問として学びたい!

教育学系

教育の本質や目的、制度や行政など、大きな観点から
教育を理論的・学問的に追究しようとするもので、教育
心理学、教育社会学、比較教育学などがあります。



先生になるためには 何が必要?



まずは「教員免許状」の取得に必要な単位を
大学で修得し、卒業と同時に教員免許状を
取得することが最初のステップ!
さらに、「教員採用試験」に
合格することが必要です。

先生になるために必要なこと

- ・教員免許状^{※1}を取得
- ・教員採用試験^{※2}に合格

▼
新任教員としてスタート!

※1 教育職員免許状→略して「教員免許状」といいます。

※2 公立学校教員採用候補者選考試験→略して「教員採用試験」といいます。

教員免許状や資格について ポイントを確認しましょう！

■ 教員免許状には種類がある

教員免許状はいろいろな種類に分かれています

幼稚園、小学校、中学校、高等学校という学校種ごとに免許状があります。また、小学校は全教科共通ですが、中学校・高等学校は教科ごとに分かれています。さらに、同じ学校種でも「専修」「一種」「二種」の3種類があります（高等学校は「専修」「一種」の2種類）。

〔幼稚園教諭〕 専修・一種・二種

〔中学校教諭〕 専修・一種・二種

国語・社会・数学・理科・音楽・美術・
保健体育・技術・家庭・外国語 など

〔小学校教諭〕 専修・一種・二種

〔高等学校教諭〕 専修・一種

国語・地理歴史・公民・数学・理科・音楽・美術・
工芸・保健体育・情報・農業・工業・外国語 など

■ 「専修」「一種」「二種」の違いって？

卒業する課程によって異なります

二種：短大卒

一種：大学卒 専修：大学院修了

教員免許状の種類は教員採用試験には影響しません。しかし、二種免許状しか取得していない人は、先生として勤務して数年経つと、一種免許状を取得する必要があります。

■ 保育士という免許状はないの？

“免許状”ではなく“国家資格”です

大学・短期大学・専門学校などの指定保育士養成施設で必要単位を修得して卒業するか、保育士試験に合格して「保育士資格」を取得する必要があります。玉川大学の教育学部 乳幼児発達学科では4年間のカリキュラムの中で、幼稚園教諭一種免許状と保育士資格の両方が取得できます。

■ 保育所と幼稚園って何が違うの？

管轄・対象の年齢・目的が異なります

保育所：こども家庭庁（0歳～就学前：保育）

幼稚園：文部科学省（3歳～就学前：幼児教育）

認定こども園：こども家庭庁

（0歳～就学前：幼児教育・保育・子育て支援）

認定こども園は、就学前の教育・保育を一体的に行う、幼稚園と保育所の両方の良さを併せもった施設です。

- 認定こども園の先生になるには、原則として、保育士資格と幼稚園教諭免許状が必要です。

■ 義務教育学校と中等教育学校って？

それぞれに導入の背景があります

義務教育学校：小学校 + 中学校

中等教育学校：中学校 + 高等学校

義務教育学校は、学校教育上の課題となっている「中1ギャップ」に対応するために制度化されました。中等教育学校は、ひとつの学校として中高一貫教育を行う学校です。中高一貫教育の形態のひとつで、心身の成長や変化の著しい多感な時期において、一人ひとりの能力・適性に応じた教育を進めるために導入されました。

- 義務教育学校の先生になるには、原則として、小学校と中学校的教員免許状が必要です。
- 中等教育学校の先生になるには、原則として、中学校と高等学校の教員免許状が必要です。

■ 教員免許状・資格を取るには？

教員免許状・資格を取得できる学校を選ぶこと

取得したい免許状の教職課程のある大学、学部・学科を選ぶ必要があります。玉川大学のように、教育学部に限らず専門学部で取得できる大学もありますので、よく調べてみましょう。



教職課程ってどんな勉強をする?



教職課程とは、先生に必要な資質・能力を身につけるための授業科目の総称です。入学した学部・学科の勉強に加えて、先生をめざす人は希望を出して、それらの科目を修得します。

教職課程の内容を見てみましょう!

例:小学校の先生になる場合

教科及び教科の指導法に関する科目

国語、社会、算数、理科、生活、
音楽、図工、家庭、体育、外国語(英語)
各教科の指導法

教育の基礎的理解に関する科目等

教職概論、教育原理、学習・発達論、特別支援教育、
教育課程編成論、生徒・進路指導、
教育相談、教育実習、教職実践演習 など

大学が独自に設定する科目

全人教育論、教育学概論、教育インターンシップ など

その他の科目 (免許法施行規則第66条の6に定める科目)

日本国憲法、体育、外国語コミュニケーション、
数理、データ活用及び人工知能に関する科目、
情報機器の操作 など

介護等の体験 (小学校・中学校免許取得者のみ対象)

特別支援学級を設置する小・中学校等にて実施

CHECK

先生の仕事って?

先生の仕事は幼児・児童・生徒に授業をすることや、担任としてクラスを受けもつイメージが強いのではないでしょうか。
しかし、幼児・児童・生徒からは見えないさまざまな仕事があります。

先生の仕事の一部を見てみましょう!

見える仕事

- 朝の会・帰りの会
- 授業
- ホームルーム
- 生活指導
- クラブ活動の指導
- 遠足・合宿などの引率 など

見えない仕事

- 授業の準備・教材研究
- 職員会議・研修会
- テストの採点・学習評価
- 保護者との対話(教育相談)
- 指導計画の作成
- 地域との連携
- 学校行事の計画や準備
- 校務分掌(学校の業務の分担)
- など



教員採用試験ってどんなもの？



教員免許状の取得に加え、先生になるために必要なことは、教員採用試験に合格することです。教員免許状は全国共通で使うことができますが、教員として採用されるためには、教員採用試験に臨み、合格する必要があります。

教員採用試験の内容を見てみましょう！

公立学校の教員採用試験の一例

1次試験

一般教養——高校生までに学ぶ教科から、一般常識や時事問題まで幅広く出題
教職教養——大学の教職課程で学ぶ、理論や法律について
専門試験——先生になった時に担当する教科についての知識・教養
(小学校の先生は全科、中学校・高等学校は指導する教科など)

2次試験

論作文——教育論や、生徒指導などのテーマについて、自分の意見を書く
適性検査——面接、討論、模擬授業などを行い、先生としての総合的な力が問われる

CHECK

教員採用試験の疑問点を 解消しましょう！

■ 公立学校と私立学校の試験に違いはある？

試験の内容や求人のタイミングが異なります

私立学校は、欠員補充のために採用される場合が多く、希望する学校から常に求人があるとは限りません。

また、独自に試験を実施するため学校によって時期や内容も異なります。

公立学校

全国の都道府県か政令指定都市ごとに実施
(幼稚園・保育所・認定こども園は市区町村が実施)

私立学校

学校独自に実施
(主に欠員補充のため、定期的な求人があるとは限らない)

■ 試験の現状は？

地域や学校種によってさまざま

公立学校の教員採用試験は、実は自治体や学校種、教科・科目によって合格倍率に大きな差があります。一般的に筆記試験よりも面接試験が難関だといわれています。一部の自治体では大学3年生でも受験できる仕組みに変わるなど、教員採用試験の最新の動向にも目を向けましょう。玉川大学では教師教育リサーチセンター（詳しくはP.9）が学校現場の意見や採用状況、出願傾向を分析しながら、より効果の高い対策講座や個別指導などで先生をめざす学生をサポートしています。



玉川大学で先生になろう

教員養成の玉川



先生になるにはどのように進学先を選べばいいのでしょうか？

玉川大学では教職課程や試験を突破するためのサポート体制を
しっかり準備していますよ。

「先生になる！」という夢を一緒に実現しましょう！

01

子どもたちに学びの魅力を 伝えられる先生になりたい！

専門学部で学ぶメリット

玉川大学では、教育学部の他にも、各学部で「国語」「数学」「理科」「音楽」「美術」「英語」「技術」「情報」など各教科の大切さ、面白さを自分自身で深く体感することで、それらを子どもたちにリアルに伝えられる先生をめざせるカリキュラムが組まれています。学科専門科目と教職に関する科目を両立することにより、「教育のプロフェッショナル」をめざすことができます。

実際に玉川大学で学ぶ学生の声をチェック → P.13

「教員養成」を行う専門学部・学科

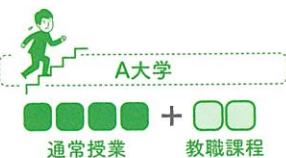
- ・文学部 英語教育学科 英語教員養成コース
国語教育学科 国語教員養成コース
- ・芸術学部 音楽学科 音楽教育コース
アート・デザイン学科 美術教育コース
- ・農学部 生産農学科 理科教育コース
- ・工学部 数学教員養成プログラム

CHECK

先生をめざす人に 玉川大学を勧める理由とは？

■ 教職課程を受講しても負担が少なく、 深く学べるから

玉川大学では、CAP制を採用し、履修登録の上限単位を半年間で16単位とされています。そのため、ただ教員免許状を取得するためだけでなく、一つひとつの科目を深く学び、使える知識を修得したり、より多くの教育現場を体験したりすることができます。



所属学科の専攻科目に加えて教職科目を履修。全体で多くの単位を修得しなければいけません。



玉川大学の場合、卒業に必要な124単位の中で、免許状を取得するための学修ができます。



総合大学で先生をめざす意味は？



さまざまな学部に所属する多くの学生が集まる
ワンキャンパスの玉川大学だからこそ、
たくさんの刺激を受けて豊かな人間性を身につけた先生をめざせます。

さまざまな夢をもつ学生が集まる総合大学

玉川大学では、文系学部・理系学部・合わせて8学部17学科の学生が、4年間、ワンキャンパスで学んでいます。同じ夢をもつ学生同士だけでなく、さまざまな目標をもつ仲間、さらには全国から集まる仲間と過ごすことで、多様な価値観を知り、刺激を受け、人間としての幅を広げることができるでしょう。



「先生」をめざす自分、「人」としての自分、 どちらも成長したい！

玉川大学の教育理念 「人」を育てる

「教育は人なり」と言われ、教育は教員一人ひとりの力に負うところが大きいとされています。教員として重要なのは、子どもたちの模範となるような人間性。教育者だった創立者・小原國芳は、理想とする「ゆめの学校」を実現するために玉川学園を創設し、豊かな人間性と人格を育む「全人教育」を教育理念として独自の教育を始めました。玉川大学では、その理念のもと創立から現在まで、人間的にも優れた教員・保育士を全国の教育現場に輩出し続けています。



玉川教師訓

玉川教師訓

「子供に慕われ、親たちに敬われ、同僚に愛せられ、校長に信ぜられよ」。人間的にも優れ、周囲の人からも人望の厚い先生になってほしいという願いが込められています。



一画多い夢

「タ」の部分が一画多いこの夢の文字には、創立者の「大きな夢をもってほしい」「ひとつでも多くの夢をもってほしい」という願いが込められています。

02

理論と実践を繰り返す、多彩な体験活動！

実践的な指導力を身につけるため、1年生から4年生まで毎年学校現場へ。

1~3年次に必修で120時間もの実践での学びの場を確保し、学校や教職への理解を促進した上で、4年次には教育実習を実施。実際の学校現場での学びと、大学の授業での学びを繰り返し、双方の学びが質と量ともに、さらに充実。校長経験のある教員が、現場活動の事前・中間・事後指導に関わります。



教師の立場で1日学校体験。憧れから夢の実現への一歩を踏み出す教員養成の入り口。

参観実習

参観実習は、教職課程を受講する1年生を対象に、教える立場、教師の立場から学校の1日を体験します。入学後すぐに教育の現場に触れることで、教育という仕事に従事するためには大学で具体的に何を学ぶべきか、課題が明確になる機会もあります。



教員になった姿を明確に意識して学べる

服部 凌吾さん

文学部 国語教育学科国語教員養成コース 4年(神奈川県 山手学院高等学校 出身)

参観実習は、現在の教育がどのように進められているか、実際に見ることができる貴重な体験でした。生徒各自がタブレットを用いて授業を受けていることを知り、また、討論形式の授業では、生徒が積極的に授業参加している様子が印象的でした。現場の先生からは討論形式の利点だけでなく、抱えている課題についても教えていただき、大きな学びになりました。参観実習を通して「生徒の考えを引き出すことのできる教員になりたい」と思い、生徒が主体的に学ぶための授業展開や関係性の構築など、明確な目標をもって学修しています。

学校体験活動A[※]

参観実習で1日学校体験を終えた学生が、次のステップとして24時間(授業見学12時間、その他の補助業務12時間)の学校体験活動を実施します。「チーム学校」を体験し、学校での気づきを大学での学びにいかすことをめざします。

1日のスケジュール	
中学校	
9:00	学校到着 校長先生から学校についての講話
2~4時間目	授業を見学 2限:中1・国語、中1・国語 3限:中2・国語、中1・英語 4限:中3・数学、中2・国語
昼食(給食等)	
5~6時間目	授業を見学 (希望する授業科目を見学)
校長先生より総括・解散	
希望者は部活動見学	

実施例	条件	時期	理由	主な対象学生
2時間 × 12日				
3時間 × 8日	大学の授業を午前中空けられる場合	10~2月	多くの時期に分散して参加することにより、子どもたちのさまざまな変化を体験するため	小学校・中学校(国語・英語・社会・理科・数学・技術)・高等学校を主免とする学生
4時間 × 6日				
6時間 × 4日	免許科目の特性および上記が困難な場合	以下の時期を中心に集中実施 9月・2月	各学校の合唱祭・音楽祭・展覧会・体育祭を準備する授業に参加するため	中学校(音楽・美術・保健体育)・高等学校を主免とする学生
8時間 × 3日				

※教育学部教育学科で幼稚園免許を主とする場合と教育学部乳幼児発達学科で幼稚園免許・保育士資格取得をめざす学生は、科目名称が「教育・保育体験活動A」となり、実施形態も異なります。

特別支援学級を設置する小・中学校で早い時期から児童・生徒理解を深める取り組み。

介護等体験

「学校体験活動A」に続き、60時間の特別支援学級における学校体験活動を実施します。学校では多様な児童・生徒が学んでおり、対応も多岐にわたることを学ぶ機会とします。

※ 小学校免許状または中学校免許状を取得する学生は必須です。



子どもとたくさんの時間をかけて関わり、理解を深める。

教育インターンシップ

併設校である玉川学園や大学近隣の学校、幼稚園や保育所などで教育活動を体験するプログラム。教育実習より前に多くの経験を積めるだけでなく、各学生の体験談や疑問点などを共有し、事例を語り合いながら学ぶ機会を得ていきます。教育学部の場合、1年次後期から始まり、週1日・約半年間、体験します。



現場を体験したから見つかった新たな課題

島田 百花さん 教育学部 乳幼児発達学科 4年(東京都 日本大学第二高等学校 出身)

インターンシップには講義では得られない体験があります。また、子どもと関わり、振り返りを通して実践から得た学びをさらに深めることができます。私は「子どもへの理解を深めること」を目標として取り組み、多くの子どもと関わる中で「広い視野をもつこと」も大切だと気づきました。個人を見ながら全体を見るという2つのことを同時に実践するのは今の私にはまだ困難ですが、現場を体験したからこそ見つかった課題でした。また、子どもと触れ合い、関わりをもつことで保育の仕事の楽しさややりがいを感じることができました。保育の世界に限らず広い視野をもちたいと思い、3年生では国際・社会科学領域のゼミを選択しました。さまざまな個性を受け入れられる保育者をめざしたいです。

1日のスケジュール

保育園

- 出勤(8:00)
- 園児を迎える準備(掃除など)
- 園児登園・好きな遊び
- 昼食
- みんなで経験する遊び
- 好きな遊び
- 園児降園
- 保育室・園庭の掃除
- 退勤(15:00)

教育実習へつながる実践的指導力の基礎づくり。

学校体験活動B*

教育実習の受講を許可された学生が、前の学期に30時間の学校体験活動を実施します。教育実習へつなげていくよう、教員になるという気持ちを高め、学校の環境への適応等さまざまな準備を整える活動と位置付けています。

実施例	条件	時期	理由	主な対象学生
2時間 × 15日	大学の授業を午前中空けられる場合	10～2月	多くの時期に分散して参加することにより、子どもたちのさまざまな変化を体験するため	小学校・中学校(国語・英語・社会・理科・数学・技術)・高等学校を主免とする学生
3時間 × 10日				
4時間 × 7.5日				
6時間 × 5日	免許科目の特性および上記が困難な場合	以下の時期を中心に集中実施 9月・2月	各学校の合唱祭・音楽祭・展覧会・体育祭を準備する授業に参加するため	中学校(音楽・美術・保健体育)・高等学校を主免とする学生

* 原則として教育実習校での活動を想定していますが、遠方で教育実習を予定している学生が大学近隣の学校で実施する場合もあります。

* 教育学部教育学科で幼稚園免許を主とする場合と教育学部乳幼児発達学科で幼稚園免許・保育士資格取得をめざす学生は、科目名称が「教育・保育体験活動B」となり、実施形態も異なります。

連続2週間実習による実践的指導力の総仕上げ。

教育実習

連続しての実施は2週間となりますが、1～3年次に積み上げてきた120時間の学校体験活動による必修実習を含めた総仕上げに位置付けられる免許取得のための最も重要な実習です。



03

4年間を通して夢の実現をサポートしてほしい。

玉川大学はこれまで質の高い教員・保育士を数多く輩出してきました。

社会から「教員養成の玉川」と呼ばれる実績をいかして4年間をフルサポート。

独自の教育体制とプログラムで夢の実現を手助けします！

**教師教育
リサーチセンター**
先生になりたい学生を
フルサポート

玉川大学では、一人ひとりが抱く夢の教師像を実現するため、教師教育リサーチセンターを中心とするサポート体制を充実させています。小・中・高等学校の元校長や元幼稚園・保育所長など、経験豊富なスタッフが指導を行い、採用する側の視点で面接や論作文、模擬授業対策などを実施。4年間を通して、マンツーマンでじっくりと向き合います。また、各自治体の教員採用に関する調査・分析や、それに基づく教員採用試験対策、ボランティア情報などを発信。学外実習や介護等体験などの手続き、免許状・資格の申請、求人案内の紹介など、どんな相談でも受け付けています。

ホームページ

教職課程の取り組みについて
さまざまな情報を掲載しています。



公式SNS
(Instagram)

教師教育リサーチセンターにて
随時、情報を発信しています。



TMGW_KYOSHOKU

玉川大学の教職課程受講支援プログラム

1年次から4年次まで常に教育現場で実践的指導力を学び、
理論と実践の往還を繰り返すことで、即戦力となる教員の養成をめざします。

		1年次	2年次	3年次	4年次						
		第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター		
ステップ		教育現場に学ぶ									
大学のカリキュラム(授業)		教養を身につける 実践的指導力の基礎を身につける 実践的指導力を身につけ、教員採用試験に備える									
理論	実践	教職の意義と基礎理論を学ぶ			指導法の基礎を学ぶ		教科・教職の専門性と実践力を養う				
		教科の基礎を学ぶ			教職の専門的な学修		実践と応用		総まとめ		
実践		各教科の指導法に関する学修					教育実習3単位	教職実践演習			
		領域・教科に関する専門的事項・教育の基礎的理解に関する科目の学修							教育実習事後指導		
採用試験対策		参観実習+学校体験活動A 1単位			介護等体験 2単位		学校体験活動B 1単位		学校体験活動C・D (現場実習)各1単位		
		教育インターンシップA・B 各2単位			教育インターンシップC・D 各1単位		直前対策 教員採用試験		直前対策 教員採用試験		
		ガイダンス 筆記・面接・論作文等試験対策			筆記・面接・論作文等試験対策、総まとめ						
		模擬試験 模擬試験・自主学修会等			模擬試験・自主学修会等		特別講話等				

CHECK

こんなサポートがあります！

■ 教員採用試験対策

《教職講座》

教職サポートルームの教員が自治体別にサポートします。採用試験の概要解説や、傾向と対策、面接や論作文の個別指導、模擬授業指導といった2次試験対策が行われています。

《各自治体の調査・分析に基づいた対策》

教員採用試験の内容は受験する自治体により異なります。その分析結果に基づいた指導を受けられるのが強みです。

《教員・保育士採用試験対策模擬試験》

自分の実力を試すため、採用試験の雰囲気に慣れるため、年に数回学内で実施。模擬試験後には「模試結果解説・学修スタートガイダンス」も開催されるため、今後の課題が明確になります。

《自主学修室》

教科書や指導書、教員採用試験に関する資料を閲覧したり、自習スペースとして使用することができます。先輩たちの教員採用試験の試験内容報告書も閲覧できます。

《教員採用等学内説明会》

1年次秋より、教育委員会の担当者を招いた学内説明会を実施。各地域の特徴や求められる教師像についての指導、採用試験や教師塾の説明をしていただきます。大学にいながらにして、複数の地域の話を直接聞き、比較・検討することができる貴重な機会です。

教職課程で学ぶには、学費以外に費用がかかるの？

● 教職のための費用(2023年度参考)

幼稚園・小学校・中学校・高等学校の場合、約15万円です。(補足:教職課程受講料:139,300円、免許状の申請に関する経費:1件あたり4,700円)別途、文学部・芸術学部・農学部・工学部で中学校・高等学校の免許状に加え、小学校二種免許状を取得する場合は約9万円、教育学部で小学校の免許状に加え、中学校二種免許状(英語)を取得する場合は約9万円が必要です。



教師教育リサーチセンターを利用した先輩の声

神奈川県横浜市教育委員会採用試験、公立小学校教員採用試験合格

中嶋 韶希さん

教育学部教育学科初等教育専攻2024年3月卒業(長野県 長野日本大学高等学校 出身)

一人ひとりに合わせた指導を受けられる

教育実習に向けての事前指導や教員採用試験対策の手厚いサポートを受けました。教員採用試験は自治体ごとに対策方法が異なります。自分がめざす自治体のことをよく知る先生が対応してくれたり、同じ受験地の仲間が集まったりと、試験対策だけではなく小論文や面接まで含め、一人ひとりに合わせてしっかり指導をしていただきました。

自身が成長していると実感できる

論作文講座の添削では、不安に思うことに耳を傾けていただき、その都度的確な意見をくださいました。具体性に欠ける論作文が課題でしたが、足りない部分をどう補えば良いか自作のプリントなどを使い細かく指導いただきました。また、複数の先生にチェックしてもらえるので、多角的な視点からさまざまな意見をいただけました。毎回新しい目標を項目別に提示されるので、次回はどう書けば良いかがわかり、自分がステップアップできていると実感できました。

説得力のある言葉と、いつも寄り添ってくれる存在

先生方の経験に基づく助言が現場体験での実践にいかせました。児童への声かけひとつを取っても、工夫をした方が良いと。一人の発言をただ受け止めるのではなく「みんなはどう思う?」と全体の意見を聞くことでクラス全体の理解度を知ることができますという発見もありました。また、児童の発言後に「ありがとう」と感謝を伝える等、児童の立場に立つ指導が大切だと理解できました。私自身、発言が苦手だったので、こうした対応をされたらうれしかったと思います。玉川大学では自身の個性を磨く多くの体験ができます。児童一人ひとりに寄り添い、体験する学びを通して学習意欲や興味を引き出していく教師をめざしたいと思います。

＼ まだまだあります ／

「教員養成の玉川」

ならではの強み



大学推薦制度

教員採用試験の1次試験が免除（もしくは一部免除）される制度。2023年度は4年生・大学院2年生35名、3年生・大学院1年生9名、小学校・中学校・高等学校合計で44名（全学部・大学院）が大学推薦制度を利用しました。

2023年度 玉川大学が得た大学推薦枠

<小学校枠のみ>

東京都（英語コース）、埼玉県、さいたま市、茨城県、香川県

<小・中学校・高等学校枠>

東京都、神奈川県、横浜市、川崎市、相模原市、千葉県、千葉市、山形県、浜松市、長野県、大阪府、堺市、京都府、岡山県、広島市、徳島県、福岡県、長崎県など

<3年生早期受験>

神奈川県、横浜市、川崎市

*上記は2023年5月1日現在。各自治体により詳細の推薦要件があります。

大学院・専攻科

大学での実践的な4年間の学びを通して身につけた力をさらに深め、能力を磨くための場所として大学院・専攻科が用意されています。めまぐるしく変わる世界の中で、教員の仕事も子どもたちに知識を教えることに加え、高学歴化した保護者や地域コミュニティなどからの要求に応えることにまで拡大しています。そこで大学院・専攻科では、問題意識をもち、高度な専門的能力および優れた資質を有する、教育現場で求められる教員の育成をめざします。また、取得希望免許状の基礎となる一種免許状を有していることを原則として、専修免許状を取得することも可能です。

研究科 文学研究科 教育学研究科
農学研究科 教職大学院
工学研究科

専攻科 芸術専攻科

通信教育

玉川大学の通信教育は、1950年に開設されて以来、学校教育において活躍できる人材を輩出してきました。幼稚園・小学校・中学校・高等学校教員といった教員養成はもちろんのこと、司書・学芸員・社会教育主事（社会教育士）などの養成も併せて行っています。高等学校を卒業すれば、通信教育課程で学ぶことができます。



ピアノの練習室

ピアノの練習室が、「University Concert Hall 2016」にあります。予約制、有料（50分100円）で、平常授業日は8時30分から21時まで利用可能です（音楽学科の学生は、1セメスター50分×50回まで無料）。また、より教育・保育現場に必要な実践力を身につけたいという2～4年生を対象に、レベルに合わせた対策講座を行っています（有料）。



教師塾

各自治体の教育方針に沿った教員養成をめざし、主に小学校教員希望者を対象に研修などを年間を通じて行います。修了者は教員採用試験の1次試験が実質免除、もしくは一部科目が免除となる（特別選考枠として試験が課せられる）制度です。入塾するには、大学推薦型と公募型があり、東京教師養成塾や彩の国かがやき教師塾には、玉川大学に大学推薦枠がある他、自治体によっては高倍率となる公募型の教師塾（神奈川県、横浜市、相模原市、千葉県、千葉市など）でも多くの玉川大学生や卒業生が入塾しています。

*各自治体により名称・参加条件が異なります。



採用実績のある大学で学びたい！

教員採用試験には どのくらい合格しているの？

抜群の教員採用実績

毎年、玉川大学から多くの学生が全国で教員採用試験を突破し、新たに先生としての一歩を踏み出しています。

全国の教育機関でたくさんの玉川大学卒業生が同志として働いていることも心強いポイントです。

みなさんが「先生」となってからも、先輩や上司として大きな力となってくれるでしょう。

抜群の教員採用実績

※2023年8月時点

教員・保育士等 就職希望者の就職率

92.0%

※非常勤含む

〈参考〉国立の教員養成大学・学部(教員養成課程)の教員就職率 66.9%
(文部科学省HPより2022年3月卒業者の実績)

小学校教員 採用数

222名

全国5位
関東私立2位

中学校教員 採用数

113名

全国5位
私立

幼稚園教員 採用数

31名

全国10位

保育士 採用数

47名

朝日新聞出版「大学ランキング」2024年版より

教員養成の玉川

※2023年3月時点

全国で教員や保育士として

活躍する卒業生。この実績
は、「教員養成の玉川」とし
て高く評価されています。

玉川大学出身の教員・保育士

4,945名

特別支援・各種学校

3.4%

幼稚園・保育所

26.0%

大学・短大・高専

8.2%

小学校

40.4%

中学校

13.5%

高等学校

8.5%

教職課程で学んだら、先生になる以外の就職はできないの？

教育を学ぶことで身につくことは、コミュニケーション能力や主体性、向上心など、他の仕事にもいかせるものばかり。

人に教える、人を育てるためのスキル、考え方は次世代のリーダーに必要になってきます。また、企業・公務員への就職をめざす学生のサポートは「キャリアセンター」で受けられます。教育の分野に限らず、さまざまな業種の求人があるのも、総合大学の強みです。

安定の就職決定率

※2023年3月時点

98.9%

98.6%

96.3%

96.7%

97.8%

2019

2020

2021

2022

2023

就職決定率

玉川大学独自のキャリアサポート
の成果は、全学部の高い就職決定率(就職決定者÷就職希望者)
に表れています。



玉川大学の 先輩の声

— 玉川大学で先生をめざす、学生の声をピックアップ —

私と同じような理由で大学に入った人もいるのかなあ。

実際に学んでいる先輩たちはどんなことを考えているんだろう。



VOICE

専門学部で学ぶ先輩たち

学びたいことをとことん学べる環境が揃っている

松浦 英二さん 文学部英語教育学科英語教員養成コース4年／神奈川県立湘南台高等学校出身

英語科教員免許を取得できることや、英語を深く学びたいと思い進路を選択する中で、長期留学プログラムが必修である英語教育学科に魅力を感じ、玉川大学に入学しました。オレゴン大学への9ヶ月間の留学や現地の小学校でのスクールインターンシップ、全学共通で行われているELF(English as a Lingua Franca)プログラムや学科の授業を通じて、言語学、社会言語学、英語教育学の知識を得るとともに、特にスピーキング能力が向上したと実感しています。英語の学修(専門科目)以外にもベートーベンの「第九」をドイツ語で歌う音楽の授業などもあり、さまざまなことが経験できる学びが用意されています。国内外で研究者として活躍されている先生方から学ぶことで、自らの個性を伸ばしながら、自分の学びを深めることができる環境が揃っていると思います。



国語



多角的な視点をもちながら、学びを突き詰められる

三浦 はるのさん 文学部国語教育学科国語教員養成コース3年／神奈川県 相模高等学校出身

教員になりたいという夢があり、教員養成に定評がある玉川大学へ入学しました。1年次から教育現場での参観実習があり実践的に学べる環境に魅力を感じました。また、卒業単位数に教職課程が含まれたり、教員採用試験対策も継続的に行われたりと、無理なく計画的に教員をめざすことができます。文学部には、文学、言語学、哲学、教育学と幅広い分野があり、自分の興味に合わせて学ぶことができます。また、日頃からさまざまな文章に触れるので、論理的思考力や読み解力、相手にわかりやすく意見を伝える力など、成長を実感できる学びが多くあります。ワンキャンパスの中に充実した学習環境が揃っているため、日々いろいろな刺激を受けながら視野の広がる4年間を過ごせると思います。先生方も親身に手厚い指導をしてくれるので、専門的に突き詰められる有意義な学びが待っていると思います。

毎日通うことが、楽しみになる

大串 瑠璃さん 芸術学部音楽学科音楽教育コース3年／千葉県立柏中央高等学校 出身

高校の先生から玉川大学の教育理念や校風が私に合っていると紹介され興味をもちました。小学校と中学・高等学校音楽の教員免許のどちらも取得したいと思っていたので「ダブル免許プログラム」(巻末参照)に魅力を感じました。教員としての知識だけではなく、基礎から声楽の発声を学んだり、世界の諸民族の音楽を学んだり、音楽の魅力を多方面から深く知ることができる授業があります。入学前はピアノの演奏はできても、人前で歌うことに苦手意識がありました。しかし、声楽の授業での熱心な指導と助言をいただき、教える立場として今では自信をもって歌えるようになりました。楽器を完備したレッスン室も充実していて、学ぶことが楽しくなる環境が揃っています。



美術
工芸



リアルな体験、経験がたくさんの気づきを与えてくれる

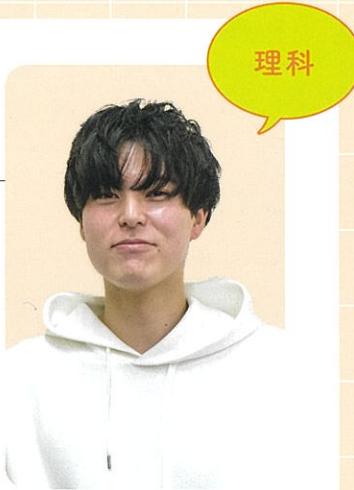
山崎 桜楽さん 芸術学部アート・デザイン学科美術教育コース3年／静岡県 桐陽高等学校 出身

絵画教室へ通ったことがない初心者でも、玉川大学では専門的な知識と技能を学ぶことができるに魅力を感じ、入学しました。授業で教えていただく先生の作品を美術館に見に行ったり、実際の制作過程をリアルに伺えたりすることで、美術への興味がさらに広がりました。教職の学びでは早い段階から参観実習などで実践経験を積むことができ、子どもへの対応だけではなく、目上の方への言葉遣いなども徹底的に指導してくれます。教育実習後の先輩方の模擬授業を受講し、自分が模擬授業を行う時のお手本となりました。常にまわりがサポートしてくれる環境があり、自分と同じ夢をもった仲間と一緒に学ぶことができます。

仲間とともに学べるから、頑張ることができる

田中 元喜さん 農学部生産農学科理科教育コース4年／愛知県 杜若高等学校 出身

高校生の時にコスモス祭に参加し、雰囲気の良さに惹かれました。理科の教員をめざしていたこともあり、8学部の学生がワンキャンパスで学んでいることにも興味をもち、入学しました。「理科指導法」の授業の中では、教師役を交代しながら何度も模擬授業を行い、生徒役のクラスメイトや先生方からたくさんのアドバイスを受けられます。その過程を何度も繰り返し行うことで、徐々に楽しくわかりやすい授業を展開できるようになり、今も継続的に行ってています。理科の教員をめざす同級生とともに学ぶことで、常に意識を高くもちながら勉強することができます。図書館やラーニング・コモンズなどどこでも勉強できるスペースがあるので、仲間とともに学べる環境が整っています。



数学



人とのつながりから教育の魅力を再認識

吉田 桃華さん 工学部マネジメントサイエンス学科数学教員養成プログラム4年／東京都立清瀬高等学校 出身

教職の授業はもちろん、一般常識や社会に出るために必要な知識を得る授業が多くあることが魅力でした。グループでの発表が多くコミュニケーション力が向上し、人と関わる楽しさを感じることができました。また、グループ活動や発表を通して、人の前に立つ「教育」の魅力に気づくきっかけになりました。同じメンバーで授業を受ける機会も多く、自然と仲良くなり、協力して学修することができ、仲間に刺激されることで学習意欲も湧いてきます。ゼミの仲間と授業展開について学んだ時には「教師」をめざしている自覚が湧き、より一層夢を実現させたいと思いました。

VOICE

教育学部で学ぶ先輩たち

理論と実践をバランス良く学べる

花村 健太郎さん 教育学部教育学科初等教育専攻 3年／神奈川県立藤沢西高等学校 出身

小学校教員として働くことが自分の夢でした。教員採用試験の合格率も高く、自分の夢を叶えるための学びができると思い、玉川大学に入学しました。実際に入学すると、1年次から実際の学校現場での参観実習があり、学校現場のイメージを早い段階でもつことができました。研修以外にも日頃から実践的な授業が多く、理論と実践をバランス良く学べるため、楽しみながら夢の実現に向けた学修ができたと思います。

自然と仲間に囲まれて 学べる環境

「教育インターンシップ」の授業が印象に残っています。参観実習や教育実習とは異なり、長期にわたって学校現場に通い、子どもたちと本当の教師目線で関わることができます。また、コスモス祭に向けて、クラスの仲間とグループを組み、子どもたちが楽しめる遊びを一から作成しました。仲間と話し合いながら一つのことを作り上げることで、コミュニケーション能力やグループをまとめる力、話し合うことの大切さに気づくことができました。



小学校

刺激を与え合う、 同じ夢をめざす仲間

教育学部には小学校教員だけではなく、中学・高等学校の社会科や保健体育科など他教科の教員をめざす学生や、幼稚園教諭や保育士をめざす学生がいます。ダブル免許プログラムを使い、教育学部では取得できない免許種の取得をめざす学生もあり、さまざまな夢や目標をもっている仲間に囲まれていることで、多くの学びを深めることができます。

幼稚園
保育園



実際の現場で役立つ知識を身につける

村田 実紗子さん 教育学部乳幼児発達学科乳幼児発達専攻 4年／神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校 出身

高校時代から子どもと接しながら働くことが夢で、幼稚園教諭と保育士の免許・資格のどちらも取得できることができが魅力でした。オープンキャンパスに参加した時に、模擬授業を通して講義の雰囲気を知ることができました。ただ単純に必要な知識だけを講義で学ぶのではなく、さまざまな実習・授業の中で実践的な学びを得る機会が多く、教育の現場に出た時に実際に役立つスキルを身につけることができます。

ゼミの活動を通じて、 深くなる学び

現代教育研究のゼミに所属している中で、子どもたちと遊ぶ内容をゼミ生と一緒に作り上げる活動が印象に残っています。どのような方法で行えば成功するのか、失敗したら何を改善すれば良いのか、何度も試行錯誤を重ね、遊びの可能性を広げていきました。また、コスモス祭ではゼミで演劇を作ることが恒例になっており、その過程の中で協働の大切さやコミュニケーションの難しさを学ぶことができました。

人それぞれの学びを 創ることができます

自分の学びたいことを専門的に学べることはもちろん、多角的な幅広い分野を主体的に学ぶことができるが最大の魅力だと思います。特にゼミでは学生が自由に学びを得るための活動を考え、行動することができます。何を学ぶか迷っている人、一途な夢をもっている人、いろんな人がそれぞれの学びを深めることができる環境が揃っていると思います。



卒業生の声

玉川大学を卒業し、実際に教育の現場で働く卒業生に大学時代を振り返っていただきました。

幼稚園



学校法人正和学園 幼保連携型認定こども園正和幼稚園

大学での学びが 保育者としての芯になる

佐々木 乃友里さん 教育学部 乳幼児発達学科 2022年卒業

自然豊かな幼稚園で子どもたちと自然や生き物にたくさん触れながら日々保育をしています。子どもたちの興味・関心を広げていけるよう、「今、何に夢中になっているのか」を考えることを大切にしています。

大学の4年間では「遊びは生きる力を育む」という言葉に代表される学びが印象に残っています。子どもの「やりたい!」という気持ちちは学びの第一歩。そのきっかけとなる遊びは、子どもの生きる力を育む重要なものであると学びました。大学時代に得た遊びのアイデアや教材研究の成果は、日々保育をする上での遊びの引き出しになりました。引き出しを多くもっておくことで、子どものやりたいことや、夢中になれる環境を作ることができます。

私が準備した素材に触れたり、提案した遊びが子どもたちの豊かな発想で思いも寄らない方向に広がっていくことがあります。その時のいきいきとした表情を見ることがやりがいのひとつです。また、子ども同士のやりとりやグループ活動の言動で成長を感じる場面もあり、そうした気づきや想いを丁寧に受け止め、寄り添いながら子どもの成長を広げていけるような保育者に成長していきたいと考えています。



社会福祉法人翔の会 うーたん保育園

保育園

子どもの目線に実際に立つ。 だからわかる子どもの気持ち

橋口 由紀乃さん 教育学部 乳幼児発達学科 2020年卒業

現在、1歳児クラスの担任として日々子どもたちとともに過ごしています。元気な挨拶から始まる1日を通して、子どもも大人も楽しみながら一緒に成長できるように努めています。

大学では保育の基礎から実践的な学びまで広く見識を深めました。印象に残っている授業は「つるびかの泥団子作り」です。久しぶりに作る泥団子はなかなか上手くいかず…。それでもなぜ上手くいかないかを考え、土を違うところから取ったり、磨き方を友達と話し合ったり試行錯誤を重ねました。完成品自体ではなく、その過程にこそ学びがあり、何よりも楽しみながら学ぶことが成長につながると実感しました。子どもたちの気持ちに寄り添う大切さを学び、「今、何を感じているのか?」「どうしたいのか?」など、その子どもの思いを考える習慣がつきました。また、不安や心配を抱える保護者の方の思いも受け止め、ともに考えながら最善のサポートを見つけていきたいです。今後も、子どもの心を動かす保育、子ども自身が自分で育っていくことを支えることができる保育者をめざしていきたいと思っています。



横浜市公立小学校

小学校



大学時代の経験があるからこそ、子どもたちとともに！というゴールをめざせる

山本 凌成さん 教育学部 教育学科 2018年卒業 玉川大学大学院 教育学研究科 2020年修了

現在、6年生の担任として、自立して伸びゆく子どもたちと笑顔を大切にして過ごしています。高校時代から物事を根本で捉えることができる哲学に関心があり、玉川大学では教育学を通して人間について考えを深めてきました。授業や実習、ボランティア活動を通して、多角的な視点から考えを巡らせる力を身につけ、今の仕事でもいかしています。特に、子どもと関わる時に根本に立ち返る力が大切だと痛感しています。子どもへの指導とは、怒って責めることではなく、その背景にどのような問題があるかを汲み取ることです。「どうして～なのか」という視点をもつことで、かけるべき言葉は大きく変わります。子どもたちがいきいきと成長できる学校をつくるために、これからも大切にしていきたい考え方です。また、授業で本当に教えたいことは、学習内容の暗記術ではなく、学校での学びを生活の中でいかしていく術です。今の目標は、子どもとともに成長する教師です。私は授業を通して世の中や生き方を伝えていますが、子どもたちは人と関わる大切さや次の時代を生きるヒントを教えてくれます。ICTの活用方法などは子どもの方がひらめくことが多く、参考にすることもあります。これからも「教えるー教わる」関係ではなく「ともに成長する」関係を大切にしていきたいです。



鎌倉市立手広中学校

多様な視点で現代社会の諸問題を考える力を養った

庄司 快さん 文学部 国語教育学科 国語教員養成コース 2021年卒業

現在は、学級担任と国語の授業、野球部の顧問などを受けもっています。生徒と接する際には、一人ひとりの環境や文化、考え方に対して、寄り添う意識を大切にしています。大学では、異文化や倫理など、現代社会の諸問題を考える講義が多くありました。自身の常識や感覚を見つめ直し、社会や他者との関わり方を多様な視点で考える対応力が身につきました。生徒に自分の思いを伝えることは想像以上に難しいですが、生徒のことを心から思い、粘り強く働きかけることを意識しています。私の言葉が生徒の心に響いたと感じられる瞬間はとてもうれしいです。今後も日々努力し、生徒とともに成長し続けたいです。



中学校

高等学校



横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校

一人ひとり違う生徒に自分の経験から寄り添いたい

齋藤 圭さん 工学部 マネジメントサイエンス学科 卒業

現在数学科教員として、生徒たちのニーズに合った指導法や、生徒が少しでも前向きに授業や学習に取り組むためにはどうしたら良いか、といったことを考えながら日々の授業準備に励んでいます。生徒たちが前向きに、いきいきと毎日の学校生活を過ごす姿を見るのが今の私のやりがいです。大学では、教員としてどうあるべきかという姿勢を学べました。グループ学修が多く、一緒に指導案を考えたり、模擬授業をしてアドバイスをし合ったり…。「教員になりたい」という同じ志をもつ多くの仲間と出会えたことが、玉川大学に進学して良かったと思える一番の理由です。今、高校生に進路の話をする時には、「大学は、自分と同じ興味や関心、夢や目標をもった人と一緒に勉強できる場所だよ」ということを必ず伝えています。



さあ！先生になろう！



先生になるための仕組みや大切なことはこれで理解できました！
玉川大学で教員をめざすのが夢への近道なのかもしれません！

今回、先生になることや教育についてを学んだことで、
より明確に「先生になる」自分を
イメージできるようになったと思います！
今の自分の気持ちを忘れないように、メモに残しましょう。
後で振り返った時に、自分の将来を考えるヒントになりますよ！

1

先生になりたいと思った時期ときっかけを
思い返してみましょう。

小学校の担任の先生に憧れたのが
きっかけだったな。



2

今の自分がめざす先生像をイメージ
してみましょう。

体育の先生が厳しかったけれど熱い先生で
好きだったなあ。



3

先生になるために今の自分が取り組むべき
ことを考えてみましょう。

「教える」ために必要な語彙力は
今から鍛えておかなきゃ！



4

理想の大学生活の1日の流れを
考えてみましょう。

(授業やゼミ、教職課程などの学修面とサークルやアルバイトなどの私生活面)

授業はもちろん大事だけど、
自分の世界を広げる時間も大切だよね。



5

玉川大学で教育を学ぶ意味やメリットを
考えて、他大学と比較してみましょう。

比較することで自分に合っている
かどうかわかるからね。



先生をめざす人のための入試制度があります

首都圏教員養成総合型入学審査(総合型選抜)

- 教員志望で東京・神奈川・千葉・埼玉の学校出身者対象！
- 現役生のみ
- 第一志望(専願)
- 書類審査(エッセイ、資格・検定取得記入書、志願者評価書、調査書)と面接試験



WEBサイトは
こちら

地域創生教員養成入学試験(一般選抜)

- 教員志望で東京・神奈川・千葉・埼玉以外の学校出身者対象！
- 本選抜制度で入学し、教員免許状を取得したのちに地元で教員に採用または名簿登載された学生には、卒業時に地域創生奨励賞として奨励金30万円が授与される！
- 2科目受験。ただし必須科目の「英語」の試験は資格・検定や共通テストのスコア得点を利用ないので、実質1科目受験
- 本学試験場の他学外15会場で受験可能！



WEBサイトは
こちら

玉川大学で取得可能な教育職員免許状

教育学部 教育学科 初等教育専攻

- 小学校一種 + 幼稚園一種
- 小学校一種 + 中学校二種(国語)※
- 小学校一種 + 中学校二種(社会)
- 小学校一種 + 中学校二種(数学)※
- 小学校一種 + 中学校二種(理科)※
- 小学校一種 + 中学校二種(音楽)※
- 小学校一種 + 中学校二種(美術)※1
- 小学校一種 + 中学校二種(保健体育)
- 小学校一種 + 中学校二種(技術)※1
- 小学校一種 + 中学校二種(英語)※1
- 小学校一種 + 高等学校一種(情報)※1
- 幼稚園一種 + 小学校一種

教育学部 教育学科 社会科教育専攻

- 中学校一種(社会) + 高等学校一種(地理歴史) + 高等学校一種(公民)
- 中学校一種(社会) + 高等学校一種(地理歴史) + 小学校二種
- 中学校一種(社会) + 高等学校一種(公民) + 小学校二種

教育学部 教育学科 保健体育専攻

- 中学校一種(保健体育) + 高等学校一種(保健体育) + 小学校二種

教育学部 乳幼児発達学科

- 幼稚園一種 + 保育士(国家資格)

幼稚園と保育所を一体化して捉える国流れに対応しています!

文学部 英語教育学科 英語教員養成コース

- 中学校一種(英語) + 高等学校一種(英語) + 小学校二種※1

文学部 国語教育学科 国語教員養成コース

- 中学校一種(国語) + 高等学校一種(国語) (小学校二種)※2

芸術学部 音楽学科 音楽教育コース

- 中学校一種(音楽) + 高等学校一種(音楽) (小学校二種)※2

芸術学部 アート・デザイン学科 美術教育コース

- 中学校一種(美術) + 高等学校一種(美術) + 高等学校一種(工芸) (小学校二種)※2

農学部 生産農学科 理科教育コース

- 中学校一種(理科) + 高等学校一種(理科) + 高等学校一種(農業) + 小学校二種※1

工学部 デザインサイエンス学科

- 中学校一種(技術) + 高等学校一種(工業) + 小学校二種※1
- 中学校一種(数学) + 中学校一種(技術) + 小学校二種※1
- 中学校一種(数学) + 高等学校一種(数学) + 小学校二種※1

工学部 情報通信工学科

- 中学校一種(数学) + 高等学校一種(数学) + 小学校二種※1
- 高等学校一種(工業)

工学部 マネジメントサイエンス学科

- 中学校一種(数学) + 高等学校一種(数学) + 小学校二種※1

工学部 ソフトウェアサイエンス学科

- 中学校一種(数学) + 高等学校一種(数学) + 高等学校一種(情報) + 小学校二種※1

工学部 数学教員養成プログラム

入学手続時にデザインサイエンス学科、情報通信工学科、マネジメントサイエンス学科、ソフトウェアサイエンス学科のうちからいずれに所属するかを選択します。取得できる教員免許状は上記参照。

* 教職課程の受講には条件があります。また、別途費用がかかります。

※1 ダブル免許プログラム受講により取得可能

※2 文学部国語教育学科・芸術学部は、個別に必修科目を履修することにより、

小学校教諭二種免許状を取得できる場合があります。

大学在学中に2つの教員免許状を取得

ダブル免許プログラム

文学部英語教育学科・農学部・工学部では、在学中に、中学校・高等学校の免許状に加え、小学校二種免許状※1も取得することができます。また、教育学部 教育学科 初等教育専攻では、小学校の免許状に加え、中学校二種免許状(国語・数学・理科・音楽・美術・技術・英語※1)、高等学校一種免許状(情報)も取得可能。2022年度は、13名※2がダブル免許プログラムにより小学校の先生になりました。

* 文学部国語教育学科・芸術学部は、個別に必修科目を履修することにより、小学校教諭二種免許状を取得できる場合があります。

※1 サマー・ウィンターセッションの受講による ※2 臨時の任用職員含む

ダブル免許プログラムのメリットとは?

変わりゆく
社会の流れに
対応できる!

こんな夢を
実現したい!

- ▶ 2022年度より小学校で「教科担任制」を導入しています
- ▶ 2020年度より小学校プログラミング教育の全面実施が始まりました
教育学部 教育学科 初等教育専攻:小学校一種免許状+高等学校一種免許状(情報)が取得可能
- ▶ 2020年度より小学3年生から英語が必修になり、5・6年生では外国語が正式な教科になりました
教育学部 教育学科 初等教育専攻:小学校一種免許状+中学校二種免許状(英語)が取得可能
文学部 英語教育学科 英語教員養成コース:中学校一種免許状(英語)・高等学校一種免許状(英語)+小学校二種免許状を取得して、教科としての英語の知識をもった小学校の先生がめざせます
- ▶ 子どもの理科離れを何とかしたい!
農学部 生産農学科 理科教育コース:中学校一種免許状(理科)・高等学校一種免許状(理科)+小学校二種免許状を取得して、理科という教科の本質の面白さを伝えられる小学校の先生がめざせます

* 教職課程の受講には条件があります。また、別途費用がかかります。

* 本冊子の内容は2024年2月現在の2024年4月以降の予定です。社会情勢等により、内容に変更が生じることがあります。



資料2-1-3

令和6年度
教職課程受講ガイド

教師教育リサーチセンター

1

当ガイドで使用する資料

『2024教職課程受講ガイド』
Webブラウザより
「玉川大学学生要覧Webサイト」
を検索し、ダウンロードしてください



※こちらのQRコードからも確認できます



2

教員になるには

3

教員になるにあたって必要な条件

➤教員免許状を取得する
※教職課程を受講し、免許状取得に必要な単位を修得する。
→併せて教員になるための力量を身につける

➤教員採用試験に合格する
※教職課程の受講者対象の対策講座等に出席し、試験合格の対策を行う。

4

玉川大学が目指す教師像①

玉川大学が目指す教師像=玉川教師訓

校長に親傳に子供に
徳を教へる
信せられ
教へられ

▶「教職課程受講ガイド」p4参照⁵

玉川大学が目指す教師像②

玉川教師訓を実践できる教師の育成を本学は目指します。そのため必要な次の4つの力量を備えた教師を養成します。

①確かな学力と健やかな体を育てる「学習指導力」
②豊かな心を育て自己実現を図る「幼児・児童・生徒指導力」
③ともに高めあうクラスをつくる「学級経営力」
④新たな学校づくりを推進する「協働力」

▶「教職課程受講ガイド」p4参照⁶

教職課程受講支援プログラム①

玉川大学では**教職課程受講支援プログラム**(次ページ)を設定しています。

4年間での長期間において、免許状に必要な単位数を修得し、採用試験の対策しつつ、4つの力量をしっかり身につけられるよう設定しています。

7

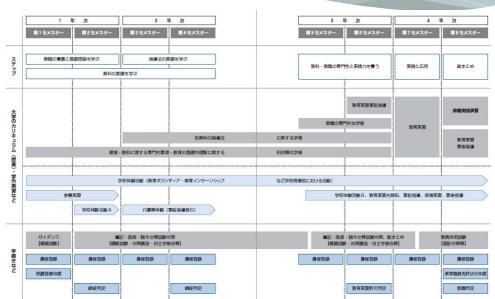
教職課程受講支援プログラム②

➤ 理論と実践の往還を繰り返し、即戦力となる教員の育成を目指す



8

教職課程受講支援プログラム③



9

教師教育リサーチセンターについて

10

教師教育リサーチセンターについて

- 教員・保育士を目指す皆さんの総合窓口
- 経塚オフィス棟1階
- 教育・保育実習、介護等体験、学校体験活動(教育インターンシップ・教育ボランティア)、教員免許状の申請、教員就職支援等
- 教職サポートルーム(所属される先生方の研究室と自主学修のための支援室)

＜問い合わせメールアドレス＞
kyoshoku@tamagawa.ac.jp 11

経塚オフィス棟内1階レイアウト

★教師教育リサーチセンター

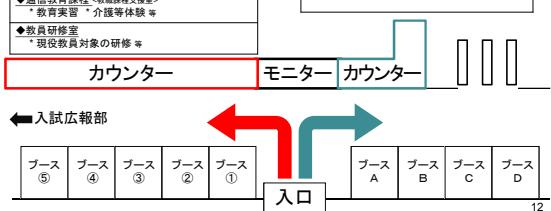
教職課程支援室(通学・通勤) 教員研修室

- ◆通学課程・教職課程支援室
- ◆教員研修室
- ◆通信教育課程・教職課程支援室
- ◆教員就職支援室

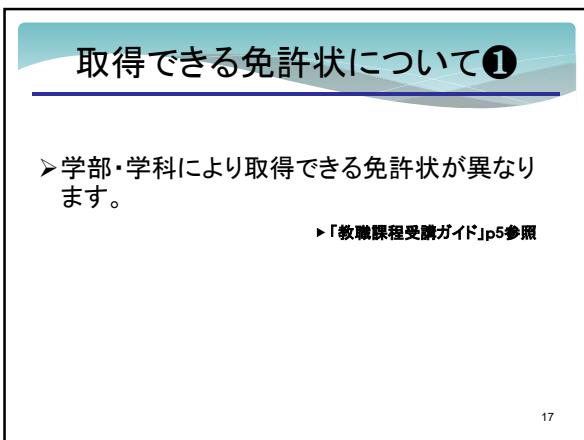
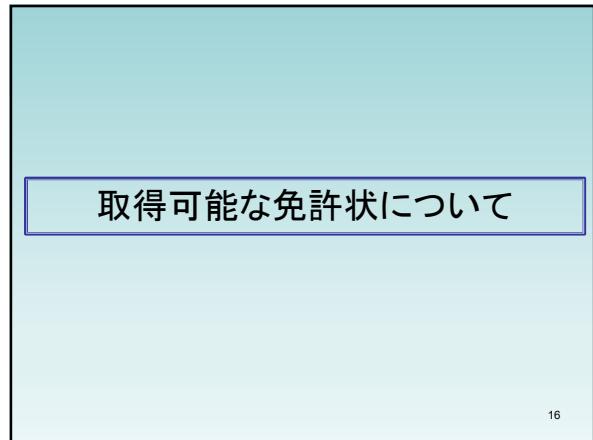
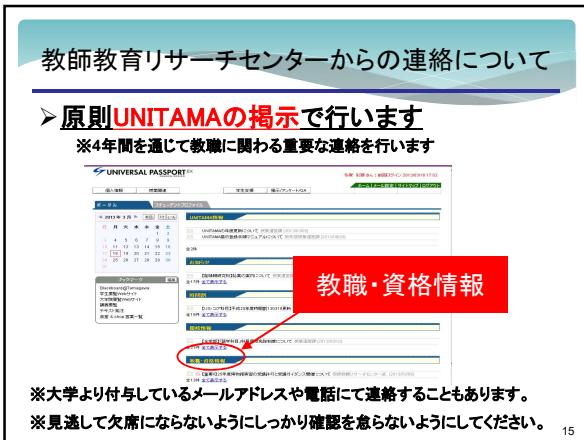
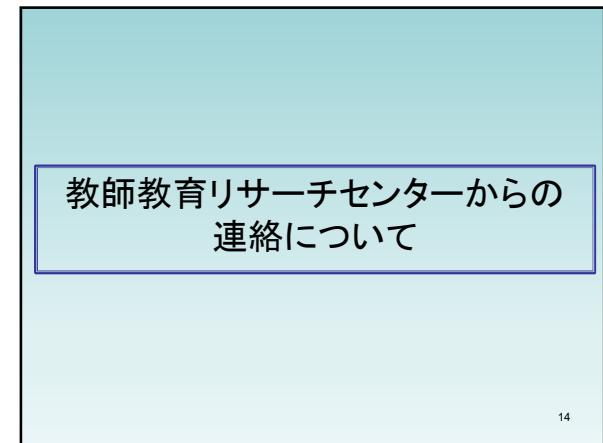
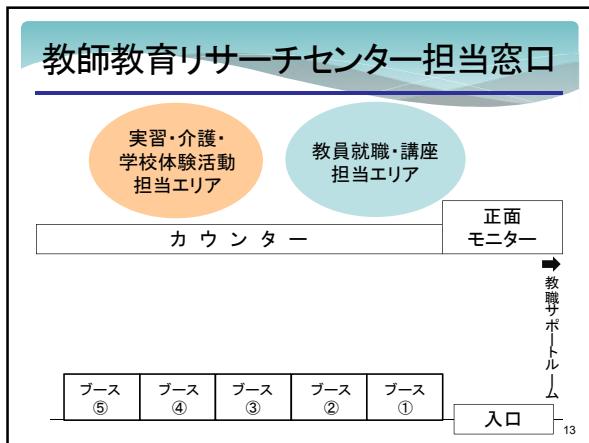
★自主学修室

教員・保育士を目指す学生のための 自主学修室

- 教職サポートルーム教員との面談
- キャリア個別相談
- 入試票、参考書、教科書・指導書・資料の活用
- 自主学修、模擬授業の取組み、グループ協議等



12



教育学部 教育学科 取得できる免許状について②

▶ 複数の免許状を取得することが可能になります。
▶ 複数免許の組み合わせについては「教職課程受講ガイド」p55参照
▶ 複数免許状の場合、**ピーク免・サブ免**を設定します。

ピーク免	サブ免	ダブル免許プログラム
小学校1種のみ		
幼稚園1種のみ		
幼稚園・小学校1種		
中学校・高等学校1種のみ		
小学校1種	中学校2種 (保健体育・社会)	中学校2種(英語・国語・数学・理科・音楽・美術・技術) 高等学校1種(情報)
中学校・高等学校1種	小学校2種	

複数免許の場合

取得できる免許状について③

- 複数の免許状を取得する場合にはそれぞれの免許状において必要な科目が異なることがあるため、**履修に気をつける必要があります**。
- ※学部の履修ガイダンスや教職・教務担当に確認しながら進めてください。
- 免許状取得するために、**免許状必要単位数を修得する**以外にも**教職課程受講条件**や**教育実習受講条件**があります。**条件を充足**できるよう学修を進めてください。

▶「教職課程受講ガイド」p55参照 19

ダブル免許プログラムについて①

- 文・農・工・芸術学部で認定されている**中学校2種免許**（英語・国語・数学・理科・音楽・美術・技術）および**高等学校1種免許（情報）**が取得可能（※申請手続き必要）
- ただし、取得にあたっては**基準を満たす**必要があります、かつ**人数制限**があります（5名程度）。
- 受講を希望する学生は、6月20日（木）17:15より「ダブル免許プログラム受講ガイダンス」を開催予定です。詳細はUNITAMA掲示（予定）で案内します。

※ダブル免許プログラムに関する質問は、本ガイドで回答します。
▶「教職課程受講ガイド」p14・55・84～87、90～101参照 20

ダブル免許プログラムについて②

中学校・高等学校1種免許だけでなく**小学校2種免許**が取得可能（※申請手続き必要）

- 受講を希望する学生は、5月23日（木）17:15より「ダブル免許プログラム受講ガイダンス」を開催予定です。詳細はUNITAMA掲示（予定）で案内します。

▶「教職課程受講ガイド」p14・80～83、88～89、98～99参照 21

教職履修カルテについて

22

教職履修カルテとは

- 本学が目指す教師像（=玉川教師訓）を踏まえ、教員免許状を取得するために履修した科目全て（F評価の科目含む）に対して、
 - ★どのような成果を得ることができたのか
 - ★今後、何をやらなければいけないと感じたのか
- を本学が目指す教師像の視点から振り返り、まとめたものが**教職履修カルテ**です。

23

教職履修カルテの対象

- 希望する教員免許状を取得するために必要な科目すべて※具体的な科目名は希望する免許状ごとに異なるので、各自教職課程受講ガイドを参照して確認すること。
学校体験活動（教育ボランティア・教育インターンシップ等）
- 学校体験活動（教育ボランティア・インター
ンシップ）の教育現場や地域での社会的活動
- 教育実習の振り返り
- 年度の振り返り

24

教職履修カルテの入力

【入力システム】 UNITAMA「教職カルテ」

【入力時期】 各セメスター終了時

4年生の秋学期に履修する「教職実践演習」は最後の総まとめの授業となります。その際に必要となりますのでセメスター毎にしっかり作成してください。

- ▶ 入力方法等については改めてUNITAMA掲示にて指示しますので確認の上、対応してください。

25

教職課程を受講するにあたっての 注意事項

26

注意事項①

- #### ▶ 教職課程受講登録をする≠教職以外に進めない

- ・進路選択の1つ
 - ・1年次でやめても問題ありません

27

注意事項②

- ## ▶ 教職課程受講登録をする≠4年間教職課程の受講許可

4年生まで教職課程を続けるには、**学部・学科毎に定められた条件を充足する必要があります。**

※教職課程の受講にあたっては学部・学科毎に条件等
が異なるので、「[教職課程受講ガイド](#)」をよく読んで
内容を確認してください。

28

注意事項②

・教職課程受講条件(文学部国語教育学科の例)

文学部

■ 国語教育学科 教職課程受講条件

◎「秋葉原で見るところ」
◎「秋葉原で遊ぶところ」
◎「秋葉原で学ぶところ」
◎「秋葉原で働くところ」

注意事項③

教職課程の受講にあたって諸々の事項(教職受講条件・免許状取得に必要な科目・教育実習に行くための条件・ダブル免許プログラムに関すること・教職課程履修規則など)については、まずは「[教職課程受講ガイド](#)」をよく読んで内容を確認してください。

※不明な点があれば、わからないままにせず、相談してください。
<問い合わせ先>

- 教職に関する件 教師教育リサーチセンター
 - 履修に関する件 学部学科の教務担当または学級担任

88

今後の手続きについて

31

【重要】教職課程受講登録について

▶ UNITAMAのアンケートにより必要事項を回答してください。

アンケートはUNITAMAの上部メニューの「アンケート」から回答ができます。

「アンケート回答一覧」より【令和6年度 教職課程受講登録について(●●学部対象)(教師教育リサーチセンター)】を選択し、回答してください。

回答完了をもって教職課程受講者として登録します。

▶ アンケート回答期限:

4月3日(水)10:00～4月14日(日)23:59まで(時間厳守)

※アンケート回答期限までに未回答の場合には

教職課程の受講をしないとみなしますので注意してください。

教職課程受講料について①

▶ 金額 18,700円(1年次分)

※UNITAMAのアンケートにて必要事項を回答した方の保証人宛に納付書を送付(5月上旬に発送予定)します。

※期日までに納入しなかった場合には、教職課程履修規則の第6項②により受講中止となりますので注意してください。

※一旦納入された受講料は基本的には返金しません。

▶ 「教職課程受講ガイド」p104-105参照 33

教職課程受講料について②

※文・農・工・芸術・教育学部でダブル免の履修をする場合、追加の費用が必要です。

詳細は「ダブル免許プログラム受講ガイド」にて案内します

34

ガイダンス内容についての質問

ガイダンス資料で質問がある場合には、登録手続きを行うためのアンケートの最後に質問項目がありますので、そこに記入してください。

後日、Q&Aを作成し、UNITAMAにて掲示を行います。

35

最後に -Instagramの紹介-



【教師教育リサーチセンターInstagram】

教師教育リサーチセンターや教職サポートルームの紹介、本学の教職課程の取り組みについて公式SNS(Instagram)にて情報を発信しています。



tmgw_kyoshoku

...
50 562 4

件の投稿 人のフォロワー 人のフォローワー

玉川大学 教師教育リサーチセンター
教育
#玉川大学 #教師教育 リサーチセンター
#大人教育の玉川
#教職課程 #教員養成... 続きを見る
www.tamagawa.jp/university/teacher_edu...

フォロー

メッセージ

36

玉川大学教師教育リサーチセンター 連絡先

【通学課程】

電話番号:042-739-8806
メール:kyoshoku@tamagawa.ac.jp

【教員・保育士就職】

電話番号:042-739-8161
メール:t-shushoku@tamagawa.ac.jp

※電話番号・メールアドレスを登録するようにしてください

未来へのサポート・教師教育リサーチセンター

「教員養成の玉川」がもつ強み

理想の教師になるための教職サポート

「先生になりたい！」を ともに実現する

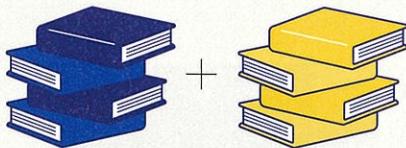
児童や生徒にとって「先生」は大きな存在です。「先生」になって児童や生徒にどんな影響を与えるのか、そのためには何が必要なのか。玉川大学では「全人教育」をとおして、学生一人ひとりの理想とする教師像をともに考え、目標の実現に向かって一緒に歩んでいきます。玉川学園の創立者であり教育者でもあった小原國芳は、理想とする「ゆめの学校」を実現するために、玉川学園を創設しました。深い学識と柔軟な発想力で子どもたちに向き合い、成長をサポートする。自発的で創造的な活動を取り入れた「全人教育」だからこそ、人間力豊かな教育を目指すことができます。

他大学では……

玉川大学では……

忙しい！

ゆとりがある！



学科の通常授業

教職課程



通常授業に教職課程が組み込まれている

他大学では、所属学科の専攻科目と教職科目を履修し、全体で多くの単位を修得しなければならないため、どうしても多忙になってしまいます。一方、玉川大学では卒業に必要な124単位の中で教職課程を受講し、教育職員免許状を取得することが可能です。教職課程受講の負担が少ないので、深みのある学修や現場体験での実践に集中して取り組むことができます。

取得可能な教育職員免許状一覧

- :取得できる免許状 ■:ダブル免許プログラム受講により取得 小学校教諭二種免許状については教職課程認定申請中。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。
- ◆:個別に必修科目を履修することにより、免許を取得できる場合があります。※1 保育士資格が同時取得可能 ※2 所属する学科により、取得可能か免許状が異なります。

◆：個別に必修科目を履修することにより、免許を取得できる場合があります。※1 保育士資格が同時取得可能 ※2 所属する学科により、取得可能な免許状が異なります。

* 教職課程の受講には条件があります。また、別途教職課程受講料がかかります。

児童や生徒と触れ合い、 現場での対応力を高める

入学後すぐに教育現場に触れる

参観実習

【実習期間: 1日】

1年次に行われる参観実習は、幼稚園や小学校、中学校、高等学校などで実際の授業を参観するプログラムです。入学してすぐ教育現場に触ることで、教育という仕事に従事するため必要なこと、現場や自分自身の課題がそれぞれ明確になります。現場で得た気付きから、大学で具体的に何を学ぶべきかを考えること。これは教員を志す上で、確実な指針となるはずです。



圧倒的な経験を経て、現場に強くなる

学校体験活動

〈教育インターンシップ〉

【実習期間: 学部によって異なる】

教育実習よりも、多くの現場経験を積むことができる学校体験活動。併設校の玉川学園や大学近隣の学校や幼稚園、保育所などで教育活動を体験します。教育学部の場合、1年次後期から週1日ペースで約半年間行います。子どもたちと触れ合い、「教える」体験をとおして実践力を学ぶことで、臨機応変に現場対応ができるようになるでしょう。



ダブル免許プログラム

教育職員免許状を取得

1年次 2年次 3年次 4年次 卒業

中学校・高等学校一種 + 小学校二種

小学校一種 + 中学校二種／高等学校一種

大学4年間で必要な単位を修得して卒業すれば、
同時に両方の免許状を取得可能

教員採用試験に合格

4年次の7月頃

1次試験合格後8～9月頃

教員採用試験

1次試験

筆記試験が中心。集団
面接が課せられる自治
体もあります。

教員採用試験

2次試験

面接と論作文、実技が
中心。教員としての適
性が評価されます。

»

教員への道が開かれます

複数免許を在学中に取得できるプログラムです。文学部英語教育学科・農学部・工学部では、中学校・高等学校の免許状に加えて小学校教諭二種免許状も取得可能。^{※1}
教育学部教育学科初等教育専攻は、所定の条件を満たすことで、小学校の免許状に加え、中学校教諭二種免許状(国語・数学・理科・音楽・美術・技術・英語)、高等学校教諭一種免許状(情報)を取得することができます。

※1 教職課程認定申請中。ただし、文部科学省における審査の結果、予定している教職課程の開設時期等が変更となる可能性があります。

* 文学部国語教育学科・芸術学部は、個別に必修科目を履修することにより、小学校教諭二種免許状を取得できる場合があります。

* 夏期休暇・春期休暇で開講している科目の履修が必要になる場合があります。

本物の学びが導く 「教育のプロフェッショナル」

教育のプロフェッショナルになる夢に向かって行動しても、単に「教え方を知る」だけでは到達できません。子どもたちに学びの面白さ、楽しさを伝えるためには、「自分自身が学問を深く理解し、楽しむ」ことが重要です。各学部では、「国語」「数学」「理科」などの各教科を深く体感するカリキュラムが用意されています。学科専門科目と教職科目を両立することで、子どもたちに学びの魅力を伝えられる先生を目指しましょう。

「教員養成」を行う専門学部・学科と各専門領域

文学部	英語教育学科 英語教員養成コース 国語教育学科 国語教員養成コース	英語 国語
芸術学部	音楽学科 音楽教育コース アート・デザイン学科 美術教育コース	音楽 美術
農学部	生産農学科 理科教育コース	理科 農業
工学部	数学教員養成プログラム*	数学 技術 工業 情報

専門的な学びを深めて、
専門領域に強い
教育のプロフェッショナルへ

* 所属する学科により、取得可能な免許状が異なります。

「先生」になるための綿密なプログラム

	1年次		2年次		3年次	
	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター
早期に現場を経験し教養を身に付ける		実践的指導力の基礎を身に付ける		教育現場で学び教員採用試験に備える		
教育現場体験活動	小・中・高教員免許状	<ul style="list-style-type: none"> 教員免許状取得希望者向けガイダンス 参観実習(教育学部) 	<ul style="list-style-type: none"> 参観実習(教育学部以外) 学校体験活動A(中間指導含) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校体験活動A事後指導 介護等体験事前指導・中間指導 	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習校開拓ガイダンス 介護等体験※小・中学校教員免許状取得希望者のみ(特別支援学級を設置する小中学校または社会福祉施設で実施予定) 介護等体験事後指導 	<ul style="list-style-type: none"> 教育実習事前指導 教育実習事前ガイダンス
	幼稚園教員免許状	<ul style="list-style-type: none"> 教員免許状取得希望者向けガイダンス 参観実習(教育学部) 	<ul style="list-style-type: none"> 教育・保育体験活動A(中間指導含) 	<ul style="list-style-type: none"> 教育・保育体験活動A事後指導 教育実習園開拓ガイダンス 		<ul style="list-style-type: none"> 教育実習事前指導 教育・保育体験活動B(中間指導含)
	保育士資格	<ul style="list-style-type: none"> 教員免許状取得希望者向けガイダンス 参観実習(教育学部) 			<ul style="list-style-type: none"> 保育士資格取得希望者ガイダンス 	<ul style="list-style-type: none"> 保育実習I(保育所)事前指導 保育実習I(保育所)事後指導 保育実習I(施設)事前指導 保育実習I(施設)事後指導
教育インターンシップ・教育ボランティア(近隣の学校や保育所などで教育体験活動)						
教員・保育士採用試験プログラム		<ul style="list-style-type: none"> 教職講座(学修スタートガイダンス他) 筆記対策講座 教員・保育士採用等学内説明会 	<ul style="list-style-type: none"> 教職講座(最新動向ガイダンス他) 筆記対策講座 教員・保育士採用等学内説明会 	<ul style="list-style-type: none"> 教職講座(過去問分析ガイダンス他) 論作文講座 筆記対策講座 教員・保育士採用等学内説明会 	<ul style="list-style-type: none"> 教職講座(スタートガイダンス他) 教育実習事前指導 教育・保育体験活動B(中間指導含) 論作文講座 筆記対策講座 教員採用等学内説明会 私立学校就職ガイダンス 	<ul style="list-style-type: none"> 教職講座(県別学修ガイダンス他) 論作文講座 面接対策講座 筆記対策講座 教員・保育士採用等学内説明会
自主学修会(教職サポートルームを利用しての個人・集団学修)						
個別相談随時						

理想の教師になる夢を叶えるため 「教師教育リサーチセンター」が支えます

玉川大学では、一人ひとりが抱く夢の教師像を実現するため、教師教育リサーチセンターを中心とするフォローアップ体制を充実させています。小・中・高等学校の元校長や元幼稚園・保育所長など、経験豊富なスタッフが指導を行い、採用する側の視点で面接や論作文、模擬授業対策などを実施。4年間をとおして、マンツーマンでじっくりとあなたに向き合います。また、各自治体の調査・分析に基づいた対策、教員や保育士の試験対策やボランティア情報なども発信。学外実習や介護等体験などの手続き、免許状・資格の申請、教員・保育士採用試験の対策、求人案内、ボランティアの紹介など、どんな相談でも教師教育リサーチセンターまで。



教師教育リサーチセンターの詳細はこちらから

ホームページ

玉川大学教職課程の取り組みについてさまざまな情報を掲載しています。



公式SNS(Instagram)

教師教育リサーチセンターの紹介、玉川大学の教職課程の取り組み等について、情報を発信しています。



TMGW_KYOSHOKU

4年次・卒業

7セメスター

8セメスター

採用に向けての準備をする

- 教育実習（2週間）
- 教育実習事後指導
- サブ免・ダブル免
教育実習事前ガイダンス
- 学校体験活動B 事後指導
- 教育・保育体験活動B 事後指導
- 教育実習事前ガイダンス
- 教育実習（2週間）
- 教育実習事後指導
- 保育実習I（施設）事後指導
- 保育実習II事前指導
- 保育実習IIIII（保育所または施設）

- サブ免教育実習（3週間）
- 教育実習事後指導

教員採用試験

- 公立学校1次試験対策講座
- 公立学校2次試験対策講座
- 公立集中対策講座
- 教員採用等学内説明会
- 私立学校就職ガイダンス
- 私立幼保就職ガイダンス

模試

- 臨時の任用教職員ガイダンス
- 正規名簿登載者ガイダンス
- 教職課程講座
(教師・保育者就職者ガイダンス)

不安を解消する細やかなサポート

教員・保育士採用試験対策模擬試験

自分の実力を試したい。採用試験の雰囲気に慣れたい。早いうちから試験環境に対応するため、年に数回、学内で模擬試験を実施しています。試験後には「模試結果解説・学修スタートガイダンス」も開催されるので、必要な課題がクリアに見えてきます。

教員・保育士採用等学内説明会

教育委員会の担当者を招いた説明会を開きます。各地域ごとの特徴、求められる教師像、採用試験、教員養成のために教員志望者を対象とした研修会を行う教諭塾など、各自治体のリアルが見えてきます。自分はどこで教師になるのか？ そのためには必要な対策は？ 複数地域から比較検討ができる貴重な機会です。

自主学修室

教員・保育士を目指す仲間同士で、切磋琢磨する自主学修室を開設しています。受験地や教科ごとにチームを組み、受験準備をとおしての成果発表、取り組みの相談、情報交換を行います。

教職講座

1年次より、採用試験の概要をはじめ、教員・保育士採用試験の傾向と対策、論作文の個別指導や面接、模擬授業指導といった2次試験対策まで、教職サポートルーム客員教員などが行い、教員・保育士就職のアシストを行っています。

【その他のサポート】

教職サポートルーム客員教授による個別相談、幼稚園・保育士を志望する学生のためのビアノ対策講座など

入試ガイド 2025

TAMAGAWA UNIVERSITY

教育学部 教育学科

初等教育専攻
社会科教育専攻
保健体育専攻
乳幼児発達学科

文学部 英語教育学科
国語教育学科

芸術学部 音楽学科
演奏・創作コース
ミュージカルコース
音楽教育コース
アート・デザイン学科
メディア表現コース
美術教育コース
演劇・舞踊学科

経営学部 國際経営学科

観光学部 観光学科

リベラルアーツ学部 リベラルアーツ学科

農学部 生産農学科
理科教育コース
環境農学科
先端食農学科

工学部 デザインサイエンス学科
情報通信工学科
マネジメントサイエンス学科
ソフトウェアサイエンス学科
数学教員養成プログラム

トキ
輝く自分、出会う瞬間。

—「人」を育てる—

玉川大学

首都圏教員養成総合型入学審査



東京・神奈川・千葉・埼玉の出願資格に定める学校を卒業見込みで、教員をめざす受験生を対象にした選抜制度です。

面接試験について

面接形式は個人面接で、面接官2~3名と受験生1名で行います。玉川大学への志望動機、進学目的、将来の希望、高等学校での生活内容等の事項について自分の考えをきちんとまとめておくことが大切です。服装に規定はありませんが、高校生らしい服装をお薦めします。学校指定の制服がある場合はほとんどの方が制服で受験しています。

Point

- 出願資格の学業成績等に関する条件の実用英語技能検定は「合否」は問わず、CSEスコアが対象です。
対象となるのは2015年4月以降の受験で準2級以上のCSEスコア1728点以上です。
- 取得可能な教員免許状・資格 [詳細はP13]
- 同時期に実施する「総合型入学審査Ⅰ期」「スポーツ選抜総合型入学審査Ⅰ期」「音楽選抜総合型入学審査」との併願受験が可能です（同一学科に限る）。それぞれで合否判定を行うので合格のチャンスが広がります。

実施対象

教育学部	全学科	芸術学部	音楽学科音楽教育コース、アート・デザイン学科美術教育コース
文学部	全学科	農学部	生産農学科理科教育コース
		工学部	数学教員養成プログラム

日 程

出願期間（郵送受付のみ）	試験日	試験場	合格発表日	入学手続締切日
9月2日(月)~9月6日(金) (消印有効)	10月5日(土)	玉川大学	11月1日(金)	11月15日(金) (消印有効)

〈入学試験要項・出願書類〉本学Webサイト（入試Navi）からダウンロードしてください。

選考方法

書類審査（エッセイ、資格・検定取得記入書、志願者評価書（2枚）、調査書）および個別面接（事前申込制）、面接試験審査、面接試験までの流れについてはP11を参照してください。

出願資格

次の1~3のいずれかに該当する教員志願者で、**本学を第一志望（専願）とし、合格した場合に必ず入学することを確約できる者**。

かつ首都圏教員養成総合型入学審査の趣旨を十分に理解したうえで以下のⅠ~Ⅲの全ての条件を満たす者。

1. 東京・神奈川・千葉・埼玉の高等学校または中等教育学校を2025年3月卒業見込みの者。
2. 東京・神奈川・千葉・埼玉において通常の課程による12年の学校教育を2025年3月修了見込みの者。
3. 東京・神奈川・千葉・埼玉の専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了しており、かつ2025年3月31日までに修了見込みの者。

I. 人物に関する条件

- (1) 本学の教育方針ならびに学部・学科の内容を十分に理解し、「何を学ぶか」はっきりした目的意識をもっていること。
- (2) 協調性に富み、かつ強い意志と責任感があること。

II. 大学との相互理解に関する条件

- (1) 大学案内、Webサイト、オープンキャンパス、玉川大学説明会、ふらっと玉川、Web進学相談、合同相談会等で、玉川大学および志望する学部・学科との相性を確認していること。
- (2) **体験授業フェア（8/4・8/18どちらか）**で志望学部・学科の「模擬授業」を受けていること（オンラインも可）。
- (3) ((1)に取り組んだうえで) 個別面接を受けていること（出願期間より前に実施）。

III. 学業成績等に関する条件

次の基準を満たしていること。

教育学部	教育学科 乳幼児発達学科	全体の学習成績の状況 3.0以上で、英検CSEスコア1980点 ^(注1) またはTOEIC [®] L&R 550点以上 ^(注2) の取得
文学部	英語教育学科	全体の学習成績の状況 3.0以上で、英検CSEスコア1980点 ^(注1) またはTOEIC [®] L&R 550点以上 ^(注2) の取得
	国語教育学科	全体の学習成績の状況 3.0以上で、次の資格・検定のうち1つ以上を取得している。 <ul style="list-style-type: none">・語検3級以上・日本語運用能力テスト標準レベルN-C1以上・英検CSEスコア1980点^(注1) またはTOEIC[®]L&R 550点以上^(注2) *入学後の専門領域との関連上、高等学校において「古典」の領域を含む科目を履修していることが望ましい。
芸術学部	音楽学科 音楽教育コース アート・デザイン学科 美術教育コース	全体の学習成績の状況 3.0以上で、英検CSEスコア1980点 ^(注1) またはTOEIC [®] L&R 550点以上 ^(注2) の取得 *音楽学科音楽教育コース志願者は入学後の専門領域との関連上、古典派のソナタ形式を演奏できるピアノ技術を有していることが望ましい。
農学部	生産農学科 理科教育コース	以下の1・2ともに要件を充足すること。 <ol style="list-style-type: none">1. 全体の学習成績の状況 3.0以上で、次の資格・検定のうち1つ以上を取得している。<ul style="list-style-type: none">・英検CSEスコア1980点^(注1) またはTOEIC[®]L&R 550点以上^(注2)・数学検定2級以上2. 入学後の専門領域との関連上、高等学校において「生物基礎」「化学基礎」を履修していること。 *「生物」または「化学」を履修していることが望ましい。
工学部	数学教員養成プログラム	以下の1・2ともに要件を充足すること。 <ol style="list-style-type: none">1. 全体の学習成績の状況 3.0以上で、数学検定準1級1次（計算）または2次（数理）以上を取得している。2. 入学後の専門領域との関連上、高等学校において「数学Ⅲ」「数学B」「数学C」を履修していること。

(注1) CSEスコアは合否は問わず2015年4月以降の受験で準2級以上のスコアに限る。

(注2) は以下の資格・検定に読み替えることができる。

TOEIC[®]L&R 550点:「TOEIC Bridge[®]L&R 94点」「TOEFL iBT[®] テスト 42点」「GTEC」CBTタイプ、検定版 930点※オフィシャルスコアに限る」

*英検: 実用英語技能検定 語検: 日本語検定 数学検定: 実用数学技能検定

※有効期限のある検定 (TOEFL iBT[®] テスト、GTEC) については出願の時点で有効期限内であること。「TOEIC[®]」「GTEC」はオフィシャルスコアに限る。

入学検定料

35,000円

取得可能な 教員免許状・資格

5学部で教員免許状・資格が取得できます。

学部	学科	教員免許状・資格
教育学部	教育学科	幼稚園教諭 1種免許状 小学校教諭 1種免許状 中学校教諭 2種免許状 (社会) 中学校教諭 2種免許状 (保健体育) 中学校教諭 2種免許状 (英語)★ 中学校教諭 2種免許状 (国語)★ 中学校教諭 2種免許状 (数学)★ 中学校教諭 2種免許状 (理科)★ 中学校教諭 2種免許状 (音楽)★ 中学校教諭 2種免許状 (美術)★ 中学校教諭 2種免許状 (技術)★ 高等学校教諭 1種免許状 (情報)★
		中学校教諭 1種免許状 (社会) 高等学校教諭 1種免許状 (地理歴史) (公民) 小学校教諭 2種免許状
		中学校・高等学校教諭 1種免許状 (保健体育) 小学校教諭 2種免許状
	乳幼児発達学科	幼稚園教諭 1種免許状 保育士資格
文学部	英語教育学科	中学校・高等学校教諭 1種免許状 (英語) 小学校教諭 2種免許状★
	国語教育学科	中学校・高等学校教諭 1種免許状 (国語) 小学校教諭 2種免許状◆
芸術学部	音楽学科 音楽教育コース	中学校・高等学校教諭 1種免許状 (音楽) 小学校教諭 2種免許状◆
	アート・デザイン学科 美術教育コース	中学校・高等学校教諭 1種免許状 (美術) 高等学校教諭 1種免許状 (工芸) 小学校教諭 2種免許状◆
農学部	生産農学科 理科教育コース	中学校・高等学校教諭 1種免許状 (理科) 高等学校教諭 1種免許状 (農業) 小学校教諭 2種免許状★
工学部	数学教員養成プログラム*2	中学校・高等学校教諭 1種免許状 (数学) 中学校教諭 1種免許状 (技術)★*3 高等学校教諭 1種免許状 (工業)★*3 高等学校教諭 1種免許状 (情報)★*4 小学校教諭 2種免許状★

★取得にあたっては履修条件があります。

◆個別に必修科目を履修することにより、免許を取得できる場合があります。

*1 免許状の取得にあたっては組み合わせに制限があります。

*2 合格後にデザインサイエンス学科、情報通信工学科、マネジメントサイエンス学科、ソフトウェアサイエンス学科のうちいずれに所属するかを決めます。

*3 中学校教諭 1種免許状 (技術)、高等学校教諭 1種免許状 (工業)を取得する場合は、デザインサイエンス学科に所属します。

*4 高等学校教諭 1種免許状 (情報)を取得する場合は、ソフトウェアサイエンス学科に所属します。



地域創生教員養成入学試験

東京・神奈川・千葉・埼玉（1都3県）以外の出願資格に定める学校を卒業（見込み含む）で、教員をめざす受験生のための選抜制度です。本選抜制度で入学し、教員免許状を取得したのちに地元^{*}で教員に採用または名簿登載された学生に卒業時に地域創生奨励賞として奨励金30万円を授与します。

※取得可能な教員免許状・資格 [詳細はP13]

①実施方法 1学科のみ出願可能です。「全学統一入学試験」「給付型奨学金入学試験」と同日程・同一問題で学力試験を行います。

②試験場 玉川大学試験場のほか、15会場で学外試験を実施します。

Point

- 「外国语（英語）」の個別試験を課しません。英語外部試験スコアまたは大学入学共通テスト「英語」（リスニング含む）の得点を換算します。どちらを利用するかを出願時に選択します。科目的選択方法次第では1科目での受験が可能になり、当日の体力的な負担が軽減できます。
- 「全学統一入学試験」「給付型奨学金入学試験」を併願受験すると、各選抜制度・学科ごとで合否判定が行われるため合格のチャンスが広がります（入学検定料割引あり）。

※地元とは出身高等学校所在地とする。通信制高校についてはこの限りではない。

実施対象

教育学部	全学科	芸術学部	音楽学科音楽教育コース、アート・デザイン学科美術教育コース
文学部	全学科	農学部	生産農学科理科教育コース
		工学部	数学教員養成プログラム

日 程

出願期間（インターネット出願）	試験日	試験場	合格発表日	入学手続締切日
1月6日(月)～1月23日(木)（消印有効）	2月2日(日) 2月3日(月)	玉川大学および 学外試験場	2月18日(火)	2月28日(金)（消印有効）

※インターネット出願の最終日の登録時間は16時までとなります。

〈学外試験場〉 札幌・仙台・水戸・高崎・大宮・千葉・池袋・立川・横浜・新潟・長野・静岡・名古屋・大阪・福岡の15会場

※試験会場は都合により変更する場合があります。

〈入学試験要項〉 本学Webサイト（入試Navi）からダウンロードしてください。

出願資格

次のいずれかに該当する教員志望者

- 東京・神奈川・千葉・埼玉以外の高等学校または中等教育学校（外国の学校・在外教育施設を除く）を卒業した者、および2025年3月卒業見込みの者。
- 東京・神奈川・千葉・埼玉以外において通常の課程による12年の学校教育を修了した者、および2025年3月修了見込みの者。
- 東京・神奈川・千葉・埼玉以外の専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者、および2025年3月31日までに修了見込みの者。

上記条件のほか、教育学部教育学科保健体育専攻志願者は、**学校の部活動で2年以上運動部に所属した者**。

試験科目

※外国语（英語）の個別試験は課さない。条件・換算点等の詳細についてはP23参照。

学部	学科	試験科目	合計点数
教育学部	教育学科 初等教育・社会科教育専攻 教育学科 保健体育専攻 乳幼児発達学科	「外国语」…………… 必須 「国語 or 数学」より 1科目選択	教育学科 初等教育・社会科教育専攻 200点満点 教育学科 保健体育専攻*1 300点満点 乳幼児発達学科 200点満点
文学部	英語教育学科 国語教育学科	「国語」・「外国语」…………… 必須	英語教育学科*2 250点満点 国語教育学科 200点満点
芸術学部	音楽学科 音楽教育コース アート・デザイン学科 美術教育コース	「国語」・「外国语」…………… 必須	200点満点
農学部	生産農学科 理科教育コース	「理科（化学 or 生物）」・「外国语」… 必須	200点満点
工学部	数学教員養成プログラム	「数学」・「外国语」…………… 必須	300点満点*3
試験科目範囲	国語：「現代の国語・言語文化（古文・漢文を除く）・論理国語」 外国语：「英語外部試験スコアの換算点*4または大学入学共通テスト 外国語「英語」（リスニング含む）の得点による換算点*5」 数学（教育学部）：「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A（「图形の性質」「場合の数と確率」）・数学B（「数列」）・数学C（「ベクトル」） (工学部)：「数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A（「图形の性質」「場合の数と確率」）・数学B（「数列」）・ 数学C（「ベクトル」「平面上の曲線と複素数平面」）」 理科：「化学基礎・化学」「生物基礎・生物」		
配点／試験時間	いずれも100点／60分	*1 教育学部教育学科保健体育専攻は、「外国语」「国語 or 数学」を各150点に換算。 *2 文学部英語教育学科の「外国语」は150点に換算。 *3 工学部数学教員養成プログラムの「数学」は200点に換算。 *4 実用英語技能検定は合否は問わず2015年4月以降の受験で準2級以上のCSEスコア1728点以上が対象。 *5 大学入学共通テストの英語の得点は令和7年度大学入学共通テストの得点を対象とし、得点が59点以下 の場合は、得点の2分の1を換算点とする。	

入学検定料

35,000円（1学科のみの受験）

「全学統一入学試験」「給付型奨学金入学試験」との併願受験、複数日程の併願受験は入学検定料を割引します。[詳細はP26]

また、資格・検定取得者は上記の割引に加えてさらに入学検定料を割引します。[詳細はP27]

資料2-1-6

[アクセス](#)[資料請求](#)[検索](#)

[大学入試](#) [入試トピックス](#) [【12月10日開催】高校1・2年生対象「はじめてガイダンス」を開催します](#)

【12月10日開催】高校1・2年生対象「はじめてガイダンス」を開催します

2023.12.10

高校1.2年生を対象とした「はじめてガイダンス」を開催します。

「玉川大学ってどんな大学？」「どんな入試があるんだろう？」などの疑問を、専門スタッフがわかりやすく説明します。

大学選びのはじめの一歩として、ぜひご活用ください！

当日は、大学紹介や入試制度をはじめ、キャンパスツアーや在学生とお話できるイベントもあります！

保護者の方々のご参加も大歓迎です。みなさまのご参加をお待ちしております。

開催日

2023年12月10日（日）10:00～14:00

場所

大学教育棟2014

（小田急線「玉川学園前」駅より徒歩5分）

プログラム

各ガイダンスの開催時間は、以下のとおりです。★が実施する時間帯となります。

▶当日のプログラムはこちら



クイック
メニュー



イベント
情報



入試情報



学部・学科



就職・資格



キャンパス
ライフ

	プログラム内容	1時間目 (10:00~10:40)	2時間目 (11:00~11:40)	3時間目 (12:00~12:40)
玉川大学ってどんな大学？	玉川大学の教育理念やカリキュラム、サポート体制、学部紹介などをわかりやすく解説。	★	★	★
“今から”始める、玉川大学の入試準備	玉川大学の入試制度って？何から準備すればいいの？などスタッフが丁寧に説明します。		★	
保護者のための進学ガイダンス	受験生を持つ保護者の皆様に、知ってほしい大学入試の今、新学習指導要領のことなどをお伝えします。		★	
先生になるためガイダンス	「教員養成の玉川大学」としてのサポート体制、先生になるための流れなどを説明します。先生を目指している在学生トークもあります。			★
おしゃべり広場	学部のことやキャンパスでの過ごし方、大学生活について、在学生と話してみよう！		終日開催 ※在学生とのフリートークで学生生活について聞いてみる	
進学相談 【事前予約制】	玉川大学で学べる内容や、入試に関する質問等に専門スタッフがお答えします。	★ 【満席】	★ 【満席】	★ 【満席】
キャンパスツアー	在校生が秋色に彩られた玉川大学自慢のキャンパスをご案内します。		★	★
資料配布コーナー	「大学案内」や「入試ガイド」などの資料はこちらから。		終日開催	



お申込み

11月27日（月）16:00～ 申込受付開始

当日は実施するプログラムを自由に参加できます。

ただし、本イベントへの参加および進学相談を希望する方は申込が必要となります。

※ 進学相談は定員になり次第締切

※ ご来場者ごとに申し込みが必要です。

（例）受験生1名、保護者2名で一緒に来場される場合も、それぞれ3名分のお申し込みが必要です。

○ 来場者の方へ参加にあたってのお願い

受験生、保護者それぞれにお申し込みが必要です。

入校口および来場ルートを定めています。当日は正門から入校ください。

すべてのプログラムにおいて、録音・録画はお断りさせていただいております。

[一覧へ戻る](#)

資料2-1-7

[アクセス](#)[資料請求](#)[検索](#)[大学入試](#)[入試トピックス](#)

6月23日（日）開催 叶えよう！先生になる夢
「先生になるため」ガイダンス

6月23日（日）開催 叶えよう！先生になる夢 「先生になるため」ガイダンス

2024.06.05

将来は教壇に立って働きたい。そんな先生を目指す高校生に向けての説明会を開催します。

特に、玉川大学教育学部をめざしている方は必見のプログラムです！

玉川大学に入学してから実際に教壇に立つまでの流れ、そして、玉川大学独自のサポート体制など、「教員養成の玉川」と言われる玉川大学の強みをご紹介します。

高校3年生はもちろん、高校1・2年生や保護者の方のご参加も大歓迎です！

開催日時・会場

6月23日（日）10:00～14:00（9:30より受付開始・開場）

玉川大学会場（大学教育棟 2014）

※ 最寄り駅（小田急線 玉川学園前駅）から会場まで徒歩で5分ほど

プログラム

10:00～

基調講演：教育学部長が語る玉川大学が目指す教師像

※ 普段のオープンキャンパスでは聞くことのできないここだけの内容になっています。

10:30～

どの学校種・教科を目指すのかによってプログラムが異なります。

教育学科 ガイダンス・模擬授業

乳幼児発達学科 ガイダンス・模擬授業

クイック
メニュー



入試情報



学部・学科



就職・資格



キャンパス
ライフ

※ 「国語」・「英語」・「理科」・「数学」・「音楽」・「美術」などの免許状を目指す方

教師教育リサーチセンター見学ツアー・個別相談

11:50~

どの学校種・教科を目指すのかによってプログラムが異なります。

教育学科の在校生によるパネルディスカッション

乳幼児発達学科の在校生と卒業生によるパネルディスカッション

体験型模擬授業「先生を体験してみよう」（小学校教員編）

申し込み期間

＜申込期間＞ 6月10日（月）16:00～申し込み開始

先着300名様に『2024年度版 教員採用試験のための論作文＆面接対策講座～玉川メソッド～』をプレゼント！

○ 来校いただくにあたってのお願い

入場ルートが決められているため、必ず正門からご入校くださいますようお願いいたします。

来場者様それぞれお申込みが必要です。

開場までにお待ちいただける場所(食堂・カフェテリアの営業)はございませんので、開場時刻に合わせてご来校ください。

すべてのプログラムにおいて、録画・録音はお断りさせていただいております。当日の様子を収録した映像をオンデマンド配信いたしますので、ご希望の方はお申込みページよりお申込みください。

お問い合わせ先

玉川大学入試広報部入試広報課

電話：042-739-8155（平日9時～17時、土日、祝日を除く）

[一覧へ戻る](#)

News & Topics

すべてのトピックス

入試トピックス

クイック
メニュー



イベント
情報



入試情報



学部・学科



就職・資格



キャンパス
ライフ

[玉川大学サイト](#)  [玉川学園（総合）サイト](#) 

いいね！ 0

ポスト



〒194-8612 東京都町田市玉川学園6-1-1

TEL : 042-739-8155 (入試広報課)

[アクセス](#) [キャンスマップ](#) [サイトマップ](#) [お問い合わせ](#)

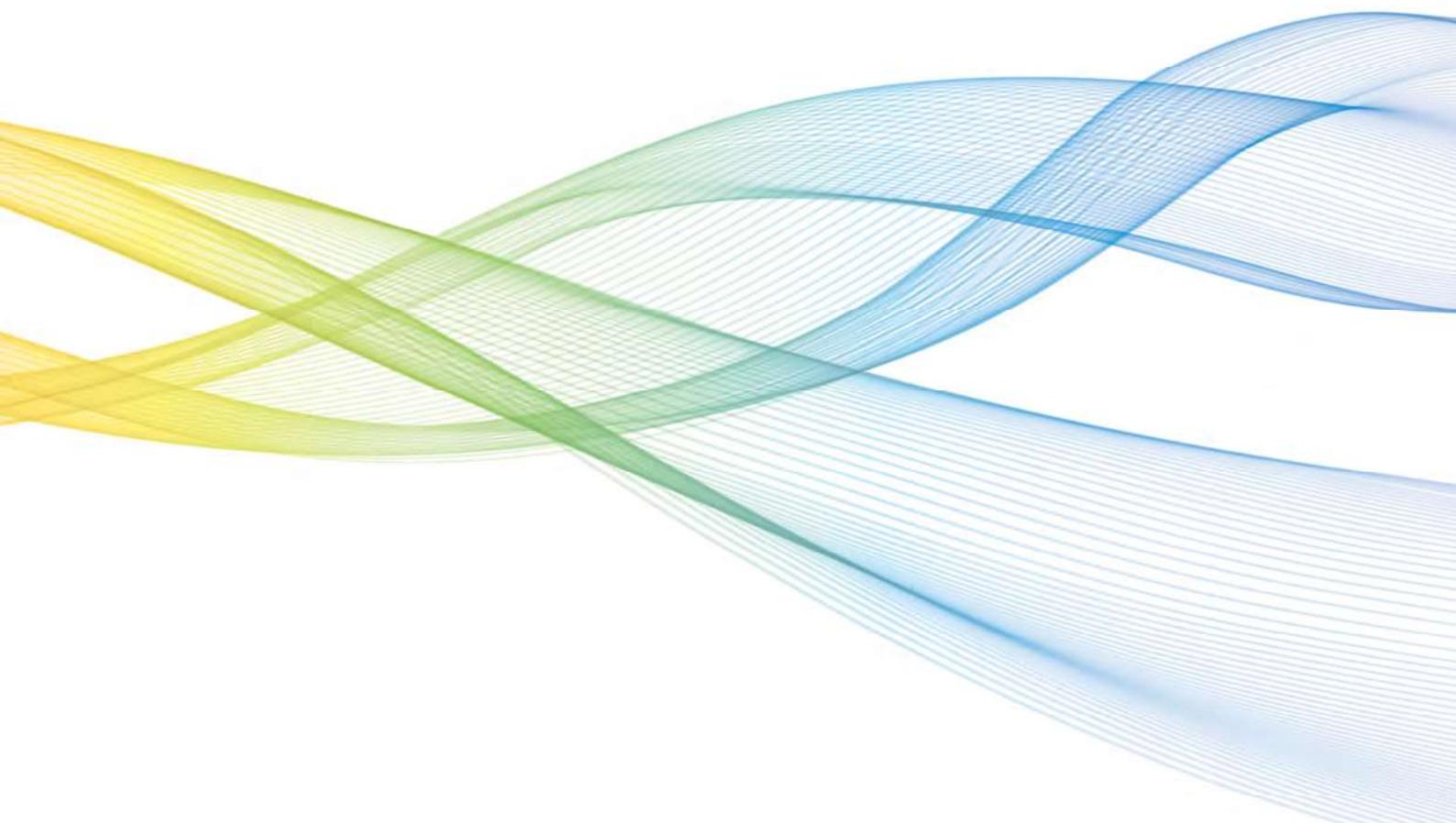
[個人情報保護](#) [著作権・リンク](#) [このサイトについて](#)

Copyright©Tamagawa Academy&University All Rights Reserved.

令和5(2023)年度

就職状況のまとめ

玉川大学 キャリア・就職指導委員会



教員採用試験の現状

公立学校 ー人物重視（質の高い教員の確保のため採用が多様化）ー

令和6年度（令和5年夏実施）の「公立学校教員採用選考試験実施状況」では、受験者総数は10万9954名で、前年度と比較し11,178名（10.2%）の減少。最多人數だった平成24年度の18万902名と比べ7万948名（39.2%）の減少という結果となりました。

また最終合格者数は3万8157名で、前年度と比較し2,176名（5.7%）の増加。競争率（倍率）は2.9倍で、8年連続減少です。

学校種別で見ると、小学校で0.3ポイント減の2.0倍、中学校で0.9ポイント減の3.2倍、高等学校は0.1ポイント増の5.0倍です。小学校では千葉県・市（1.4倍）を含む28の自治体が1倍台となりました。全体として「受験者減」の傾向が続いています（首都圏は東京都1.3倍、神奈川県2.0倍、川崎市1.8倍、相模原市2.3倍、埼玉県1.9倍、さいたま市2.2倍）。

上記の数字だけを見れば、公立学校の教員採用傾向は、新任教員の大量採用とそれに伴う競争率の低下で、教員就職の需要は高く、特に小学校における採用試験の倍率は平均値として全国平均2倍とさほど高くないため、教員志望者にとってはますます追い風が吹いているように見えますが、現実には合格者の約6割は臨時任用教員など既卒者です。新卒者は低倍率を鵜呑みにはできません。現場は即戦力を求めており、少なからず現場経験を積んだ者が有利になる傾向にあります。

中学校・高等学校はさらに難関となります。まず募集自体が少ないと、さらに科目の専門性を高く保つことを要するため、国立の教員養成系大学も含めライバルが多い状況にあります。

公立学校教員採用選考試験の内容としては、採用権者は教員としての資質・能力を見極めるため、さまざまな採用方法で実施しています。

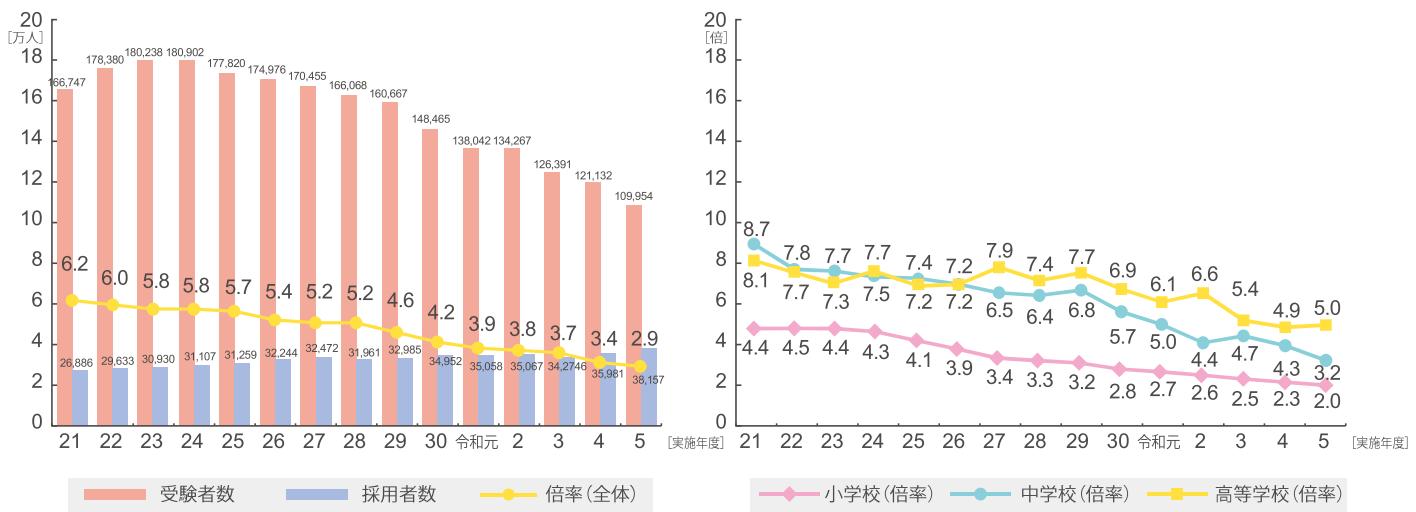
1つは2次試験の強化であり、個人面接、集団面接、模擬授業、場面指導、集団討議を課す自治体が多くあります。これまでも人物重視と言われていましたが、特別選考や特例試験などの試験形態の多様化をはじめ、すべての自治体で人物を重視する選考となっています。2つめが、特別選考の拡大です。社会人経験者、非常勤・代用教員などの教職経験者、教職大学院修了者を含む大学推薦者、教師塾修了者への1次試験免除が実施されています。

一方、地方では人口の減少と財政難から採用数が伸びない自治体も多く、中には新卒者の採用がほとんど見込まれない地域もあり、地方から都市部を受験する傾向にあります。都市部では優秀な教員確保のために、地方試験や一定期間の勤務により地元に戻って教員を続けられる制度を導入したところも出てきました。公立幼稚園については数も少なく、都市部に集中していることに加え、教員の労働流動率が低く、多くが欠員補充での採用であり、地域によっては募集のない年度もあり、きわめて狭き門となっています。

また、民間企業や他の職種の公務員の採用活動の状況から文部科学省より自治体へ採用選考時期の更なる前倒しが求められています。令和7年度に実施される採用試験多くの自治体が前倒しに応じることが予想されます。

公立学校における採用者数の推移

令和5年夏に「公立学校教員採用選考試験」を実施したのは、47都道府県、20政令指定都市（そのうち、千葉市は千葉県、広島市は広島県と、それぞれ共同で実施）ならびに大阪府豊能地区の計66都道府県・指定都市です。受験者数、採用者数、選考倍率の推移、ならびに校種別最終選考倍率の推移は以下のグラフのとおり。



文部科学省：「公立学校教員採用選考試験の実施状況について」より。
令和5年度は「教員養成セミナー2024年1月号（時事通信社）」より引用。

私立学校 ー 募集のピークは10月過ぎー

私立学校の教員採用傾向は、公立ほど顕著な傾向は見られませんが、公立学校の採用がまだ多いため、人員確保に苦戦する学校が増えています。縁故を利用した採用には限界があり、私立学校が集中する都市部では、Web等を使って公募する学校や合同説明会に参加する学校など、求人がオープンになってきています。そのため、情報をいかに早く入手できるかが重要な決め手となります。ただし、1名の求人に対して100名以上の応募があるような人気校がある一方、一度に複数の教員が退職したり、大規模校でないにもかかわらず毎年のように求人を出す学校もあり、働く環境として注意が必要な学校も少なからず見受けられます。その学校の「建学の精神」と自身の教育観のマッチングは当然のことながら、労働環境にも注視したいところです。また私学の場合は、基本的には非常勤や期限付き採用であり、新卒者が専任で採用されるケースは稀です。初年から数年間の任用期間を経て、正規採用される仕組みが一般的です。

幼稚園については、全園児の8割が通園している私立が主流となっていますが、小規模法人が多いため、ほとんどが欠員補充です。ただし、幼稚園の場合、労働流動率が比較的高く、特に都市部では毎年、数百名の新規採用があります。

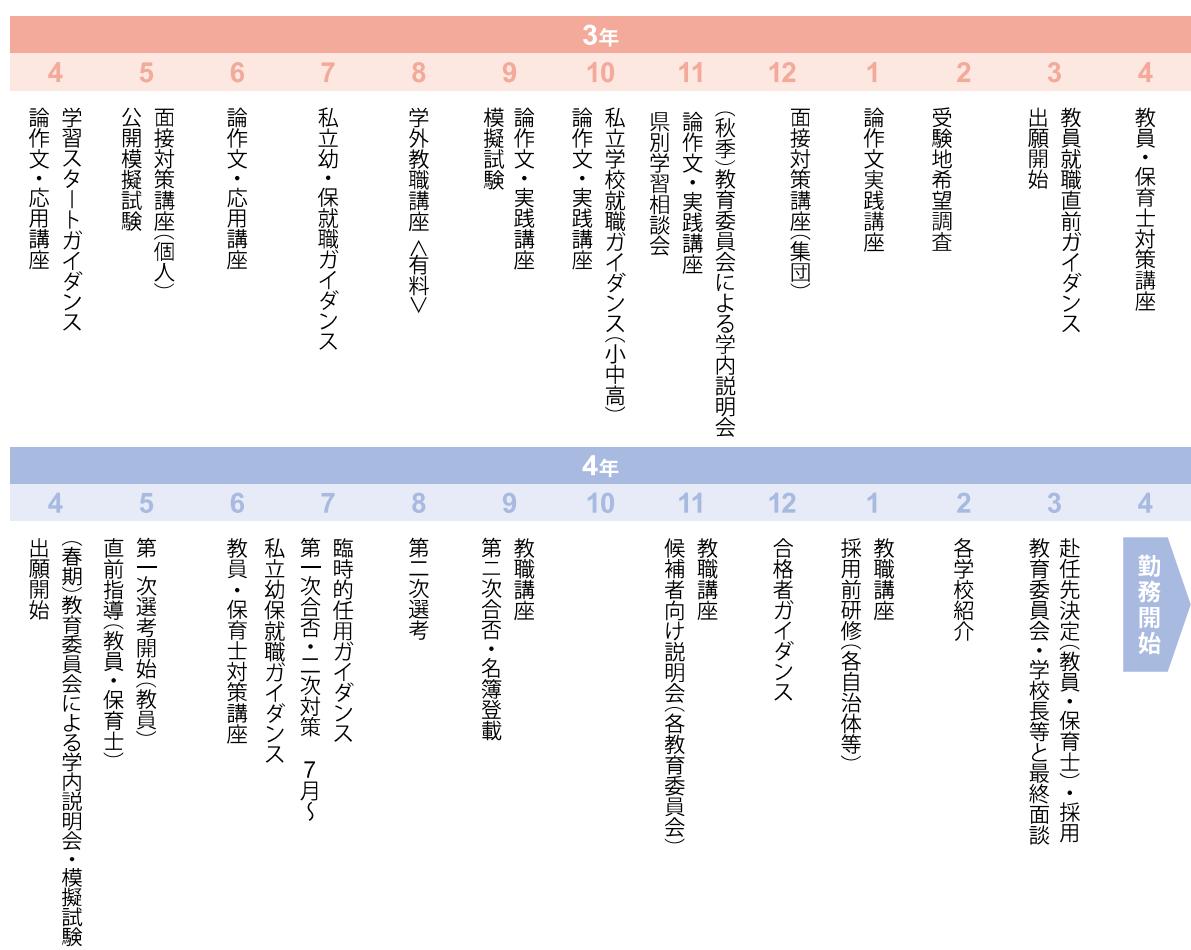
私立の幼稚園、小・中・高等学校の場合、教員の欠員を把握してからの採用募集となるため、毎年度10月過ぎが募集のピークとなっています。

就職活動モデル（教員・保育士関係）

当然のことながら、教員採用試験に何の対策も講じずに合格することは至難の業です。試験へ向けて効率的な学習プランを立て、入念な準備をしなければなりません。それとともに、受験しようとする自治体の過去問を入手し出題傾向をつかむことはもちろん、競争率を確認し、志望する自治体の研究（求める教師像など）を十分にして、受験先を決定する必要があります。

また、現状の学習状況を把握するためにも、教師教育リサーチセンターで開催する教員・保育士採用模擬試験を毎回受験し活用することを推奨しています。

なお、模擬試験については、平成25(2013)年度入学生より各学年で徴収している教職課程受講料の一部を受験料に充てています。



* 対策講座・教育委員会による学内説明会等への参加は、1年次より可能。

* 詳細は、UNITAMA掲示等にて随時確認。

私立学校・幼稚園・保育所・福祉施設からの求人状況

私立学校・幼稚園教員の近年の募集傾向

私立学校は公立に比べ学校数も少なく、また教員の労働流動率も低く、多くの場合欠員補充であることから求人数も極めて少ない現状にあります。また近年では、大学充てに求人票を提出せず、一般公募にて募集する学校が目立ちます（各学校ホームページのトップページや新聞に求人情報を掲載など）。

大学で受理する求人数の減少は、このような公募による募集方法の増加が要因の1つとも考えられます。そのため教師教育リサーチセンターでは、各協会による私学適性検査・求人斡旋（履歴書委託制度）等の活用や各協会・学校と連携を図っている、有効な求人サイトを紹介しています。

引き続き、比較的に学校数の多い中・高等学校を中心に、労働条件に注意を向けながら積極的に求人開拓を行っていきたいと考えています。

私立幼稚園教員の場合は、希望者を越える求人がありますが、各幼稚園とも1～2名といった採用枠に対して応募者が多く、採用試験では教員としての資質・実力を図る試験が行われています。

保育士の場合は、昨今の経済情勢の影響等から、需要が高くなっています。また、私立の社会福祉法人だけでなく、他の業種・事業所内保育等のように児童福祉施設に限らず、求人募集があります。

また、地方出身者が郷里で教員・保育士に就職できるように、学生と各担当教員、教師教育リサーチセンター教員就職担当が密に連絡をとったうえで支援をしているため、採用に効果を上げています。

各学科担当教員・教職サポートルーム教員・教師教育リサーチセンターの連携による「教員・保育士採用試験対策講座」や「ガイダンス」等の効果により、学生の実力や意識は全学的に高められています。

平成23年度より、学年（大学1年次から）に応じた教員・保育士就職支援体制を構築し、4年間を通じた有効なプログラムを実施しています。年々変化する教員採用方法の情報収集を積極的に行い、学校や教育行政での現場経験のある教職サポートルーム教員と連携を取りながら、校種や受験地に応じた内容の支援が継続的・効果的に行われています。

教員・保育士における合格状況

公立学校・幼稚園（合格状況）

区分	本学からの受験者数	名簿登載者数	備考			
幼稚園 名簿登載者	令和 5年度(2023)	4名	3名			
	4年度(2022)	11名	4名			
	3年度(2021)	14名	5名			
	2年度(2020)	20名	5名			
小学校 名簿登載者	令和 5年度(2023)	182名	154名	全科153名	英語1名	
	4年度(2022)	202名	146名	全科146名		
	3年度(2021)	195名	112名	全科111名	英語1名	
	2年度(2020)	208名	121名	全科120名	理科1名	
中学・高等学校 名簿登載者	令和 5年度(2023)	193名	83名	国語11名 音楽11名	社会9名 美術2名	数学18名 保健体育5名
	4年度(2022)	176名	66名	国語17名 音楽5名	社会4名 美術1名	理科17名 保健体育5名
	3年度(2021)	162名	44名	国語6名 美術3名	社会2名 保健体育1名	数学8名 英語11名
	2年度(2020)	129名	48名	国語11名 美術2名	社会3名 保健体育1名	数学9名 英語12名
				※複数自治体合格者含む	※社会は地理歴史・公民含む	
大学3年生早期受験 名簿登載者	令和 5年度(2023)	9名	8名	小学校全科7名 中学校・高等学校(理科1名)		

※早期受験数は大学推薦によるもの

※対象自治体：神奈川県・横浜市・川崎市

私立学校・幼稚園（就職状況）

区分	就職状況（推移）	備考				
幼稚園	令和 5年度(2023)	40名				
	4年度(2022)	34名				
	3年度(2021)	31名				
	2年度(2020)	24名				
小学校*	令和 5年度(2023)	10名				
	4年度(2022)	6名				
	3年度(2021)	8名				
	2年度(2020)	3名				
中学校・高等学校*	令和 5年度(2023)	27名	国語4名 保健体育5名	社会5名	数学4名	理科2名
	4年度(2022)	19名	英語5名			
	3年度(2021)	18名		国語6名	社会1名	数学2名
	2年度(2020)	19名		理科4名	保健体育1名	英語5名

※社会は地理歴史・公民含む

保育所・福祉施設等（合格状況）

■ 公立保育所合格状況（4カ年推移）

区分	名簿登載者数（最終試験）	
	令和5(2023)年度	10名
公立保育所 名簿登載者	4(2022)年度	8名
	3(2021)年度	13名
	2(2020)年度	12名
	[人数：延べ数]	

※公立保育士1次試験～最終試験（4次等）までに、他の自治体に就職先が決定した場合は、その時点にて辞退を行う。

■ 公立保育所合格状況（令和5(2023)年度）

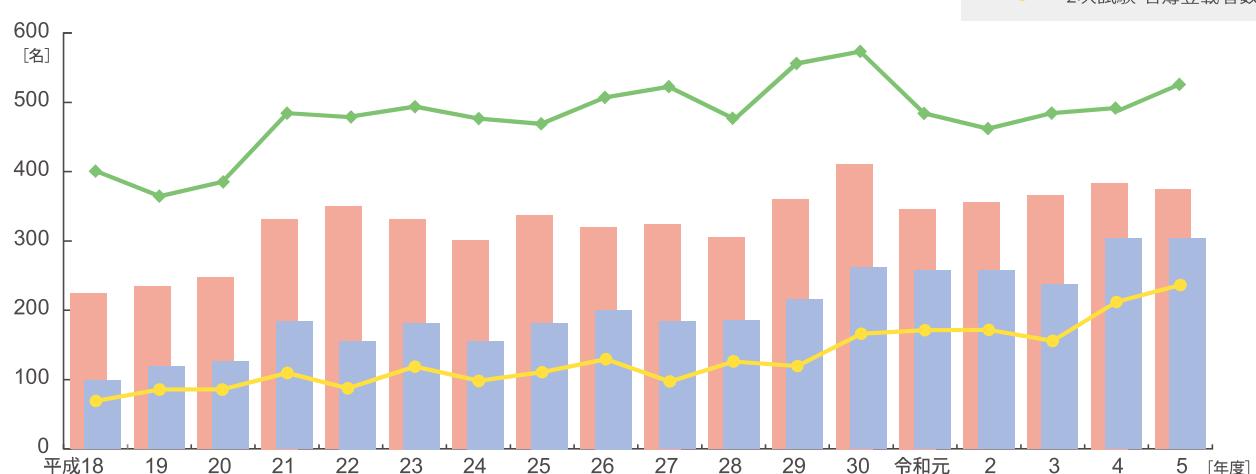
区分	人数
東京都 世田谷区	3名
東京都 武蔵野市	1名
神奈川県 横浜市	2名
神奈川県 藤沢市	1名
神奈川県 大和市	1名
神奈川県 相模原市	1名
茨城県 阿見町	1名
合 計	10名

※名簿登載者数を記載。

■ 私立保育所・福祉施設等就職状況（4カ年推移）

区分	就職者数	
	令和5(2023)年度	38名
私立保育所 ・福祉施設等	4(2022)年度	38名
	3(2021)年度	34名
	2(2020)年度	41名
	[人数：実数]	

■ 公立学校合格状況



■ 名簿登載率

名簿登載率 [%] <幼小中高>
(登載率 = 2次試験の登載者数 ÷ 1次試験受験者数)



■ 公立、私立学校・幼稚園教員合格状況（内訳）*大学・大学専攻科・大学院計

一括 申請者 実数	公立・ 私立計	公立			名簿 登載者数	私立*						計		
		大学・大学専攻科・大学院				大学・大学専攻科・大学院								
		幼	小	中高		幼	小**	中・高**	大学・短大	専修学校	その他***			
令和5年度	534	322	3	154	83	240	40	10	27	3	0	2	82	
令和4年度	497	278	4	146	66	216	34	6	19	1	0	2	62	
令和3年度	488	220	5	112	44	161	31	8	18	1	0	1	59	
令和2年度	463	221	5	121	48	174	24	3	19	0	0	1	47	

注 1：私立は就職状況。

注 2：公立校種区分*には、「特別支援学校」就職者を含む。

注 3：日本語学校、インターナショナルスクール、療育センター等。

注 4：公立・私立保育士については、別途 42 ページに記載。

合格率向上を目指し 1 年次から教員養成支援

本学では、教職課程の受講を強く希望して入学してくる学生が多くあります。教職に就こうという大学入学時のモチベーションを持続させるためには、1 年次からの教職課程支援が必要不可欠と考え、大学 4 年間を通じた教職課程受講支援プログラムを構築・実践しております。令和 5 (2023) 年度 1 年次生を対象に実施した講座等を下記に示します。

令和5(2023)年度に実施した1年次生教職課程受講支援プログラム

実施日	講座名
令和5年4月20日～5月1日	教職講座1「教員・保育士を目指す学生たちへ —教員・保育士に求められる資質・能力—」
令和5年6月1日	教職講座2「トライアル模擬試験」(時事通信出版局) 「学修スタートガイダンス」
令和5年7月6日	教職講座3「夏休みの課題 一教職関連トピックを書くー」 「進路について考えよう」
①令和5年5月11日 ②令和5年7月13日・9月28日	「参観実習事前指導」 ①教育学部・文学部英語教育学科 1回 ②文学部国語教育学科・農学部・工学部・芸術学部 2回
令和5年10月5日	教職講座4(幼・保)「幼稚園・保育所の違い」 教職講座4(小中高)「最新動向ガイダンス」
①令和5年6月15日 ②令和5年10月13日	「参観実習」 ①教育学部・文学部英語教育学科 ②文学部国語教育学科・農学部・工学部・芸術学部
令和5年11月2日	教職講座5(幼・保)「幼稚園・保育所の動向」 教職講座5(小中高)「私立学校と公立学校の違い ー私立学校就職ガイダンスー」
令和5年11月16日	教職講座6(幼・保)「学修ガイダンス」 教職講座6(小中高)「専門教養ガイダンス」
令和6年1月11日	教職講座7(幼・保)「認定こども園」 教職講座7(小中高)「受験する自治体を考えよう」

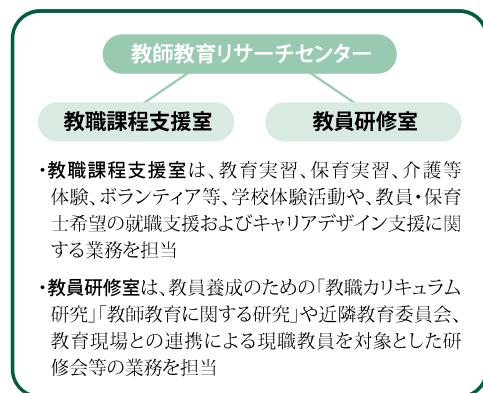
教師教育リサーチセンターの役割

サポート体制と情報収集・提供

平成 18 (2006) 年 4 月、教職に関する専門的・総合的な調査・研究・支援を行う部門として、大学附置機関の教職センターが設置されましたが、さらなる教員養成における研究・支援活動推進の場とするために、平成 24 (2012) 年 4 月より教師教育リサーチセンターへと改組されました。

「質の高い教員養成」をテーマに、教職課程の履修、介護等体験や教育実習、免許状の申請業務にとどまらず、学校現場・教育委員会と大学を結び連携をとりながら、学校現場に必要とされる知識や資質をもつ教員を養成すべく、教師になりたいという強い意志と情熱を持った学生の教員・保育士就職を支援いたします。

また、教師教育リサーチセンターには保育所長、幼稚園長、小・中学校・高等学校校長経験者 29 名からなる教職サポートルームを置いています。さらに、首都圏以外の自治体を含む教職講座・実習指導担当教員 20 名を加え、学校現場での経験を活かし、学生の指導や相談に応じています。

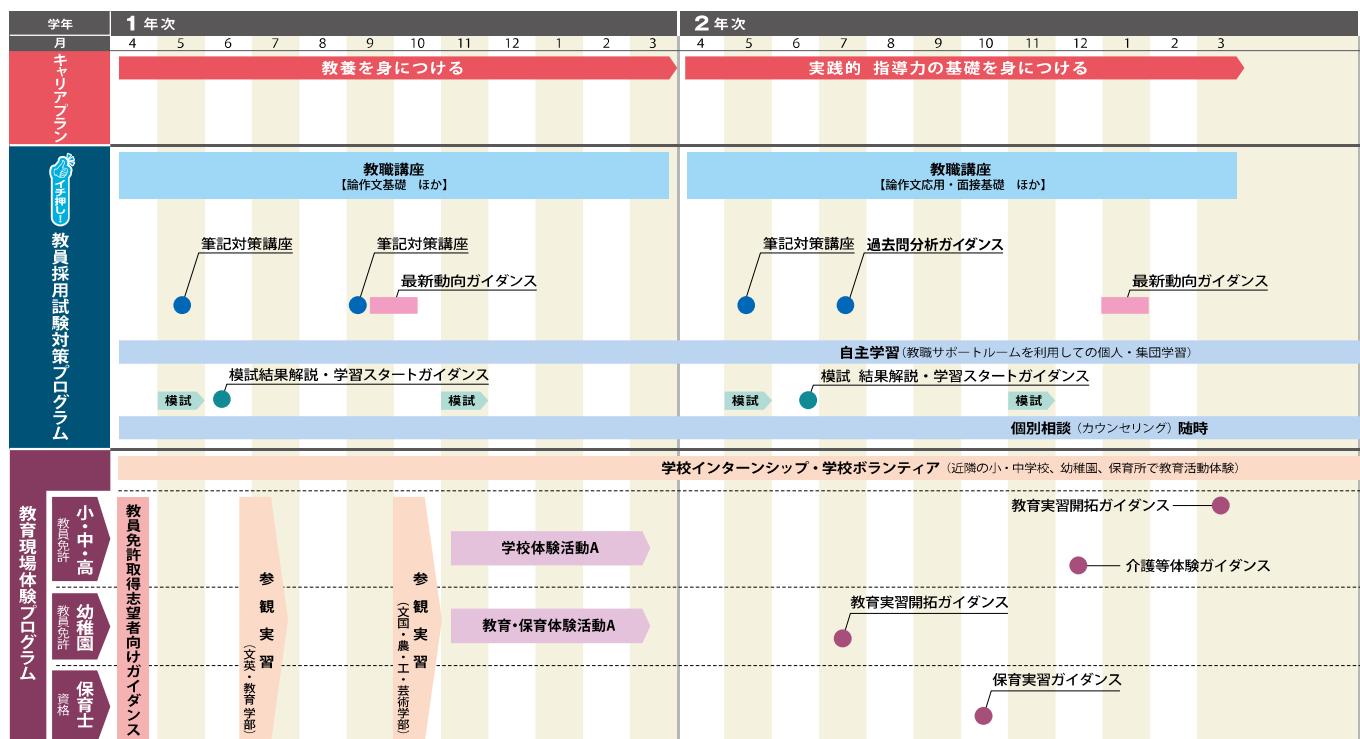


対策講座などの企画・運営等

- 1 公立学校・幼稚園教員採用試験や保育士採用試験の対策講座の実施（ピアノ・体育・デッサン等実技を含む）
- 2 模擬試験や教職講座などの実施
- 3 就職ガイダンス（各校種）の実施
- 4 教員・保育士として活躍する卒業生、4年次生名簿登載者（公立学校・幼稚園教員・保育士採用試験合格者）による体験談等の実施
- 5 近隣教育委員会等による教員採用試験や教師塾などの学内説明会の開催
- 6 教職サポートルームの運用・管理

4年間を通して一貫した教職課程受講支援プログラム（令和6年度）

※芸術学部は、介護等体験を2年次、教育実習を3年次に実施



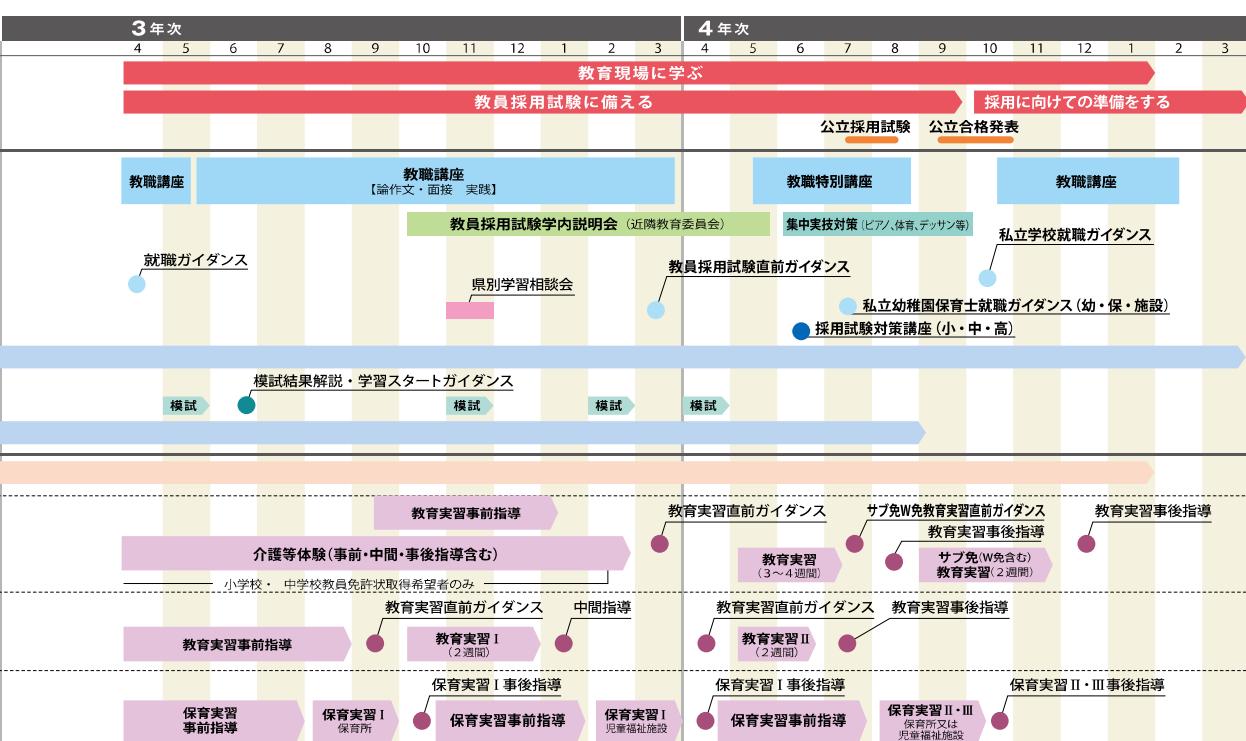
専門スタッフによる個別相談

小・中学校・高等学校の校長経験者、幼稚園や保育所の園長経験者により、公立学校教員・保育士採用試験の筆記対策に加えて、面接、論作文、模擬授業などの対策について個別に相談・指導を行っています。試験対策のみならず、個別面接では授業の方法や学級運営など教職への悩みに対して、現場での経験に基づいた具体的で細かいアドバイスを行っています。

充実した教職課程受講支援プログラム

平成 23 (2011) 年度より、学年ごとの段階に応じて「教員・保育士採用試験対策講座（春期集中・春学期・秋学期）」や「ガイダンス」等の取り組みを実施し、大学 1 年次生から 4 年間を通じたプログラムを推進しています。この支援プログラムの実施にあたっては、各学科担当教員・教職サポートルーム教員・教師教育リサーチセンターの連携による教員・保育士就職支援体制を構築しました。

教師教育リサーチセンターでは年々変化する教員採用試験の情報を積極的に収集し、学校や教育行政での豊富な現場経験をもつ教職サポートルーム教員と連携をとりながら、校種や受験地の特性をふまえた指導を継続的・効果的に行うことにより、学生の実力や意識を高めることを意図しています。



【教員・保育士】令和5(2023)年度 就職支援イベント一覧

教職講座				
講座・ガイダンス名	対象	内容	開催日時	実施方式
1年次生 教職講座1 「教員・保育士を目指す 学生たちへ」	大学1年生	教員・保育士を目指す学生を対象に、教員・保育士になるために必要な教員としての資質・能力、日本語力について講義を行った。	令和5年4月20日(木) ～5月1日(月)23:59	Bbにて動画配信 1年生:333名
1年次生 教職講座2 「学修スタートガイダンス」	大学1年生	教員採用試験受験に向けて、これから約4年間の学習計画について、説明。模擬試験を事前課題として行った。各自の弱点科目・分野を分析。各自が補強すべきプログラムについて、冊子を配布。各学年でどの科目を重点的に準備すべきか確認。	令和5年6月1日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:348名
1年次生 教職講座3 「進路について考えよう」	大学1年生	社会状況を踏まえ、教員・保育士を目指す学生に対して、教育改革をはじめとする社会の動きについて意識・理解を促した。	令和5年7月6日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:526名
1年次生 教職講座4(幼・保) 「幼稚園・保育所の違い」	大学1年生 幼稚園／保育士	志望する幼稚園教諭・保育士の違いを理解するうえで、幼稚園・保育所の違いを理解し、意識を促した。	令和5年10月5日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:78名
1年次生 教職講座5(幼・保) 「幼稚園・保育所の動向」	大学1年生 幼稚園／保育士	幼稚園教員・保育士就職を目指すうえで、採用の方針や動向について、学修し、就職活動について意識を促した。	令和5年11月2日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:64名
1年次生 教職講座6(幼・保) 「学修ガイダンス」	大学1年生 幼稚園／保育士	幼稚園と保育所の採用試験担当者と本学卒業生で現役の先生による学修ガイダンスを行った。先生のやがいやや学生時代の学修についてレクチャーを行った。	令和5年11月16日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:77名
1年次生 教職講座7(幼・保) 「認定こども園」	大学1年生 幼稚園／保育士	社会状況を踏まえ、教員・保育士を目指す学生に対して、教育改革をはじめとする社会の動きについてしっかりと意識・理解を促した。	令和6年1月11日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:67名
1年次生 教職講座4(小中高) 「最新動向ガイダンス」	大学1年生 小中高等学校	2023年夏の採用試験情報を踏まえ、頻出の「教育法規」や「教育時事」についての概要を把握し、今後の対策へつなげる。	令和5年10月5日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:387名
1年次生 教職講座5(小中高) 「私立学校と公立学校の違いー 私立学校就職ガイダンスー」	大学1年生 小中高等学校	私立学校と公立学校の設置や運営の違いを理解し、進路の選択肢を確認。希望する進路に進むための、自主的な学修などに活かせるよう情報提供を行った。	令和5年11月2日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:390名
1年次生 教職講座6(小中高) 「専門教養ガイダンス」	大学1年生 小中高等学校	専門教科に関する内容や、学修方法について、説明。採用試験までの学修計画案を提示。	令和5年11月16日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:389名
1年次生 教職講座7(小中高) 「受験する自治体を考えよう」	大学1年生 小中高等学校	社会状況を踏まえ、教員を目指す学生に対して、教育改革をはじめとする社会の動きについてしっかりと意識・理解を促した。	令和6年1月11日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 1年生:387名
2年次生 教職講座1(幼・保) 「スタートガイダンス／ 幼稚園・保育所の動向」	大学2年生 幼稚園／保育士	2年次の目的を確認し、今後の就職試験までのスケジュールを説明。志望する就職先の園種の動向を確認し、理解を深める。	令和5年4月13日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:60名
2年次生 教職講座2(幼・保) 「認定こども園」	大学2年生 幼稚園／保育士	社会状況を踏まえ、教員・保育士を目指す学生に対して、教育改革をはじめとする社会の動きについてしっかりと意識・理解を促した。	令和5年7月13日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:47名
2年次生 教職講座3(幼・保) 「私立園と公立園の違い」	大学2年生 幼稚園／保育士	私立園と公立園の違いを理解し、進路選択を行えるよう、情報提供を行った。	令和5年11月9日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:55名
2年次生 教職講座4(幼・保) 「学修ガイダンス」	大学2年生 幼稚園／保育士	幼稚園と保育所の採用試験担当者と本学卒業生で現役の先生による学修ガイダンスを行った。先生のやがいやや学生時代の学修についてレクチャーを行った。	令和5年11月16日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:80名
2年次生 教職講座5(幼・保) 「就職試験の動向ガイダンス」	大学2年生 幼稚園／保育士	2022年度の採用試験情報をもとに、採用状況の動きなどを説明。4年次の採用試験に向け、実践的な講座を提供するため、受験する自治体や園など具体的にし、準備をするよう情報提供を行った。	令和6年1月18日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:50名
2年次生 教職講座1(小中高) 「スタートガイダンス／ICTを 活用した授業の重要性」	大学2年生 小中高等学校	児童・生徒にchromebook等のICTを活用した授業が実施されているため、教育現場で利活用されているclassroomを使用した体験や活用事例について紹介を行った。	令和5年4月13日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:376名
2年次生 教職講座2(小中高) 「学修スタートガイダンス」	大学2年生 小中高等学校	教員採用試験受験に向けて、これから約4年間の学習計画について、説明。模擬試験を事前課題として行った。各自の弱点科目・分野を分析。各自が補強すべきプログラムについて、冊子を配布。	令和5年4月20日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 2年生:359名

2年次生 教職講座3(小中高) 「受験する自治体を考えよう」	大学2年生 小中高等学校	社会状況を踏まえ、教員を目指す学生に対して、教育改革をはじめとする社会の動きについてしっかりと意識・理解を促した。	令和5年7月13日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 2年生:370名
2年次生 教職講座4(小中高) 「過去問分析ガイドンス」	大学2年生 小中高等学校	採用試験出願まで残り1年半となり、校種や志望する自治体の確認。過去問の分析について、提供し、各自が志望する自治体に合わせた過去問分析を行うよう意識を促した。	令和5年10月12日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 2年生:281名
2年次生 教職講座5(小中高) 「最新動向ガイドンス」	大学2年生 小中高等学校	2023年度の採用試験情報をもとに、採用状況の動きなどを説明。3年次の講座内容を、より実践的に実施するため、受験する自治体・校種など具体的な準備をするよう共有した。	令和6年2月1日(木) 10:00～11:40	Zoomにて実施 2年生:209名
3年次生 教職講座1(幼・保) 「Kコーススタートガイドンス」	大学3年生 《Kコース》	教員・保育士採用試験受験に向けた対策講座のスケジュールの確認。志望自治体の実施要項を準備し、試験内容を把握するよう促した。	令和5年4月6日(木) 16:10～17:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:58名
3年次生 教職講座2(幼・保) 「アンガーマネジメント」	大学3年生 《Kコース》	教育実習や採用試験、就職後に感情をコントロールできるよう、行った。	令和5年6月15日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:34名
3年次生 教職講座3(幼・保) 「保育・教育に関する関連法規と専門科目全般」	大学3年生 《Kコース》	保育・教育に関する関連法規の重要性について、説明。	令和5年10月26日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:3名
3年次生 教職講座4(幼・保) 「教育課程と幼稚園教育要領」	大学3年生 《Kコース》	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の中核について理解を深める。	令和5年11月30日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:22名
3年次生 教職講座1(小中高) 「Aコーススタートガイドンス」	大学3年生 《Aコース》	教員採用試験受験に向けた対策講座のスケジュールの確認。志望自治体の実施要項を準備し、試験内容を把握するよう促した。	令和5年4月6日(木) 17:10～18:00	大学教育棟2014にて実施 3年生:248名
3年次生 教職講座2(小中高) 「アンガーマネジメント」	大学3年生 《Aコース》	教育実習や採用試験、就職後に感情をコントロールできるよう、行った。	令和5年6月15日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:219名
3年次生 教職講座3(小中高) 「県別学修ガイドンス」	大学3年生 《Aコース》	志望する自治体別に、教員採用試験の内容や過去問の学修について説明会を実施	令和5年11月4日(土) 9:00～16:30	Zoomにて実施 3年生:200名
3年次生 教職講座4(小中高) 「教員就職直前ガイドンス」	大学3年生 《Aコース》	2024年夏の教員採用試験の直前対策として、教育時事を中心に主要な教育トピックを確認。教育時事の必出ポイント、重要ポイントを整理し、第1次、第2次の面接試験への準備を合わせてすすめる。	令和6年3月21日(木) 動画配信	動画配信
4年次生 教職講座1(幼・保) 「教師・保育者になる学生に向けて①」	大学4年生 教員・保育士就職予定者	現役の園長による就職後、求められる力や支援等の説明。	令和5年12月7日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 4年生:66名
4年次生 教職講座1(小中高) 「教師・保育者になる学生に向けて①」	大学4年生 教員就職予定者	「教師1年目がハッピーになるテクニック」の著書による講座を行った。教員就職に向けた不安緩和やテクニックについて、説明。	令和5年12月7日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 4年生:170名
4年次生 教職講座2 「教師・保育者になる学生に向けて②」	大学4年生 教員・保育士就職予定者	文部科学省の答申や中教審答申をもとに、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して(答申)が意味するものについて、説明。	令和5年12月21日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 4年生:220名
4年次生 教職講座3 「教師・保育者になる学生に向けて③」	大学4年生 教員・保育士就職予定者	特別講師として、玉川大学卒業生の現役学校教員による講義を行った。児童・生徒に対する授業の仕方や指導方法、保護者対応など、教育現場に出るにあたっての不安を解消。	令和6年1月11日(木) 17:10～18:50	Zoomにて実施 4年生:196名
4年次生 教職特別講座1(幼・保) 「公立集中対策講座」	大学4年生 《Aコース》	公立の幼稚園・保育所の採用試験に向けた集中対策講座を行った。	令和5年4月～11月	経塚オフィス棟にて実施
4年次生 教職特別講座2(幼・保) 「合格者ガイドンス」	大学4年生 (幼・保) 《Aコース》 正規名簿登載者	教員・保育士の名簿登載者に向けた対策講座。提出する書類の確認。赴任校面接に向けた準備や心構え、教師・保育者として準備すべき教材研究などについての確認。	令和6年1月25日(木) 13:00～14:50	経塚オフィス棟にて実施
4年次生 教職特別講座1(小中高) 「公立学校1次試験対策講座」	大学4年生 《Aコース》	第1志望の自治体のみの対策。1次試験に集団面接・集団討議等の実施がある自治体を第1志望としている受験者を対象に、試験前に集団対策講座。	令和5年4月12日(水) ～6月30日(金)	対面・オンラインの併用にて実施
4年次生 教職特別講座2(小中高) 「公立学校2次試験対策講座」	大学4年生 《Aコース》 1次試験合格者	第1志望の自治体のみの対策。1次試験合格者を対象に、2次試験に個人面接・集団面接・集団討議等の実施がある自治体の対策講座を行った。	令和5年7月14日(金) ～9月1日(金)	対面・オンラインの併用にて実施
4年次生 教職特別講座3(小中高) 「合格者ガイドンス」	大学4年生 《Aコース》 正規名簿登載者	教員の名簿登載者に向けた対策講座を行った。これから各自治体に提出する書類の確認。赴任校面接に向けた準備や心構え、教員として準備すべき教材研究などについての確認。	令和5年11月30日(木) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:198名
4年次生 教職特別講座(小中高) 「臨時の任用教員ガイドンス(1次試験不合格者向け)」	大学4年生 《Aコース》	臨時の任用教職員に関する説明会を開催。今後の進路、臨採の仕組み、今すべき取組みについて、確認と説明。	令和5年8月17日(木) 17:10～18:00	Zoomにて実施
4年次生 教職特別講座(小中高) 「臨時の任用教員ガイドンス(2次試験不合格者向け)」	大学4年生 《Aコース》	臨時の任用教職員に関する説明会を開催。今後の進路、臨採の仕組み、今すべき取組みについて、確認と説明。	令和5年10月26日(木) 17:10～18:00	Zoomにて実施

論作文対策講座

講座・ガイダンス名	対象	内 容	開催日時	実施方式
1年次生 第1回論作文基礎講座	大学1年生	3回の講座をとおして、論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第1回は、講義「論作文の書き方①」を行った。	令和5年12月7日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:466名
1年次生 第2回論作文基礎講座	大学1年生	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第2回は、講義「論作文の書き方②」+執筆①に取り組む。執筆1は、赤字添削・評価を行い、後日返却を行う。	令和5年12月21日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 1年生:425名
1年次生 第3回論作文基礎講座	大学1年生	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第3回は、講義「論作文の書き方③」+執筆②に取り組む。執筆2は、赤字添削・評価を行い、後日返却を行う。	令和6年3月14日(木) 10:00~11:40	大学教育棟2014にて実施 1年生:381名
2年次生 第1回論作文基礎講座	大学2年生	3回の講座をとおして、論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第1回は、講義「論作文の書き方①」を行った。	令和5年5月25日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:444名
2年次生 第2回論作文基礎講座	大学2年生	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第2回は、講義「論作文の書き方②」+執筆①に取り組む。執筆1は、赤字添削・評価を行い、後日返却を行う。	令和5年7月6日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生:431名
2年次生(幼・保) 第3回論作文基礎講座	大学2年生	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第3回は、講義「論作文の書き方③」+執筆②に取り組む。執筆2は、赤字添削・評価を行い、後日返却を行う。	令和5年10月12日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生(幼・保):31名
2年次生(小中高) 第3回論作文基礎講座	大学2年生	論作文執筆のためのルール、書き方の基本事項を学習し、出題されたテーマに沿って執筆を行う。第3回は、講義「論作文の書き方③」+執筆②に取り組む。執筆2は、赤字添削・評価を行い、後日返却を行う。	令和5年11月2日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 2年生(小中高):244名
3年次生 第1回論作文実践講座	大学3年生 «A・Kコース»	2年次の基礎講座で習得した論作文の書き方を復習。「論作文の書き方①+執筆①」を行った。「執筆①」は各指導教員より、個別指導を行った。	令和5年4月20日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:269名
3年次生 第2回論作文実践講座	大学3年生 «A・Kコース»	前回の講義等を踏まえ、「論作文の書き方①」の復習。新たな課題について、「論作文の書き方②+執筆②」を行った。「執筆②」は各指導教員より、個別指導を行った。	令和5年6月1日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:277名
3年次生 第3回論作文実践講座	大学3年生 «A・Kコース»	志望する自治体の字数・制限時間に応じた講座を行った。「(自治体ごとの) 論作文の書き方①+執筆①」を行った。「執筆①」は自治体・校種に応じた指導教員による個別指導を行った。	令和5年7月20日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:235名
3年次生 第4回論作文実践講座	大学3年生 «A・Kコース»	志望する自治体の字数・制限時間に応じた講座を行った。「(自治体ごとの) 論作文の書き方②+執筆②」を行った。「執筆②」は自治体・校種に応じた指導教員による個別指導を行った。	令和5年9月21日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:219名
3年次生 第5回論作文実践講座	大学3年生 «A・Kコース»	志望する自治体の字数・制限時間に応じた講座を行った。「(自治体ごとの) 論作文の書き方③+執筆③」を行った。「執筆③」は自治体・校種に応じた指導教員による個別指導を行った。	令和5年11月9日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:183名
3年次生(小中高) 第6回論作文実践講座	大学3年生 «Aコース»	志望する自治体の字数・制限時間に応じた講座を行った。「(自治体ごとの) 論作文の書き方④+執筆④」を行った。「執筆④」は自治体・校種に応じた指導教員による個別指導を行った。	令和6年1月18日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:173名
3年次生(幼・保) 第6回論作文実践講座	大学3年生 «Kコース»	志望する自治体の字数・制限時間に応じた講座を行った。「(自治体ごとの) 論作文の書き方④+執筆④」を行った。「執筆④」は自治体・校種に応じた指導教員による個別指導を行った。	令和6年2月1日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:13名

面接対策講座

講座・ガイダンス名	対象	内 容	開催日時	実施方式
2年次生 面接基礎講座	大学2年生	面接試験における面接票の書き方、面接の基本動作、心構えを学ぶ。面接票の提出後、面接担当教員と面接票の内容や進路についての個別相談会を行った。	令和5年11月23日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施
3年次生 第1回面接対策講座	大学3年生 «A・Kコース»	面接実践講座として3回の演習を通して、面接試験における面接票の書き方、面接の基本動作、心構えを学ぶ。第1回目は個人面接を中心に行なった。	令和5年6月8日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施
3年次生 第2回面接対策講座	大学3年生 «A・Kコース»	前回の対策実施時に回収した面接票の返却・指導。改めて、基本である個人面接を中心に行なった。	令和5年6月29日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施
3年次生 第3回面接対策講座	大学3年生 «A・Kコース»	総仕上げとして、これまでの演習内容を振り返る。個人面接の総仕上げを目標に行なった。また、集団討論・集団面接等の実践に触れる。	令和5年10月19日(木) 13:00~14:50	大学教育棟2014にて実施

教員・保育士採用試験模擬試験				
講座・ガイダンス名	対象	内容	開催日時	実施方式
1年次生 トライアル模擬試験 【教職教養】	大学1年生	教職講座2「学修スタートガイダンス」内にて、【教職教養】の導入として、模擬試験を行った。	令和5年6月1日(木)	自宅受験にて実施 1年生:539名
1年次生 2023年模擬試験 【教職教養・専門教養】	大学1年生	教員採用試験に向けた採用試験模擬試験を行った。【教職教養】の模試を通して、日々の学修成果を図る。	令和5年9月15日(木)	大学教育棟2014にて実施 1年生:288名
2年次生 トライアル模擬試験 【教職教養】	大学2年生	教職講座2「学修スタートガイダンス」内にて、【教職教養】の導入として、模擬試験を行った。	令和5年4月20日(木)	自宅受験にて実施 2年生:318名
2年次生 2023年模擬試験 【一般・教職・専門教養】	大学2年生 【幼小中高】	教員採用試験に向けた模擬試験を行った。【一般教養】【教職教養】【専門教養】より、学生が出願する自治体の傾向に合わせた科目選択を行った。	令和5年9月23日(木)	大学教育棟2014にて実施 2年生:130名
2年次生 保育士就職模擬試験 実務教育出版	大学2年生 【保+幼】	保育士や幼保園教員として、就職を希望する学生向けの模擬試験を実施。	令和5年9月23日(木)	大学教育棟2014にて実施 2年生:31名
3年次生 2023年模擬試験 【一般・教職・専門教養】	大学3年生 «Aコース»	教員採用試験に向けた模擬試験。【一般教養】【教職教養】【専門教養】より、学生が出願する自治体の傾向に合わせた科目選択を行った。	令和5年4月22日(土)	大学教育棟2014にて実施 3年生:161名
3年次生 保育士就職模擬試験 実務教育出版	大学3年生 «Kコース»	保育士や幼保園教員として、就職を希望する学生向けの模擬試験を実施。	令和5年4月22日(土)	大学教育棟2014にて実施 3年生:23名
3年次生 プレ模試 【一般・教職・専門教養】	大学3年生 «A・Kコース»	教員採用試験に向けた模擬試験。【一般教養】【教職教養】【専門教養】より、学生が出願する自治体の傾向に合わせた科目選択を行った。	令和5年10月21日(土)	大学教育棟2014にて実施 3年生:59名
4年次生 2023年模擬試験 【一般・教職・専門教養】	大学4年生 «Aコース»	教員採用試験に向けた模擬試験。【一般教養】【教職教養】【専門教養】より、学生が出願する自治体の傾向に合わせた科目選択を行った。	令和5年4月22日(土)	大学教育棟2014にて実施 4年生:210名
4年次生 保育士就職模擬試験 実務教育出版	大学4年生 «Aコース»	保育士や幼保園教員として、就職を希望する学生向けの模擬試験を実施。	令和5年4月22日(土)	大学教育棟2014にて実施 4年生:2名

教育委員会等による学内説明会				
講座・ガイダンス名	対象	内容	開催日時	実施方式
私立学校就職ガイダンス 株式会社ブレインアカデミー	大学2~4年生 大学院生	私立学校（小中高）での教員就職を目指す学生を対象に、求人の仕組みや確認方法、公立学校・私立学校の違いについて、説明。	令和5年5月11日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 4年生:39名 3年生:27名
私立学校就職ガイダンス 株式会社ブレインアカデミー	大学1~4年生 大学院生	私立学校（小中高）での教員就職を目指す学生を対象に、求人の仕組みや確認方法、公立学校・私立学校の違いについて、説明。	令和5年11月2日(木) 17:10~18:50	大学教育棟2014にて実施 4年生:2名 3年生:11名 1年生:390名
学内説明会・かながわ ティーチャーズカレッジ 神奈川県総合教育センター	大学1~4年生	当年度入塾予定の「かながわティーチャーズカレッジ」採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布。最新情報・試験内容等の説明。出願の注意事項を確認する。	令和5年4月19日(水) 17:10~18:10	大学教育棟2014にて実施 4年生:2名 3年生:12名 2年生:9名
学内説明会・ よこはま教師塾アイカレッジ 横浜市教育委員会 教育センター	大学1~3年生	当年度入塾予定の「よこはま教師塾アイカレッジ」採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布。最新情報・試験内容等の説明。出願の注意事項を確認する。	令和5年5月24日(水) 17:10~18:10	大学教育棟2014にて実施 3年生:4名
学内説明会・ しづおか教師塾 静岡県教育委員会	大学1~3年生	当年度入塾予定の「しづおか教師塾」採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布。最新情報・試験内容等の説明。出願の注意事項を確認する。	令和5年5月10日(水) 17:10~18:10	大学教育棟2014にて実施 3年生:2名
春季学内説明会 茨城県教育委員会	大学1~4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月10日(月) 17:10~18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:11名 3年生:4名 2年生:1名 通信:2名
春季学内説明会 埼玉県教育委員会	大学1~4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月6日(木) 17:10~18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:12名 3年生:4名 2年生:3名
春季学内説明会 さいたま市教育委員会	大学1~4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月18日(火) 17:10~18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:6名 3年生:2名 2年生:2名 通信:1名

春季学内説明会 千葉県・千葉市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月12日(水) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:19名 3年生:14名 通信:1名
春季学内説明会 神奈川県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月11日(火) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:38名 3年生:13名 2年生:8名 院生:1名 通信:5名
春季学内説明会 横浜市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月14日(金) 17:10～18:40	大学教育棟2014にて実施 4年生:32名 3年生:9名 2年生:8名 院生:1名 通信:2名
春季学内説明会 川崎市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月4日(火) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:11名 3年生:4名 2年生:3名 通信:3名
春季学内説明会 相模原市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月21日(金) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:13名 3年生:8名 2年生:4名 通信:4名
春季学内説明会 長野県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年4月17日(月) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 4年生:6名 3年生:2名 2年生:2名 通信:1名
春季学内説明会 鹿児島県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。実施要項の配布・最新募集情報・採用試験内容の発表、詳細の説明。願書受理、出願時の注意事項等を確認する。	令和5年5月10日(水) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施
秋季学内説明会 茨城県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月24日(金) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 3年生:4名 2年生:2名 1年生:5名
秋季学内説明会 埼玉県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月29日(水) 17:10～18:25	大学教育棟2014にて実施 3年生:4名 2年生:8名 1年生:8名 院生:1名
秋季学内説明会 さいたま市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月22日(水) 17:10～18:20	大学教育棟2014にて実施 3年生:4名 2年生:4名 1年生:14名
秋季学内説明会 千葉県・千葉市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月1日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 3年生:5名 2年生:11名 1年生:8名 通信:1名
秋季学内説明会 東京都教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年12月15日(金) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 3年生:9名 2年生:44名 1年生:15名 通信:2名
秋季学内説明会 神奈川県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年12月8日(金) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 3年生:12名 2年生:39名 1年生:43名 通信:2名
秋季学内説明会 横浜市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月15日(水) 17:10～18:40	大学教育棟2014にて実施 4年生:1名 3年生:12名 2年生:32名 1年生:22名 通信:3名
秋季学内説明会 川崎市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月8日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 3年生:3名 2年生:6名 1年生:2名
秋季学内説明会 相模原市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年10月25日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 3年生:5名 2年生:9名 1年生:10名 通信:2名

秋季学内説明会 石川県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月28日(火) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 3年生:1名 2年生:1名
秋季学内説明会 山梨県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年12月13日(水) 17:10～18:10	大学教育棟2014にて実施 2年生:3名
秋季学内説明会 長野県教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年10月10日(火) 17:10～18:30	大学教育棟2014にて実施 3年生:3名 2年生:4名 1年生:3名
秋季学内説明会 静岡市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年11月17日(金) 17:10～18:20	大学教育棟2014にて実施 3年生:1名 1年生:1名
秋季学内説明会 浜松市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年10月24日(火) 17:10～18:20	大学教育棟2014にて実施 3年生:1名 1年生:3名
秋季学内説明会 京都市教育委員会	大学1～4年生 大学院生 通信教育課程	当年度7月実施・教員採用試験について、教育委員会による学内説明会の行った。当年度採用試験結果について、また次年度に関する最新情報の提供等。卒業予定者は、臨採に関する情報、自治体によっては、面接を行った。	令和5年12月1日(金) 17:10～18:20	オンラインにて実施 2年生:3名
秋季学内説明会 特別区人事・厚生事務組合	大学1～4年生	幼稚園教員の就職を希望する学生を中心に、特別区人事厚生組合の教員採用選考に関する学内説明会を行った。「特別区とは」や採用選考の説明、現役幼稚園教員による仕事内容の紹介を行った。	令和5年11月16日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 4年生:2名 3年生:7名 2年生:37名 1年生:43名
秋季学内説明会 横浜市役所	大学1～4年生	保育士の就職を希望する学生を中心に、保育士採用選考に関する学内説明会を行った。市の取り組みや採用選考の説明、現役保育士による仕事内容の紹介を行った。	令和5年11月16日(木) 17:10～18:50	大学教育棟2014にて実施 3年生:15名 2年生:43名 1年生:34名

その他プログラム

講座・ガイダンス名	対象	内 容	開催日時	実施方式
学外教職講座 『じぶんゼミ@一般教養講座』	主に大学2年生	効果的な教材の活用・取り組みにて知識の定着を図る。領域:国語・英語・社会・数学・理科・芸術・家庭・保育・時事・環境・情報	(有料)自主学習教材	2年生:3名
学外教職講座 『じぶんゼミ@教職教養講座』	主に大学1～2年生	『教職教養講座』では、教職教養の頻出・必出領域である「教育心理」「教育原理」「教育時事」「教育法規」「教育史」について、外部の各教科の専門講師によるオンライン講義と自学自習との組み合わせた講座を行った。	(有料)講義配信 &自主学習教材	2年生:7名 1年生:72名
学外教職講座 『じぶんゼミ@専門教養講座(小学校)』	主に大学1年生	効果的な教材の活用・取り組みにて実践力を磨く。知識を整理してインプット、問題演習でアウトプットを繰り返しながら確実に実力アップを図り、効率よく学習を進める。	(有料)自主学習教材	2年生:3名 1年生:28名
学外教職講座 『じぶんゼミ@専門教養講座(中高国語)』	主に大学1年生	効果的な教材の活用・取り組みにて実践力を磨く。知識を整理してインプット、問題演習でアウトプットを繰り返しながら確実に実力アップを図り、効率よく学習を進める。	(有料)自主学習教材	1年生:5名
学外教職講座 『じぶんゼミ@専門教養講座(中高社会)』	主に大学1年生	効果的な教材の活用・取り組みにて実践力を磨く。知識を整理してインプット、問題演習でアウトプットを繰り返しながら確実に実力アップを図り、効率よく学習を進める。	(有料)自主学習教材	1年生:12名
学外教職講座 『じぶんゼミ@専門教養講座(中高英語)』	主に大学1年生	効果的な教材の活用・取り組みにて実践力を磨く。知識を整理してインプット、問題演習でアウトプットを繰り返しながら確実に実力アップを図り、効率よく学習を進める。	(有料)自主学習教材	1年生:3名
学外教職講座 『じぶんゼミ@専門教養講座(中高保健体育)』	主に大学1年生	効果的な教材の活用・取り組みにて実践力を磨く。知識を整理してインプット、問題演習でアウトプットを繰り返しながら確実に実力アップを図り、効率よく学習を進める。	(有料)自主学習教材	1年生:2名
第1回日本語検定 《準会場実施》(2～4級)	全学年	教員・保育士を目指す学生を中心とし、全学部の希望者を対象に行った。	令和5年6月9日(金) 17:10～18:30	2級:5名 3級:10名
第2回日本語検定 《一般会場のみ実施》(1～4級)	全学年	教員・保育士を目指す学生を中心とし、全学部の希望者を対象に行った。	令和5年11月11日(土)	2級:1名 3級:4名

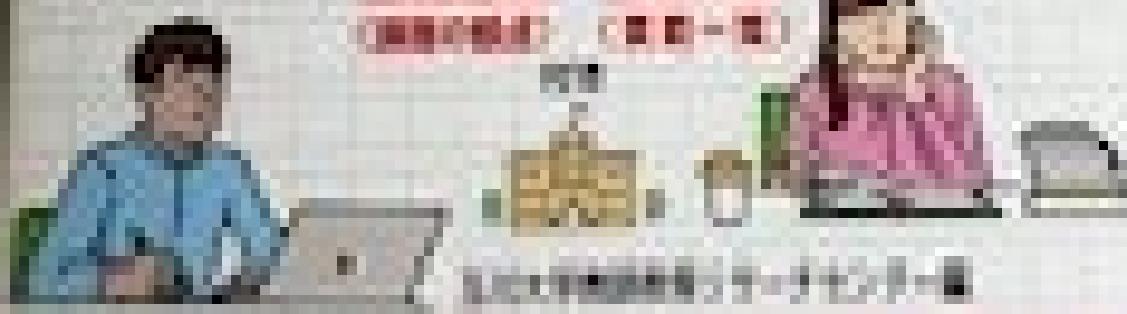
2026年 コレ一冊で完璧！

論文作成指南

論文作成指南

内閣官房・文部科学省
（監修：内閣官房・文部科学省）

監修：内閣官房・文部科学省



教師・保育者の集い

第7回

2024年 11/10.日
10:30～12:30

基調講演

通常級に在籍する 発達障害児の対応について

～ライフステージという視点で見えることいっぱい～

講 師

玉川大学 障害学生支援コーディネーター
安藤 正紀 先生

場 所

経塚オフィス棟



情報交流会

教師の絆・玉川の絆 世代を超えて交流しませんか？

全国に1万人いるといわれている玉川大学卒業の
教師・保育者。教育・保育現場で活躍されている皆
さんと交流しませんか？

申込方法

本学ホームページまたは
QRコードよりお申込みください
※事前申込制。



お問い合わせ先

玉川大学教師教育リサーチセンター「玉川大学教師・保育者の集い」担当
E-MAIL: tamakyoshi@tamagawa.ac.jp

2024/5/18 全国私立大学教職課程協会
第43回研究大会



玉川大学における
学校での多様な体験活動による
理論と実践の往還



玉川大学教師教育リサーチセンター長
高野 修司

令和6年度入学生より実施



1年次 参観実習 + 学校体験活動 A

2年次 介護等体験

2~3年次 「教育インターンシップA・B」
(各2単位・選択科目)
受講可

3・4年次 学校体験活動 B + 教育実習
前後に「学校体験活動C・D」
(各1単位・選択科目)
受講可

学校での活動を増やし、学校や教職への理解を促進する
1～3年次に必修120時間の現場活動を経て、4年次の教育実習を実施!

2

4年一貫した教職課程受講支援プログラム

●令和5年度入学生まで

	1年生	2年生	3年生	4年生	
ステップ	第1セメスター 教職の意義と基礎理論を学ぶ 教科の基礎を学ぶ	第2セメスター 指導法の基礎を学ぶ	第3セメスター 教科・教職の専門性と実践力を養う	第4セメスター 実践と応用	第5セメスター 総まとめ
大学のカリキュラム(授業)	各教科の指導法に関する学修 領域・教科に関する専門的事項・教育の基礎的理解に関する科目の学修				教育実習事前指導 教職の専門的な学修
					教育実習 教育実習事後指導
学外実習など	参観実習	学校体験活動(教育ボランティア・教育インターンシップなど学校現場(他)における活動) 介護等体験(事前指導含む)			教育実習先開拓、事前指導、現場実習、事後指導
採用試験対策	ガイダンス	筆記・面接・論作文等試験対策	筆記・面接・論作文等試験対策、総まとめ	教員採用試験	
	模擬試験	模擬試験・対策講座・自主学修会等	模擬試験・対策講座・自主学修会等	直前対策等	

○ = 必修の学校現場での活動

3

Tamagawa University

4年一貫した教職課程受講支援プログラム

●令和6年度改訂

	1年生	2年生	3年生	4年生				
ステップ	第1セメスター 教養を身につける 教職の意義と基礎理論を学ぶ 教科の基礎を学ぶ	第2セメスター 実践力の基礎を身につける 指導法の基礎を学ぶ 教科の基礎を学ぶ	第3セメスター 実践力を身につけ、教員採用試験に備える 教科・教職の専門性と実践力を養う 教職の専門的な学修	第4セメスター 各教科の指導法に関する学修 領域・教科に関する専門的事項・教育の基礎的理解に関する科目の学修	第5セメスター 教育実習事前指導 教育実習先開拓 学校体験活動	第6セメスター 教育実習事前指導 教育実習3単位 教育実習事後指導	第7セメスター 実践と応用	第8セメスター 総まとめ 教職実践演習
大学のカリキュラム(授業)	参観実習+学校体験活動A 1単位 介護等体験 2単位 教育インターンシップA・B 各2単位				学校体験活動B 1単位 教育インターンシップC・D 各1単位	学校体験活動C・D (現場実習) 各1単位		
採用試験対策	ガイダンス	筆記・面接・論作文等試験対策	直前対策 教員採用試験	直前対策 教員採用試験	筆記・面接・論作文等試験対策、総まとめ	模擬試験・自主学修会等	特別講話等	

○ = 必修の学校現場での活動

4

Tamagawa University

参観実習

教師の立場で1日学校体験
憧れから夢の実現への一步を踏み出す 教員養成の入り口

参観実習は、教職課程を受講する1年生を対象に、教える立場、教師の立場から学校の1日を体験します。

学生の教職への自覚を促し、進路選択の機会を与えることを目的として、2012年度より実施しています。

学校体験活動A ※ **2024 Start!**

参観実習で1日学校体験を終えた学生が、次のステップとして24時間(授業見学12時間、その他の補助業務12時間)の学校体験活動を実施します。

「チーム学校」を体験し、学校での感動を大学での学びに活かすことができる体験とすることを目指します。

介護等体験 **2024 Start!**

特別支援学級を設置する小・中学校で
早い時期から児童・生徒理解を深める取り組み

「学校体験活動A」に続き、60時間の特別支援学級における学校体験活動を実施します。

学校では多様な児童・生徒が学んでおり、対応も多様であることを学ぶ機会とします。

5




学校体験活動B ※2 **2026 Start!**

教育実習へつながる実践的指導力の基礎づくり

教育実習の受講を許可された学生が、前の学期に30時間の学校体験活動を実施します。

教育実習へつながるよう、教師になるという気持ちを高め、学校の環境への適応等さまざまな準備を整える活動と位置付けています。

教育実習 **2027 Start!**

連続2週間実習による実践的指導力の総仕上げ

連続しての実施は2週間となります。1~3年次に積み上げてきた120時間の学校体験活動による必修実習を含めた総仕上げに位置付けられる免許取得のための最も重要な実習です。

6






中央教育審議会答申の提言
～理論と実践の往還を重視した教職課程への転換～

①「教育実習」等の在り方の見直し

②「学校体験活動」の積極的な活用

③特別支援教育の充実に資する「介護等の体験」の活用

中央教育審議会「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～(答申)令和4年12月19日付け

7

Tamagawa University

目的～「質の高い教員養成」を目指すため

「質の高い教員養成」
＝「教員採用試験に合格することがゴールではなく、
長く学校現場で活躍できる人材を養成すること」

そのために、早くから現場体験し、実践的指導力を身につける仕組みを構築する

教師不足解消への貢献

- ・学生の学校現場理解が深まる
→適性見極めの早期化→進路変更
→早期離職減少→教師不足の解消に貢献？

8

Tamagawa University

見直しにあたっての前提(大学の方針)

- ①文部科学省(中央教育審議会答申)が示した方針に従う
- ②法令(教育職員免許法)が定める最低単位数で免許取得が可能なカリキュラムとする
- ③単位の実質化を推進する観点から、参観実習・介護等体験・学校ボランティアなど、現行では単位化されていなかった教職関連の取り組みを単位化する
- ④学生を受け入れていただく学校現場の事情を考慮する

9

Tamagawa University

実施にあたっての検討プロセス

- | | |
|----------------|--------------------------------|
| 令和4年11月 | ①中間まとめに沿った原案作成 |
| 令和5年1月 | ②センター内で調整 |
| 令和5年3月 | リサーチフェローの助言 |
| 令和5年4月 | ③理事長・理事への相談・説明 |
| 令和5年5～7月 | ④学内会議における審議
令和5年9月 学内説明会を実施 |
| 令和5年9月～令和6年3月 | ⑤各教育委員会等への依頼・説明 |
| 令和5年10月～令和6年1月 | 客員教授によるワーキンググループ |

10

実施にあたってのポイント

①

平日の午前中に
授業の空き時間

②

1学年500名を
2グループに分割

③

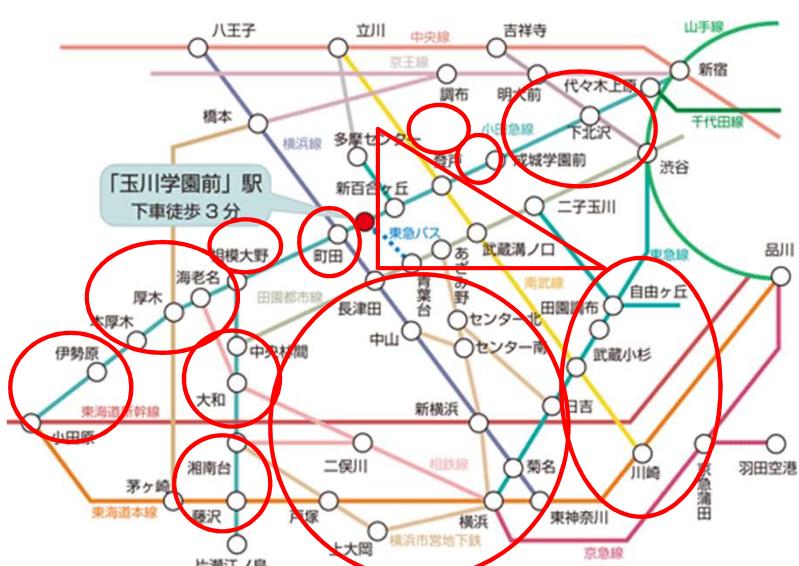
学生の居住地から
派遣校を選定

④

学生指導担当・
地域担当には
校長経験客員教授

11

実施地域／受け入れ先への説明・依頼



12

①「教育実習」等の在り方の見直し

教育実習の柔軟な見直し

↑「理論と実践の往還」を実現する教職課程

- 教師としての総合的な資質能力が高められるような体系的な教職課程の編成が求められる。
- これを実現するため、これらの資質能力を習得するためには具現化された教職課程のそれぞれの理論中心の授業科目と、現場での体験や実習における実践的な科目を相互に往き来し、学びを深めていくような「理論と実践の往還」の視点を十分に踏まえた教育課程となっているか、自己点検・評価のプロセスも活用しながら確認する必要がある。

●教育実習の分散化・早期化

●学校体験活動の強化・充実

●参観実習の「学校体験活動化」

13

Tamagawa University

教育実習の分散化・早期化①

- 学生の多様化や、民間企業等の採用活動の早期化等の理由により、教育実習について、教職課程終盤に長期間まとめて履修することが困難になっているとの指摘もある。
- こうした状況を踏まえ、これまで全ての学生が一律に、教職課程の終盤に教育実習を履修する形式を改め、取得を目指す免許状の学校種の違い等も考慮しつつ、それぞれの学生の状況に応じた柔軟な履修形式が認められるべきである。

●現行の「教育実習」のまま早期化は難しい。
だが、分散化したうえでの早期化は可能。

14

Tamagawa University

教育実習の分散化・早期化②

「教育実習」の全面的な3年次秋学期への前倒しは、以下の理由により見送る

- 各学科の教職課程認定において、「教育の基礎的理解に関する科目等」は「教育実習」受講前に修得することを求められているため、それらの科目をすべて前倒すカリキュラム編成がセメスター履修上限16単位では困難なこと
- 文学部英語教育学科は3年次春学期まで留学期間のため、教育実習校の開拓が困難なこと

「1年次から4年間かけての教員養成」という方針からも、「教育実習」と「教職実践演習」は4年次のままの位置づけが望ましい

15

Tamagawa University

②「学校体験活動」の積極的な活用

学校体験活動の強化・充実

↑教育実習の分散化・早期化

- 短期集中型の従来の履修スタイルに加え、通年で決まった曜日などに実施する教育実習や早い段階から「学校体験活動」を経験し、教育実習の一部と代替する方法なども想定される。また、異なる学年の学生が同時に参加する形を取ることにより、上級生がメンターとしての役割を担うようにする等の工夫を行うことも考えられる。
- いずれも、現行制度上で可能であり、各大学の創意工夫により、教職科目と学校現場の教育実践を相互に関連付けながら学びを深める取組を進めることが重要である。

●「教育実習」の早期化・分散化は、すなわち「学校体験活動」の強化・充実により実現する

16

Tamagawa University

参観実習の「学校体験活動化」

↑教育実習の分散化・早期化

- 教職課程のスタートイベントである「参観実習」は、内容的に「学校体験活動」である。
- 従来は授業外で実施していたが、早い段階から「学校体験活動」を経験し、教育実習の一部と代替するものとして位置づけが明確になる。
- 参観実習を授業であり、免許必修科目の一部とする。
- 事前指導2時間、現場実習6時間、事後指導2時間の計10時間を「学校体験活動」に含む。

●「教育実習」の早期化・分散化は、すなわち「参観実習」を「学校体験活動」に含むことにより1年次に開始する

17

Tamagawa University

「教育実践に関する科目」の変更

「教育実習」単位の分散化

改正（令和6年度入学生以降）	現行（令和5年度入学生以前）
教育実習 (3単位)	教育実習 (5単位)
学校体験活動 A・B（各1単位） (2単位まで代替可能)	
学校体験活動C・D (各1単位)※選択	
教職実践演習(2単位)	教職実践演習(2単位)

18

Tamagawa University

③特別支援教育の充実に資する「介護等の体験」の活用

介護等体験の「学校体験活動化」

↑学校体験活動の強化・充実

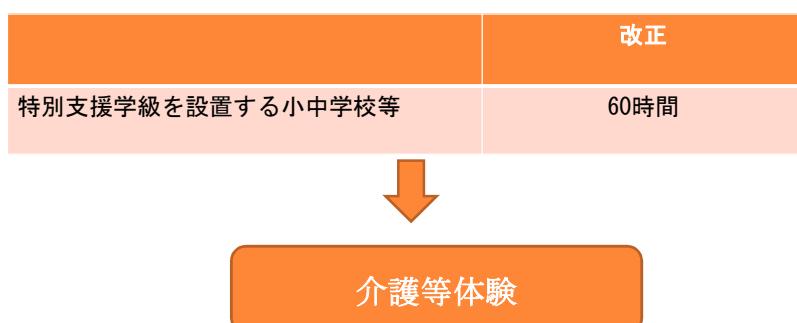
	令和6年度 以降改正	令和5年度 以前	備考
社会福祉施設	0日	5日	令和2年までは「社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間体験することが望ましい」
特別支援学校	0日	2日	令和3年から「特別支援学校については必ず行うように行うことが望ましい」としつつ、「日数の内訳は柔軟に設定して差し支えない」に変更
特別支援学級を設置する小中学校等	60時間	—	令和3年に対象として追加 →令和4年に積極的に行うことへ変更

●すべて「特別支援学級を設置する小中学校等」で実施可能(文部科学省確認済)

19

Tamagawa University

介護等体験の科目化



○事前指導6時間・中間指導2時間、事後指導2時間、
自学自修20時間の計90時間で2単位科目

20

Tamagawa University

「大学が独自に設定する科目」への追加

改正（令和6年度入学生以降）	現行（令和5年度入学生以前）
教育インターンシップA (2単位)	教育インターンシップA (2単位)
教育インターンシップB (2単位)	
教育インターンシップ・ C・D (各1単位)	
介護等体験 (2単位)	

21

Tamagawa University

●本見直しにより改善される事項

授業欠席が前提となる活動の減少

- ↑ 教育実習の分散化
- ↑ 学校体験活動の強化・充実
- ↑ 介護等体験の「学校体験活動化」

●「学校体験活動」方式による介護等体験は授業の空き時間を利用するため、授業欠席を前提としていない

⇒ 従来は「介護等体験」による社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の体験と授業の重複による欠席があった

●「教育実習」を連続2週間とすることで1週分欠席減少

⇒ 教育実習実施数が多い5・6月に授業を実施しない科目
「4・7月集中授業」を一部に適用
⇒ 教員採用試験の早期化による実習中の受験リスク減少

22

Tamagawa University

学校現場と大学生の相互にメリット

- ↑ 教育実習の分散化
- ↑ 学校体験活動の強化・充実
- ↑ 介護等体験の「学校体験活動化」

●「学校体験活動」方式による介護等体験は、現場体験を必要とする学校現場と大学生の双方を充足させる

⇒教師教育リサーチセンターで配置

●「学校体験活動A」の1日参観実習の後の受け入れは、大学生の受け入れを望む学校現場と自己開拓が難しい地方出身の大学生の需要と供給を充足させる

⇒自己開拓が可能な学生は柔軟に変更可能とする

●「教育実習」を連続2週間とすることで教員採用試験の早期化による試験日との重複リスクを軽減

⇒期間短縮を吉とする仕組みを創出する

23

Tamagawa University

「学校体験活動」の指導体制

	実施校	事前指導	中間指導	事後指導	単位認定者
A	参観実習校 もしくは申請により自己開拓	参観実習事前指導として実施			
B	自己開拓 (教育実習開拓同様) もしくは自治体によっては大学紹介	教師教育RC所属教員	教師教育RC所属教員	学科教職担当教員 および 教師教育RC所属教員	学科専任教員 (教職担当等)
C	教育実習校	教育実習事前指導が兼ねる			
D			大学指導教員	大学指導教員	

- 異なる学年の学生が同時に参加する形を取ることにより、上級生がメンターとしての役割を担うようにする等の工夫を行うことも考えられる。

24

Tamagawa University

実務家教員による指導体制を全国展開へ拡充中！

【都道府県別】通学課程学生 教育実習実施校
令和2年度～令和4年度 実績平均値

都道府県	実績平均値
東京都・神奈川県	150～200校
千葉県・埼玉県	30～40校
茨城県・静岡県	20～30校
宮城県・新潟県・福島県・長野県・ 栃木県・群馬県・山梨県	6～15校
北海道・青森県・岩手県・秋田県・山形県・石川県・ 岐阜県・愛知県・広島県・沖縄県	2～5校
富山県・三重県・兵庫県・香川県・山口県・ 福岡県・熊本県・宮崎県・鹿児島県	1～2校
上記以外 府県	0校

実習地域と採用試験受験地域はほぼ同等の割合。

令和4年度までの教育実習訪問地域 東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県*
～一部地域を除く
実績を元に、教職講座・実習指導客員教員（茨城県・静岡県担当）を採用

令和5年度 教育実習訪問指導+採用試験対策講座 地域を拡充！
東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県全県 茨城県・静岡県 全域へ訪問指導先拡充

2029年度（令和11年度）までに

- ◆教育実習に伴う大学指導教員訪問指導実施率 100%
- ◆首都圏以外の自治体教員による教員採用試験対策講座実施のため、自治体の求める教師像理解に向け地元出身の校長経験者（教職講座・実習指導客員教員）の採用100%

実績に基づき対応 2023年度（令和5年度）実績

1. 茨城県・静岡県 訪問指導実施
2. 茨城県・静岡県 教員採用試験合格率 前年度20～30% UP!
茨城県（R4:26名中5名合格 19.2% → R5:23名中9名合格 39.1%）
静岡県（R4:12名中3名合格 25% → R5:15名中8名合格 53.3%）

2024年度（令和6年度）からの拡充 都道府県
群馬県・栃木県・福島県・新潟県・山梨県・長野県

2025年度（令和7年度）からの拡充 都道府県
北海道・札幌市・青森県・宮城県・富山県・福岡県

2026年度（令和8年度）以降の拡充 都道府県
東海地方・近畿地方・中国地方・四国地方・九州地方

学校での多様な体験活動による理論と実践の往還

2024 START

Tamagawa University

資料3-1-3

令和6年10月22日
大学院研究科長会

大学院進学者のうち条件を満たした場合の奨学金返還免除実施に伴う対応について

教師教育リサーチセンター

令和6年3月19日に、中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会において、「優れた教師人材の確保に向けた奨学金の返還支援の在り方について 議論のまとめ」が取りまとめられ、5月9日に文部科学省より周知の通知が発出されました。

教職大学院およびその他の研究科で専修免許を取得した学生が大学院修了翌年度4月1日に正規教員として採用された場合に、大学院在籍時に貸与を受けた日本学生支援機構の第一種奨学金の返還免除になる制度です。その他の研究科の場合は、30時間以上の学校等での実習を必須とする科目を1単位以上修得することも条件となります。

*上記の条件を満たすためには、以下の流れを踏まえる必要があります。

時期等/該当学生	令和6年度 教職大学院 在籍者	令和6年度大学院在籍者 (研究科1年生等)	令和7年度以降 大学院入学予定者
5月～11月 教員採用試験	教員採用試験合格		
採用予定時期 名簿登載延長制度適用	令和7年度採用予定者 (延長制度適用者含む)	令和8年度採用予定者 (延長制度適用者含む)	令和9年度採用以降 (延長制度適用者含む)
必須実習関連	教職専門実習	教職専門実習または *新設:教職特別実習	教職専門実習または *新設:教職特別実習
12月:通知	「日本学生支援機構」より大学へ詳細通知予定:大学院生へ周知		
1月～2月:免除申請 (大学院修了年度)	令和7年1月～2月 学生より返還免除申請	令和8年1月～2月 学生より返還免除申請	令和9年1月～2月 学生より返還免除申請
3月:学内選考	令和7年3月 学内選考:推薦者決定	令和8年3月 学内選考:推薦者決定	令和9年3月 学内選考:推薦者決定
3月:大学院修了	専修免許取得		
教員として現場へ入職			
4月	令和7年4月	令和8年4月	令和9年4月
	大学から支援機構へ返還免除候補者を推薦		
7月	令和7年7月	令和8年7月	令和9年7月
	「日本学生支援機構」より免除者決定・結果通知		

大学院在籍時に1年あたりで貸与される日本学生支援機構の第一種奨学金の金額は60万円(月額5万)もしくは105万6千円(月額8.8万)です。

本制度(奨学金返還免除措置)は令和7年度より適用となります。教職大学院在籍者および進学予定者は、本学の現状のカリキュラム・試験制度の中で対象となることが可能ですが、その他の研究科の場合は、実習関連科目が令和7年度より新設されることが条件となります(令和6年度入学生に適用する場合には、遡って科目を新設する必要がある)。

以上

資料3 - 1 - 3

令和6年10月22日
大学院研究科長会

大学院生奨学金返還免除申請実施に伴う新設科目・シラバス等について

教師教育リサーチセンター

標記の件につきまして、第3回大学院教務委員会にて、現場実習を実施する新設科目名称・シラバスについて原案を作成いたしましたので、ご審議のほどお願いいたします。

(1) 大学院共通科目:現場実習科目の新設

- ・「教科及び教職に関する科目」の24単位に含む選択科目(奨学金免除申請者は必修)。
- ・併設校へ受け入れを依頼(時期は平常授業期間ではない9月を予定。2月は中高の授業がほとんどない)。
- ・併設校での受け入れが難しい教科の場合は、町田市・狛江市・横浜市・川崎市・相模原市等協定を締結している自治体への受け入れを依頼。

(2) 大学院生の教職課程受講登録と教職特別実習料の設定について

専修免許取得希望者は教師教育リサーチセンターへ教職課程受講登録のうえ、新設される現場実習科目の受講を希望する場合には、1週間実習のみの対応として教職特別実習料を1万円納入する。

(3) 新設科目名称・単位数等について

【科目名称】

- 「教職特別実習(幼・小)」…教育学研究科(教育学専攻)
- 「教職特別実習(中・高)」…文学研究科、農学研究科、工学研究科

*各シラバスは次ページ以降に掲載。

【単位数】:2単位(選択科目)

文部科学省が奨学金返還免除に求める学校等での実習は1単位以上だが、教育実習の単位数は、「教育職員免許法施行規則」第二条備考七に「事前及び・事後の指導1単位を含むものとする」と規定されているため、併せて2単位科目として新設することとした。

以上

授業科目名	教職特別実習（幼・小）	教員の免許状取得のための選択科目		
		担当形態：複数・オムニバス 単位数： 2 単位		
担当教員名				
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目			
施行規則に定める科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
学部の教育実習で得た学校教育活動の基礎的な理解に加え教科指導や生徒指導、学級経営等の状況を経験することにより、自ら学校における課題に主体的に取り組むことのできる資質能力を培う。教職に専門的に求められる4領域について、職務を適切かつ円滑に遂行できるように必要な知見と技能を得ることができる。				
授業の概要				
大学院における学習と有機的に関連づけながら、教職に求められる4領域（①教育課程の編成および実施②教科などの実践的な指導方法③生徒指導および教育相談④学級経営および学校経営）の内容について、本大学の併設園 Primary Division（幼稚部）、併設校 Primary Division（1-5年）もしくは私立幼稚園・認定こども園、私立・公立学校等で1週間（30時間）の実習を行う。本実習を通して、教員としての基本的かつ総合的な指導力を修得するとともに、今日の学校教育における課題の発見や解決能力も高めるものとする。そのため、実習に当たっては事前指導や実習研究、事後指導を友好的に位置づけ展開する。				
授業計画	テーマ	内 容		
第1回	事前指導(1)	<p>【本学実習担当教員より事前指導を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本実習の意義や目的、内容、進め方などについて全体的に理解し、実習に対しての自己の課題を明らかにする。 ・実習に対しての自己の課題を中心に、各自の実習計画を作成する。 		
第2回	事前指導(2)	<p>【本学実習担当教員より事前指導を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な現場での実習に備え、指導案作成や模擬授業（責任実習）等実践を行う。 		
第3回	事前指導(3)	<p>【本学実習担当教員より事前指導を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な現場での実習に備え、指導案作成や模擬授業（責任実習）等実践を行う。 		
第4回	事前指導(4)	<p>【実習校（園）にて事前オリエンテーションを行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校（園）の校長（園長）や実習指導教員と本学実習担当教員、学生の間で協議する機会を持ち、実習の「到達目標や内容」について共通理解をして、実習生個々の実習計画についても確認する。 		
第5回	実習（1）	<p>【実習校（園）にて1週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校（園）の校長（園長）や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校（園）を訪問し、実習校（園）の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。 		
第6回	実習（2）	<p>【実習校（園）にて1週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校（園）の校長（園長）や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校（園）を訪問し、実習校（園）の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。 		
第7回	実習（3）	<p>【実習校（園）にて1週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校（園）の校長（園長）や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校（園）を訪問し、実習校（園）の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。 		

シラバス：<専修>大学が独自に設定する科目

第 8 回	実習 (4)	<p>【実習校(園)にて 1 週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校(園)の校長(園長)や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜(原則 1 回)実習校(園)を訪問し、実習校(園)の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中 1 日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第 9 回	実習 (5)	<p>【実習校(園)にて 1 週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校(園)の校長(園長)や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜(原則 1 回)実習校(園)を訪問し、実習校(園)の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中 1 日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第 10 回	実習 (6)	<p>【実習校(園)にて 1 週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校(園)の校長(園長)や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜(原則 1 回)実習校(園)を訪問し、実習校(園)の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中 1 日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第 11 回	実習 (7)	<p>【実習校(園)にて 1 週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校(園)の校長(園長)や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜(原則 1 回)実習校(園)を訪問し、実習校(園)の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中 1 日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第 12 回	実習 (8)	<p>【実習校(園)にて 1 週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校(園)の校長(園長)や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜(原則 1 回)実習校(園)を訪問し、実習校(園)の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中 1 日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第 13 回	実習 (9)	<p>【実習校(園)にて 1 週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校(園)の校長(園長)や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜(原則 1 回)実習校(園)を訪問し、実習校(園)の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中 1 日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第 14 回	実習 (10)	<p>【実習校(園)にて 1 週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校(園)の校長(園長)や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜(原則 1 回)実習校(園)を訪問し、実習校(園)の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中 1 日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第 15 回	事後指導	<p>【本学実習担当教員より事後指導を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習 30 時間を振り返り、教職に求められる実践的な指導力について考察し、今後の自らの課題を明確化する。
定期試験	なし	
テキスト	なし	
参考書・参考資料等		
玉川大学教師教育リサーチセンター編『教育実習ガイド』時事通信出版局		
学生に対する評価		
授業における取り組み (70%) 課題等の取り組み (30%)		

授業科目名	教職特別実習（中・高）	教員の免許状取得のための選択科目
		担当形態：複数・オムニバス 単位数： 2 単位
担当教員名		
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目	
施行規則に定める科目区分又は事項等		
授業のテーマ及び到達目標	<p>学部の教育実習で得た学校教育活動の基礎的な理解に加え教科指導や生徒指導、学級経営等の状況を経験することにより、自ら学校における課題に主体的に取り組むことのできる資質能力を培う。教職に専門的に求められる4領域について、職務を適切かつ円滑に遂行できるように必要な知見と技能を得ることができる。</p>	
授業の概要	<p>大学院における学習と有機的に関連づけながら、教職に求められる4領域（①教育課程の編成および実施②教科などの実践的な指導方法③生徒指導および教育相談④学級経営および学校経営）の内容について、本大学併設校 Secondary Division もしくは私立・公立学校等で1週間（30時間）の実習を行う。本実習を通して、教員としての基本的かつ総合的な指導力を修得するとともに、今日の学校教育における課題の発見や解決能力も高めるものとする。そのため、実習に当たっては事前指導や実習研究、事後指導を友好的に位置づけ展開する。</p>	
授業計画	テーマ	内 容
第1回	事前指導(1)	<p>【本学実習担当教員より事前指導を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本実習の意義や目的、内容、進め方などについて全体的に理解し、実習に対しての自己の課題を明らかにする。 ・実習に対しての自己の課題を中心に、各自の実習計画を作成する。
第2回	事前指導(2)	<p>【本学実習担当教員より事前指導を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な現場での実習に備え、指導案作成や模擬授業等実践を行う。
第3回	事前指導(3)	<p>【本学実習担当教員より事前指導を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な現場での実習に備え、指導案作成や模擬授業等実践を行う。
第4回	事前指導(4)	<p>【実習校にて事前オリエンテーションを行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校の校長や実習指導教員と本学実習担当教員、学生の間で協議する機会を持ち、実習の「到達目標や内容」について共通理解をして、実習生個々の実習計画についても確認する。
第5回	実習(1)	<p>【実習校にて1週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校の校長や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校を訪問し、実習校の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第6回	実習(2)	<p>【実習校にて1週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校の校長や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校を訪問し、実習校の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第7回	実習(3)	<p>【実習校にて1週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校の校長や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校を訪問し、実習校の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第8回	実習(4)	<p>【実習校にて1週間の教育実習を行う。】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習校の校長や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校を訪問し、実習校の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。

シラバス：<専修>大学が独自に設定する科目

第9回	実習（5）	【実習校にて1週間の教育実習を行う。】 ・実習校の校長や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校を訪問し、実習校の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第10回	実習（6）	【実習校にて1週間の教育実習を行う。】 ・実習校の校長や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校を訪問し、実習校の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第11回	実習（7）	【実習校にて1週間の教育実習を行う。】 ・実習校の校長や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校を訪問し、実習校の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第12回	実習（8）	【実習校にて1週間の教育実習を行う。】 ・実習校の校長や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校を訪問し、実習校の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第13回	実習（9）	【実習校にて1週間の教育実習を行う。】 ・実習校の校長や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校を訪問し、実習校の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第14回	実習（10）	【実習校にて1週間の教育実習を行う。】 ・実習校の校長や実習指導教員の指導を受け、実習を計画的に進める。 ・本学実習担当教員が適宜（原則1回）実習校を訪問し、実習校の実習指導教員とともに指導を行う。 ・実習中1日、本学で実習生全員による実習研究を実施することにより、実習における自己の課題の明確化を図る。
第15回	事後指導	【本学実習担当教員より事後指導を行う。】 ・教育実習30時間を振り返り、教職に求められる実践的な指導力について考察し、今後の自らの課題を明確化する。
定期試験	なし	
テキスト		
なし		
参考書・参考資料等		
玉川大学教師教育リサーチセンター編『教育実習ガイド』時事通信出版局		
学生に対する評価		
授業における取り組み（70%）課題等の取り組み（30%）		

資料3-2-1

私立大学の特色ある教職課程事例集 V

2021年10月

一般社団法人全国私立大学教職課程協会

教職課程受講1年生全員への参観実習の導入

玉川大学

参観実習は、1年次教職課程受講者（例年約650名）を対象に、教育ボランティア、教育インターンシップ、3年次での教育実習事前指導、4年次での教育実習に先立ち、教える立場、教師の目線から、学校の一日を体験することで、学生の教育現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路選択の機会を与えることを目的に実施している。その概要を報告し、今年度は例年の方法で実施することができなかつたため、Webによる参観実習を実施したことについても、併せて報告する。

1. 本学の教員養成の特徴

本学の教員養成における特徴は、次の3点があげられる。一つは、教員養成における単位の実質化への取り組みとして、半期履修単位16単位CAP制度の中で全学教職課程カリキュラムを展開していること。二つ目は、4年間を通じた教職課程指導・支援体制により教員養成が行われていること。三つ目は、教員養成の質向上に向けた教職課程の全学体制による組織の運営（教師教育リサーチセンターによる全学学生支援と研究活動の推進）がなされていることである。

教職課程の全学体制による組織の運営では「質の高い教員養成」と「教師教育学の研究活動の推進」のため、教師教育リサーチセンターを設置し、全学の教員養成に関する学生支援、研究活動支援を行っている。研究活動支援においては、研究活動のみならず、教育委員会との連携対応、教員免許状更新講習、紀要・年報の発行、教師教育フォーラムの開催など、多岐にわたる活動が展開されている。学生支援においては、教育実習、保育実習、介護等体験などの手続きを始め、教員免許状の一括申請等の申請業務のほか、キャリア支援、教員就職支援や教員採用試験対策講座等を行っている。

4年間を通じた教職課程指導・支援体制における学生支援について、「質の高い教員養成」のためには1年次の教職課程支援が必要不可欠である。現在本学では約2300名の学生が1年次から教職課程受講支援プログラムのもとで学んでおり、大学のカリキュラムのほか、教育現場体験プログラムと教員採用試験対策プログラムが行われている。

2. 教職課程受講支援プログラムの中での参観実習の位置づけ

本学の教員養成の特徴の一つである4年間を通じた教職課程指導・支援体制において必要不可欠なものが、教職課程受講支援プログラムである。このプログラムは教職キャリアップランに沿って4年間を通じた内容で構成されている。

本学の教職課程を履修する学生の大多数は、「教師になりたい」「ぜひ教員免許状を取得したい」との強い意志を持って大学を選択した。この教職に就こうというモチベーションを持続させるためには、1年次からの教職課程支援が重要であり、大学4年間でのトータル的な教職課程受講支援プログラムの実践が重要であるとの考えに基づき、4年間を通じた教職課程受講支援プログラムを構築した。

このうち1年次のプログラムの概要は次のとおりである。

- ・教職の意義と基礎理論を学び、教養を身に付ける
- ・教職課程の受講に関する4年間の流れを理解して教員になるための動機づけを行う
- ・教職課程ガイダンスの実施、模擬試験（一般教養を中心に）等
- ・参観実習

参観実習は、1年次教職課程受講者全員（令和元年度は約630名）を対象に、教育ボランティア、教育インターンシップ、3年次の教育実習事前指導、4年次の教育実習に先立ち、教える立場、教師の目線から、学校の1日を体験することで、学生の現場への理解を深め、教職に対する自覚を促すとともに、進路選択の機会を与えることを目的に実施している。

教員養成にとって重要な実践的指導力を身に付けるための第一歩であり、また、教員の目線で学校現場を見ることは、職業としての教員の仕事を理解することにもなり、教員という仕事と自分の適性を見つめなおすよい機会となる。

3. 参観実習の概要

参観実習は、近隣の市教育委員会に依頼し、その管轄下の公立小学校・中学校で受け入れをしていただき、1校当たり5～10名の学生が配当され、11月中旬（教育学部は6月下旬）に行われる。

参観実習の流れの概略は、以下のとおりである。

- ・事前指導（計3回）

訪問する学校の地域の特徴、教育内容、学校の特色並びに参観実習にあたって注意すべき点について講話を行う。また、教師教育リサーチセンター職員が、参観実習の趣旨、参加にあたっての心構え、概要、事前準備、諸注意事項について説明する。

- ・プロフィール文書作成（後に記入見本を掲載）

学生各自で自己紹介、教職への志望動機、参観実習での課題、さらには、受け入れ校への質問内容を作成する。このプロフィール文書は、引率教員の添削後に教師教育リサーチセンターより参観実習受け入れ校へまとめて送付する。

- ・参観実習受け入れ校との事前打ち合わせ

学生の代表者（班長）が受け入れ校を事前に訪問し、参観実習の事前打ち合わせを行う。なお、班長は受け入れ校との打ち合わせの内容をもとに、参観実習計画書を作成し、引率教員ならびに班員に配布する。

- ・参観実習当日

学生は、8時に実習校に集合し、校長先生、教頭先生による学校紹介および講話を聴く。終了後、児童・生徒への紹介を行い、午前中は授業参観、昼食（給食）、昼休み、午後は総括指導（質疑応答を含む）という流れで各学校において進められる。ただし、学校によって若干の違いはある。

★スケジュール例

時間	
8:00	実習校に集合
8:30～8:45	児童・生徒への実習生の紹介等
8:45～9:30	校長先生、教頭・副校長先生等より学校の紹介及び講話
9:30～12:00	2・3・4校時、授業の参観実習
昼食（給食・弁当）	
13:00～15:00	総括指導（質疑応答含む）

※各学生は2～4校時を通して特定の学年・クラスに入り参観する

・報告書の作成

実際の教育活動、教師の任務、児童・生徒の様子、学校の雰囲気、環境、今後この参観実習をどう生かすかなどについて記載し、プロフィールの文書作成と同様に、引率教員の添削後、教師教育リサーチセンターより受け入れ校にまとめて送付する。

また、班長は、引率教員に指導を受けて、参観実習終了後1週間以内に実習校の校長先生宛にお礼の手紙（封書・手書き）を送付している。

【その他の対応】

・麻疹・風疹予防接種の抗体確認

参加にあたり、麻疹・風疹の抗体を確認し、抗体価が不足している場合は、予防接種を実施している。これは参観実習をきっかけとしているが、今後様々な教育現場や社会福祉施設等で教育活動を行うにあたり、活動先・実習先の方々への感染症に対する配慮と、自らの感染による教育活動の中止等の事態を避けるための対策としている。

・賠償責任保険

学生が参観実習中またはその往復時に、他人にケガをさせたり、他人の財物を損壊したこと等による損害賠償責任を負担することによって被る損害賠償に備え保険に加入している。また、本人がケガをした場合の保険は、入学時に加入している。

このような1日の参観実習は、実習校、教育委員会との連携によって実現するが、4年一貫した教職課程の試みとしては、重要な要素となっている。受け入れ校からも、実習校と学生が継続したかかわりを持つきっかけとなっているとか、1年次からの教職に目的をもって取り組めるよい機会である、といった非常に良い評価を得ている。

4. 令和2年度のWeb参観実習

令和2年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮して、実際に現場を訪問することができないことから、形式を変更し、Webによる実施とした。地元である町田市教育委員会のご協力により、小学校、中学校の1日をビデオ撮影させていただき、その映像を視聴することとした。ここでは実施概要について説明する。

【Web参観実習当日の流れ】

- ・9:30～10:40 「教員の1日（小学校編）」（小学校校長経験者による解説、質疑応答あり）
- ・10:50～12:00 「教員の1日（中学校編）」（中学校校長経験者による解説、質疑応答あり）

- ・13:00～13:50 東京都教職員研修センターの講話
- ・14:00～15:00 学部・学科教職担当教員による質疑応答・総括指導

例年は現場に伺えるものの、それぞれ訪問した校種しか見ることができないが、小学校・中学校両方の1日の活動を見ることができ、特に小学校・中学校の複数免許を取得する学生にとって、貴重な体験となった。

5. 今後の課題

事前指導における指導内容のさらなる検討、参観実習校との連携方法の検討などがあげられる。

また、参観実習のあとに続く実践（学校ボランティア、教育インターンシップ、教育実習等の現場体験活動）の促進において、同一の学校での対応が可能となるような流れが整えられれば、実践的指導力の向上が望めるのではないかと考えている。しかしながら、大学の授業との関係から、空き時間の確保が厳しいこともあり、授業と現場体験とのバランスをとることが課題とも言える。

【参考】

参観実習生プロフィール【記入例・記入上の注意】

参観実習校名: ●●●市立 ●●● 中or高等学校		令和元年月日記
文 学部 国語教育 1年5組10番	学籍番号 193110001	フリガナ タマダイ タロウ 氏名 玉大 太郎 平成9年4月8日生(19歳)
現 住 所 連絡先(携帯電話): 090-1234-5678	写真貼付 縦4cm×横3cm (スマートフォン写真は無効) (裏表は第1表とする) 男子は上着ネクタイ着用 女子は男子に準じる	
取得希望免許状: ※自分が参観実習へ行く校種(主元)の免許状を記入す 小学校…小学校教諭一種免許状 中・高等学校…中学校教諭一種免許状(社会)、高等学校教諭一種免許状(公民)		
興味・関心のある科目: 特別支援教育、近代史(日本)、安全教育 等 自分の専攻や教諭に関係する科目を明記する		
特技: 剣道(2段) 水泳		
大学・もしくは高等学校までのクラブ活動: 大学の場合…体育会男子バスケットボール部、文化会吹奏楽団 高校までの場合…硬式野球部、女子バスケットボール部 等		
ボランティア活動経験等: 町田市立第〇小学校(2019年4月～) ※ない場合はなしと記入		
教職志望動機: 数ある職業の中から教職を志望する理由やきっかけ どのような教師になりたいか等 4行目までは記入すること。記入したら必ず読み返すこと。		
今回の参観実習での課題 参観実習を通して、教師としての視点で特に学びたい、 魅了したい点について 4行目までは記入すること。記入したら必ず読み返すこと。		
質問事項 自分が教職を目指すうえで先生方に聞きたい項目を 3～5つ程度記入する。 ・ 教師を目指した理由やそのために努力したこと ・ 学級や学校経営をしていく上で工夫していること		
備考 参観実習先に家族が関係している場合などがあれば記入する。何もない場合、なしと記入。 アレルギーがある場合も記入すること。		

※ 本書類に記入されている個人情報は、参観実習の内容に関し、その目的達成に必要な範囲内で利用することとし、その範囲を超えての利用はいたしません。

資料3-2-2

私立大学の特色ある教職課程事例集Ⅲ

2017年9月

一般社団法人 全国私立大学教職課程協会

実践的指導力の向上を目指した 「教育実習指導に関する協議会」の実施

玉川大学

玉川大学では、教育実習を円滑かつ効果的に実施するため、町田市をはじめとして、多くの学生を教育実習でお引き受けいただいている地区の、校長会の代表の先生方との協議会を実施している。この協議会では、教育実習内容や指導方法、教育実習生に求められる資質能力などの共通理解を図り、教育実習生の指導において不十分な点の改善にいかしている。本稿では、全学体制における教職課程運営の一つとして、教師教育リサーチセンターが主管として実施した「教育実習指導に関する協議会」の概要を報告する。

1. 本学の教職課程と支援体制

平成28年度入学生における本学の教職課程認定は、6学部12学科および通信教育部が認定されており、教職課程受講学生（平成28年5月現在）は、1年生667名、2年生637名、3年生543名、4年生473名、合計 2,320名（通学課程）、通信教育課程では約4,000名となっている。教員免許状について、文学部、農学部、工学部、芸術学部、リベラルアーツ学部では、学部教育の特徴を生かした中学校、高等学校の教員免許状を取得することができる。教育学部では、幼稚園、小学校、中学校（社会、保健体育）、高等学校（公民、保健体育）の教員免許状を取得することができ、乳幼児発達学科においては、幼稚園の教員免許状の他に、保育士の資格を取得することも可能となっている。また、文学部、農学部、工学部、芸術学部、リベラルアーツ学部では、小学校教諭2種免許状を取得することも可能なプログラムを実施しており、中学校・高等学校教諭1種免許状に加えて、卒業と同時に小学校教諭2種免許状を取得することも可能となっている。

教職課程受講学生への支援体制は、4年間一貫した教職課程受講支援プログラムに基づき、質の高い教員養成に向けた全学体制による支援を行っており、教師教育リサーチセンターはその担当部署としての責務を担っている。

以下で具体的に説明をする「教育実習指導に関する協議会」においても、日程調整、出席者への連絡、資料作成等も教師教育リサーチセンターが担当している。

2. 教育実習と「教育実習指導に関する協議会」の概要

本学では、近隣の小学校、中学校、高等学校の協力のもと、教職課程履修学生の教育実習を行っている。一通りの実習が終了した時点で、教育実習を受け入れていただいた学校に、教育実習の状況と諸課題を把握することを目的として、「玉川大学教育実習に関するアンケート」（資料1参照）を実施している。

アンケート集計結果をもとに、各地区の校長会の先生方と本学の教職担当教員等とによる「教育実習指導に関する協議会」を開催し、教育現場での学生の実態と、大学における教職指導についての合致点、不足の部分等を探り、次の教育実習への準備、研鑽の機会としている。

◆「玉川大学教育実習に関するアンケート」質問項目

1. 今年度本学の実習生を引き受けられて感じられた、大学側に指導を充実あるいは改善して欲しい事柄についてお書きください。
2. 実習生を受け入れるにあたり大学側に対応ならびに改善して欲しい事柄についてお書きください。
3. 玉川大学の教育実習指導で、何かお気づきの点がございましたらご自由にお書きください。

〈資料1〉

玉川大学教師教育リサーチセンター 行き		FAX:042-739-8857
平成28年度 玉川大学 教育実習に関するアンケート		
<調査用紙>		
玉川大学の学生が教育実習で大変お世話になりましたこと、御礼申し上げます。		
学校名：『学校名』	連絡先：『連絡先』	
羽がナ ご芳名	ご役職・職名	
さて、玉川大学として今年の教育実習に関する諸問題を洗い出し、次年度の教育実習の改善に繋げたい所存でございます。		
つきましては、ご多忙のところ誠に恐縮ではございますが、下記のアンケートにご協力くださいますようお願いいたします。誠に勝手ながら、平成28年●月●日(●)までにFAXにてご回答をお願い申し上げます。		
※ご記入頂きました内容は、次年度の教育実習の改善等に利用させて頂きますので、忌憚のないご意見・ご提言等をご回答くださいますようお願い申し上げます。		
<<< アンケート調査内容 >>>		
1. 今年度本学の実習生を引き受けられて感じられた、大学側に指導を充実あるいは改善して欲しい事柄についてお書きください。		
2. 実習生を受け入れるにあたり大学側に対応ならびに改善して欲しい事柄についてお書きください。		
3. 玉川大学の教育実習指導で、何かお気づきの点がございましたらご自由にお書きください。		
※ 特に記載事項がない場合でも、調査用紙をご返送くださいますようお願い申し上げます。		
※ アンケート調査について、ご協力ありがとうございました。		

3. 平成28年度の「教育実習指導に関する協議会」実施状況

平成28年度は以下の4市との協議会を実施した。

1) 相模原市

【日 時】平成28年11月29日（火）15:00～16:30

【出席者】小学校校長会 1名、中学校校長会 2名

玉川大学就職担当等教員 5名、教師教育リサーチセンター事務職員 4名

2) 川崎市

【日 時】平成28年11月30日（水）10:00～11:30

【出席者】小学校校長会 3名、中学校校長会 2名

玉川大学就職担当等教員 8名、教師教育リサーチセンター事務職員 4名

3) 横浜市

【日 時】平成28年12月5日（月）10:00～11:30

【出席者】小学校校長会 2名、中学校校長会 2名

玉川大学就職担当等教員 6名、教師教育リサーチセンター事務職員 3名

4) 町田市

【日 時】平成28年12月5日（月）17:30～19:00

【出席者】小学校校長会 3名、中学校校長会 2名

玉川大学就職担当等教員 7名、教師教育リサーチセンター事務職員 4名

協議会の内容としては、本学の教員養成（教育実習指導内容を中心として）に関する取り組みと、その支援体制を報告し、該当年度の教育実習実施状況（教育実習受け入れ校と実施人数）と次年度の予定についても報告している。続いて、各受入校からのご意見として、アンケート集計結果について報告し、その後協議を行っている。

4. 「教育実習指導に関する協議会」でのご意見と改善

1) 協議会での意見内容

アンケート集計結果および協議の中でいただいたご意見では、おおむね教育実習事前指導が徹底され、問題なく実施されたとの評価をいただいている。しかしながら、教育実習生に対する指導、教育実習に臨む態度・姿勢、大学への要望等、一部の学生の状況に関して下記のような意見があった（一部を抜粋）。

- ・教員になるという意欲を強く持って、教育実習に臨んでほしい。
- ・学校ボランティアにもっと積極的に参加してほしい（特に宿泊を伴う行事への参加）。
- ・社会人としてのマナーや挨拶、服装等の指導をお願いしたい。
- ・教育実習先の指導教官や他の教員からのアドバイスや助言を謙虚に受け止める姿勢を持つてほしい。
- ・コミュニケーション能力を身につけてから教育実習に臨んでほしい。
- ・特別支援的な配慮を念頭に置いて教育実習を行ってほしい。
- ・教育実習日誌の記入欄について、検討していただけないか（担当教員の負担感の軽減）。
- ・SNSの取り扱いについて、事前指導で徹底してほしい。
- ・生徒とのかかわりを持つことは重要なことだが、かかわりすぎないよう慎重な行動を心が

けてほしい。

等、大学の事前指導や実習中の指導などにおいて、貴重なご意見をいただいた。

一方、教育実習生受け入れの学校から、下記の発言もあった。

・指導担当教員も大変良い勉強になっている。

・教育実習生の指導担当教員について、年齢や教員としての経験年数等を配慮したいが、若い教員が担当せざるを得ない場合もある。

2) 協議会での意見を受けての改善施策

例年行っている本協議会において、常に課題として挙げられた項目に、学校ボランティアへの積極的参加がある。特に宿泊を伴う行事への参加を強く望む意見が多かった。

中央教育審議会の答申において『単位の実質化』が示され、多くの大学において授業回数の確保や出席日数の厳密化が進み、宿泊等を伴うボランティアに学生が参加しにくい状況が生じている。しかしながら、学生自身の学びとして非常に効果的であることから、学生から参加に伴う欠席相談も年々増え、本学としても対応に憂慮していた。

このため、下記の施策を実施することとした。

◆「教育ボランティアに伴う欠席届」の運用（平成27年度後期より）

宿泊等を伴うボランティアへの参加による授業の欠席について、セメスター（学期）期間中1回のみ、欠席配慮の対応（レポートの提出、課題による代替え措置、小テスト等）を行う。このため、少しでも多くの学生が宿泊を伴う学校ボランティアへの参加をしやすい環境の改善を図った。

5. 今後に向けて

質の高い教員養成を推進するためには、実践的指導力の養成が不可欠である。その中でも、教育実習については、最も重視すべきものととらえている。重要な教育実習が、どのような状況で行われているのか、課題は何か、大学において改善できることはあるのか等、収集すべき情報は多岐にわたる。このことからも、「教育実習指導に関する協議会」の継続は必須である。協議会において得られた課題を一つ一つ解決することは、実践的指導力の向上にもつながり、質の高い教員養成につながっていくことになる。

今後は、協議会実施地域増加の必要性を検討する必要がある。その際には、各教育委員会が実施する教員育成協議会との関連もふまえる必要もある。

資料 4 - 1 - 1

令和 7 年 7 月 22 日
大学部長会資料

各 位

令和 6 年度「教職課程自己点検・評価」について

教師教育リサーチセンター

「教育職員免許法施行規則等の一部を改正する省令(令和3年文部科学省令第25号)」が公布、施行され、教職課程を設置する大学は、全学的に教職課程を実施する組織体制を整備すること、及び教職課程の自己点検・評価を行う仕組みを設けて実施することが令和4年4月より義務化されています。

「教職課程自己点検・評価」とは、教職課程認定を受けている大学が、その教育研究等の水準の向上や活性化に努めるとともに、社会的責任を果たしていくため、自大学の理念・目的に照らして教育活動等の状況について自己点検し、現状を的確に把握・認識した上で、その結果を踏まえ、優れている点や改善を要する点などの自己評価を行うことです。

本学では、一般社団法人全国私立大学教職課程協会により作成された『教職課程自己点検・評価基準』(令和4年版)等にもとづき、以下より「記入フォーム2」(下線)を選択のうえ実施いたしました。

【記入フォーム1】 各学部報告書を一連にし、学長名において作成した大学としての全体評価を加えて取りまとめる方法を取る場合の記入フォーム。

【記入フォーム2】 集約した各学部報告書を教職課程センター等で再編集し、項目ごとに各学部の状況を連記した上で、学長名において作成した大学としての全体評価を加えて報告書を完成させる場合の記入フォーム。

【記入フォーム3】 大学の全体評価をせず、各学部別報告書をそのまま公表する。全体評価は学部長名での記載とする場合の記入フォーム。

具体的な結果は、下記のホームページに公表している報告書をご覧ください。

●自己点検・評価報告書(高等教育部門／教職課程)

<https://www.tamagawa.jp/introduction/outline/assessment/teacher.html>

「令和4年度 教職課程 自己点検・評価報告書(138ページ).pdf」(令和5年4月)

「令和5年度 教職課程 自己点検・評価報告書(173ページ).pdf」(令和6年11月)

今後も上記の評価・内容にもとづきながら、玉川大学の教職課程についてさらなる質向上に取り組んでまいります。

なお、令和6年度版につきましては、7月22日(火)大学部長会承認後 7月中に一般社団法人全国私立大学教職課程協会宛提出予定です。「完了証」を受け取り次第、本学ホームページに公表いたします。

以上

教職課程自己点検・評価の実施方針

玉川大学教師教育リサーチセンター

1 趣 旨

教育職員免許法施行規則の改正により、令和4年4月1日から、教職課程を設置する大学の全学的な組織体制の充実(全学組織の設置)および当該組織による教職課程の自己点検・評価が義務づけられました。

教職課程の運営にあたり、本学の教職課程の目的・目標に照らして、教育内容・方法および学修成果の状況などを検証し、絶えず教育の質保証の維持・向上に努めていく必要があります。教育職員免許法施行規則第22条8項においても、「課程認定を有する大学は、当該大学における課程認定の教育課程・教員組織、教育実習並びに施設及び設備の状況について自ら点検及び評価を行い、その結果を公表するものとする」と求められています。

上述の内容を踏まえて、教師教育リサーチセンターを中心に行う教職課程に関する自己点検を適切かつ効果的に実施するために、その基本的な枠組みを定めたものが、本学の実施方針です(なお、本学における教職課程自己点検・評価については、「教育活動等点検・調査委員会」があり、教職課程に関する分科会は「教員養成部会」が位置づけられているが、本方針においては運営上同一メンバーが委嘱されている「教職課程委員会」の表記で記載する)。

また、教育職員免許法施行規則第22条7項には「二以上の認定課程を有する大学は、当該大学が有するそれぞれの認定課程の円滑かつ効果的な実施を通じて当該大学が定める教員の養成の目標を達成することができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする」とあることから、本学においては教師教育リサーチセンターがその任を担い、教職課程自己点検・評価を実施し、「教職課程自己点検・評価報告書」を作成します。

2 「教職課程自己点検・評価報告書」の作成について

本学では、一般社団法人全国私立大学教職課程協会により作成された『教育課程自己点検評価基準』にもとづき、『「教職課程自己点検・評価報告書」作成の手引き』に示された以下の記入フォーム3パターンより、「二以上の認定課程を有し教職課程をとりまとめる部署を設置している大学」が対応する場合、最も簡易に作成が可能な「記入フォーム2」を選択のうえ実施いたします。

【記入フォーム1】各学部報告書を一連にし、学長名において作成した大学としての全体評価を加えて取りまとめる方法を取る場合の記入フォーム。

【記入フォーム2】集約した各学部報告書を教職課程センター等で再編集し、項目ごとに各学部の状況を連記した上で、学長名において作成した大学としての全体評価を加えて報告書を完成させる場合の記入フォーム。

【記入フォーム3】大学の全体評価をせず、各学部別報告書をそのまま公表する。全体評価は学部長名での記載とする場合の記入フォーム。

3 「教職課程自己点検・評価報告書」の作成スケジュール

前年度の教員採用試験および教員就職の結果を確定する基準日を5月1日に定めているため、以下のスケジュールで「教職課程自己点検・評価報告書」を作成する。

- 4月 「教職課程自己点検・評価報告書」の実施方針を確認のうえ承認
- 5月 教職課程委員会にて前年度の教員採用試験結果を報告
- 6月 教職課程委員会および大学部長会・大学院研究科長会にて根拠資料とともに、「教職課程自己点検・評価報告書」の原案(暫定版)を確認依頼
- 7月 教職課程委員会および大学部長会・大学院研究科長会にて根拠資料とともに、「教職課程自己点検・評価報告書」確定版を承認
- 7月末日 「自己点検・評価報告書」を一般社団法人全国私立大学教職課程協会へ提出

4 「教職課程自己点検・評価報告書」の構成

一般社団法人全国私立大学教職課程協会により作成された『教職課程自己点検・評価基準』にもとづき、以下の項目について記載する。

I 教職課程の現況及び特色

II 基準領域ごとの教職課程自己点検・評価

- 1 基準領域1 教職課程に関わる教職員の共通理解に基づく協働的な取り組み
 - 基準項目1-1 教職課程教育の目的・目標を共有
 - 基準項目1-2 教職課程に関する組織的工夫
- 2 基準領域2 学生の確保・育成・キャリア支援
 - 基準項目2-1 教職を担うべき適切な学生の確保・育成
 - 基準項目2-2 教職へのキャリア支援
- 3 基準領域3 適切な教職課程カリキュラム
 - 基準項目3-1 教職課程カリキュラムの編成・実施
 - 基準項目3-2 実践的指導力育成と地域との連携

III 総合評価(全体を通じた自己評価)

IV 「教職課程自己点検・評価報告書」作成プロセス

V 現況基礎データ一覧

5 実施時期

- ① 教師教育リサーチセンターを中心に恒常に教職課程自己点検・評価に取り組むものとして、当該結果は原則として年1回報告書として取りまとめるとしてする。
- ② 実施にあたっては、教職課程委員会の開催スケジュールを踏まえ、7月頃までに自己点検の結果を取りまとめることができるように、準備を進める。

6 実施体制

- ① 教職課程自己点検・評価は、玉川大学教師教育リサーチセンターが中心となり、5 学部 11 学科の委員および当センター職員の協力を得て実施する。
- ② 自己点検・評価の結果は、教職課程委員会の議を経て、委員長が決定し、大学部長会・大学院研究科長会に報告する。

7 結果の取り扱い

- ① 教師教育リサーチセンターは、教職課程自己点検・評価の結果を踏まえ、教育の質保証の向上・改善を図る。
- ② 教職課程の運営の可視化のために、教職課程自己点検・評価結果(個人情報等の公表にふさわしくない箇所を除く)は、玉川大学ウェブサイトにて公表する。

以上